

青森市埋蔵文化財調査報告書第54集-4

# 野木遺跡

## 発掘調査報告書Ⅱ

### (平安時代遺構編 2)

平成12年度

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書第54集 - 4

# 野 木 遺 跡

発掘調査報告書

( 平安時代遺構編 2 )

平成12年度

青森市教育委員会



## 例 言

1. 本書は、青森県青森市大字野木字山口・大字合子沢字松森に所在する野木遺跡（青森県遺跡番号01-210）発掘調査報告書である。
2. 本書に記載される内容は、青森市が地域振興整備公団の委託を受け、平成9・10年度に青森市教育委員会が発掘調査を実施した地区についてまとめたものである。
3. 調査は、青森中核工業団地造成工事に伴う発掘調査として平成9・10年度に実施した。ニカ年次での総調査面積は69,900m<sup>2</sup>である。
4. 野木遺跡は、平成7年度から青森中核工業団地整備事業に係る試掘調査を青森県埋蔵文化財調査センターで実施しており、平成8年度から地域振興整備公団の委託を受け青森県埋蔵文化財調査センターが一部の地区について発掘調査を実施している。平成9年度から青森市教育委員会が発掘調査に参加し、合同の発掘調査を実施した。調査担当地区については協議の上、野木遺跡南側部分の遺構密集地区を中心とする地区を青森県埋蔵文化財調査センターが、北側から南側の遺構密集地区に至る地区について青森市教育委員会が調査担当となっており、発掘調査成果の報告についても調査担当毎に報告している。  
青森県埋蔵文化財調査センターの担当地区については、平成9～11年度にそれぞれ報告書が刊行されている。（青森県教育委員会1998・1999・2000）
5. 本報告書は当委員会が担当した新町野遺跡発掘調査報告書 と併せて6分冊構成とした。内容は、第1分冊＝新町野遺跡発掘調査報告書、第2分冊＝野木遺跡発掘調査報告書（調査概要・環境・縄文時代・弥生時代編）、第3分冊＝野木遺跡発掘調査報告書（平安時代遺構編1）、第4分冊＝野木遺跡発掘調査報告書（平安時代遺構編2）、第5分冊＝野木遺跡発掘調査報告書（平安時代遺物編・分析・総論編）、第6分冊＝野木遺跡発掘調査報告書（資料・写真図版編）である。本書は第4分冊目にあたる。
6. 基準点測量・グリッド杭打設・空中写真の一部は㈱みちのく計画に、ラジコンヘリによる空中写真測量図化については㈱シン技術コンサルに委託した。
7. 本書の執筆・編集は、青森市教育委員会が行い木村淳一・設楽政健が担当した。執筆分担については、第2章第2節5・6・8・10・11.ならびに第3節1・2・3.を木村が、第2節4・9.ならびに第3節4.を設楽が、第2節3・7.については各文末に記している。編集については木村が担当した。
8. 調査に関わる資料は、一括して青森市教育委員会が保管している。

# 凡例

1. 図版番号は、原則的に「第 図」とした。

2. 遺構の掲載について

(1) 方位は全て真北である。磁北については西に約8度振れている。

(2) 各図の縮尺は以下の通りである。

1/120 1/60 1/30

(3) 水平基準は海拔高をメートル(m)で表示した。

(4) 遺構の略号は、SI = 竪穴式住居跡・竪穴遺構、SB = 掘立柱建物跡、SK = 土坑、SD = 溝跡、SA = 柵、SN = 鉄生産関連炉・焼土状遺構、SP = ピット、SX = 性格不明遺構・その他の遺構である。

(5) 遺構番号については、遺構の種別毎に番号を付した。具体的には遺構の略号 - 番号とした。(例：第1号竪穴式住居跡 = S I - 0 1) ただし、発掘調査時の遺構番号については調査時の事由により断絶し不連続であったため、本書において新たに編集し遺構番号を付している。なお、調査時の遺構番号との対応については資料編内の遺構観察表で表記している。また、遺物整理については旧番号ベースで整理を実施している。

(6) 本書で使われるグリッドの呼称については、先行して調査にあっていた青森県埋蔵文化財調査センターのものに準拠した。具体的には、南北方向に算用数字、東西方向にアルファベットを付し(例：MA - 300) 呼称については、格子の北西隅の杭番号を使用した。

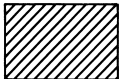
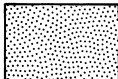

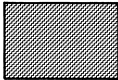

(7) 本書の土層の注記については、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄 1993)に準拠した。

(8) 遺構の規模については、基本的に長軸×短軸×深さをcmで表示した。このうち深さについては、遺構確認面からの計測値を記し、竪穴遺構内のピットの深さについては、床面からの計測値を記した。また、掘立柱建物跡の記述については、長軸方向を「桁行」、短軸方向「梁行」とし、桁行(間)×梁行(間)の順に記した。

(9) 掘立柱建物跡の主軸方位については、桁行方向に対する真北との振れについて表示した。

(10) 本書の遺構図中で使用されるスクリーン等々の指示については以下のとおりである。また、鉄生産関連遺構内での着色の指示については、図版内に凡例を設けてある。

a) スクリーン等

地山		炭化物	
	205		328
焼土(被熱強)		還元化部分	
	320		706
焼土(被熱弱)			
	788		

b) グリッド杭

図中でグリッド杭が表示できない遺構図については基準としたグリッド杭からの位置を表示している。具体的には、グリッド+方位・距離として表示している。(例：グリッドMA - 300 ~ 1m南の地点 MA - 300 + 1m S)

# 目 次

例言  
凡例  
目次  
図版目次  
写真図版目次

## 第 章 平安時代

### 第 2 節 検出遺構

3. 土坑 .....	1
4. ピット .....	104
5. 掘立柱建物跡 .....	176
6. 柵 .....	192
7. 鉄生産関連遺構 .....	199
8. 焼土状遺構 .....	216
9. 畝状遺構 .....	222
10. 溝跡 .....	225
11. その他 .....	245

### 第 3 節 時期不明の遺構

1. 竪穴遺構 .....	249
2. 土坑 .....	259
3. ピット .....	279

## 图 版 目 次

第487图 土坑平面形模式图 .....	1	第528图 S P - 13 ~ 19 .....	109
第488图 土坑断面形模式图 1 .....	1	第529图 S P - 20 ~ 34 .....	115
第489图 土坑断面形模式图 2 .....	2	第530图 S P - 35 ~ 49 .....	119
第490图 S K - 37 ~ 41 .....	3	第531图 S P - 50 ~ 60 .....	123
第491图 S K - 42 ~ 48 .....	6	第532图 S P - 61 ~ 68 .....	126
第492图 S K - 49 ~ 54 .....	9	第533图 S P - 69 ~ 80 .....	130
第493图 S K - 55 ~ 61 .....	11	第534图 S P - 81 ~ 98 .....	135
第494图 S K - 62 ~ 64 · 66 ~ 70 .....	14	第535图 S P - 99 ~ 111 .....	139
第495图 S K - 71 ~ 78 .....	18	第536图 S P - 112 ~ 123 .....	143
第496图 S K - 79 ~ 84 .....	21	第537图 S P - 124 ~ 137 .....	147
第497图 S K - 85 ~ 90 .....	24	第538图 S P - 138 ~ 149 .....	151
第498图 S K - 91 ~ 94 .....	27	第539图 S P - 150 ~ 162 .....	155
第499图 S K - 95 ~ 98 .....	29	第540图 S P - 163 ~ 177 .....	160
第500图 S K - 99 ~ 105 .....	31	第541图 S P - 178 ~ 189 .....	164
第501图 S K - 106 ~ 112 .....	34	第542图 S P - 190 ~ 200 .....	168
第502图 S K - 113 ~ 118 .....	37	第543图 S P - 201 ~ 208 .....	171
第503图 S K - 119 ~ 124 .....	40	第544图 S P - 209 ~ 218 .....	174
第504图 S K - 125 ~ 129 .....	42	第545图 S P - 337 ~ 339 .....	175
第505图 S K - 130 ~ 135 .....	45	第546图 S B - 01 ~ 03 .....	177
第506图 S K - 136 ~ 142 .....	48	第547图 S B - 04 · 05 .....	179
第507图 S K - 143 ~ 146 .....	51	第548图 S B - 06 ~ 08 .....	180
第508图 S K - 147 ~ 152 .....	53	第549图 S B - 09 · 10 .....	182
第509图 S K - 153 ~ 158 .....	55	第550图 S B - 11 ~ 13 .....	185 · 186
第510图 S K - 159 ~ 165 .....	58	第551图 S B - 13 .....	187
第511图 S K - 166 ~ 170 .....	60	第552图 S B - 14 ~ 17 .....	189
第512图 S K - 171 ~ 179、S D - 20 .....	63	第553图 S B - 18 · 19 .....	191
第513图 S K - 180 ~ 184 .....	67	第554图 S A - 01 ~ 03 .....	193
第514图 S K - 185 ~ 190 .....	70	第555图 S A - 04 ~ 08 .....	195
第515图 S K - 191 ~ 196 .....	72	第556图 S A - 09 ~ 11 .....	197
第516图 S K - 197 ~ 199 .....	75	第557图 S A - 12 .....	198
第517图 S K - 200 ~ 203 .....	77	第558图 S N - 03 · 04 .....	200
第518图 S K - 204 ~ 211 .....	79	第559图 S N - 03 · 04 .....	201
第519图 S K - 212 ~ 218 .....	83	第560图 S N - 03重量分布图 .....	202
第520图 S K - 219 ~ 226 .....	86	第561图 S N - 03重量分布图 .....	203
第521图 S K - 227 ~ 231 .....	89	第562图 S N - 03重量分布图 .....	204
第522图 S K - 232 ~ 236 .....	92	第563图 S N - 03重量分布图 .....	205
第523图 S K - 237 ~ 242 .....	94	第564图 S N - 03重量分布图 .....	206
第524图 S K - 243 ~ 247 .....	97	第565图 S N - 03重量分布图 .....	207
第525图 S K - 248 ~ 253 .....	99	第566图 S N - 05 .....	210
第526图 S K - 254 ~ 257 .....	102	第567图 S N - 05重量分布图 .....	211
第527图 S P - 01 ~ 12 .....	107	第568图 S N - 05重量分布图 .....	212

第569図	S N - 05重量分布図	.....213	第591図	S I - 258、S I - 259、S I - 260	.....256
第570図	S N - 05重量分布図	.....214	第592図	S I - 261	.....258
第571図	S N - 06	.....216	第593図	S K - 258 ~ 262	.....260
第572図	S N - 01・02・07・08・09	.....217	第594図	S K - 263 ~ 267	.....262
第573図	S N - 10 ~ 13	.....219	第595図	S K - 268 ~ 272	.....264
第574図	S N - 14 ~ 18	.....221	第596図	S K - 273 ~ 277	.....266
第575図	S X - 05	.....223・224	第597図	S K - 278 ~ 284	.....268
第576図	溝跡の断面形	.....225	第598図	S K - 285 ~ 289	.....271
第577図	S D - 01 ~ 04・06	.....227・228	第599図	S K - 290 ~ 297	.....273
第578図	S D - 06 ~ 08	.....229・230	第600図	S K - 298 ~ 303・306・307	.....276
第579図	S D - 09 ~ 11	.....232	第601図	S K - 304・305	.....278
第580図	S D - 12・13・15・16	.....234	第602図	S P - 219 ~ 230	.....280
第581図	S D - 14	.....235・236	第603図	S P - 231 ~ 239	.....283
第582図	S D - 17 ~ 19・23 ~ 25	.....238	第604図	S P - 240 ~ 248	.....286
第583図	S D - 26 ~ 29	.....242	第605図	S P - 249 ~ 263	.....290
第584図	S D - 30・31	.....244	第606図	S P - 264 ~ 275	.....294
第585図	S X - 01	.....246	第607図	S P - 276 ~ 288	.....298
第586図	S X - 02 ~ 04	.....247	第608図	S P - 289 ~ 298	.....302
第587図	S I - 248	.....249	第609図	S P - 299 ~ 310	.....305
第588図	S I - 250	.....250	第610図	S P - 311 ~ 318	.....309
第589図	S I - 252、S I - 253、S I - 254	.....252	第611図	S P - 319 ~ 328	.....312
第590図	S I - 255、S I - 256、S I - 257	.....254	第612図	S P - 329 ~ 336	.....315

## 写真図版目次

写真 2	S N - 03遺物出土状況	.....202	写真 5	S N - 05炉床部	.....209
写真 3	S N - 03完掘	.....202	写真 6	S N - 06遺物出土状況	.....214
写真 4	S N - 05遺物出土状況	.....209	写真 7	S N - 05・06、S I - 120確認状況	.....214





## 第2節 検出遺構

### 3. 土坑

野木遺跡北地区内から検出した土坑については、遺構略号としてSKを付与している。土器製作のための焼成坑、炭生産の製炭土坑、墓坑、貯蔵穴、ごみ捨て場等多種多様な用途を果たした可能性があるものを一括して取り扱った。用途について調査時の検出結果から明確に提示可能な資料は、焼成坑ならびに製炭土坑のみで、住居跡と同様廃絶後の廃棄場所として利用された土坑も一部見られたが、明確に廃棄を目的とした掘り込みが行われた資料は乏しい。そのため、本報告の記述に際して用途については、焼成坑ならびに製炭土坑のみ提示し、それ以外の用途については提示しなかった。

焼成坑の認定条件については、『古代の土師器生産と焼成遺構』に提示された必要条件(木立 1997)(掘り込んだだけの単純な土坑。土坑床面が赤色に焼けていること。炭・灰・赤色焼土の塊・粒が原位置で確認され、その土坑で火を使ったことが明確であること。)に基づき認定し、製炭土坑については、(焼成坑と同様掘り込んだだけの単純な土坑。焼成坑に比べて床面の被熱の度合いが少ないもしくはない。床直から焼土、炭、灰等火を使ったことが考えられる資料が検出する。壁面の被熱の度合いが顕著である。)という条件を設定した。

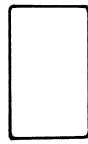
#### A: 構造

##### 平面プラン

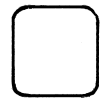
a. 方形



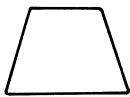
b. 長方形



c. 隅丸方形



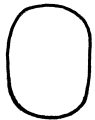
d. 台形



e. 不整形(不整形円形・不整形楕円形・不整形方形等を含む)



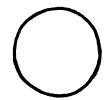
f. 楕円形



g. 小判形



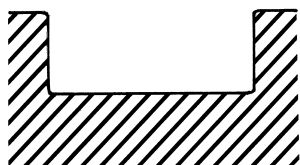
h. 円形



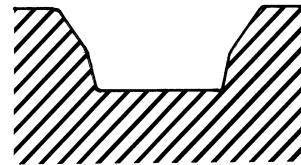
第487図 土坑平面形模式図

##### 断面プラン

a. ほぼ垂直に立ち上がる。

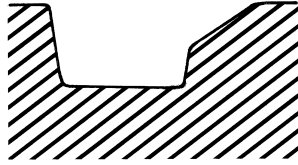


b. 壁上部で緩やかな傾斜がみられる。

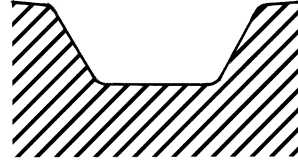


第488図 土坑断面形模式図1

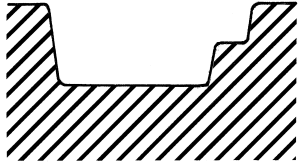
c. 壁上部で一部穏やかな傾斜がみられる。



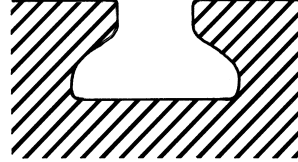
d. 穏やかに立ち上がる。



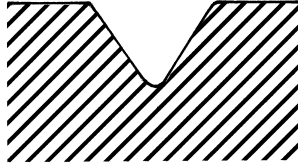
e. 段状に立ち上がる。



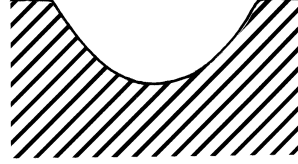
f. 袋状に立ち上がる。



g. V字形



h. 掘鉢形



第489図 土坑断面形模式図 2

#### B. 堆積土

土坑の場合、掘り方を有するものがほとんどなく、使用時の流入の要素を一部持ちながら大部分は廃絶後の堆積土であることが考えられる。明確に使用時と廃絶時の流入の要因は判定できないため、成層過程については、廃絶後の成層主体に取り扱った。住居同様堆積土中層以上の部分で土器が多量に出土した事例もあり、廃絶後の廃棄場所としての利用が一部想定される。

S K - 37 (第490図)

[位置] グリッドL X・L Y - 261で検出した。

[重複] なし。

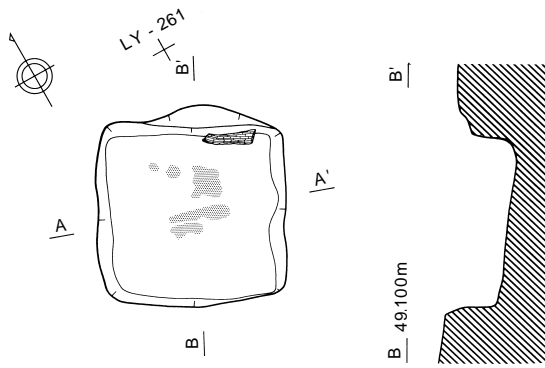
[平面形・規模] 方形を呈し、162×150×48cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はcで、壁上部の一部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面は堅緻である。また、壁面の一部で赤化した箇所を検出した。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、北傾している。底面は堅緻である。また、底面直上から多量の炭化物を検出し、床面の一部から赤化面を検出した。本遺構は焼成坑であることが考えられる。

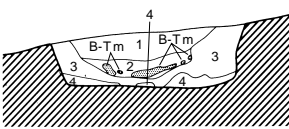
[堆積土] 4層に分層した。最下層の第4層は製炭時に残存した炭化物の堆積層である。第3層は崩落土による形成土で、第2層中にB-Tm火山灰がレンズ状に堆積している。自然堆積状況を呈する。

(木村)



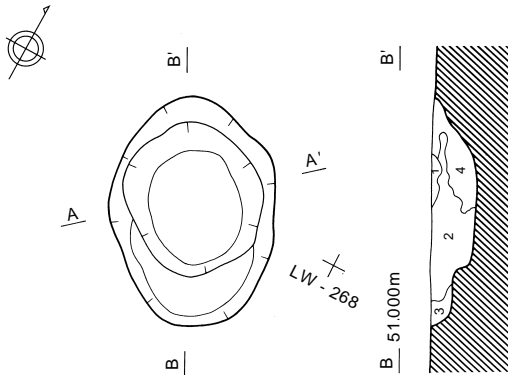
SK - 37

A 49.100m



SK - 37

- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・炭化物極微量
- 第2層 10YR2/1 黒色土 炭化物少量、火山灰 (B-Tm) 中量
- 第3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒・炭化物微量、焼土粒極微量
- 第4層 10YR2/1 黒色土 炭化物多量、焼土粒微量



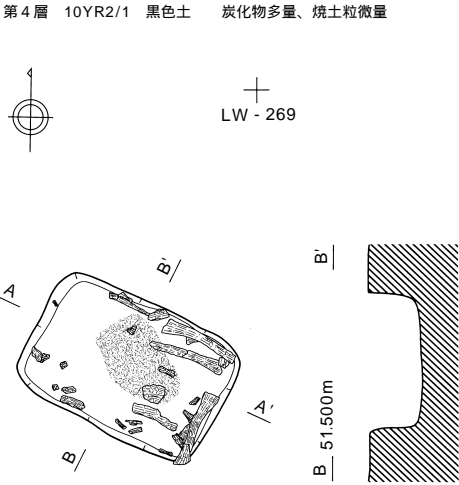
SK - 38

A 51.000m



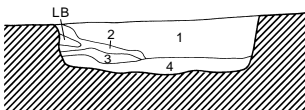
SK - 38

- 第1層 10YR2/1 黒色土
- 第2層 10YR3/2 黒褐色土 炭化物少量
- 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームとの混合土
- 第4層 10YR3/3 暗褐色土 ロームとの混合土、炭化物少量



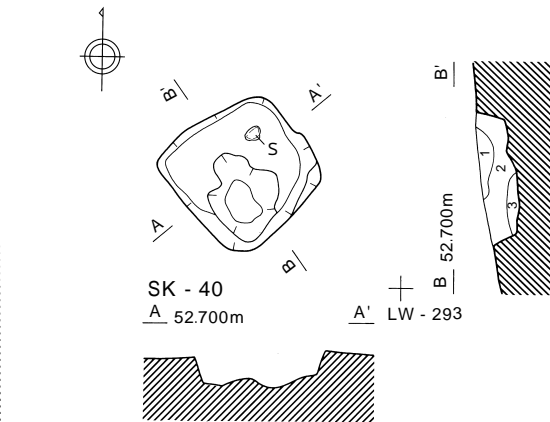
SK - 39

A 51.500m



SK - 39

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 黒色土少量、炭化物やや多量  
焼土粒・火山灰 (To-a) 少量
- 第2層 10YR2/1 黒色土 ロームブロック少量
- 第3層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 炭化物・焼土粒少量
- 第4層 10YR1.7/1 黒色土 ロームブロック少量、炭化物多量



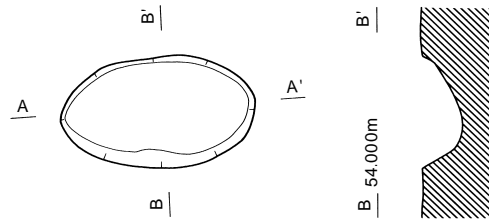
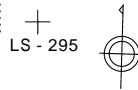
SK - 40

A 52.700m



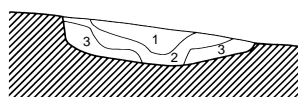
SK - 40

- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・炭化物極微量
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒微量、ロームブロック極微量、炭化物微量
- 第3層 10YR4/4 褐色土 ローム粒多量



SK - 41

A 54.000m



SK - 41

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム極微量、パミス微量
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物少量
- 第3層 10YR4/6 褐色土 炭化物微量



第490図 SK - 37 ~ 41

S K - 38 (第490図)

[位置] グリッドL V - 267・268で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、182×132×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、南壁部分で二段落ちの形状を呈している。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。第3、4層はロームブロックの混合土であり、上位の第2層についても入り組んだ堆積状況を呈しており、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 39 (第490図)

[位置] グリッドL V - 269で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、160×110×46cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。壁面の一部から赤化した部分を検出した。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。床面直上から多量の炭化材・炭化物を検出し、底面中央部が赤化した状況で検出した。本遺構は焼成坑であることが考えられる。

[堆積土] 4層に分層した。底面直上に堆積する第4層は、炭化材・炭化物の包含層で、上位に堆積する第1～3層は黒色土と大谷火山灰層主体のローム土がサンドイッチ状に堆積しており、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。第1層中からT o - a火山灰を粒状に検出した。

(木 村)

S K - 40 (第490図)

[位置] グリッドL V - 292で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 台形を呈し、106×104×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。流入土による堆積で概ね自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 41 (第490図)

[位置] グリッドL S - 295で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、156×88×39cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、東西軸はほぼ垂直に近い形で立ち上がり、南北軸は緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、緩やかな弧状を呈する。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。壁の崩落ならびに流入土による堆積で概ね自然堆積状況を呈する。

(木村)

SK - 42 (第491図)

[位置] グリッドLS - 294で検出した。

[重複] SI - 25、26と重複している。本遺構を切った形でSI - 25が構築されており、SI - 25との新旧関係については本遺構の方が古い。SI - 26との関係については不明である。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、164×100×(38)cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、壁上部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。単層であり、SI - 25、26構築時の埋め戻し等による人為堆積の要素を持つ。また、SI - 26に帰属した要素も持ち得ており、詳細については不明である。

(木村)

SK - 43 (第491図)

[位置] グリッドLQ - 295で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、108×92×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、緩やかな傾斜を持つ。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 3層に分層した。底面直上に堆積する第3層中には炭化物が多量に含まれ、製炭土坑の可能性が考えられる。上層の堆積は焼土粒等を含む自然堆積状況を呈する。

(木村)

SK - 44 (第491図)

[位置] グリッドLS - 299で検出した。

[重複] SI - 31と重複している。本遺構がSI - 31を切って構築されており、本遺構の方が新しい。

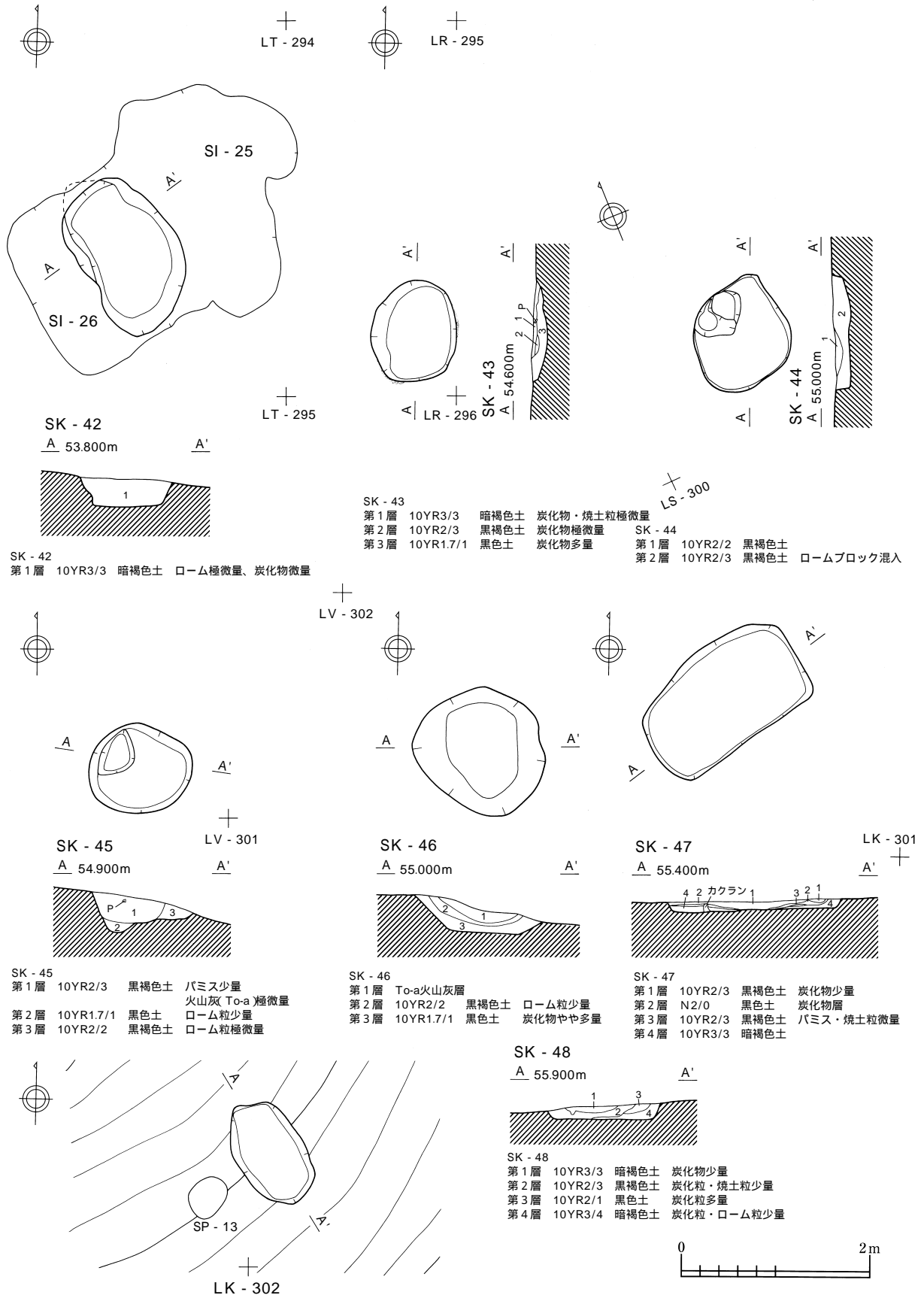
[平面形・規模] 不整円形を呈し、128×104×19cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。また、北壁寄りの部分に浅い落ち込みを検出した。深さは3cmを測る。

[堆積土] 2層に分層した。第2層はロームブロックが多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)



第491図 SK - 42 ~ 48

## S K - 45 (第491図)

[位置] グリッドL U - 300で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、106×96×44cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。北西壁の位置からピット状の落ち込みを検出している。規模は52×35×13cmを測る。

[堆積土] 3層に分層した。概ね自然堆積状況を呈する。第1層中からT o - a火山灰を粒状に検出した。

(木村)

## S K - 46 (第491図)

[位置] グリッドL V - 302で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、140×122×38cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 3層に分層した。概ね自然堆積状況を呈し、第1層はT o - a火山灰の堆積層である。雨水等による落ち込み部分への堆積状況を呈している。

(木村)

## S K - 47 (第491図)

[位置] グリッドL J - 300で検出した。

[重複] S I - 34と重複している。本遺構がS I - 34の堆積土上に構築されており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 長方形を呈し、182×108×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] S I - 34の堆積土を底面としており、ほぼ平坦である。底面は脆弱である。また、底面から炭化物を検出しており、本遺構で焼成が行われた可能性が考えられるが、用途については不明である。

[堆積土] 4層に分層した。第2、3層は、本遺構で焼成が行われた根拠となり得ており、焼成後の堆積層は第1層のみである。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 48 (第491図)

[位置] グリッドL J・L K - 301で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整小判形を呈し、104×71×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。



[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。全般的に炭化粒が見られ、流入したものと考えられ、概ね自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 49 (第492図)

[位 置] グリッドL I - 301で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、206×160×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。また、底面から多量の炭化物、炭化粒を検出しており、本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[堆積土] 2層に分層した。底面直上に堆積する第2層は、焼土ブロックが少量混入し、本遺構での直接の焼成を裏付ける。上層に堆積する第1層は大谷火山灰層主体の地山土で埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 50 (第492図)

[位 置] グリッドM A・M B - 304で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、229×170×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、東西軸と南北軸とで形状が異なる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を床面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 6層に分層した。全般的に炭化粒、焼土粒を含み自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 51 (第492図)

[位 置] グリッドL Y - 305で検出した。

[重 複] S I - 38、40と重複している。新旧関係は、土層堆積からS I - 40 < S K - 50 < S I - 38の関係である。

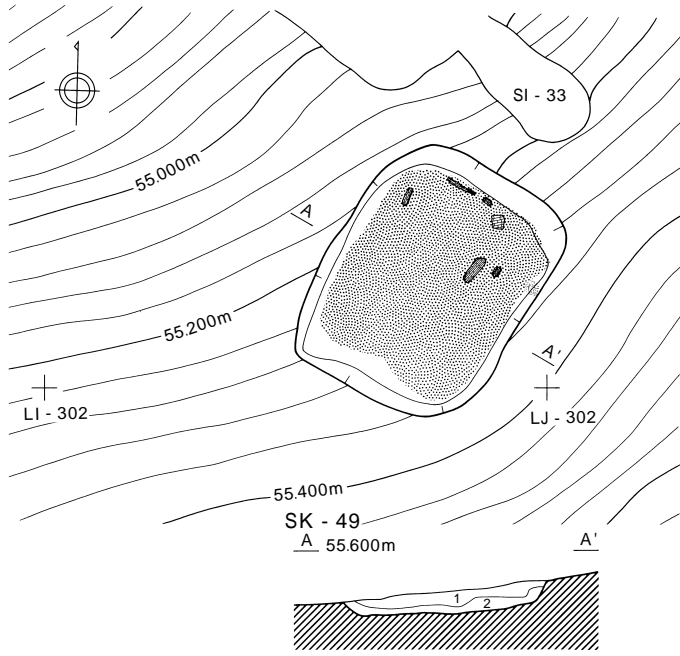
[平面形・規模] 切りあいのため、短軸幅は残存長であるが、120×(90)×65cmを測る。

[断面形・壁] 切りあいのため、壁面の情報が一部欠落しているが、残存部分の断面形は(c)で、壁上部の一部で緩やかに立ち上がる。壁面は、切りあい部分については脆弱で、南西壁部分は堅緻である。

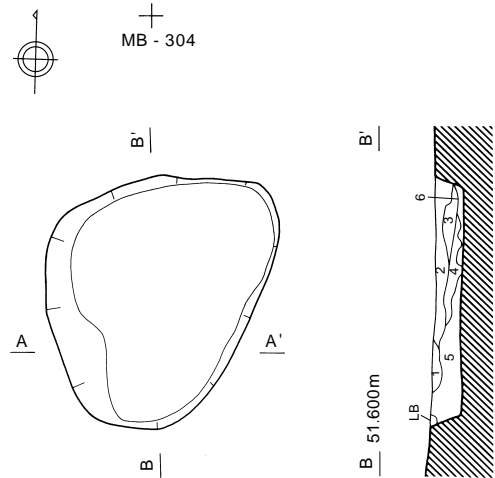
[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 5層に分層した。底部直上に堆積する第5層はロームブロックが多量に含まれる。S I - 38の構築時に埋め戻されている。

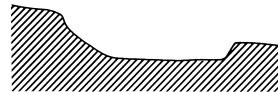
(木 村)



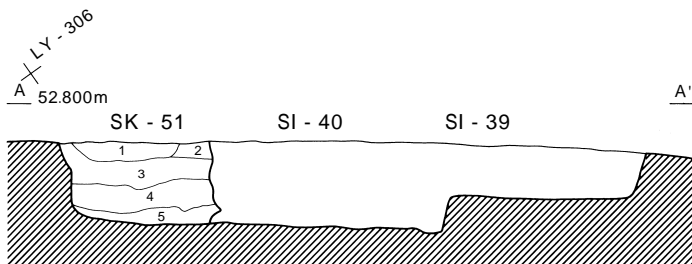
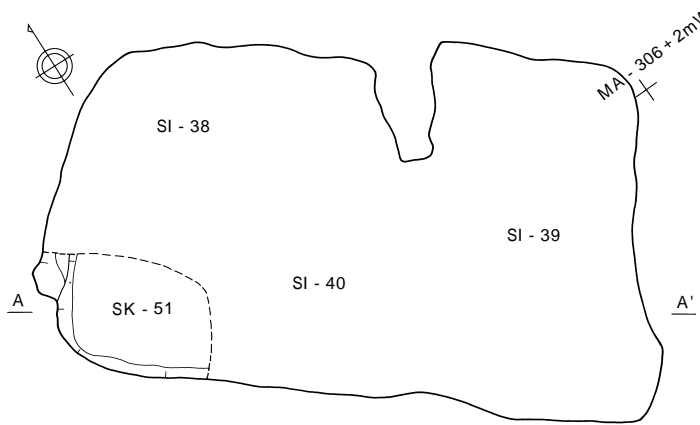
SK - 49  
 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 炭化物少量  
 第2層 10YR2/1 黒色土 炭化物多量、焼土ブロック少量  
 黒褐色土との混合土



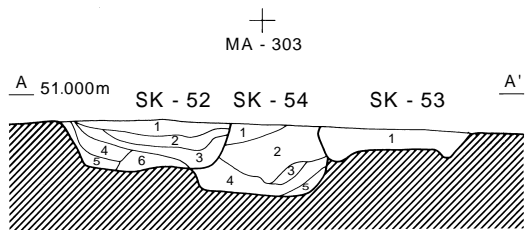
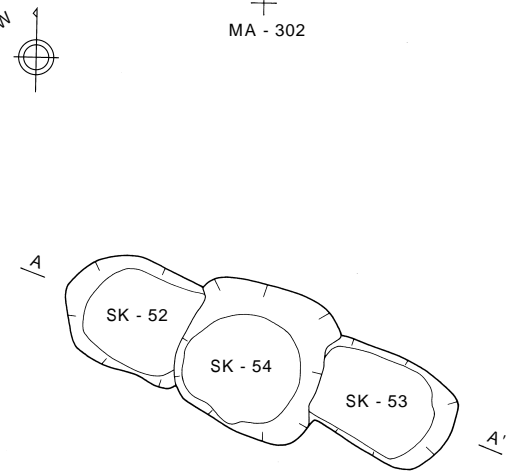
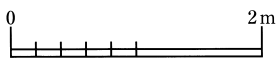
SK - 50 MB - 305  
 A 51.600m A'



SK - 50  
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 □-ム粒微量、炭化物極微量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 □-ム粒・焼土粒微量  
 第3層 10YR2/1 黒色土 □-ム粒・炭化粒微量  
 第4層 10YR4/4 褐色土  
 第5層 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒少量、炭化物微量  
 第6層 10YR2/2 黒褐色土 □-ム粒少量、炭化物微量



SK - 51  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 □-ム・焼土ブロック微量、炭化物・焼土粒極微量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 □-ム・焼土極微量  
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 □-ム粒・炭化物極微量、焼土微量  
 第4層 10YR3/3 暗褐色土 □-ム少量、炭化物極微量  
 第5層 7.5YR4/4 褐色土 □-ムブロック多量



SK - 52  
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 □-ム粒少量、炭化物混入  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 □-ム粒少量、炭化物混入  
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 □-ム粒少量、炭化物混入  
 第4層 10YR3/2 黒褐色土 □-ム粒少量、炭化物混入  
 第5層 10YR4/4 褐色土 □-ム粒少量  
 第6層 10YR3/3 暗褐色土 □-ム粒少量  
 SK - 53  
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 □-ム粒多量、炭化物混入  
 SK - 54  
 第1層 10YR3/1 黒褐色土 □-ム粒少量  
 第2層 10YR2/1 黒色土 炭化物混入  
 第3層 10YR3/1 黒褐色土 □-ム粒少量  
 第4層 10YR2/2 黒褐色土 □-ム粒多量  
 第5層 10YR2/1 黒色土 炭化物混入

第492図 SK - 49 ~ 54

S K - 52 (第492図)

[位置] グリッドL Z - 302で検出した。

[重複] S K - 54と重複している。本遺構がS K - 54の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 小判形を呈し、140×90×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は、東壁側がS K - 54の堆積土を壁面としており脆弱で、他の壁については地山を壁面としておりやや堅緻である。

[底面] 東壁側の一部がS K - 54の堆積土を底面としており、脆弱である。他の部分については月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 6層に分層した。一部崩落土が堆積しており、自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 53 (第492図)

[位置] グリッドM A - 302で検出した。

[重複] S K - 54と重複している。本遺構がS K - 54の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 小判形を呈し、120×80×27cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は、西壁側がS K - 54の堆積土を壁面としており脆弱で、他の壁については地山を壁面としておりやや堅緻である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、壁際の部分で起伏がある。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。多量のロームブロックが混入し、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 54 (第492図)

[位置] グリッドL Z・M A - 302で検出した。

[重複] S K - 52、53と重複している。本遺構の堆積土がいずれの遺構にも切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいのため、詳細は不明であるが、隅丸方形を呈したものと考えられ、(120)×120×(60)cmを測る。

[断面形・壁] 切り合いのため、壁上部は残存しておらず詳細については不明であるが、残存部分での断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。残存部分の壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、若干の傾斜を持つ。底面は堅緻である。

[堆積土] 5層に分層した。ローム粒、炭化物等が混入しており、概ね自然堆積状況を呈する。

(木 村)

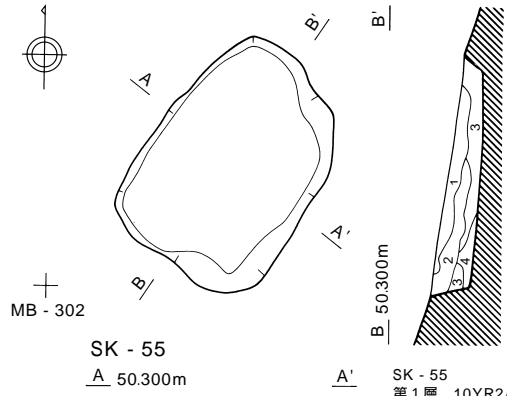
S K - 55 (第493図)

[位置] グリッドM B - 301で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、188×134×42cmを測る。

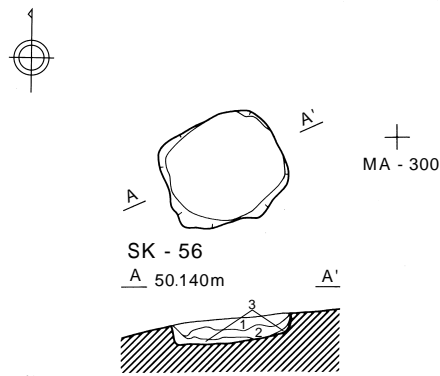
[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。



SK - 55  
A 50.300m

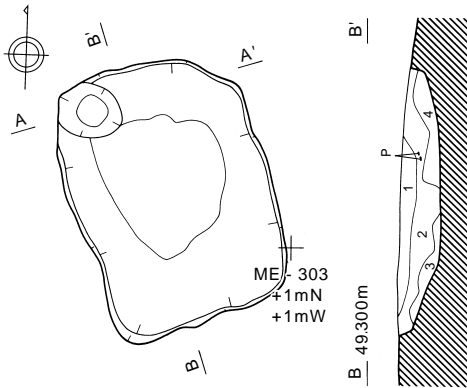


SK - 55  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・ローム  
ブロック多量、炭  
化物極微量  
第2層 10YR2/1 暗色土 ローム粒微量  
第3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多量  
第4層 10YR6/6 明黄褐色土

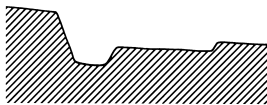


SK - 56  
A 50.140m

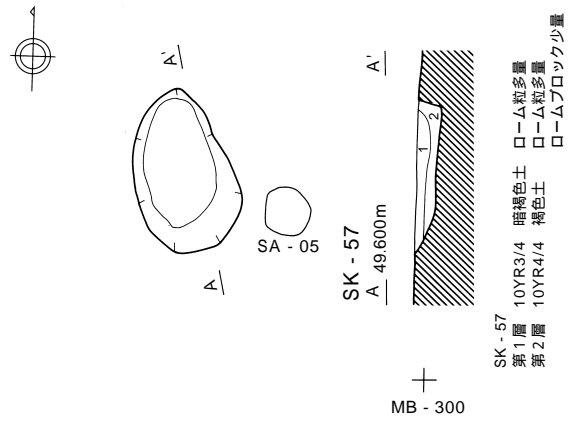
SK - 56  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量  
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒少量、炭化物混入  
第3層 10YR5/8 黄褐色土 ローム粒少量、炭化物混入



SK - 58  
A 49.300m

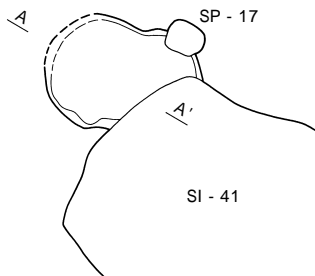


SK - 58  
第1層 10YR4/6 褐色土 炭化物混入  
第2層 10YR4/4 褐色土 炭化物混入  
第3層 10YR5/8 黄褐色土  
第4層 10YR6/8 明黄褐色土

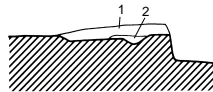


SK - 57  
A 49.600m

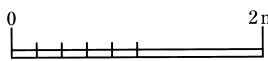
SK - 57  
第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒多量  
第2層 10YR4/4 褐色土 ローム粒多量  
ロームブロック少量



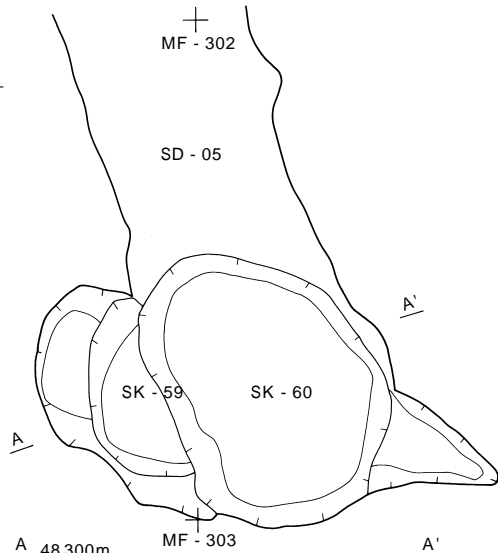
SK - 61  
A 55.400m



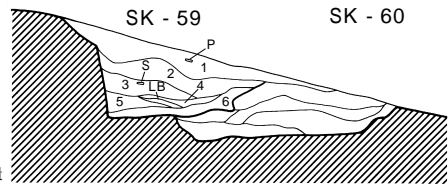
SK - 61  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒極微量  
第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒極微量、焼土粒微量



SK - 59  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物少量、砂礫少量  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒・パミス少量  
第3層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物少量、パミスやや多量  
第4層 10YR2/1 黒色土 ローム粒少量  
第5層 10YR3/2 黒褐色土  
第6層 10YR4/6 褐色土



SK - 59  
A 48.300m



SK - 60  
第1層 10YR2/3 黒褐色土 砂礫やや多量、ロームとの混合土  
第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒少量  
第3層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ロームとの混合土  
第4層 10YR2/1 黒色土 褐色ロームとの混合土

第493図 SK - 55 ~ 61

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。ロームブロックが多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。  
(木 村)

S K - 56 (第493図)

[位 置] グリッドL Z - 299・300で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、94×88×25cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。底面には月見野火山灰層主体の流入土が堆積しており、自然堆積状況を呈する。  
(木 村)

S K - 57 (第493図)

[位 置] グリッドM A - 299で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整長楕円形を呈し、130×74×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。底面直上に堆積する第2層中には多量のローム粒、ロームブロックが混入しており、流入土の可能性はある。  
(木 村)

S K - 58 (第493図)

[位 置] グリッドM D - 302で検出した。

[重 複] S I - 42と重複している。削平のため、新旧関係についての詳細は不明である。

[平面形・規模] 不整長方形を呈し、216×158×35cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、緩やかな傾斜が壁際の部分で見られる。底面は堅緻である。また、北西隅からピット状の掘り込みを検出した。規模は53×43×17cmを測る。

[堆積土] 4層に分層した。大谷火山灰層、月見野火山灰層主体の地山土が堆積の主体を成しており、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。  
(木 村)

S K - 59 (第493図)

[位 置] グリッドM E・M F - 302で検出した。

[重 複] S K - 60、S D - 05と重複している。本遺構がS K - 60の堆積土を切った形で構築されて

おり、本遺構の方が新しい。また、S D - 05はS K - 60に切られておりS D - 05 < S K - 60 < S K - 59の関係である。

[平面形・規模] 不整形を呈し、163×140×80cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、壁上部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面は、S K - 60、S D - 05の重複部分については、脆弱であり、他の部分については堅緻である。

[底面] 一部S K - 60の堆積土を底面としており、それ以外の部分については大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。底面付近に堆積する第6層は大谷火山灰層の地山土で、廃絶後の堆積ではなく、重複部分の脆弱な底面を補強した可能性が考えられる。

[堆積土] 6層に分層した。明確な廃絶後の堆積土は第1～5層で、概ね自然堆積状況を呈する。S K - 60の重複部分については立ち上がりが斜面の傾斜に沿った形で止まっており、S K - 59の構築時点で東側部分は、生活面に対してかなり下がった位置で開口していたものと考えられる。

(木村)

#### S K - 60 (第493図)

[位置] グリッドME・MF - 302で検出した。

[重複] S K - 59、S D - 05と重複している。本遺構がS K - 58に切られており、また、本遺構がS D - 05を切った形で構築されており新旧関係はS D - 05 < S K - 60 < S K - 59の関係である。

[平面形・規模] 切りあいのため、開口部が一部削平されており全体形の詳細は不明であるが、不整形を呈したものと考えられ、(236)×(195)×53cmを測る。

[断面形・壁] 残存部分の断面形は(c)で、壁上部の一部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。大谷火山灰層、月見野火山灰層の地山土と黒色土の混合層が堆積しており、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

#### S K - 61 (第494図)

[位置] グリッドLZ - 301・302で検出した。

[重複] S I - 41、S P - 17と重複している。本遺構がいずれの遺構にも切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 小判形を呈し、(126)×92×12cmを測る。

[断面形・壁] 残存部分の断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は脆弱である。

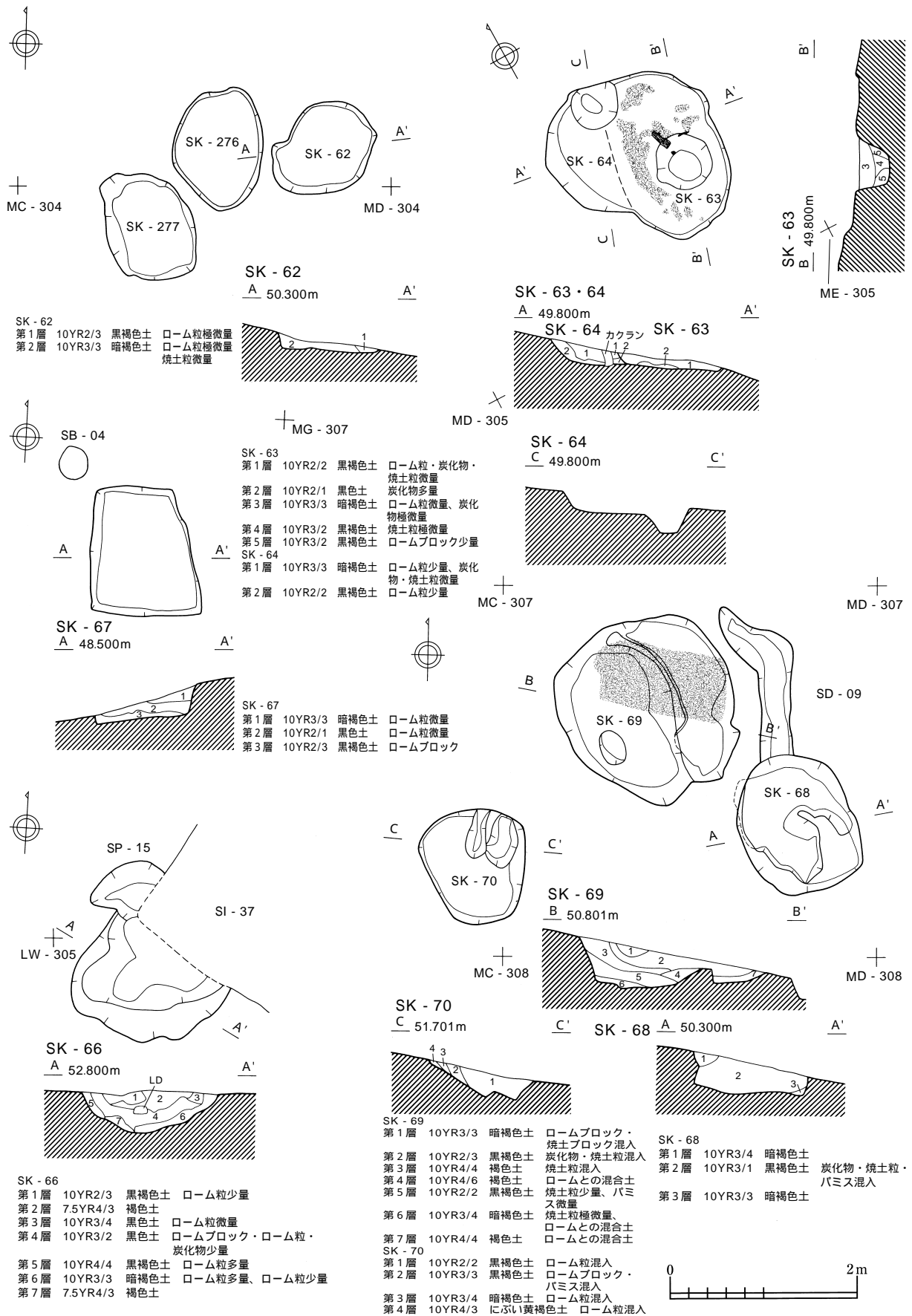
[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 2層に分層した。全般的にローム粒が混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

#### S K - 62 (第494図)

[位置] グリッドMC - 303・304で検出した。



第494図 SK - 62 ~ 64・66 ~ 70

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、116×90×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。第2層中から焼土粒を検出した。

(木村)

#### S K - 63 (第494図)

[位置] グリッドMD - 304で検出した。

[重複] S K - 64と重複している。本遺構がS K - 64の堆積土を切っており本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、184×62×25cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は、S K - 64との重複部分については脆弱で他の部分については堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は赤化した部分を検出しており、炭化材を検出している。堆積土中に焼土粒が含まれることから本遺構は焼成坑であることが考えられる。また、底面中央部にピット状の掘り込みを検出した。規模は63×60×37cmを測る。堆積土中に焼土粒が混入しているが、本遺構の焼成時点で埋められていた可能性もあり、帰属関係についての詳細は不明である。

[堆積土] 5層に分層した。[底面]での記述のとおり、土坑中央部に位置するピットについては明確に本遺構に帰属するかどうか不明であり、焼成後の堆積土については第1、2層が相当する。第1、2層とも本遺構で焼成が行われた状況を示す焼土粒・炭化物等の混入があった。

(木村)

#### S K - 64 (第494図)

[位置] グリッドMD - 304で検出した。

[重複] S K - 63と重複している。本遺構の堆積土がS K - 63に切られており本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいのため、全体形の詳細は不明であるが、円形を呈したものと考えられ、長軸の残存長は137cmを測る。深さは23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、若干傾斜がある。底面は堅緻である。北壁際部分にピット状の掘り込みを検出した。規模は55×49×22cmを測る。

[堆積土] 残存部分について2層に分層した。第1層中に炭化物・焼土粒が含まれる。概ね自然堆積状況を呈する。

(木村)

#### S K - 65 (第152図)

[位置] グリッドMC - 305で検出した。

[重複] S I - 49、50、51、S D - 06と重複している。新旧関係は、S D - 06 > S I - 49 > S



I - 51 > S K - 65 > S I - 50である。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、156×124×21cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

(木 村)

S K - 66 (第494図)

[位 置] グリッドL W - 305で検出した。

[重 複] S I - 37、S P - 15と重複している。検出時点で本遺構がS I - 37の堆積土を切った形で検出されたため本遺構の方が新しい。S P - 15との関係については壁面の残存状況が本遺構を切った形で検出されており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、150×(146)×46cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。壁面はS I - 37との重複部分についてはS I - 37の堆積土を壁面としており脆弱で、他の部分についてはやや脆弱である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや窪んだ形状を呈する。底面は堅緻である。

[堆積土] 7層に分層した。全般的にロームブロック、ローム粒が混入する。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 67 (第494図)

[位 置] グリッドM F - 307で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 台形を呈し、140×120×35cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。ローム粒・ロームブロックの混入が見られるが概ね自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 68 (第494図)

[位 置] グリッドM C - 307で検出した。

[重 複] S D - 09と重複している。本遺構がS D - 09を切った形で構築されており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、154×120×46cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はcで、壁上部の一部で緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。南西部分に不整形の浅い落ち込みを検出した。深さは4cmを測る。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。一部崩落による堆積が見られるが、第2層が土坑の堆積土の主体を成しており、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

## S K - 69 (第492図)

[位置] グリッドMC - 307で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、204×186×56cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。土坑中央部で段状の立ち上がりが見られた。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏が見られる。底面は堅緻である。北半部の底面から赤化面を検出しており、堆積土中から焼土粒・燃料材と考えられるタケ亜科等の炭化物を検出しており本遺構は焼成坑であると考えられる。[断面形・壁]の記述で触れた土坑中央部の段状の部分については、赤化面がそれをまたがった形で検出したことから、東側部分については前庭部としての機能が考えられる。また、南西部分からピット状の掘り込みを検出した。規模は38×25×5cmを測る。

[堆積土] 7層に分層した。ロームブロック、炭化物、焼土ブロック、焼土粒等を含み本遺構での焼成を裏付ける混入物の検出が見られた。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 70 (第494図)

[位置] グリッドMB・MC - 307で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、128×108×35cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はgで、底面から鋭角に立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏が激しい。底面は堅緻である。また、北壁際から不整形の落ち込みを検出した。深さは8cmを測る。

[堆積土] 4層に分層した。斜面上部の西壁側から土が流入した堆積状況を呈し、概ね自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 71 (第495図)

[位置] グリッドMD・ME - 307で検出した。

[重複] なし。

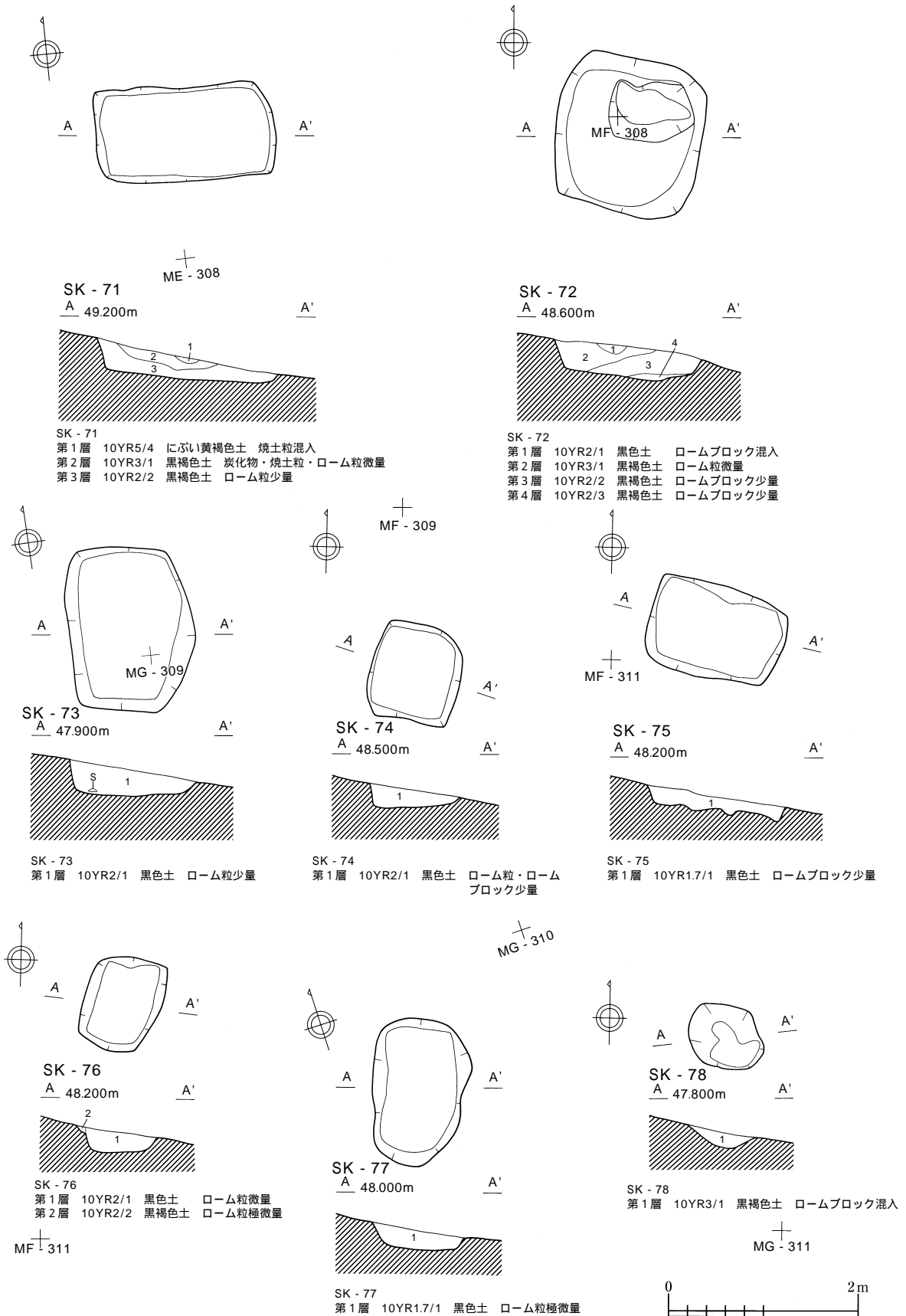
[平面形・規模] 長方形を呈し、190×101×29cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。第1・2層に焼土粒が混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)



第495図 SK - 71 ~ 78

## S K - 72 (第495図)

[位置] グリッドME・MF - 307・308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、162×154×42cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。また、北半部からピット状の落ち込みを検出した。規模は90×63×12cmを測る。

[堆積土] 4層に分層した。ロームブロックが全般的に混入しており、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 73 (第495図)

[位置] グリッドMF・MG - 308・309で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、172×130×36cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。付近の地形が急傾斜な斜面であり、土層堆積において流入の要因が強く、概ね自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 74 (第495図)

[位置] グリッドME・MF - 309で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、100×96×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、傾斜が見られる。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。S K - 71と同様の堆積状況で、概ね自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 75 (第495図)

[位置] グリッドMF - 310・311で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、142×100×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏が激しい。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。S K - 73、74と同様の堆積状況で、概ね自然堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 76 (第495図)

[位置] グリッドMF - 310で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、102×80×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はcで、壁上部の一部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。S K - 73～75と同様の堆積状況で、概ね自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 77 (第495図)

[位置] グリッドMF - 310で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、156×94×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。S K - 73～76と同様の堆積状況で、概ね自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 78 (第495図)

[位置] グリッドMF - 310で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、92×76×21cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、壁際から丸みを持ち立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としている。底面は窪んだ状態で堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。ロームブロックが含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 79 (第496図)

[位置] グリッドLI - 306で検出した。

[重複] なし。

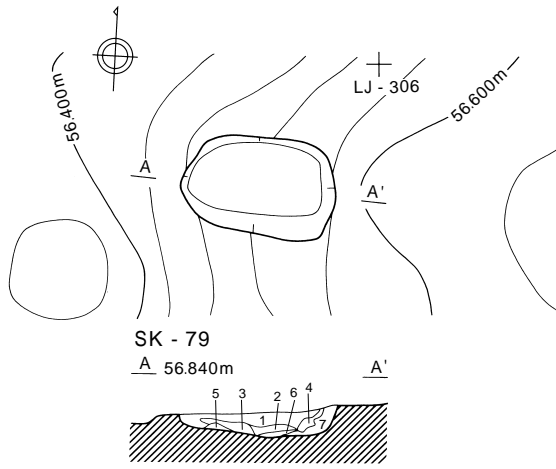
[平面形・規模] 小判形を呈し、120×76×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 7層に分層した。底面から赤化面は検出していないが、底面直上から焼土層ならびに、焼土と炭化物を多量に含む土層が堆積しており、本遺構で焼成が行われた可能性が考えられる。

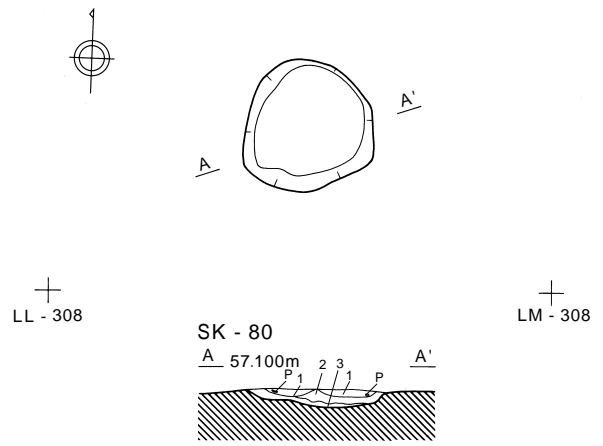
(木 村)



SK - 79

A 56.840m A'

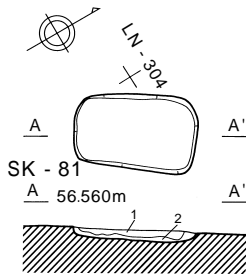
- SK - 79
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化粒微量
  - 第2層 7.5YR4/4 褐色土 焼土粒多量
  - 第3層 10YR2/2 黒褐色土 炭化粒・焼土粒多量
  - 第4層 N2/0 黒色土 ロームブロック少量
  - 第5層 10YR4/6 褐色土 小礫微量
  - 第6層 5YR4/4 にぶい赤褐色土
  - 第7層 10YR3/4 暗褐色土



SK - 80

A 57.100m A'

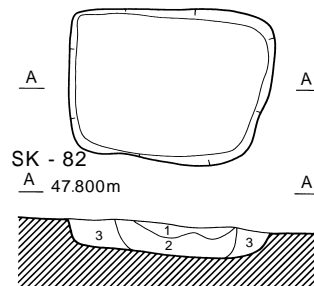
- SK - 80
- 第1層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 炭化物微量
  - 第2層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック少量、炭化物多量
  - 第3層 10YR4/4 褐色土 黒褐色土少量、炭化物多量



SK - 81

A 56.560m A'

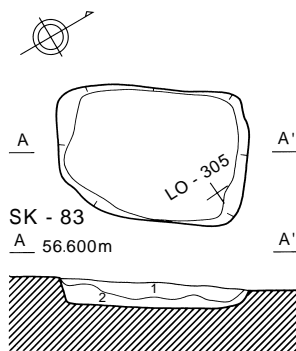
- SK - 81
- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物微量
  - 第2層 10YR1.7/1 黒色土 炭化物多量



SK - 82

A 47.800m A'

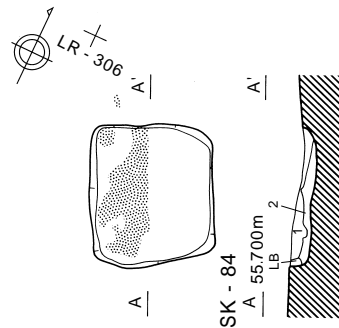
- SK - 82
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒やや少量
  - 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒少量
  - 第3層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック少量



SK - 83

A 56.600m A'

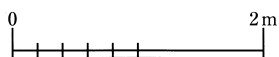
- SK - 83
- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック少量
  - 第2層 10YR3/3 暗褐色土



SK - 84

A 55.700m A'

- SK - 84
- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミス少量、炭化物極微量
  - 第2層 10YR1.7/1 黒色土 炭化物多量



第496図 SK - 79 ~ 84

S K - 80 (第496図)

[位置] グリッド L L - 307で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、110×102×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。全般的に炭化物が混入しており、土器が破片化した状況で出土している。廃棄を伴う人為的堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 81 (第496図)

[位置] グリッド L N - 303・304で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、96×60×8cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面直上から多量の炭化物を検出しており、本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[堆積土] 2層に分層した。底面直上に堆積する第2層は炭化物堆積層で、上位に堆積する第1層中にも炭化物が混入している。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 82 (第496図)

[位置] グリッド L O - 304で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、160×120×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。ロームブロック、ローム粒が混入しており人為的堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 83 (第496図)

[位置] グリッド L N・L O - 304・305で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、152×104×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層中にはロームブロックが混入しているが、概ね自然堆積状況を呈する。

(木 村)

## S K - 84 (第496図)

[位置] グリッドLR - 306で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、114×100×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面直上から炭化物を検出しており、本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[堆積土] 2層に分層した。底面直上に堆積する第2層は炭化物堆積層で、上位に堆積する第1層中にも炭化物が混入している。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 85 (第497図)

[位置] グリッドLR - 307・308で検出した。

[重複] S K - 86と重複している。本遺構がS K - 86の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整形を呈し、162×126×29cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山とS K - 86の堆積土を掘り込んで、底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。底面直上から中層に堆積する2層においては、製鉄炉の操業に伴って排出されたと考えられる鉄滓等が多量に出土している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。本遺構から出土した製鉄関連遺物は、炉壁(溶解物を含む)6,940g、砂鉄焼結塊276g、炉内滓3,976g、流動滓(単位流動滓を含む)33,450g、流動滓(鳥の足状)5,727g、流出孔滓734g、流出溝滓3,948g、鉄塊系遺物L( )32g、( )38g、その他(工具痕付滓)912g、総重量56,033gである。本遺構に廃棄された製鉄関連遺物の出土状況から、本遺構は、廃絶後の落ち込みが排滓場として利用されたのではなく、排滓のために掘り込まれた土坑であると考えられる。本遺構に近接する、S I - 68においても、覆土中層から製鉄関連遺物が多量に出土しており、関連性を伺わせる。

(設楽)

## S K - 86 (第497図)

[位置] グリッドLR - 307・308で検出した。

[重複] S K - 85と重複している。本遺構がS K - 85に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 方形を呈し、200×180×51cmを測る。

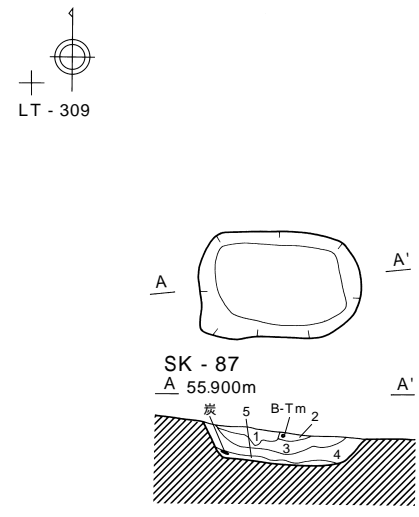
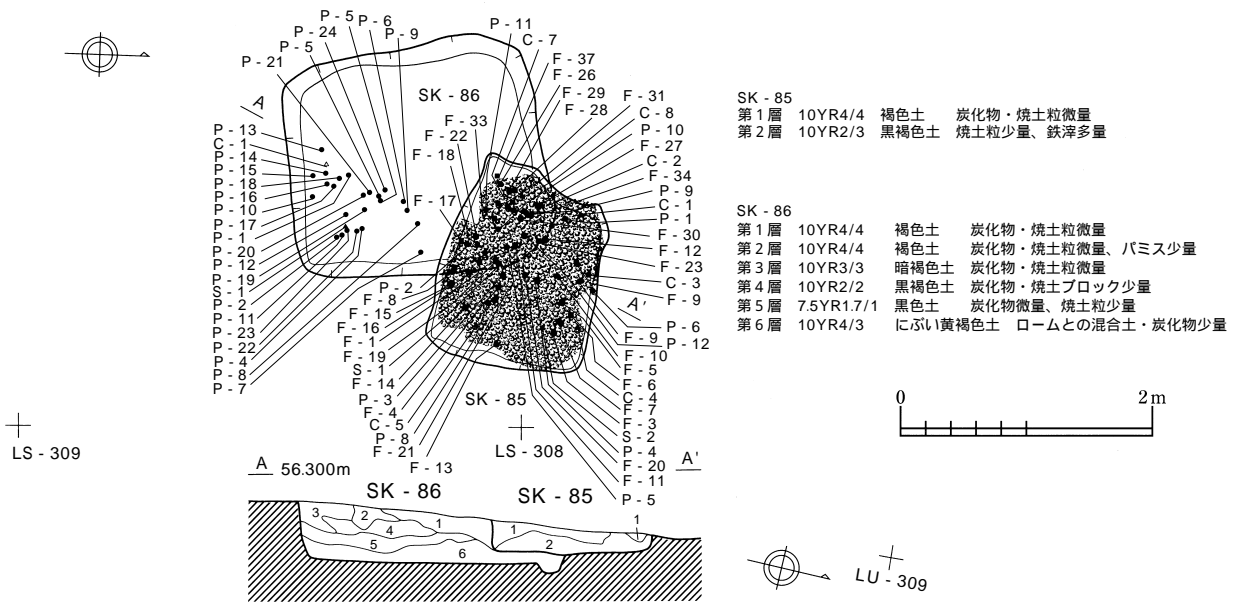
[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

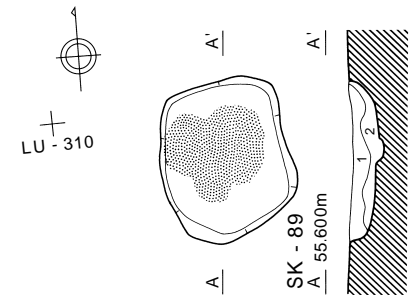
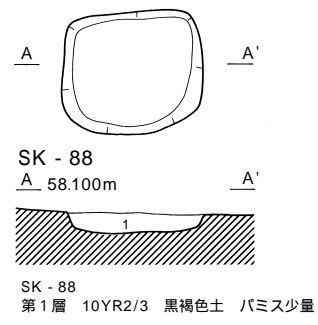
[堆積土] 6層に分層した。下層はにぶい黄褐色を呈する土層、中層は黒褐色、黒色を呈する土層、上層は暗褐色を呈する土層である。各層において炭化物、焼土粒が混入していることから、本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

(設楽)

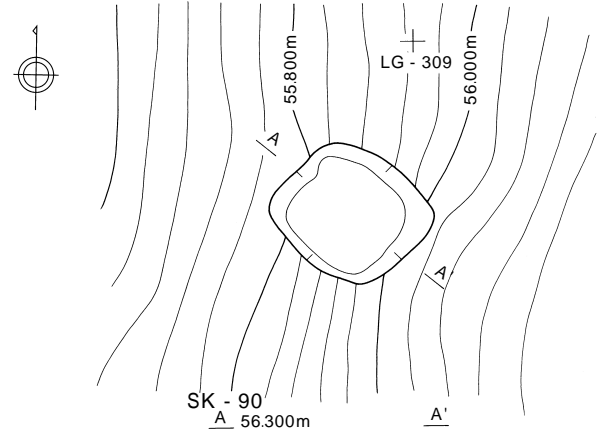




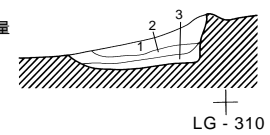
- SK - 87
- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒・炭化物少量、焼土粒微量
  - 第2層 7.5YR3/2 黒褐色土 火山灰 (B-Tm) 混入
  - 第3層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック・炭化物少量
  - 第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・炭化物少量、焼土粒微量
  - 第5層 7.5YR1.7/1 黒色土 炭化物やや多量、焼土粒少量



- SK - 89
- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・炭化物微量
  - 第2層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物多量



- SK - 90
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物微量
  - 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒少量
  - 第3層 10YR1.7/1 黒色土 炭化物多量



第497図 SK - 85 ~ 90

## S K - 87 (第497図)

[位置] グリッドL T - 309で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、128×86×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。また、壁面が赤化しており、本遺構で焼成が行われた可能性が考えられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。底面直上から炭化物ならびに焼土粒を検出しており、壁面の赤化の要素を踏まえて本遺構は製炭土坑であることが考えられる。

[堆積土] 5層に分層した。全般的に炭化物、焼土粒等が混入しており、概ね自然堆積状況を呈する。また、第2層中にB - T m火山灰が粒状に混入して検出した。

(木村)

## S K - 88 (第497図)

[位置] グリッドL U - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、110×96×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 89 (第497図)

[位置] グリッドL U - 309・310で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、136×110×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、底面部分はやや丸みを帯び、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。また、底面直上から炭化物を検出しており、本遺構は製炭土坑であることが考えられる。

[堆積土] 2層に分層した。底面直上に堆積する第2層は炭化物堆積層で、上位に堆積する第1層中にも炭化物が混入している。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 90 (第497図)

[位置] グリッドL F・L G - 309で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、108×102×44cmを測る。

[断面形・壁] 西壁側が削平を受けているため詳細については不明であるが、残存部分の断面形は(a)で、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 3層に分層した。底面直上に堆積する第3層は炭化物の堆積層で、本遺構が製炭土坑である可能性が考えられる。第1、2層は概ね自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 91 (第498図)

[位 置] グリッドL G - 312・313で検出した。

[重 複] S I - 71と重複している。本遺構の堆積土がS I - 71に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、206×168×30cmを測る。

[断面形・壁] 北壁ならびに東壁の一部がS I - 71に切られているため全容については不明であるが、残存部分の断面形は(a)で、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。また、底面直上から多量の炭化物を検出しており、本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[堆積土] 7層に分層した。底面直上の第4層は炭化物堆積層である。第6、7層は掘り方への充填土であると考えられる。また、第5層として取り扱った土層については、大谷火山灰層主体の地山土で、S I - 71の壁面の構築土であると考えられる。第1～3層については、急激な埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 92 (第498図)

[位 置] グリッドL N - 311で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、134×106×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。炭化物が微量混入している。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 93 (第498図)

[位 置] グリッドL N - 311・312で検出した。

[重 複] なし。

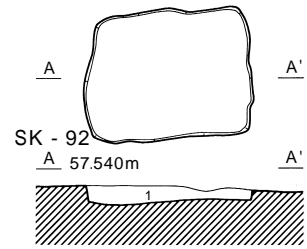
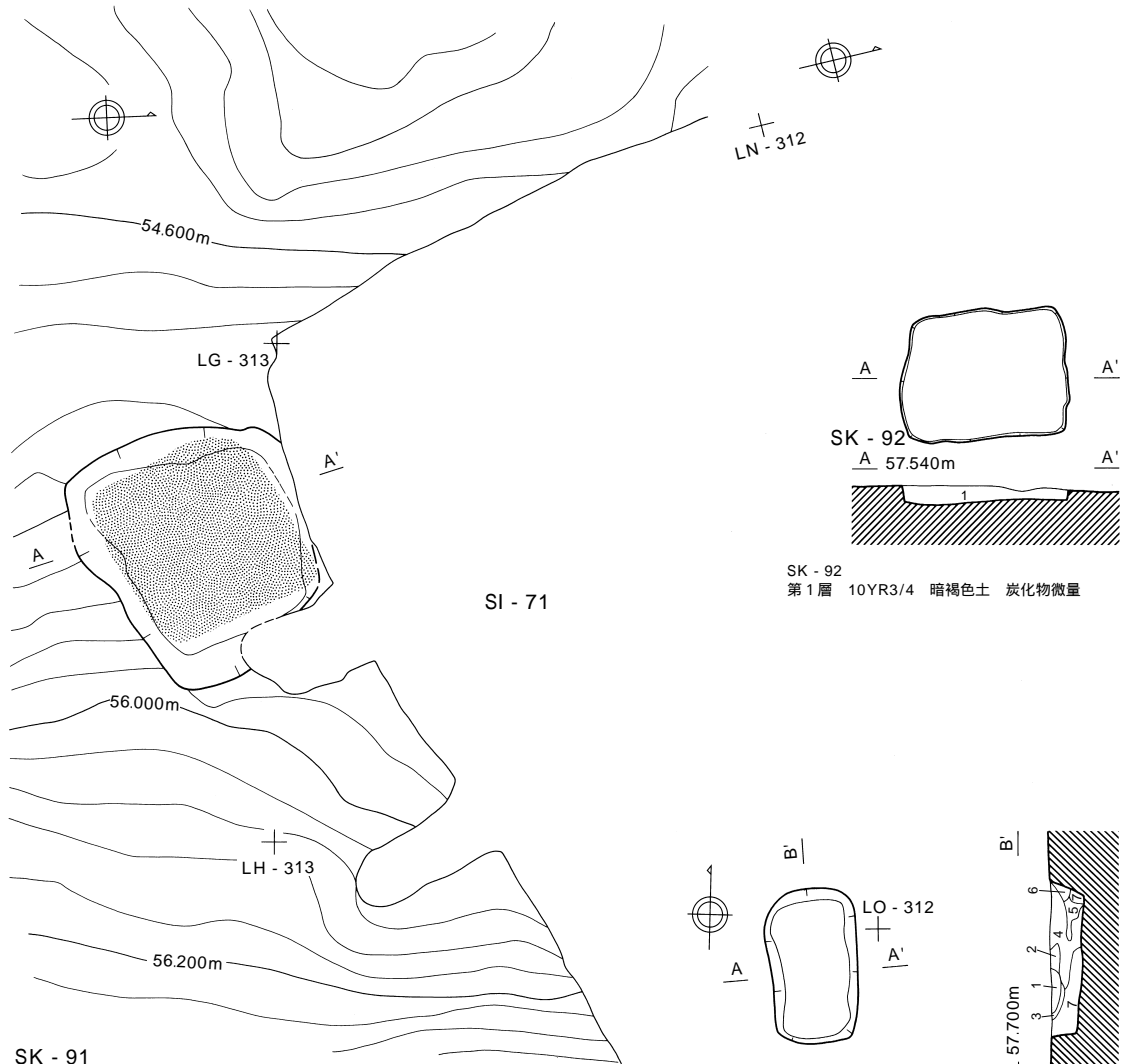
[平面形・規模] 長方形を呈し、124×70×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

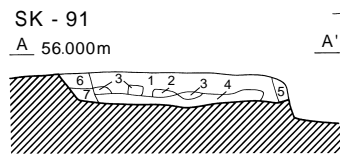
[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 7層に分層した。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

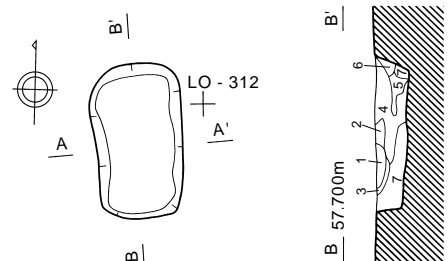


SK - 92  
第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物微量



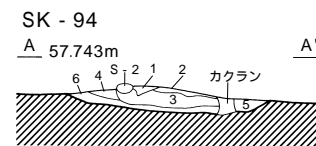
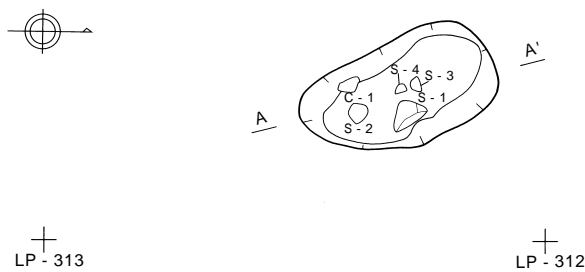
SK - 91  
A 56.000m

第1層	10YR3/3	暗褐色土	ローム微量、炭化物少量、 焼土極微量
第2層	10YR3/3	暗褐色土	ローム多量
第3層	10YR2/3	黒褐色土	炭化物多量
第4層	10YR2/1	黒色土	炭化物多量
第5層	10YR4/4	褐色土	
第6層	10YR3/4	暗褐色土	ローム少量
第7層	10YR4/4	褐色土	ローム多量



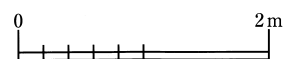
SK - 93  
A 57.700m

第1層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒少量
第2層	10YR4/4	褐色土	ローム粒中量
第3層	10YR2/3	黒褐色土	
第4層	10YR3/4	暗褐色土	炭化物少量
第5層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒極微量
第6層	10YR4/6	褐色土	ロームブロック少量
第7層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒中量



SK - 94  
A 57.743m

第1層	10YR4/4	褐色土	炭化物少量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	炭化物少量、焼土粒微量
第3層	N1.5/0	黒色土	炭化物多量、焼土粒微量、炭化物層
第4層	10YR2/3	黒褐色土	
第5層	10YR2/3	黒褐色土	
第6層	10YR3/3	暗褐色土	炭化粒少量



第498図 SK - 91 ~ 94

S K - 94 (第498図)

[位置] グリッド L O - 312で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、160×86×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 6層に分層した。第3層は炭化物堆積層であり、上位に堆積する第2層中から焼土粒、炭化物が検出していることから第5、6層が堆積後本遺構で焼成が行われた可能性が考えられる。また、第3層中には自然礫、羽口破片等も包含しており、焼成後の廃棄が一部伴った可能性がある。

(木 村)

S K - 95 (第499図)

[位置] グリッド L P - 311で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、98×76×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。堆積土中から炭化物、焼土粒が混入して検出した。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 96 (第499図)

[位置] グリッド L V ・ L W - 311 ・ 312で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、154×126×52cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。底面直上に堆積する第2層はロームブロックが多量に混入した土で、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 97 (第499図)

[位置] グリッド L P - 314で検出した。

[重複] なし。

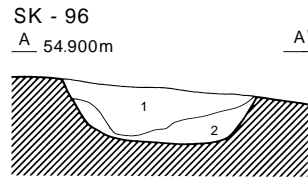
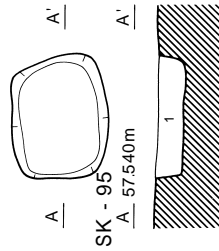
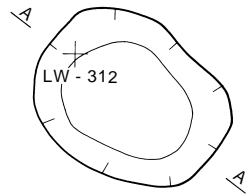
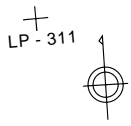
[平面形・規模] 円形を呈し、110×98×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰の地山を底面としており、緩やかな傾斜がある。底面は堅緻である。

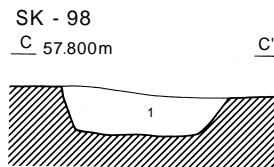
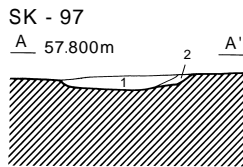
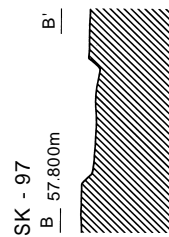
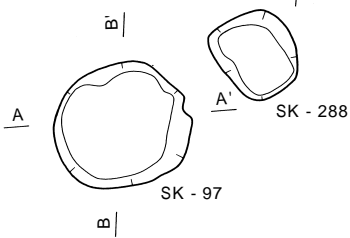
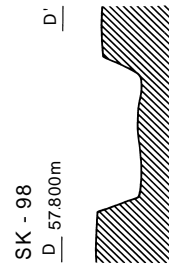
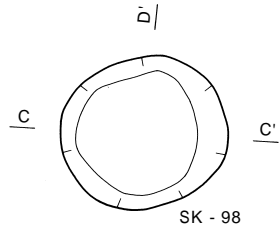
[堆積土] 2層に分層した。第1層中から多量の炭化粒・焼土粒とともに鉄滓が出土した。廃棄を伴う堆積状況である。

(木 村)



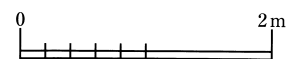
SK - 95  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化粒少量、焼土粒微量

SK - 96  
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒やや多量  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック多量



SK - 97  
第1層 10YR1.7/1 黒色土 炭化物多量  
焼土粒・鉄滓混入  
第2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒微量

SK - 98  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化粒・焼土粒微量



第499図 SK - 95 ~ 98

S K - 98 (第499図)

[位置] グリッドLP - 313・314で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、130×120×36cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。堆積土中に炭化粒、焼土粒が混入する。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 99 (第500図)

[位置] グリッドLZ - 313・314で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、182×100×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、壁上部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。また、底面北東壁寄りの部分からピット状の落ち込みを検出した。土層上で本遺構に直接帰属するかどうか判別できなかった。規模は185×108×32cmを測る。周辺部にSB - 07等のピットが位置しており、本遺構内のピットについても柱穴配置等に関連した可能性が考えられる。

[堆積土] 3層に分層した。ロームブロックが多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 100 (第500図)

[位置] グリッドMA - 315で検出した。

[重複] SP - 238と重複している。立ち上がりが不明瞭であるが、SP - 238が本遺構を切って構築されている。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、136×112×64cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は切りあい部分が脆弱でそれ以外の部分については堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。炭化物、パミス等が混入しており、概ね自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 101 (第500図)

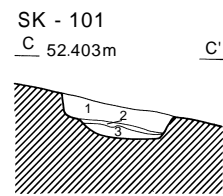
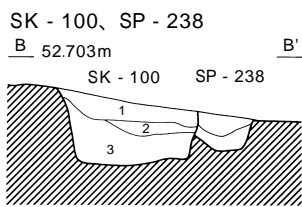
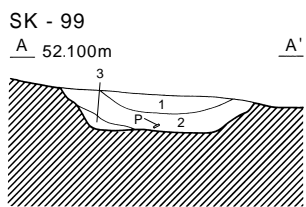
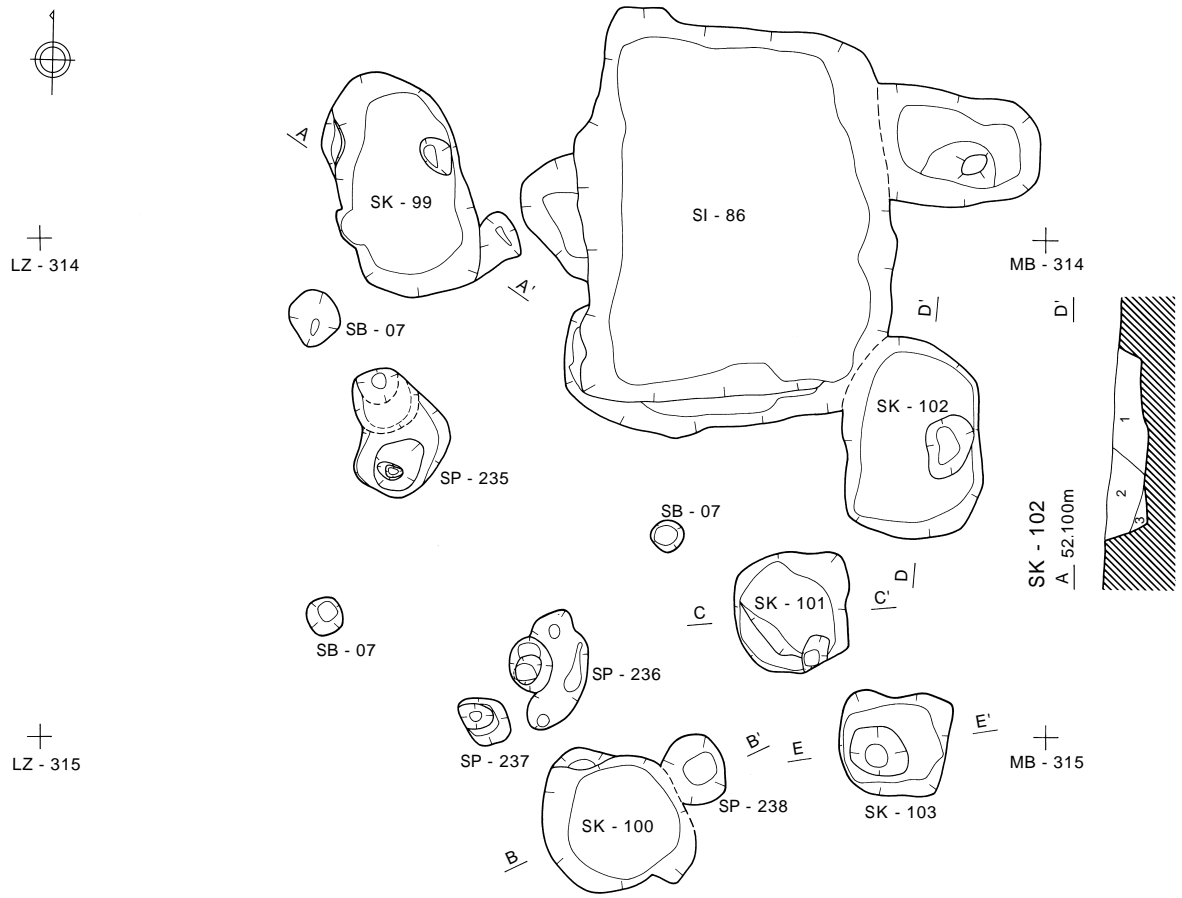
[位置] グリッドMA - 314で検出した。

[重複] なし。

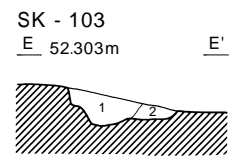
[平面形・規模] 不整方形を呈し、100×98×36cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。



SK - 99  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック・炭化物少量  
 第2層 10YR2/1 黒色土 ロームブロック・炭化物少量  
 第3層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック多量



SK - 100  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物微量  
 第2層 10YR3/2 黒褐色土 パミス少量  
 第3層 10YR2/2 黒褐色土 パミス少量

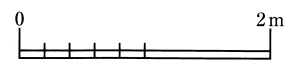
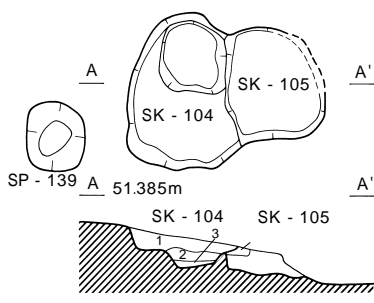
SK - 101  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒・パミス微量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒やや多量  
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 砂粒微量

SK - 103  
 第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒やや多量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒少量

SK - 102  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒多量、焼土粒微量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック多量、炭化物少量  
 第3層 10YR3/4 暗褐色土

SK - 104  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量、焼土粒極微量  
 第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒極微量  
 第3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多量

SK - 105  
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多量  
 第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒少量



第500図 SK - 99 ~ 105



[堆積土] 3層に分層した。底面直上に堆積する第3層中には砂粒が混入する。自然堆積状況を呈する。  
(木村)

S K - 102 (第500図)

[位置] グリッドMA - 314で検出した。

[重複] S I - 86と重複している。本遺構がS I - 86を切った形で構築されており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 長方形を呈し、158×110×34cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。また、東壁寄りの部分からピット状の落ち込みを検出した。土層上で本遺構に直接帰属したかどうか判別できなかった。規模は45×38×10cmを測る。周辺部にS B - 07等のピットが位置しており、本遺構内ピットについても柱穴配置等に関連した可能性が考えられる。

[堆積土] 3層に分層した。ロームブロック・ローム粒が多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 103 (第500図)

[位置] グリッドMA - 314・315で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、86×83×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。また、底面からピット状の落ち込みを検出した。規模は46×39×12cmを測る。堆積状況と周辺部にS B - 07等掘立柱建物跡の柱穴が配置しており、本遺構についても柱穴として機能した可能性が考えられる。

[堆積土] 2層に分層した。全般的にローム粒が混入する。第2層については掘り方の充填土の可能性が考えられる。

(木村)

S K - 104 (第500図)

[位置] グリッドMB・MC - 316で検出した。

[重複] S K - 105と重複している。本遺構がS K - 105の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、124×76×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、緩やかに外傾しながら立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分が見られた。壁面はS K - 105との重複部分は脆弱で他の部分については堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。また、底面北半部からピット状の落ち込みを検出した。規模は57×51×17cmを測る。本遺構廃絶後に土層が堆積しており、本遺構に帰属したものと考えられる。

[堆積土] 3層に分層した。全般的にローム粒が混入しており、概ね自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 105 (第500図)

[位 置] グリッドMC - 316で検出した。

[重 複] S K - 104と重複している。本遺構の堆積土がS K - 104に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、90×74×24cmを測る。

[断面形・壁] 一部削平ならびに切りあいのため情報が欠落しているが、断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。全般的にローム粒が混入している。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 106 (第501図)

[位 置] グリッドMC - 316で検出した。

[重 複] S K - 107、108と重複している。本遺構がS K - 107、108の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、148×106×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は、切りあい部分は脆弱で、それ以外の部分については堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。また、北壁寄りの底面からピット状の落ち込みを検出した。規模は65×54×8cmを測る。

[堆積土] 5層に分層した。第1層中に焼土粒、炭化粒が微量含まれる。概ね自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 107 (第501図)

[位 置] グリッドMC - 316で検出した。

[重 複] S K - 106、108と重複している。堆積土等の関係から新旧関係はS K - 108 < S K - 107 < S K - 106である。

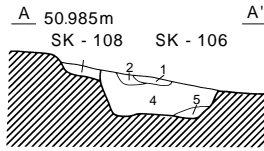
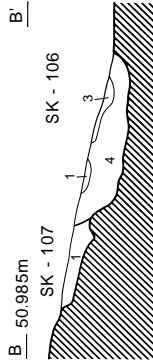
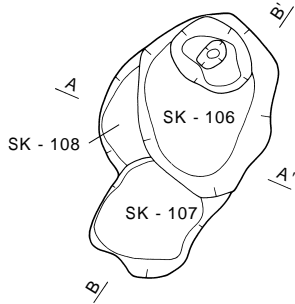
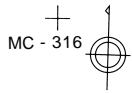
[平面形・規模] 切りあいのため詳細は不明であるが、残存部分は不整形を呈し、(96)×80×21cmを測る。

[断面形・壁] 切りあいのため北壁側の情報は不明であるが、残存部分の断面形は(a)で、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

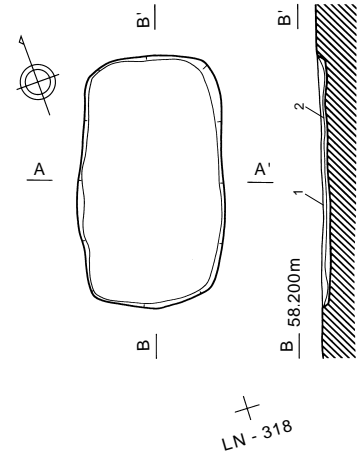
[底 面] 月見野火山灰の地山を底面としており、傾斜がある。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。炭化物、ロームブロックが混入している。自然堆積状況を呈する。

(木 村)



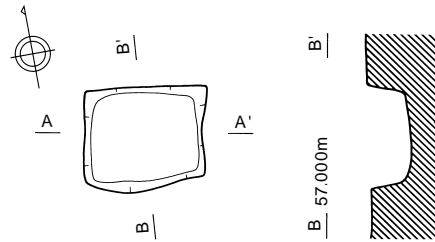
- SK - 106  
 第1層 10YR2/1 黒色土 焼土・炭化物極微量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・粘土少量  
 第3層 10YR2/1 黒色土 炭化物多量、ローム粒少量  
 第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム少量、炭化物微量  
 第5層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒多量
- SK - 107  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物極微量、ロームブロック少量
- SK - 108  
 第 層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量、炭化物極微量



SK - 109

A 58.200m

- SK - 109  
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化粒多量  
 第2層 10YR4/4 褐色土 ローム粒多量

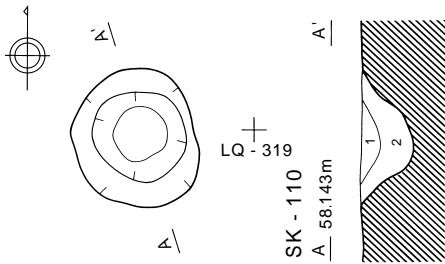


LT - 319

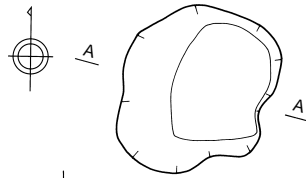
SK - 111

A 57.000m

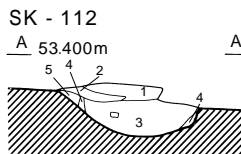
- SK - 111  
 第1層 10YR3/3 暗褐色土  
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化粒極微量、焼土粒混入  
 第3層 10YR3/3 暗褐色土 炭化粒微量、焼土粒少量  
 第4層 10YR1/7/1 黒色土 炭化粒多量、焼土粒混入



- SK - 110  
 第1層 10YR4/6 褐色土 焼土粒少量  
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物微量



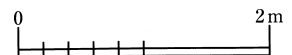
LZ - 318



SK - 112

A 53.400m

- SK - 112  
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒・パミス少量  
 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 焼土粒少量  
 第3層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物・焼土粒微量  
 第4層 10YR3/4 暗褐色土  
 第5層 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒微量



第501図 SK - 106 ~ 112

## S K - 108 (第501図)

[位置] グリッドMC - 316で検出した。

[重複] S K - 106、107と重複している。本遺構の堆積土がいずれの遺構にも切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいのため詳細は不明であるが、残存部分からの隅丸方形を呈したものと考えられる。推定規模は 130 × 100 × 18cmを測る。

[断面形・壁] 残存部分の断面形は(d)で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、傾斜がある。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。ローム粒、炭化粒が混入している。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 109 (第501図)

[位置] グリッドLM・LN - 317で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、203×115×6cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は炭化粒が多量に混入している。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 110 (第501図)

[位置] グリッドLP - 318・319で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、110×96×43cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、壁途中で角度を変え、外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、緩やかに窪んだ形状を有する。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。上層に堆積する第1層は大谷火山灰層の地山土主体の堆積土で埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 111 (第501図)

[位置] グリッドLT - 318で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、94×82×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや傾斜がある。底面は堅緻である。また、底面直上には炭化物の堆積しており、焼土粒が含まれることから本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[堆積土] 4層に分層した。第4層は炭化物堆積層で焼成時点の形成層である。上位に堆積する第2、

3層中についても焼土粒、炭化粒が混入している。廃絶後の堆積は自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 112 (第501図)

[位 置] グリッドL Z - 317で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、140×120×40cmを測る。

[断面形・規模] 断面形はa + dで、西壁側の立ち上がりは緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、窪んだ形状を有する。底面は堅緻である。

[堆積土] 5層に分層した。全般的に焼土粒が混入している。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 113 (第502図)

[位 置] グリッドL Z - 316で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、80×66×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。壁面の一部から赤化面を検出しており、底面、堆積土の要素をあわせて本遺構で焼成が行われたことが考えられる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。底面直上から炭化物が検出しており、西壁寄りの底面の一部が赤化している。本遺構で焼成が行われたことについては確実であるが、機能について赤化した部分が 中央部分から検出せず壁面寄りに限られること。規模が小規模であること。以上の2点から製炭土坑であった可能性が考えられる。

[堆積土] 3層に分層した。底面直上に堆積する第3層は炭化物堆積層で焼土粒が混入する。上位に堆積する第2層は砂粒が混入し、流入土であると考えられる。第1層は大谷火山灰層の地山土が混入した堆積土で埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 114 (第502図)

[位 置] グリッドM A - 316で検出した。

[重 複] S P - 62と重複している。本遺構の堆積土がS P - 62に切られており、本遺構の方が古い。

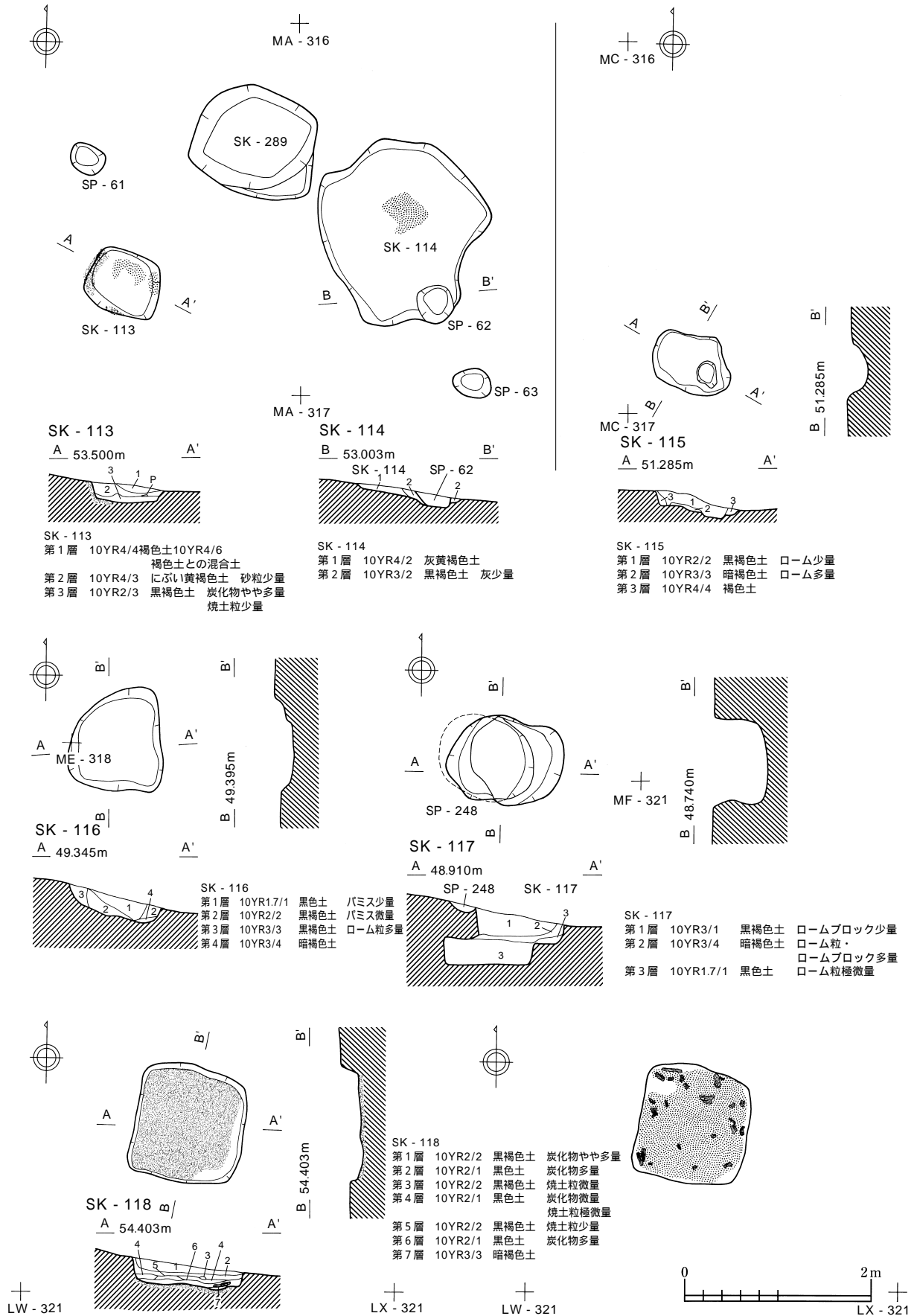
[平面形・規模] 不整形を呈し、204×166×11cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面は堅緻である。底面中央から炭化物を検出した。本遺構で焼成が行われた可能性が考えられるが、機能については不明である。

[堆積土] 2層に分層した。月見野火山灰層の地山土主体堆積層で、埋め戻し等による人為的堆積状況を呈する。なお、第2層についてはS P - 62の構築層の可能性もある。

(木 村)



第502図 SK - 113 ~ 118

S K - 115 (第502図)

[位置] グリッドMC - 316で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、90×60×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、西壁部分の一部が垂直に近い形で立ち上がり、それ以外の部分については緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、傾斜がある。底面はやや脆弱である。また、底面東寄りの部分から小規模なピット状の落ち込みを検出した。規模は27×24×5cmを測る。

[堆積土] 3層に分層した。壁際に堆積する第3層は崩落土で、底面直上に堆積する第2層中にはロームブロックが多量に含まれる。周辺に土坑が点在しており、他の土坑の掘り込み時点での廃土の可能性が考えられる。

(木村)

S K - 116 (第502図)

[位置] グリッドME - 317・318で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 台形を呈し、110×102×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ちあがる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、傾斜がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 117 (第502図)

[位置] グリッドME - 320・321で検出した。

[重複] SP - 248と重複している。SP - 248が本遺構の堆積土を切っており本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 一部崩落を起こしており、検出時点の形状については不整楕円形を呈していたが、土層堆積上に確認したプランについては円形を呈し、100 × 96 × 62cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はfで、袋状の掘り込みを持ち、垂直に近い立ち上がりが段状に見られる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。袋状部分は第3層が堆積しており、頸部付近にも第3層の堆積が見られた。自然堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 118 (第502図)

[位置] グリッドLW - 320で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、128×116×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。底面全体から赤化面を検出しており、被熱の厚さは地山面を6cmほど赤化させている。また、底面直上から炭化物層を検出し、堆積土中から焼土粒等も検出しており、本遺構は焼成坑であると考えられる。

[堆積土] 7層に分層した。全般的に炭化物等が混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 119 (第503図)

[位置] グリッドL K - 322で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、114×92×34cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。また、東壁側は一部内側に入り込んだ形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、中央部へ向かって窪んだ形状を呈する。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。全般的にロームブロック、ローム粒、パミスが少量混入する。第1層中から焼土ブロックを検出した。自然堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 120 (第503図)

[位置] グリッドL M・L N - 323で検出した。

[重複] S K - 292、S D - 14と重複している。本遺構の堆積土がいずれの遺構にも切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、150×146×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。底面直上に堆積する第3層中には炭化粒が多量に含まれる。自然堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 121 (第503図)

[位置] グリッドL N - 323で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、138×114×36cmを測る。

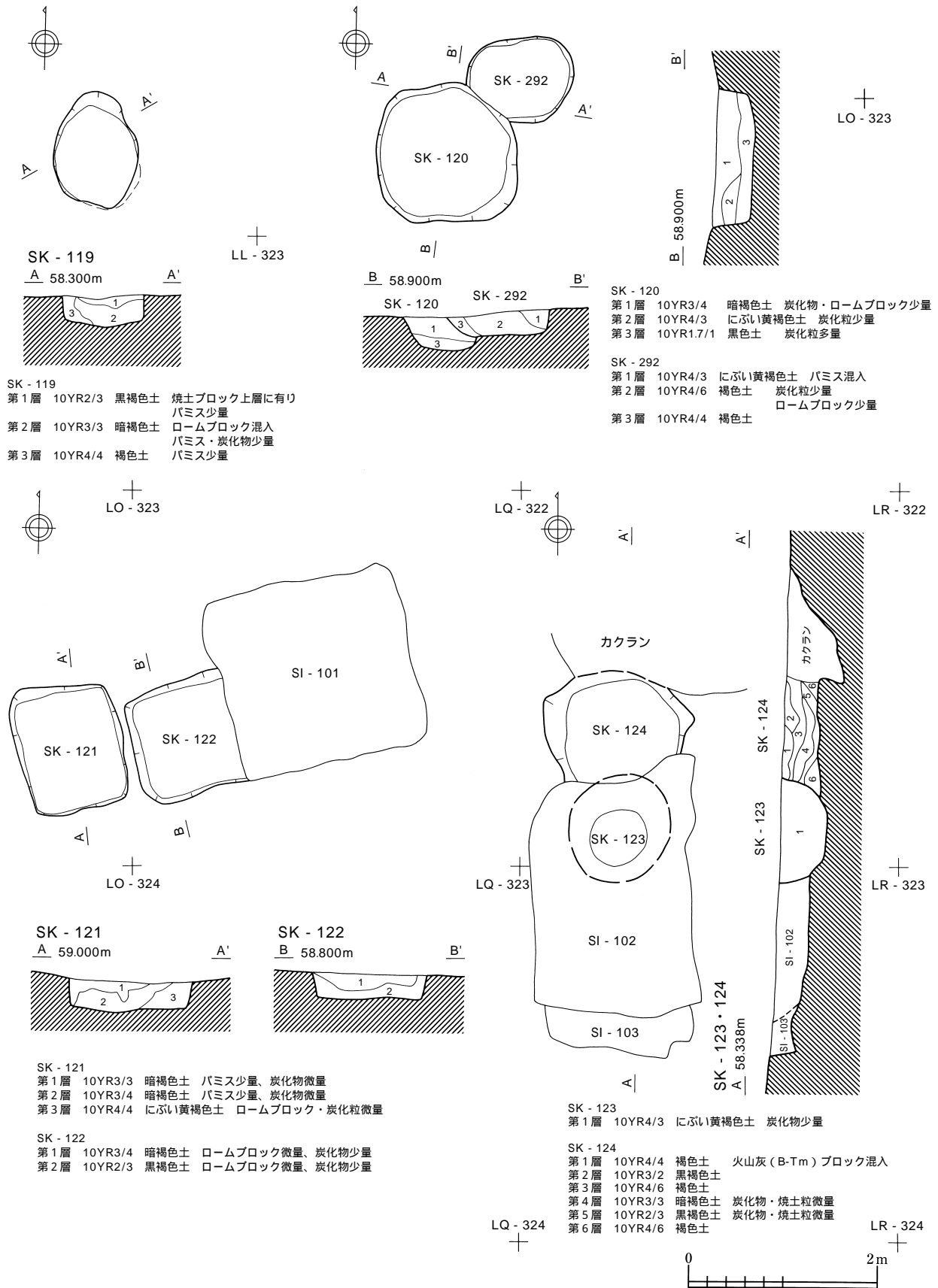
[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。全般的に炭化物・炭化粒が混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)





第503図 SK - 119 ~ 124

## S K - 122 (第503図)

[位置] グリッドL O - 323で検出した。

[重複] S I - 101と重複している。本遺構がS I - 101に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいのため、詳細については不明であるが、残存部分の形状から長方形を呈したものと考えられる。規模は(110)×125×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。全般的に粒径の小さなロームブロックが微量、炭化物が少量混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 123 (第503図)

[位置] グリッドL Q - 322・323で検出した。

[重複] S I - 102、S K - 124と重複している。新旧関係は本遺構がいずれの堆積土も切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 円形を呈し、114×108×50cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、丸みを帯びた形で立ち上がる。壁面は、重複する遺構の堆積土を壁面としており、脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 124 (第503図)

[位置] グリッドL Q - 322で検出した。

[重複] S I - 102、S K - 123と重複している。新旧関係については、土層堆積上からS I - 102 < S K - 124 < S K - 123の関係である。

[平面形・規模] 切りあいのため、全体形について詳細は不明であるが、残存部分の形状から隅丸方形を呈したものと考えられ、(121)×158×37cmを測る。

[断面形・壁] 南北壁は、切りあい・攪乱のため詳細は不明であるが、残存部分の形状は(b)で、壁上部に緩やかな立ち上がりが見られる。壁面は堅緻である。

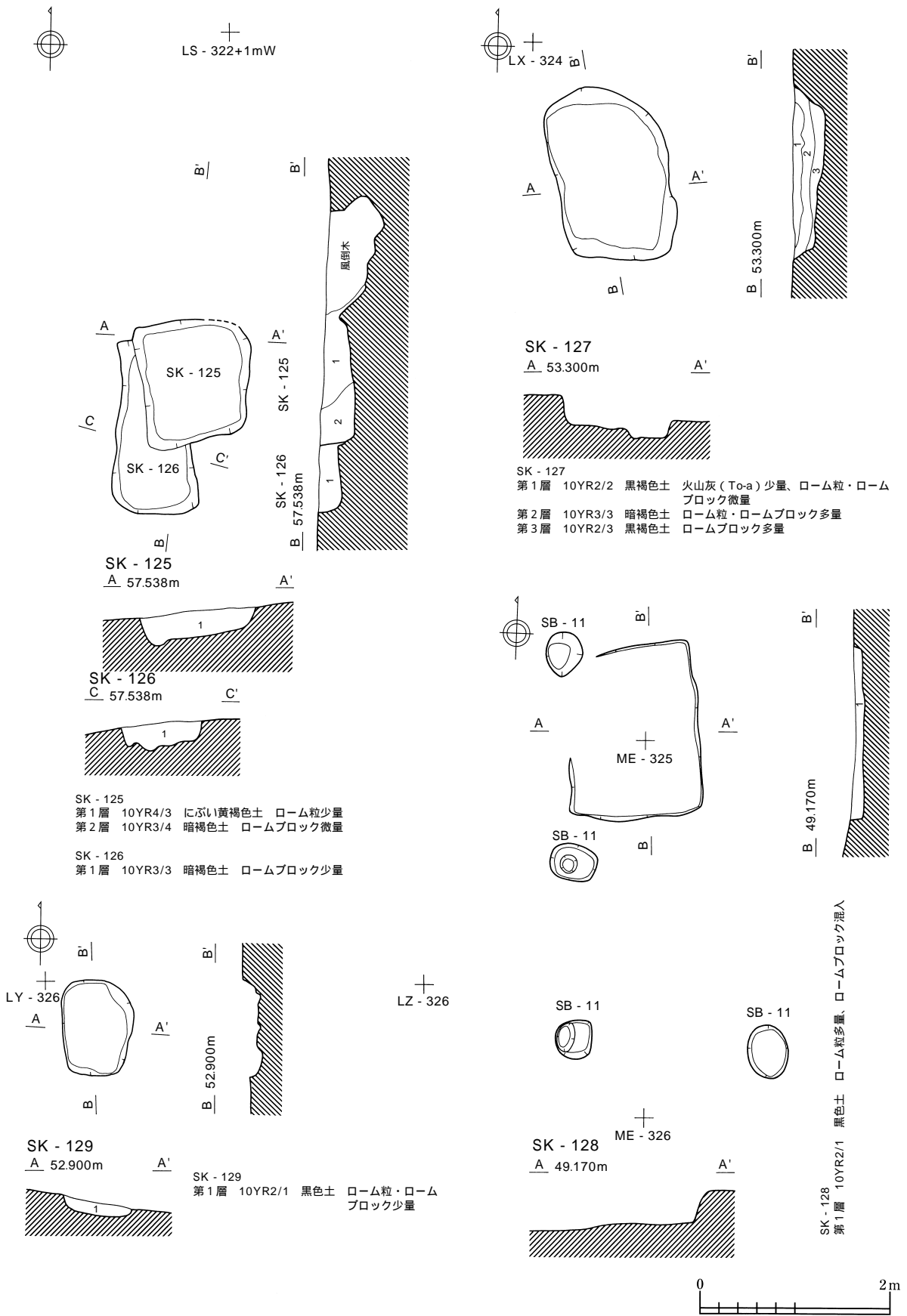
[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 残存部分について6層に分層した。大谷火山灰層の地山土と炭化物、焼土粒を混入する土層が層状に堆積しており、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。第1層中にB - T m火山灰がブロック状に混入して検出した。

(木村)

## S K - 125 (第504図)

[位置] グリッドL R - 322・323で検出した。



第504図 SK - 124 ~ 129

[重複] SK - 126と重複している。本遺構がSK - 126の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、130×112×32cmを測る。

[断面形・壁] 北壁側が風倒木により壁面が壊されているが、残存部分の断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はSK - 126との重複部分は脆弱で、他の部分については堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、局所的に傾斜がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。ロームブロック、ローム粒が混入している。自然堆積状況を呈する。

(木村)

#### SK - 126 (第504図)

[位置] グリッドLR - 322・323で検出した。

[重複] SK - 125と重複している。本遺構の堆積土がSK - 125に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 長方形を呈し、(184)×80×24cmを測る。

[断面形・壁] 残存部分の断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。ロームブロックが少量混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

#### SK - 127 (第504図)

[位置] グリッドLX - 324で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整長方形を呈し、188×128×33cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、南北軸の壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がり、東西軸の壁面は垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がややある。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。第2、3層はロームブロックが多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。第1層中にTo - a火山灰を粒状に検出した。

(木村)

#### SK - 128 (第504図)

[位置] グリッドMD・ME - 324・325で検出した。

[重複] 削平を受けているため、明瞭ではないが、SB - 11のP4と重複していた可能性が考えられる。新旧関係については不明である。

[平面形・規模] 一部削平を受けているが、残存部分の形状は長方形を呈し、185×140×13cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。ロームブロック、ローム粒が多量に含まれ、埋め戻し等による人為的堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 129 (第504図)

[位 置] グリッドL Y - 326で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、102×75×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、起伏が激しい。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。ロームブロック、ローム粒が少量含まれ、自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 130 (第505図)

[位 置] グリッドL Y - 326で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、123×76×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。ロームブロックが少量混入する。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 131 (第505図)

[位 置] グリッドL Y - 326・327で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、169×162×35cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに外傾する部分が見られる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、段を有する。底面からピット状の落ち込みを2ヶ所検出した。深さは、それぞれ11cm、21cmを測る。

[堆積土] 3層に分層した。段状の落ち込みそれぞれに第2層が堆積しており、その上位にT o - a火山灰を粒状に含む土層堆積が見られた。自然堆積状況を呈する。

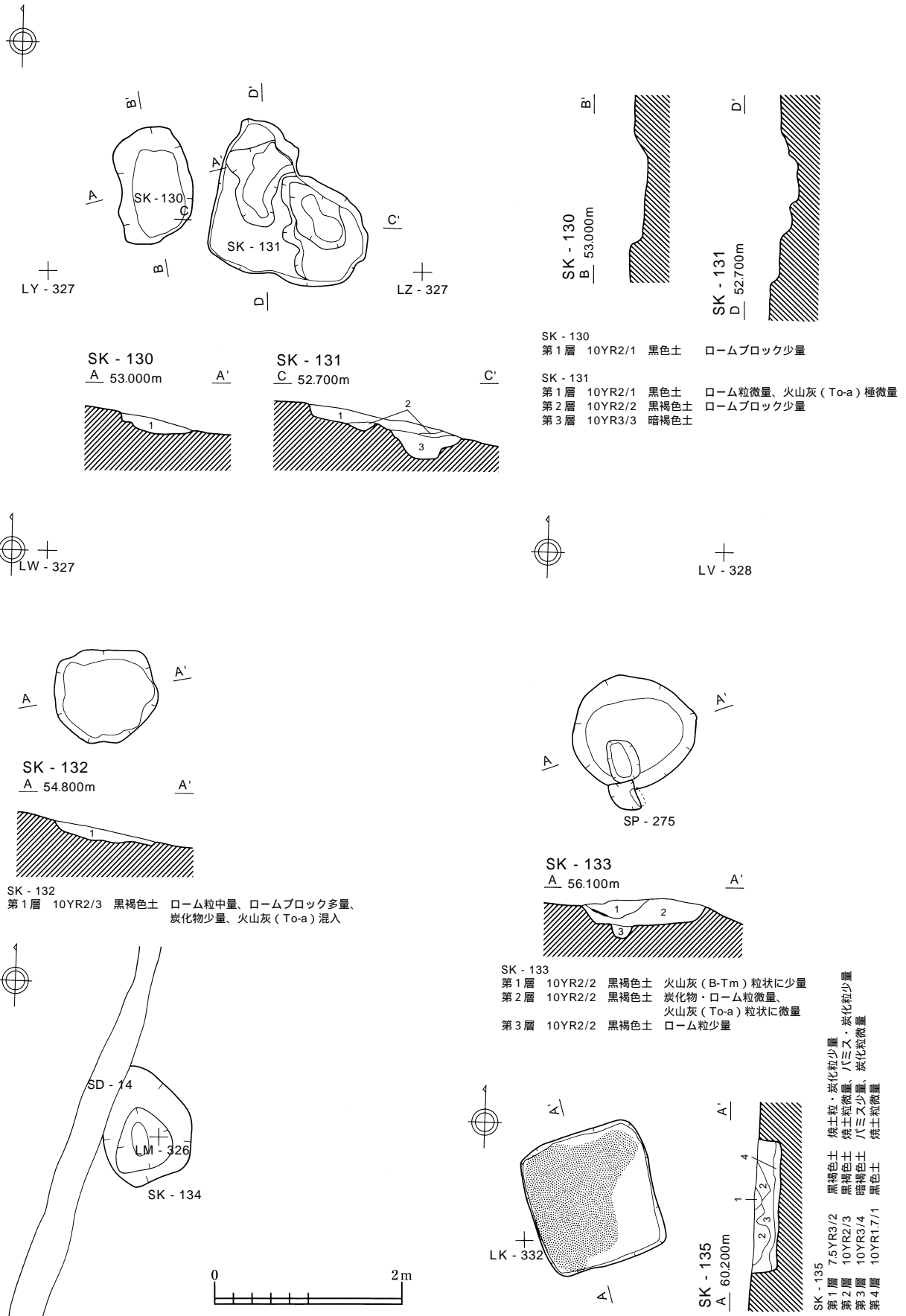
(木 村)

S K - 132 (第504図)

[位 置] グリッドL W - 327で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、110×100×15cmを測る。



第505図 SK - 130 ~ 135

- [断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。
- [底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。
- [堆積土] 1層に分層した。ロームブロックが多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。また、T o - a火山灰が粒状に混入して検出した。

(木 村)

S K - 133 (第505図)

- [位 置] グリッドL U - 328で検出した。
- [重 複] S P - 275と重複している。S P - 275が本遺構を切って構築しており、本遺構の方が古い。
- [平面形・規模] 円形を呈し、130×123×35cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。
- [底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。また、南壁寄りの部分からピット状の落ち込みを検出した。規模は45×32×14cmを測る。
- [堆積土] 3層に分層した。第2層からT o - a火山灰が粒状の形で均等に検出した。また、上位に堆積する第1層からB - T m火山灰が粒状に局所的に固まって検出した。一部埋め戻し等の要素が伴った可能性が考えられる。

(木 村)

S K - 134 (第505図)

- [位 置] グリッドL L・L M - 325・326で検出した。
- [重 複] S D - 14と重複している。本遺構の堆積土がS D - 14に切られており、本遺構の方が古い。
- [平面形・規模] 切りあいのため、一部情報が欠落しているが、長楕円形を呈し、123×100×53cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。壁面は堅緻である。
- [底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。
- [堆積土] 黒褐色土主体の堆積土で、炭化物が少量含まれる。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 135 (第505図)

- [位 置] グリッドL K - 331・332で検出した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 方形を呈し、146×137×27cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。
- [底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。底面から炭化物を多量に検出し、底面直上に堆積する第4層から焼土粒を検出しており、本遺構は製炭土坑であると考えられる。
- [堆積土] 4層に分層した。全般的に焼土粒、炭化粒が含まれ、本遺構での焼成を裏付けるものとなっている。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 136 (第506図)

[位 置] グリッドL Q - 329で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、105×90×25cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、一部内側に入り込む部分も見られるが垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 137 (第506図)

[位 置] グリッドL S・L T - 329・330で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、134×132×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。ロームブロックが多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。また、T o - a火山灰を粒状に検出した。

(木 村)

S K - 138 (第506図)

[位 置] グリッドL T - 331で検出した。

[重 複] S I - 113と重複している。本遺構の堆積土がS I - 113に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいのため詳細は不明であるが、残存部分の形状から長楕円形を呈したものと考えられ、(94)×64×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、起伏がややある。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。ロームブロックが多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

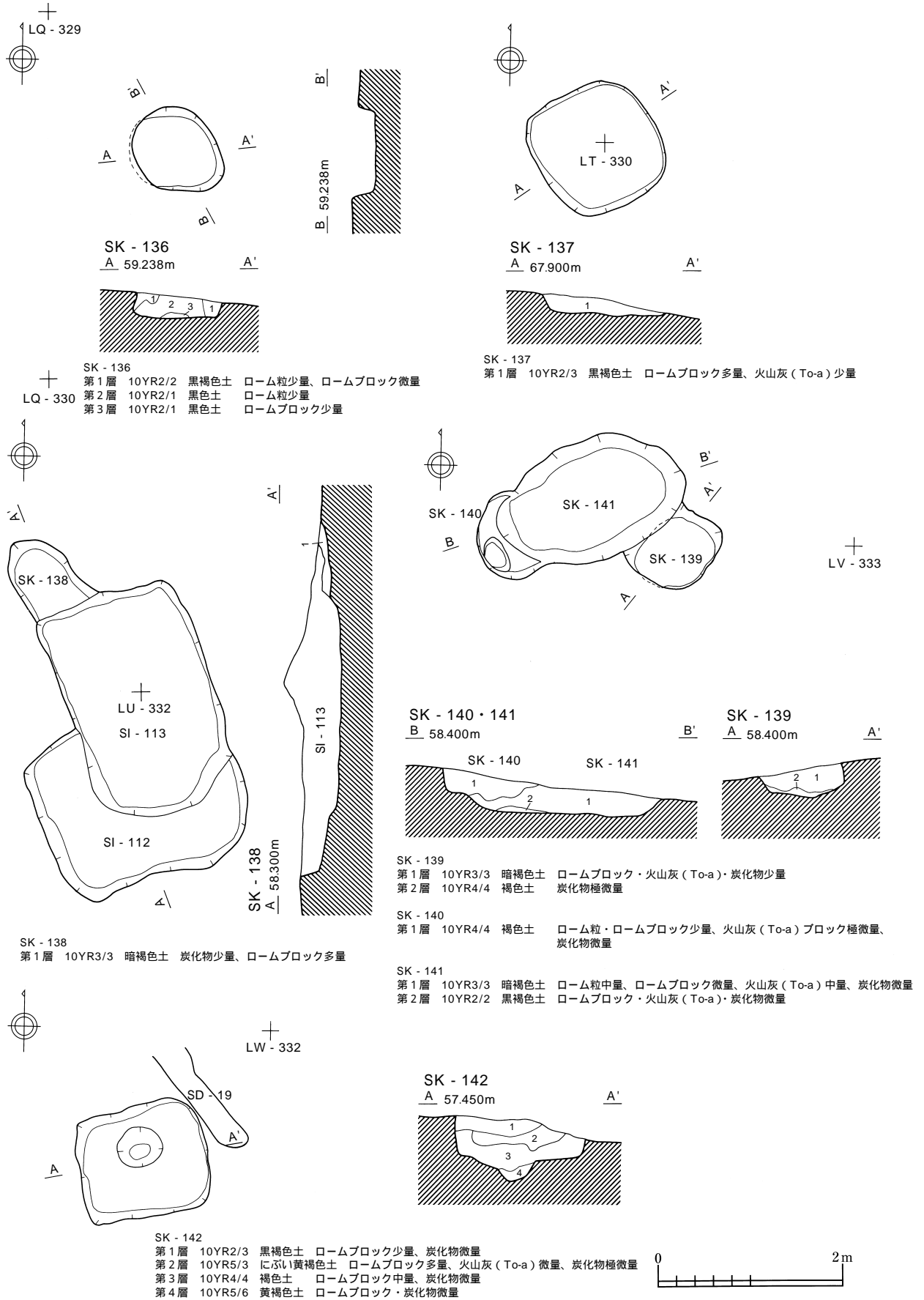
S K - 139 (第506図)

[位 置] グリッドL U - 332・333で検出した。

[重 複] S K - 141と重複している。本遺構がS K - 141を切った形で構築されており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、86×86×40cmを測る。





第506図 SK - 136 ~ 142

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が見られる。壁面はS K - 141との重複部分は脆弱で、それ以外の部分については堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、傾斜が見られる。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。全般的に炭化物が混入する。自然堆積状況を呈する。第1層中からT o - a火山灰を粒状に検出した。

(木 村)

#### S K - 140 (第506図)

[位 置] グリッドL U - 332・333で検出した。

[重 複] S K - 141と重複している。本遺構がS K - 141を切った形で構築されており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 円形を呈し、100×96×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はcで、壁上部の一部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面はS K - 137との重複部分は脆弱で、それ以外の部分については堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山とS K - 141の堆積土の一部を底面としており、起伏が激しい。底面は堅緻な部分と脆弱な部分がある。

[堆積土] 1層に分層した。ロームブロック、ローム粒、炭化物等が混入している。また、T o - a火山灰をブロック状に検出した。

(木 村)

#### S K - 141 (第506図)

[位 置] グリッドL U - 332・333で検出した。

[重 複] S K - 139、140と重複している。本遺構がいずれの遺構にも切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 長楕円形を呈し、(208)×132×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。ロームブロック、炭化物が混入している。また、T o - a火山灰を粒状に中量検出した。

(木 村)

#### S K - 142 (第506図)

[位 置] グリッドL V - 332で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、140×122×70cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、底面中央部へ向かって傾斜がある。底面は堅緻である。また、底面中央部にはピット状の落ち込みがある。規模は48×43×22cmを測る。

[堆積土] 4層に分層した。全般的にロームブロックが混入し、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。第2層中にT o - a火山灰を粒状に検出した。

(木 村)

S K - 143 (第507図)

[位 置] グリッドL V・L W - 333で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、125×100×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。壁際に堆積する第2層中には砂粒が混入する。また、第1層中にはT o - a火山灰を粒状に検出した。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 144 (第507図)

[位 置] グリッドL W・L X - 333で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、122×109×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。全般的にロームブロック、T o - a火山灰が混入している。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 145 (第507図)

[位 置] グリッドL Y - 331・332で検出した。

[重 複] なし。

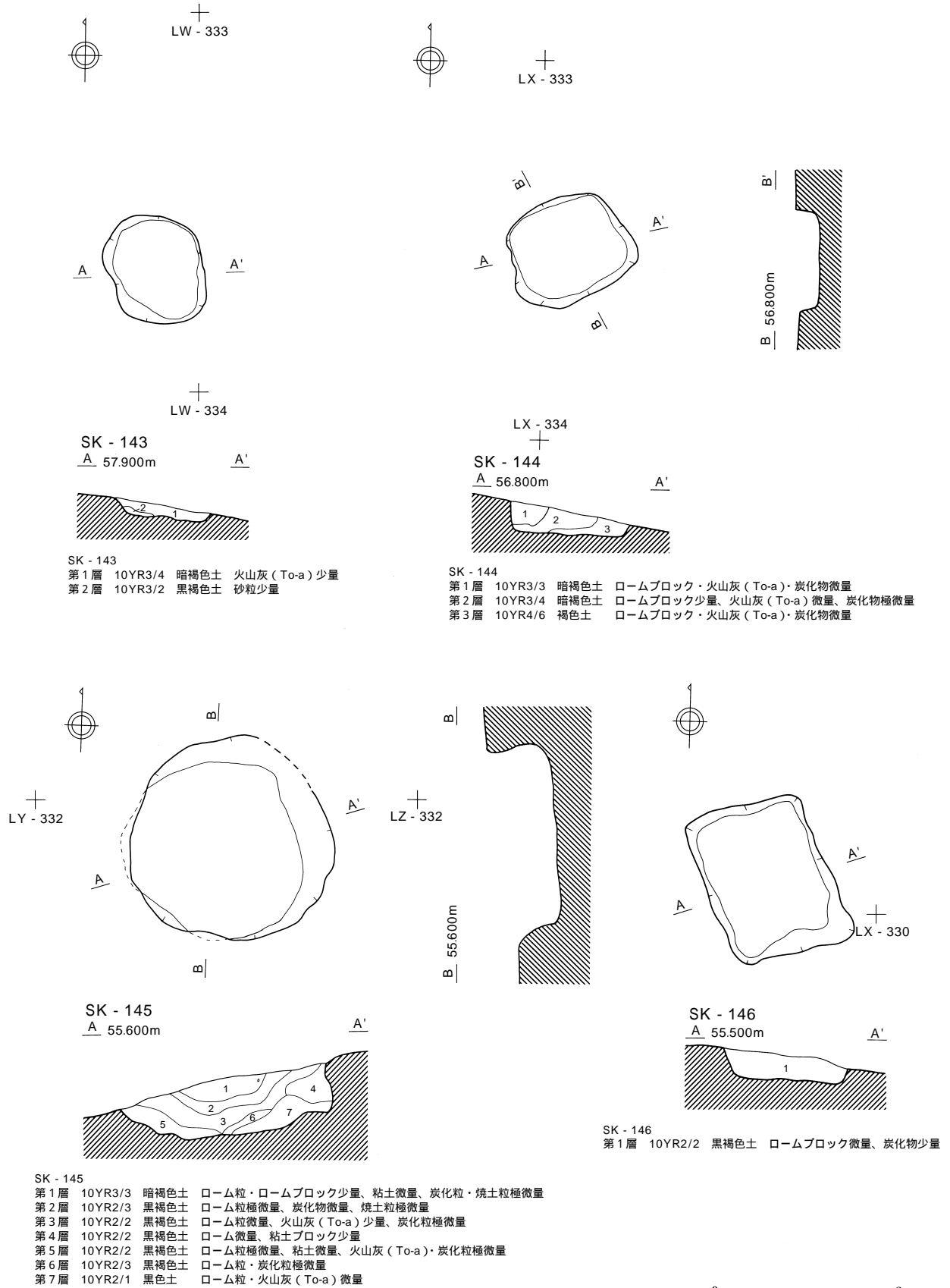
[平面形・規模] 円形を呈し、216×208×78cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はd + fで、袋状の立ち上がりをもつ部分と緩やかに立ち上がる部分が見られる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 7層に分層した。全般的にローム粒が混入し、一部崩落した堆積状況を呈する。自然堆積状況を呈する。また、T o - a火山灰を第3、5、7層から粒状に検出した。

(木 村)



第507図 SK - 143 ~ 146

S K - 146 (第507図)

[位置] グリッドL W - 329・330で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、167×126×33cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。ロームブロックが多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 147 (第508図)

[位置] グリッドM C・M D - 329で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 一部削平を受けているが長方形を呈し、(247)×114×13cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。ロームブロック、焼土粒、パミス等が混入し、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 148 (第508図)

[位置] グリッドM D - 329・330で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 台形を呈し、200×196×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。混入物はS K - 147とほぼ同様で、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 149 (第508図)

[位置] グリッドM D - 330で検出した。

[重複] なし。

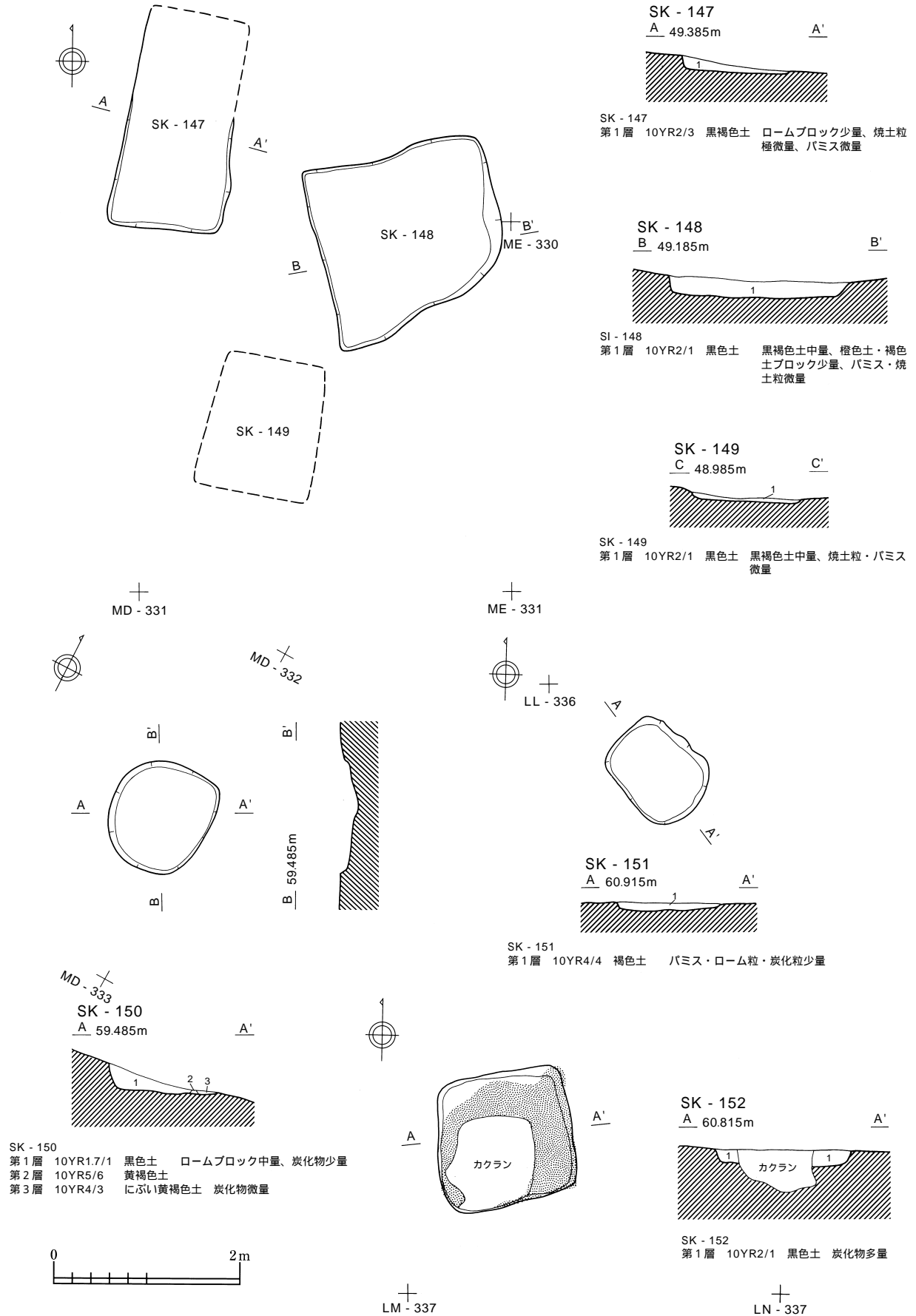
[平面形・規模] 1/20平面原図滅失のため、全体図からの数値であるが、長方形を呈し、148×120×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。黒褐色土ブロックが混入する。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)



第508図 SK - 147 ~ 152

S K - 150 (第508図)

[位置] グリッドMC - 332で検出した。

[重複] S I - 123と重複している。削平のため新旧関係については不明である。

[平面形・規模] 円形を呈し、120×120×28cmを測る。

[断面形・壁] 東壁側が削平を受けているが、残存部分の断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。第2、3層は崩落土による堆積である。第1層についてはロームブロックを多量に含み、S I - 123の構築土と関連性が考えられる。

(木 村)

S K - 151 (第508図)

[位置] グリッドLL - 336で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、112×88×8cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。パミス、ローム粒、炭化粒を少量含む。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 152 (第508図)

[位置] グリッドLM - 336で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、142×142×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 一部攪乱により破壊されているが、ほぼ平坦で堅緻である。底面直上から炭化物を多量に包含する土層を検出し、本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[堆積土] 1層に分層した。炭化物の堆積は底面直上に集中している。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 153 (第509図)

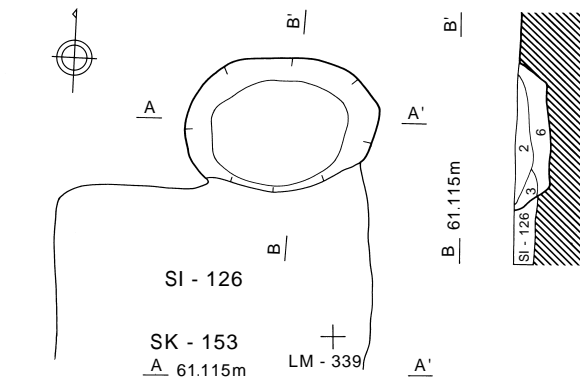
[位置] グリッドLL・LM - 338で検出した。

[重複] S I - 126と重複している。本遺構がS I - 126の堆積土を切って構築されており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、155×116×34cmを測る。

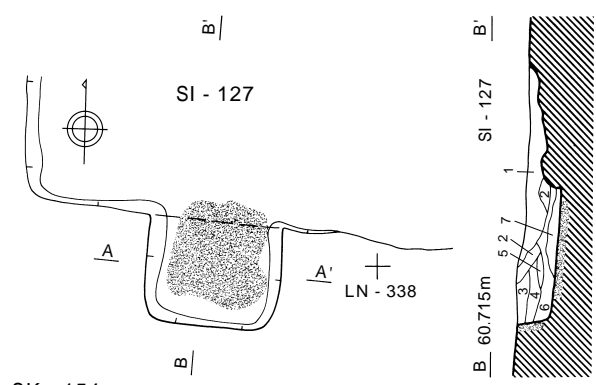
[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はS I - 126との重複部分についてはやや脆弱で、それ以外の部分については堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。



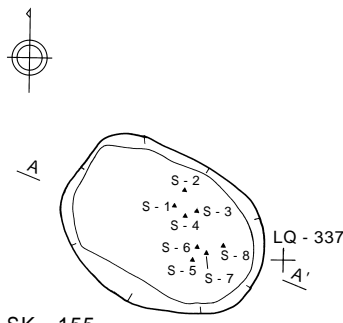
SK - 153

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物・焼土粒極微量
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物微量、焼土粒少量
- 第3層 10YR3/3 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒微量
- 第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒多量、炭化物極微量
- 第5層 10YR4/4 褐色土
- 第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量、炭化物・焼土粒極微量  
ロームブロック微量



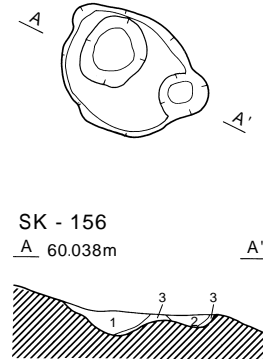
SK - 154  
A 60.715m

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム多量、炭化物・焼土粒微量
- 第2層 10YR5/4 にぶい黄褐色土
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック・焼土粒極微量
- 第4層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック多量、焼土粒少量
- 第5層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒極微量
- 第6層 10YR3/2 黒褐色土 炭化物微量、焼土粒多量
- 第7層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物・焼土粒微量



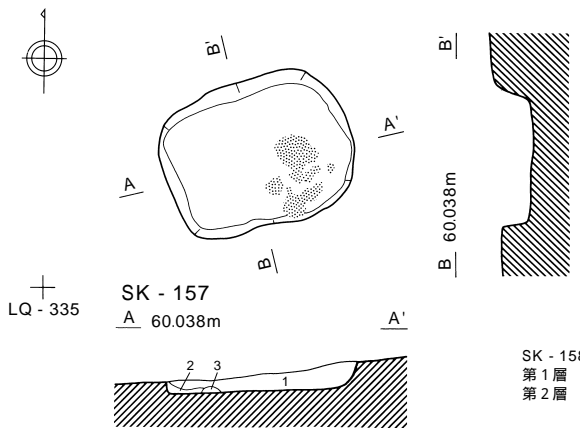
SK - 155  
A 59.715m

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 火山灰 (To-a) 粒極微量、炭化物少量
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒少量



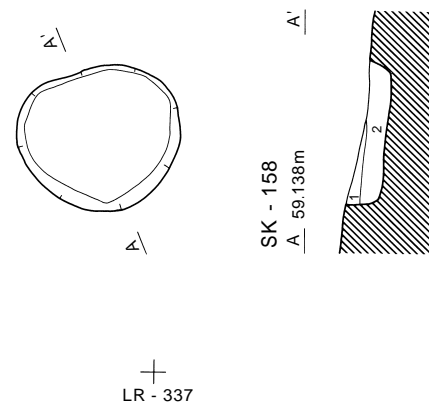
SK - 156  
A 60.038m

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック・炭化物微量
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック・炭化物微量
- 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック・炭化物微量



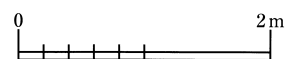
SK - 157  
A 60.038m

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック少量、炭化物中量、焼土ブロック微量
- 第2層 10YR4/6 褐色土 ロームブロック・炭化物極微量
- 第3層 10YR2/1 黒色土 ロームブロック微量、炭化物少量、焼土粒微量



SK - 158  
A 59.138m

- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック・炭化物微量
- 第2層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック・炭化物極微量



第509図 SK - 153 ~ 158



[堆積土] 6層に分層した。全般的に炭化物、焼土粒、ローム粒が含まれる。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 154 (第509図)

[位 置] グリッドLM - 337・338で検出した。

[重 複] S I - 127と重複している。本遺構上層に堆積する土層がS I - 127の堆積土を切っており、本遺構の方が新しいと考えられる。

[平面形・規模] 方形の土坑に前庭部状に付属した形状であると考えられ、土層堆積上で確認できた長軸について底面の赤化面以外の部分までの長さを採用した。規模は203×107×30cmを測る。

[断面形・壁] 前庭部以外の壁面の断面形はaで垂直に近い形で外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。前庭部側の部分は起伏のある形状であり、やや脆弱である。

[底 面] 土坑部分は大谷火山灰層の地山を底面としており、底面全体が赤化した状態で検出した。底面は堅緻である。底面直上の堆積土中に炭化物、焼土粒が混入しており、本遺構は焼成坑であると考えられる。

[堆積土] 7層に分層した。全般的に焼土粒、炭化物が混入しており、使用された廃棄品と供に碎片化した土器片が出土した。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 155 (第509図)

[位 置] グリッドLP - 336・337で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、168×124×54cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が見られる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層中からT o - a火山灰を粒状に検出した。また、自然礫が第1層中からまとまって出土しており、一部廃棄が伴った土層堆積であると考えられる。

(木 村)

S K - 156 (第509図)

[位 置] グリッドLP - 335・336で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、120×94×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が見られる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面は堅緻である。また、底面からピット状の落ち込みを2ヶ所検出した。東側部分の規模は40×35×4cm、西側部分の規模は56×50×

10cmを測る。

[堆積土] 3層に分層した。堆積状況がピット状の落ち込みに対応したものであり、本遺構はピット2基の掘り方の痕跡である可能性が考えられる。一般的にロームブロック、炭化物を含む土層堆積である。

(木 村)

S K - 157 (第509図)

[位 置] グリッドL Q - 334で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、150×120×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。一般的にロームブロック、焼土ブロック、炭化物が含まれる堆積土で、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 158 (第509図)

[位 置] グリッドL Q・L R - 336で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、130×115×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が見られた。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。一般的にロームブロック、炭化物が混入しており、自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 159 (第510図)

[位 置] グリッドL R - 336で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、126×126×25cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、緩やかな段を持ち立ち上がる。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。混入物等は見られない。自然堆積状況を呈する。

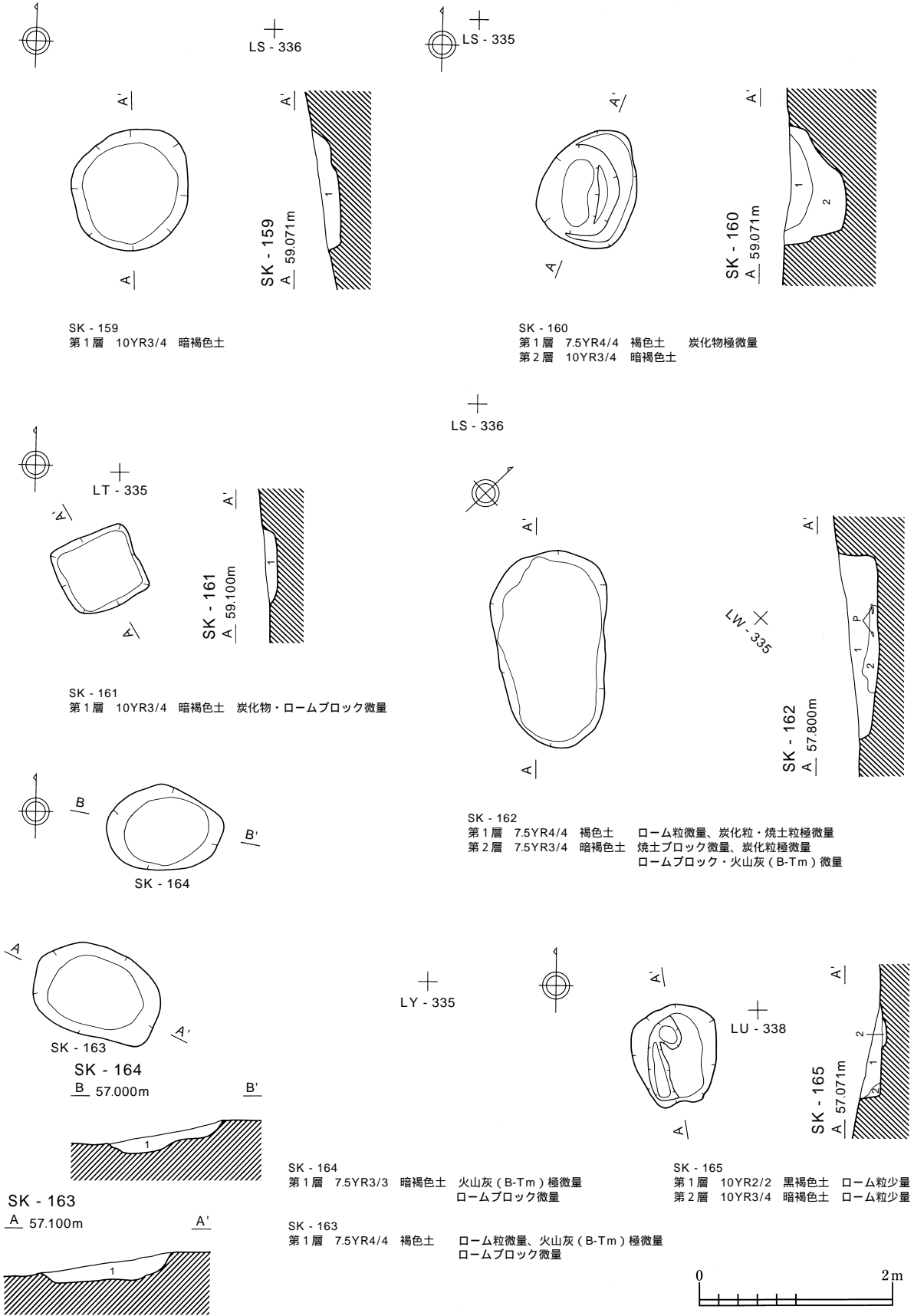
(木 村)

S K - 160 (第510図)

[位 置] グリッドL S - 335で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、124×96×63cmを測る。



第510図 SK - 159 ~ 165

- [断面形・壁] 断面形はeで、東壁側の部分からテラス状の段を2段検出した。壁面は堅緻である。  
 [底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。  
 [堆積土] 2層に分層した。第1層中に炭化物が微量含まれる。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 161 (第510図)

- [位置] グリッドL S・L T - 335で検出した。  
 [重複] なし。  
 [平面形・規模] 方形を呈し、83×82×16cmを測る。  
 [断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。  
 [底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。  
 [堆積土] 1層に分層した。ロームブロック、炭化物が混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 162 (第510図)

- [位置] グリッドL V - 335で検出した。  
 [重複] なし。  
 [平面形・規模] 長楕円形を呈し、203×120×39cmを測る。  
 [断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。  
 [底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。  
 [堆積土] 2層に分層した。底面中央直上に堆積する第2層からB - T m火山灰を粒状に検出した。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

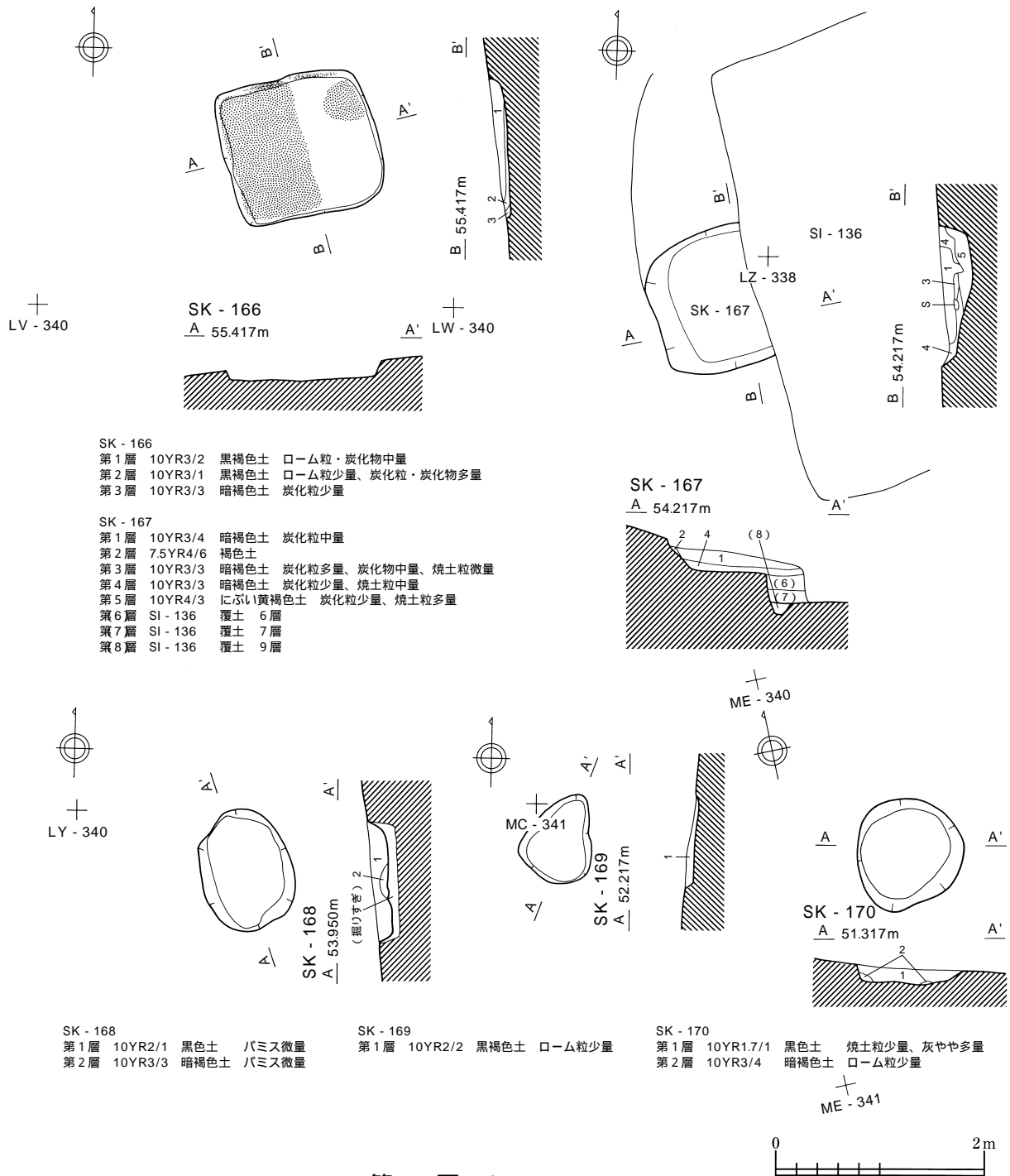
## S K - 163 (第510図)

- [位置] グリッドL X - 334・335で検出した。  
 [重複] なし。  
 [平面形・規模] 楕円形を呈し、135×93×25cmを測る。  
 [断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。  
 [底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。  
 [堆積土] 1層に分層した。B - T m火山灰を粒状に検出した。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 164 (第510図)

- [位置] グリッドL X - 334で検出した。  
 [重複] なし。  
 [平面形・規模] 楕円形を呈し、120×89×35cmを測る。



第511図 SK - 166 ~ 170

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。混入物、堆積状況がSK - 163と同様で、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

## S K - 165 (第510図)

[位置] グリッドL T - 338で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、108×88×26cmを測る。

[断面形・壁] 削平を受けているが、残存部分の断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。また、西壁側から溝状の落ち込み、北壁側からピット状の落ち込みを検出した。深さはそれぞれ3cm、4cmを測る。

[堆積土] 2層に分層した。全般的にローム粒が含まれる。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 166 (第511図)

[位置] グリッドL V - 339で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、150×134×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。また、壁面の一部が赤化しており、底面、堆積土の情報から本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。底面直上から炭化物を面的に検出した。

[堆積土] 3層に分層した。第2層が炭化物の堆積層である。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 167 (第511図)

[位置] グリッドL Y - 337・338で検出した。

[重複] S I - 136と重複している。本遺構がS I - 136の堆積土を切って構築されており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 検出状況が悪く、切りあい部分について明瞭なプランの検出ができず、残存部分からの推定形であるが、長方形を呈したものと推定され、145×136×31cmを測る。

[断面形・壁] 東壁側の情報が欠落しているが、残存部分の断面形は(c)で、壁上部の一部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面はやや脆弱である。

[底面] S I - 136との重複部分についてはS I - 136の堆積土を底面としており、ほぼ平坦で、脆弱である。他の部分については大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏があり、堅緻である。

[堆積土] 5層に分層した。底面直上に堆積する第5層は、焼土粒、炭化粒を含み、本遺構で焼成が行われた可能性が考えられる。上層の堆積土についても炭化物、炭化粒、焼土粒が含まれる。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 168 (第511図)

[位置] グリッドL Y - 340で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、116×90×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。全般的にパミスが含まれる。第2層については廃絶後人為的な堆積に伴った可能性が考えられる。第1層の堆積は自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 169 (第511図)

[位置] グリッドM B・M C - 341で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、88×69×6cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。ローム粒が少量含まれる。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 170 (第511図)

[位置] グリッドM E - 340で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、110×106×13cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに外傾しながら立ち上がる部分が見られる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層から焼土粒・灰を検出した。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 171 (第512図)

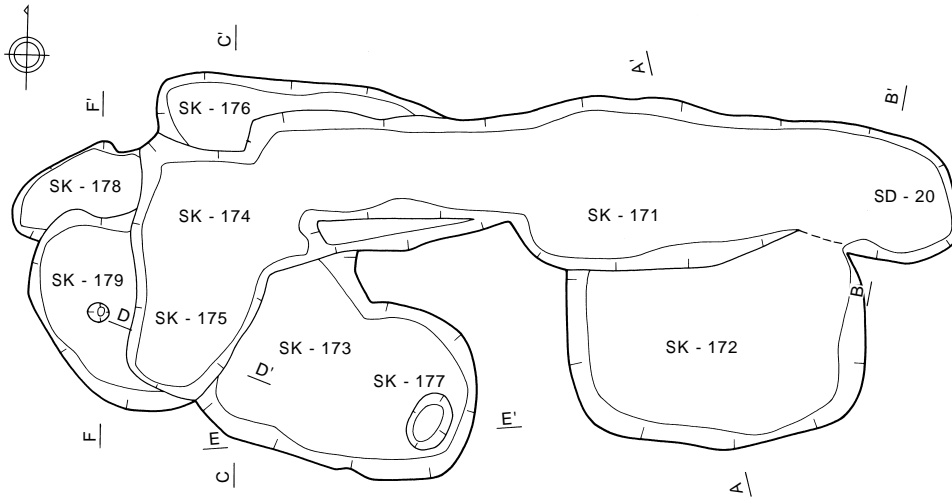
[位置] グリッドM F - 341で検出した。

[重複] S K - 172、S D - 20と重複している。新旧関係については土層堆積状況からS K - 172 < S K - 171 < S D - 20の関係である。

[平面形・規模] 切りあいのため詳細については不明であるが、残存部分の形状から楕円形を呈したものと考えられ、(230)×138×29cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は重複部分の堆積土を壁面としており、脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや傾斜がある。底面は堅緻である。

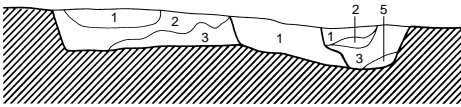


ME - 342

MF - 342

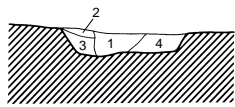
SK - 171・172、SD - 20

A 50.817m SK - 172 SK - 171 SD - 20 A'



SD - 20

B 50.817m B'



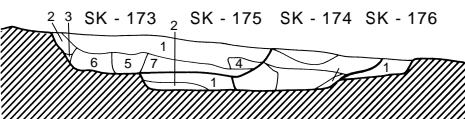
SK - 171  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒多量

SK - 172  
第1層 10YR2/1 黒色土 ロームブロックやや多量  
第2層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒少量  
第3層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック多量

SD - 20  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量  
第2層 10YR2/1 黒色土 ロームブロックやや多量  
第3層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック多量  
第4層 10YR1.7/1 黒色土 黒褐色土ブロック少量  
第5層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒少量

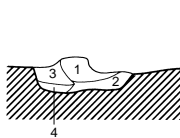
SK - 173・174・175・176

C 51.317m C'



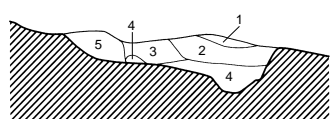
SK - 175

D 51.317m D'



SK - 177

E 51.317m E'



SK - 173  
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒やや多量  
第2層 10YR1.7/1 黒色土 砂粒少量  
第3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒やや多量  
第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック少量  
第5層 10YR2/1 黒色土 ローム粒微量  
第6層 10YR2/1 黒色土 ロームブロック少量  
第7層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒やや多量

SK - 177  
第1層 10YR6/4 にぶい黄橙色土 ロームブロック混入  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量  
第3層 10YR2/1 黒色土 ローム粒微量  
第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒やや多量  
第5層 10YR3/3 暗褐色土

SK - 174  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 砂粒少量  
第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多量  
第4層 10YR2/1 黒色土 ロームブロックやや多量  
第5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量

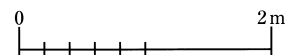
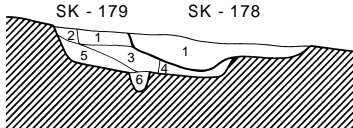
SK - 178  
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒少量

SK - 175  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多量  
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒やや多量  
第3層 10YR1.7/1 黒色土 白色粒少量  
第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量

SK - 179  
第1層 10YR2/2 黒褐色土  
第2層 10YR3/3 暗褐色土  
第3層 10YR1.7/1 黒色土 白色粒少量  
第4層 10YR2/1 黒色土 ローム粒少量  
第5層 10YR2/1 黒色土 ローム粒少量  
第6層 10YR1.7/1 黒色土

SK - 178・179

F 51.317m F'



第512図 SK - 171 ~ 179、SD - 20



[堆積土] 残存部分について1層に分層した。ローム粒が多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 172 (第512図)

[位 置] グリッドMF - 341で検出した。

[重 複] S K - 171、S D - 20と重複している。新旧関係についてはS K - 171の部分でも触れたが本遺構が最も古い。

[平面形・規模] 切りあいのため、北壁側の情報は欠落しているが、残存部分の形状から隅丸方形を呈したものと考えられ、235×(147)×34cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は(a)で、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。全般的にロームブロックが多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 173 (第512図)

[位 置] グリッドME - 341で検出した。

[重 複] S K - 174、175、177と重複している。新旧関係については本遺構がいずれの遺構の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 切りあいのため、平面プランは明瞭ではないが、楕円形を呈し、177×(130)×31cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は重複部分、それ以外の部分についても脆弱である。

[底 面] 一部S K - 175の堆積土を底面としており、やや起伏があり、脆弱である。それ以外の部分については大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏があり堅緻である。

[堆積土] 7層に分層した。全般的にロームブロック、ローム粒を多量に含み、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 174 (第512図)

[位 置] グリッドME - 341で検出した。

[重 複] S K - 173、174、178、179と重複している。新旧関係については、土層堆積からS K - 175 < S K - 174 < S K - 173の関係である。またS K - 178、179との関係は土層堆積上から追うことができず新旧関係については不明である。

[平面形・規模] 切りあいのため、平面プランが不明瞭であるが、不整長方形を呈したものと考えられ、(150)×(120)×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は(c)で、壁上部の一部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面は重複する遺

構の堆積土を壁面としており、脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 5層に分層した。ロームブロックを全般的に含み、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 175 (第512図)

[位置] グリッドME - 341で検出した。

[重複] S K - 173、174、179と重複している。新旧関係については本遺構の堆積土がいずれの遺構にも切られており本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいのため壁上部の情報が欠落しており、残存部分からの形状であるが、長方形を呈し、(105) × (80) × (13) cmを測る。

[断面形・壁] 残存部分の断面形は(a)で、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 切りあいのため、壁上部ならびに北壁側の堆積土は欠落しているが、残存部分について4層に分層した。ロームブロック、白色粒等を含み埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 176 (第512図)

[位置] グリッドME - 340・341で検出した。

[重複] S K - 174、S D - 20と重複している。本遺構の堆積土がいずれの遺構にも切られており本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいのため平面形については不明である。規模は(235) × (61) × 18cmを測る。

[断面形・壁] 残存部分の断面形は(a)で、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、傾斜がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 残存部分について1層に分層した。ローム粒が多量に含まれる。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 177 (第512図)

[位置] グリッドME - 341で検出した。

[重複] S K - 173と重複している。本遺構がS K - 173に切られており本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいのため残存部分からの形状であるが、円形を呈したものと考えられ、140 × (108) × 43cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、傾斜がある。底面は堅緻である。また、底面東側部分からピット状の落ち込みを1ヶ所検出した。規模は48 × 32 × 13cmを測る。

[堆積土] 5層に分層した。ロームブロック等が混入し、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 178 (第512図)

[位 置] グリッドMD・ME - 341で検出した。

[重 複] S K - 174、179と重複している。S K - 174との関係は土層堆積上で追うことができず不明である。S K - 179との関係については土層堆積上の関係から本遺構がS K - 178の堆積土を切った形で構築されており本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 切りあいのため平面プランが明瞭でないが、不整楕円形を呈し、 $146 \times (100) \times 24\text{cm}$ を測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が見られる。

[底 面] S K - 179の堆積土と大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏が激しい。大谷火山灰層部分はやや堅緻で、S K - 179の堆積土部分の床面は脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。ローム粒を少量含み、自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 179 (第512図)

[位 置] グリッドMD・ME - 341で検出した。

[重 複] S K - 174、175、178、S D - 21と重複している。S K - 174、175との新旧関係は、土層堆積上から追えず不明である。S K - 178との新旧関係については、本遺構の堆積土がS K - 178に切られており本遺構の方が古い。またS D - 21との関係は本遺構がS D - 21を切っており本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 切りあいのため平面プランは明瞭でないが、楕円形を呈したものと考えられ、 $180 \times (106) \times 30\text{cm}$ を測る。

[断面形・壁] 残存部分の断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。また、底面中央部に小規模なピット状の落ち込みを検出した。規模は $18 \times 16 \times 15\text{cm}$ を測る。

[堆積土] 残存部分について6層に分層した。ローム粒、白色粒が含まれる。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 180 (第513図)

[位 置] グリッドME - 342・343で検出した。

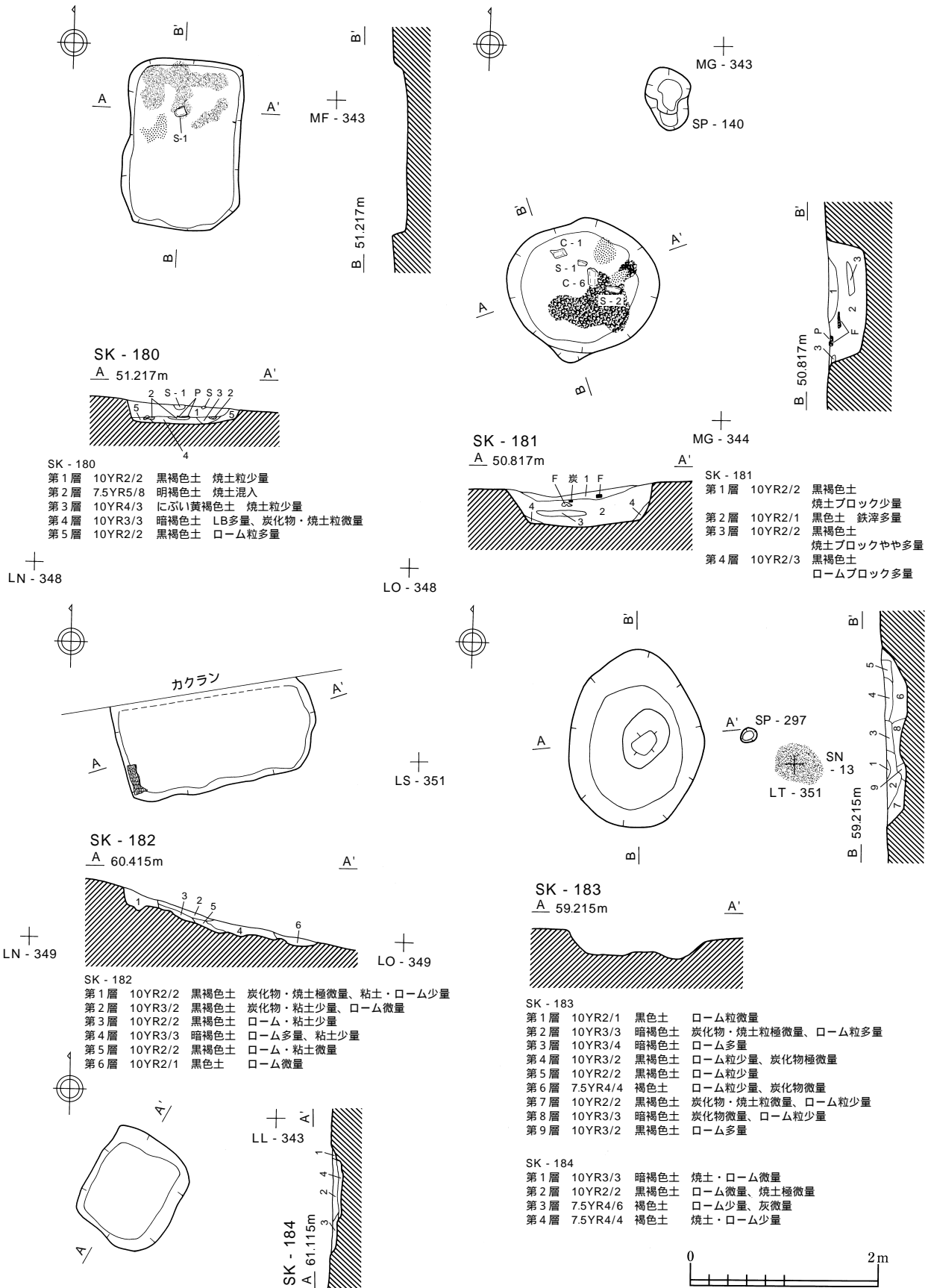
[重 複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、 $182 \times 116 \times 24\text{cm}$ を測る。

[断面形・壁] 断面形はaで垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 5層に分層した。底面直上に堆積する第3、4層中には焼土粒が含まれ、第2層と取り扱った部分に焼土層が存在する。直接本遺構での焼成は裏付けることはできないが、堆積途中での焼成の可



第513図 SK - 180 ~ 184

能性については考えることができる。また、本遺構から出土した土師器甕の破片については、隣接する S I - 138 覆土出土の破片と接合関係にあり、廃棄が一部伴った堆積状況である。

(木 村)

S K - 181 (第513図)

[位 置] グリッド M F - 343 で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、156×140×48cm を測る。

[断面形・壁] 断面形は d で、緩やかに立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 4層に分層した。黒褐色、黒色を主体とする土層が堆積している。黒褐色を呈する2層の上位において、製鉄炉の操業に伴って排出されたと考えられる鉄滓等が多量に出土しており、排滓場と認められることから、本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。本遺構から出土した製鉄関連遺物は、炉壁314g、砂鉄焼結塊20g、炉内滓820g、流動滓(単位流動滓含む)4,654g、流動滓(鳥の足状)920g、流出孔滓936g、流出溝滓1,244g、鉄塊系遺物( )10g、総重量8,918gである。

(設 楽)

S K - 182 (第513図)

[位 置] グリッド L N - 348 で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 攪乱により北壁側が破壊されているが、残存部分の形状から長方形を呈したものと考えられ、213×(102)×18cm を測る。

[断面形・壁] 断面形は a で、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。西壁際から炭化材を検出した。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、傾斜がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 6層に分層した。炭化材の検出部分に焼土粒が混入しており、本遺構で焼成が行われた可能性の要素が見られる。全般的にロームブロック、ローム粒が混入しており、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 183 (第513図)

[位 置] グリッド L S - 350・351 で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、190×146×28cm を測る。

[断面形・壁] 断面形は d で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面は堅緻である。底面中央部に隆起した部分を検出した。高さは4cm を測る。

[堆積土] 9層に分層した。全般的にローム粒が含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

## S K - 184 (第513図)

[位置] グリッドL K - 343で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、118×99×11cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、緩やかに外傾しながら段状に立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。全般的に焼土、灰が混入し、本遺構で焼成が行われた可能性が考えられる。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 185 (第514図)

[位置] グリッドL S - 343で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、131×116×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、傾斜がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 5層に分層した。壁際に堆積する第5層は月見野火山灰層の地山の崩落土で、上位に堆積する土層は全般的にロームブロック、ローム粒が混入し、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 186 (第514図)

[位置] グリッドL J・L K - 343で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、173×165×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層中に炭化物が極微量混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 187 (第514図)

[位置] グリッドL J - 344・345で検出した。

[重複] なし。

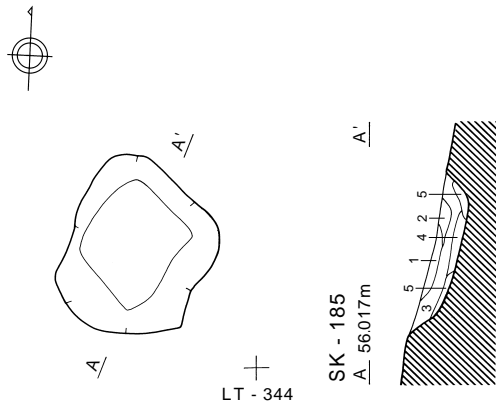
[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、118×103×7cmを測る。

[断面形・壁] 削平のため壁下部のみの残存であるが、断面形はdで緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

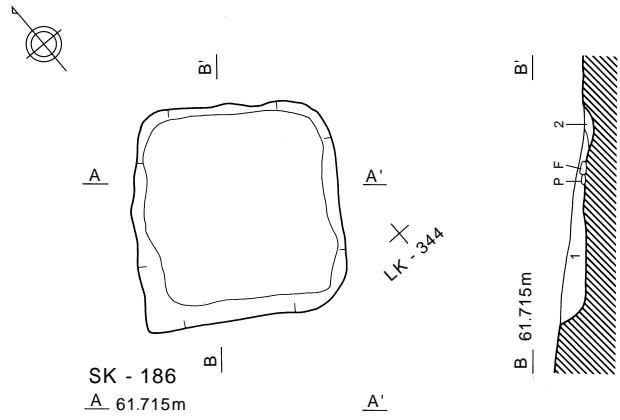
[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、若干傾斜がある。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。焼土粒が微量含まれる。削平のため堆積状況の詳細については不明である。

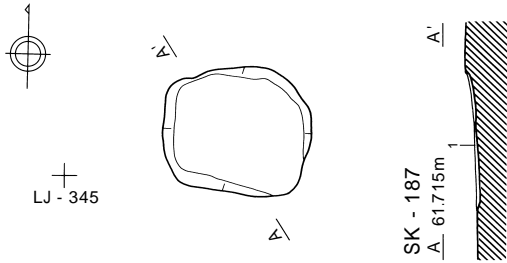
(木村)



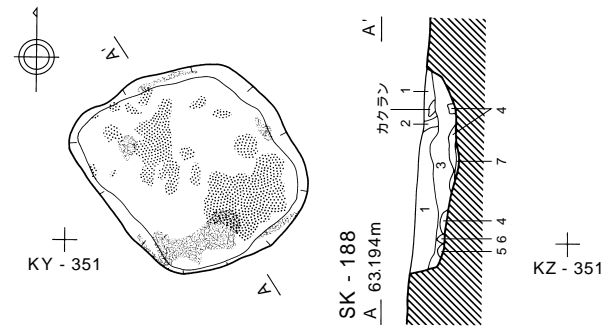
SK - 185  
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム微量、粘土混入  
 第2層 10YR5/6 黄褐色土 ローム層、パミス微量  
 第3層 10YR1.7/1 黒色土 ローム・パミス微量  
 第4層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック少量、パミス微量  
 第5層 10YR5/6 黄褐色土 ローム層、粘土・パミス微量



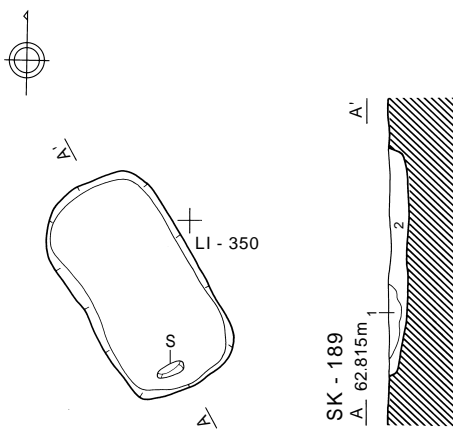
SK - 186  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物極微量、ローム少量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 粘土少量



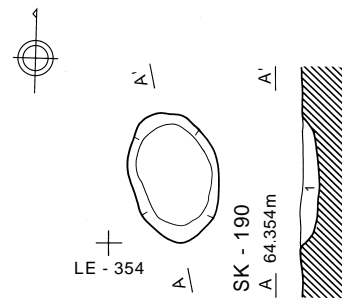
SK - 187  
 第1層 10YR1.7/1 黒色土 焼土微量



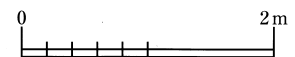
SK - 188  
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物少量、ロームブロック微量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物微量  
 第3層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物中量、ロームブロック・焼土粒極微量  
 第4層 10YR1.7/1 黒色土 炭化物微量  
 第5層 10YR4/6 褐色土 焼土粒微量  
 第6層 10YR2/3 黒褐色土 焼土粒多量、炭化物微量  
 第7層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒極微量



SK - 189  
 第1層 10YR2/1 黒色土 礫微量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒中量



SK - 190  
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物極微量、ローム粒少量



第514図 SK - 185 ~ 190

## S K - 188 (第514図)

[位置] グリッドK Y - 350・351で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、167×152×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、底面中央部へ向かって緩やかに傾斜する。底面は堅緻である。また、底面の一部から赤化面を検出しており、底面直上から炭化物を検出した。底面直上に堆積する堆積土中に焼土粒、炭化物等焼成の痕跡を示す混入物が見られたことから本遺構は焼成坑であると考えられる。

[堆積土] 7層に分層した。上層が攪乱により一部堆積が乱されているが、自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 189 (第514図)

[位置] グリッドL H - 349・350、L I - 350で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、182×97×19cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層中に礫が混入している。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 190 (第514図)

[位置] グリッドL E - 353で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、105×71×13cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。炭化物がごく微量混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 191 (第515図)

[位置] グリッドL E - 353・354で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、184×143×26cmを測る。

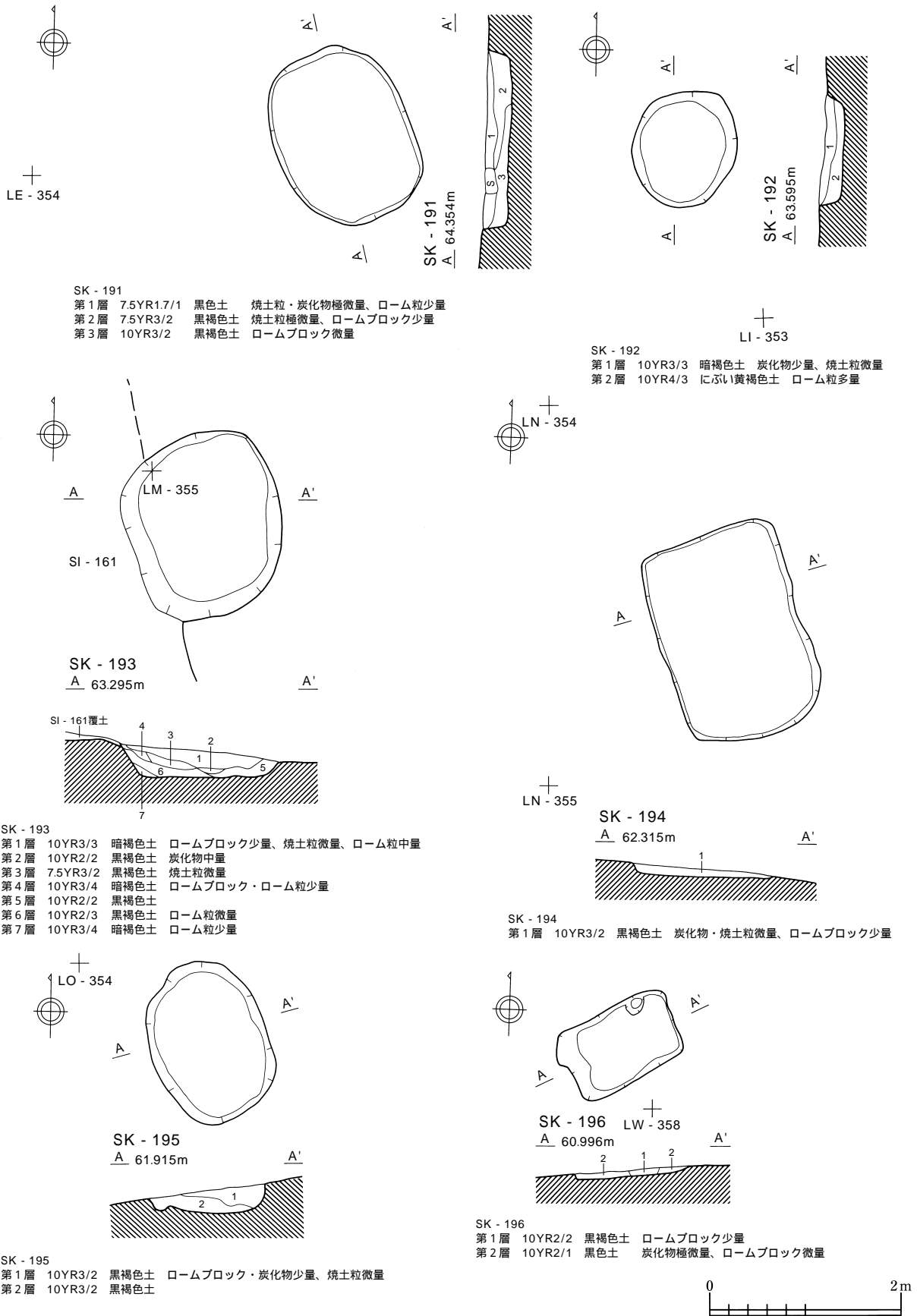
[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。ロームブロック、焼土粒、炭化物が混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)





第515図 SK - 191 ~ 196

## S K - 192 (第515図)

[位置] グリッドL H - 352で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、128×108×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。底面直上に堆積する第2層はローム粒が多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。上位に堆積する第1層は炭化物、焼土粒が含まれ自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 193 (第515図)

[位置] グリッドL L・L M - 354・355で検出した。

[重複] S I - 161と重複している。本遺構がS I - 161の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、196×168×31cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 7層に分層した。底面直上に堆積する第5～7層については自然堆積状況を呈する。第1～4層については、ロームブロック、焼土粒、炭化物等が混入し、人為堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 194 (第515図)

[位置] グリッドL N - 354で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸長方形を呈し、223×150×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。ロームブロック、炭化物、焼土粒が混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 195 (第515図)

[位置] グリッドL O - 354で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、166×124×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層はロームブロック、炭化物、焼土粒が混入し、S K - 190の第1層とほぼ同様の堆積土である。自然堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 196 (第515図)

[位置] グリッドL V・L W - 357で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、120×78×8cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに外傾しながら立ち上がる部分が見られる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや傾斜がある。底面は堅緻である。また、北壁側にピット状の落ち込みを検出した。規模は22×18×3cmを測る。

[堆積土] 2層に分層した。全般的にロームブロックが混入し、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 197 (第516図)

[位置] グリッドL X - 360で検出した。

[重複] S I - 174、S K - 198と重複している。本遺構のいずれの遺構も切っており本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 長方形を呈し、152×112×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はS K - 197との重複部分はS K - 197の堆積土を壁面としており、脆弱である。それ以外の部分については堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、緩やかな傾斜がある。底面は堅緻である。また、底面直上から多量の炭化材、炭化物を検出しており、併せて底面直上に堆積する第7層から焼土粒、炭化粒を検出したことから本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[堆積土] 7層に分層した。全般的に炭化物、炭化粒、焼土粒が混入し、第1層については大谷火山灰層の地山土主体の堆積土であり、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 198 (第516図)

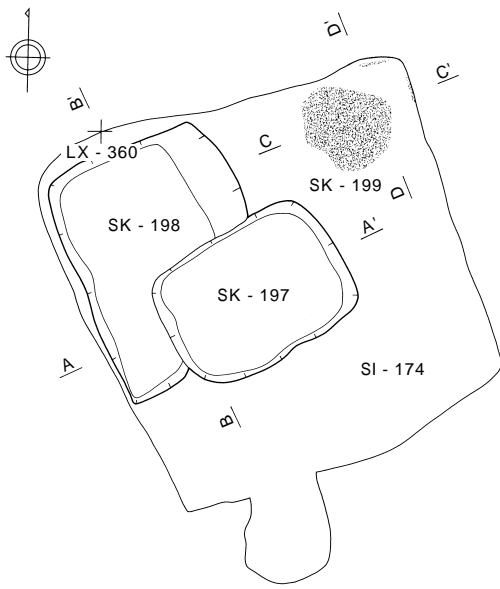
[位置] グリッドL W・L X - 360で検出した。

[重複] S I - 174、S K - 197と重複している。本遺構がS I - 174の廃絶後に構築されており、またS K - 197に本遺構の堆積土が切られていることから新旧関係についてはS I - 174 < S K - 198 < S K - 197の関係である。

[平面形・規模] S K - 197との切りあいのため、南東壁側の情報は欠落しているが、長方形を呈し、(195) × (150) × 28cmを測る。

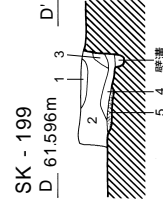
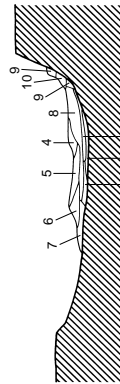
[断面形・壁] 断面形は(a) + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに外傾しながら立ち上がる部分が見られる。壁面は堅緻である。また、北壁～西壁側の壁面が赤化して検出した。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、緩やかな傾斜がある。底面は堅緻である。底面全体が赤化しており、中央部付近が硬化の度合いが強い。また、西壁寄りの部分については一部還元化しており、青灰色に変色した部分が見られた。炭化物と共に土師器碗の破片が多量に出土しており、本遺構

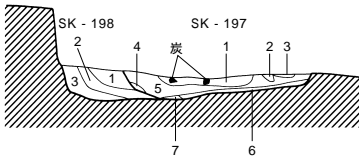


LY - 360

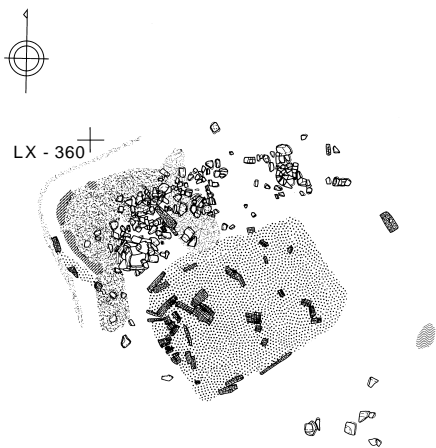
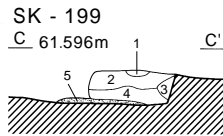
SK - 198  
B 62.096m



LX - 361  
SK - 198・197  
A 62.096m



LY - 361



LX - 361

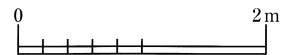
SK - 198  
LY - 360

- SK - 197
- |     |         |         |                         |
|-----|---------|---------|-------------------------|
| 第1層 | 10YR4/4 | 褐色土     | 炭化粒中量、焼土粒・パミス粒少量、ローム粒中量 |
| 第2層 | 10YR3/3 | 暗褐色土    | 炭化物多量                   |
| 第3層 | 10YR2/3 | 黒褐色土    | 焼土粒・炭化粒・ローム粒少量          |
| 第4層 | 10YR3/4 | 暗褐色土    | 焼土粒微量、ローム粒・炭化粒少量        |
| 第5層 | 10YR2/1 | 黒色土     | 炭化物多量、ローム粒中量、焼土粒混入      |
| 第6層 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 炭化粒・焼土粒微量               |
| 第7層 | 10YR4/6 | 褐色土     | ローム粒多量、焼土粒少量、炭化粒中量      |

- SK - 198
- |      |          |         |                  |
|------|----------|---------|------------------|
| 第1層  | 10YR4/4  | 褐色土     | 焼土粒・炭化粒少量、ローム粒中量 |
| 第2層  | 10YR4/3  | にぶい黄褐色土 | 焼土粒少量、炭化粒微量      |
| 第3層  | 10YR4/4  | 褐色土     | 炭化粒少量            |
| 第4層  | 10YR4/6  | 褐色土     | 焼土粒・焼土ブロック微量     |
| 第5層  | 10YR3/2  | 黒褐色土    | 焼土粒中量、炭化粒少量      |
| 第6層  | 10YR4/4  | 褐色土     | 焼土粒・炭化粒少量        |
| 第7層  | 10YR2/2  | 黒褐色土    | 焼土粒少量、炭化粒中量      |
| 第8層  | 10YR4/3  | にぶい黄褐色土 | 焼土粒中量、炭化粒・ローム粒少量 |
| 第9層  | 5YR3/6   | 暗褐色土    | 炭化粒微量(壁の焼土)      |
| 第10層 | 10YR4/4  | 褐色土     | 炭化粒少量            |
| 第11層 | 5YR5/8   | 明赤褐色土   | 炭化粒少量(底面)        |
| 第12層 | 7.5YR4/4 | 褐色土     | 焼土粒中量、炭化粒少量      |
| 第13層 | 10YR4/6  | 褐色土     | 焼土粒少量            |

- SK - 199
- |     |          |         |              |
|-----|----------|---------|--------------|
| 第1層 | 5YR4/4   | にぶい赤褐色土 | パミス粒少量、炭化粒微量 |
| 第2層 | 10YR4/4  | 褐色土     | 炭化粒少量、焼土粒微量  |
| 第3層 | 7.5YR4/4 | 褐色土     | 焼土粒多量、炭化物少量  |
| 第4層 | 10YR3/4  | 暗褐色土    | 炭化粒・焼土粒少量    |
| 第5層 | 5YR3/6   | 暗赤褐色土   | 炭化粒少量        |

LY - 361



第516図 SK - 197 ~ 199

出土の土器についてはS I - 174床面出土の土器と接合関係にある。出土遺物については土師器碗の食膳具のみに限られ、当委員会で既報告の第1号竪穴遺構（青森市教育委員会 1998 第38集）と同様本遺構は土師器碗の焼成坑の可能性がある。

[堆積土] 切りあいのため、残存部分について13層に分層した。第11、12層が底面にあたり、第11層については赤化の度合いが激しい。全般的に焼土粒、炭化粒が含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。壁面の立ち上がり部分がS I - 174の壁の立ち上がり部分に対して若干ズレた位置から検出していることから本遺構はS I - 174に直接帰属しないものと考えられる。

（木 村）

S K - 199（第516図）

[位置] グリッドL X - 359・360で検出した。

[重複] S I - 174と重複している。本遺構の残存状況は悪いため明確な切りあい関係については不明な部分もあるが、本遺構の周辺部のみ住居の壁面が赤化していることから住居廃絶後、住居北東壁側を利用した土坑であると考えられる。その為本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 開口部の形状は不明であるが、住居壁面の赤化部分ならびに底面の赤化部分と焼土粒の分布範囲から長方形を呈したものと考えられる。規模の詳細については不明である。

[断面形・壁] 断面形についても住居壁面の利用が考えられるため、S I - 174の壁面の形状である(a)が断面形となる。壁面は堅緻であり、部分的に赤化している。

[底面] S I - 174の床面を底面としており、赤化の度合いが激しい。底面は堅緻である。本遺構についてもS K - 198と同様焼成坑であると考えられる。

[堆積土] 5層に分層した。全般的に炭化粒、焼土粒が混入する。第3層が壁面の焼土の崩落層にあたる。

（木 村）

S K - 200（第517図）

[位置] グリッドM C - 353で検出した。

[重複] S D - 27と重複している。新旧関係の詳細については不明である。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、138×132×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、丸みを帯びた形状を持つ。底面は堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。掘り方を持つ柱穴の堆積状況に類似している。人為堆積状況を呈する。

（木 村）

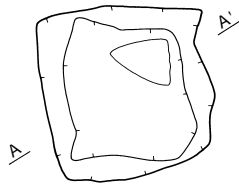
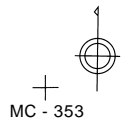
S K - 201（第517図）

[位置] グリッドL A・L B - 364で検出した。

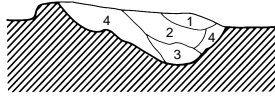
[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、190×172×15cmを測る。

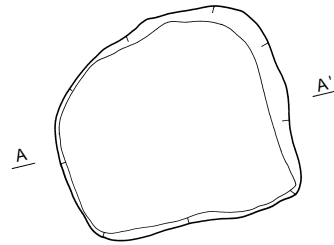
[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。



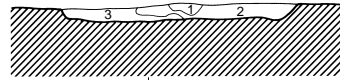
SK - 200  
A 55.040m A'



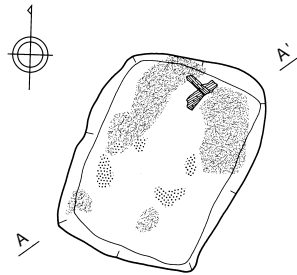
SK - 200  
第1層 7.5YR4/6 褐色土 黒色土微量  
第2層 10YR5/6 黄褐色土 黒色土少量  
第3層 10YR2/1 黒色土 黄褐色土微量  
第4層 7.5YR5/6 明褐色土 黒色土微量



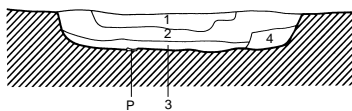
SK - 201  
A 66.873m A'



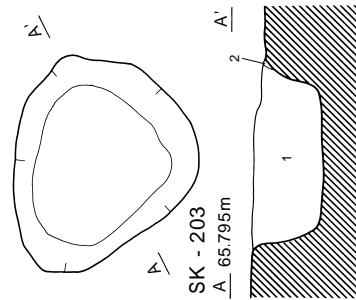
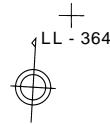
SK - 201  
第1層 7.5YR3/4 暗褐色土 炭化物・焼土粒極微量  
第2層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物・ロームブロック極微量  
第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 炭化物極微量



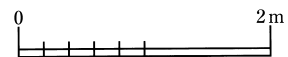
SK - 202  
A 70.173m A'



SK - 202  
第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物中量、焼土粒極微量、火山灰(B-Tm)多量  
第2層 10YR3/1 黒褐色土 炭化物中量  
第3層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物多量、ロームブロック微量  
第4層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物少量



SK - 203  
A 65.795m  
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム少量、炭化物微量  
第2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム微量



第517図 SK - 200 ~ 203

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。第1層中に炭化物、焼土粒が含まれる。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 202 (第517図)

[位 置] グリッドL B・L C - 365で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、174×130×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。また、底面の一部から赤化面を検出しており、底面直上から炭化材、炭化物を検出しており、本遺構は焼成坑であると考えられる。ただし、被熱の度合いが他のものに比べて弱い。

[堆積土] 4層に分層した。底面直上に堆積する第3層から炭化物が多量に検出した。上位に堆積する第1、2層についても焼土粒、炭化物が混入する。第1層からB - T m火山灰を粒状に多量検出した。

(木 村)

S K - 203 (第517図)

[位 置] グリッドL L - 364で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、174×147×55cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はcで、壁上部の一部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。第2層は崩落土である。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 204 (第518図)

[位 置] グリッドL P・L Q - 362で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整方形を呈し、150×116×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がややある。底面は堅緻である。

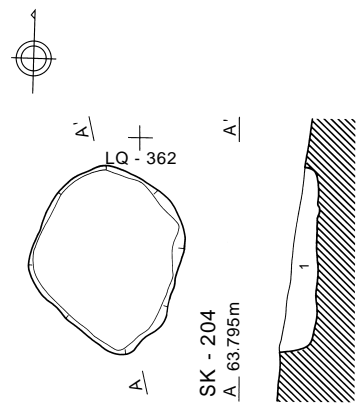
[堆積土] 1層に分層した。ロームブロックが多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

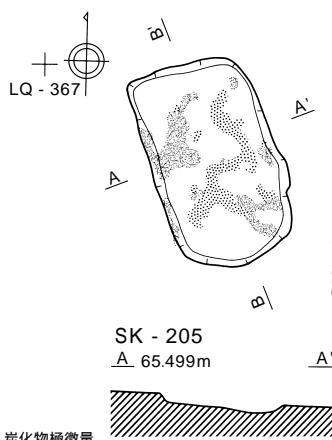
S K - 205 (第518図)

[位 置] グリッドL Q - 367で検出した。

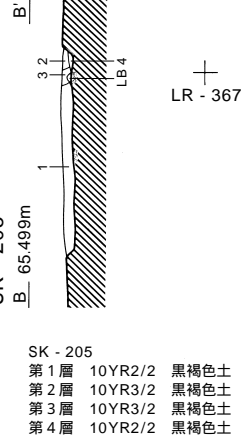
[重 複] なし。



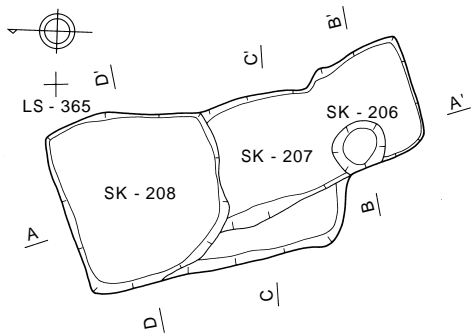
SK - 204  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック多量、炭化物極微量



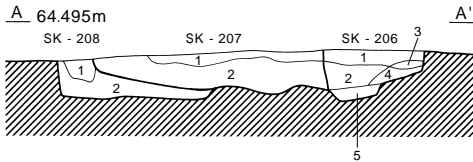
SK - 205  
A 65.499m



SK - 205  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物多量、ローム粒少量  
第2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒多量  
第3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒少量  
第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒微量



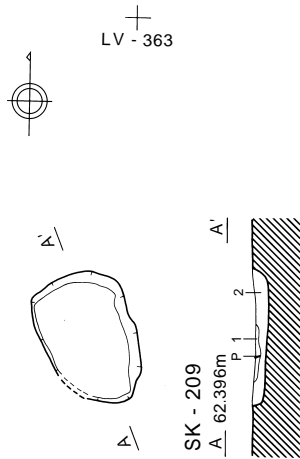
SK - 206・207・208



SK - 206  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒少量、ローム粒中量、炭化物少量  
第2層 10YR4/6 褐色土 ローム粒中量、炭化粒少量  
第3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒・炭化粒少量  
第4層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒中量、炭化粒少量  
第5層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒多量、炭化粒少量

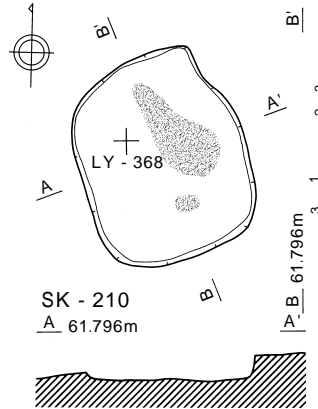
SK - 207  
第1層 10YR4/4 褐色土 炭化粒中量、パミス・焼土粒少量  
第2層 10YR4/6 褐色土 炭化粒・ローム粒中量、パミス少量

SK - 208  
第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒中量、炭化粒少量  
第2層 10YR4/4 褐色土 ローム粒・炭化粒中量

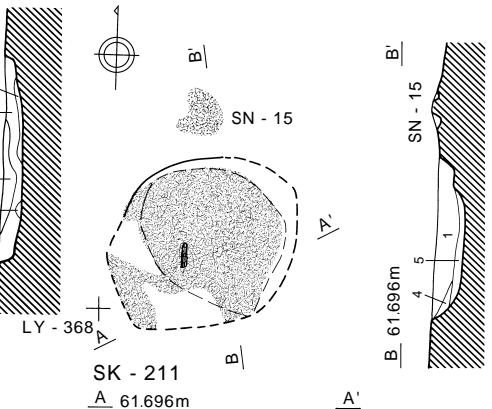


SK - 209  
第1層 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック極微量、炭化物微量  
第2層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック微量、パミス極微量、炭化物・焼土粒微量

SK - 210  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、炭化物少量  
第2層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒・炭化粒少量  
第3層 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒多量、灰(アク)少量



SK - 210  
A 61.796m



SK - 211  
第1層 10YR3/1 黒褐色土 パミス少量、炭化物中量、ローム粒少量  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒微量  
第3層 10YR2/1 黒色土 炭化粒少量、焼土粒微量  
第4層 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒・炭化粒少量  
第5層 10YR2/2 黒褐色土 パミス少量、炭化粒中量、ローム粒少量

第518図 SK - 204 ~ 211



[平面形・規模] 長方形を呈し、167×104×9cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。また西壁部分が赤化しており、底面の状況と併せて本遺構は焼成坑であると考えられる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。また、底面から赤化面を検出しており、併せて底面直上から炭化物を検出した。

[堆積土] 4層に分層した。第2～4層は崩落土で、第1層中には炭化物が多量に含まれる。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 206 (第518図)

[位 置] グリッドLR・LS - 365で検出した。

[重 複] S K - 207と重複している。本遺構がS K - 207の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 方形を呈し、90×80×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はS K - 207との重複部分については、S K - 207の堆積土を壁面としており脆弱で、それ以外の部分については堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや傾斜がある。底面は堅緻である。また、西壁寄りの部分にピット状の落ち込みを検出した。規模は44×37×12cmを測る。

[堆積土] 5層に分層した。全般的にローム粒、炭化粒が混入する。第5層の堆積については人為的埋め戻し等の要素が加わった可能性が考えられ、ある程度の時間幅を得た後、第1～4層が自然堆積している。

(木 村)

S K - 207 (第518図)

[位 置] グリッドLR - 365で検出した。

[重 複] S K - 206、208と重複している。本遺構の堆積土がS K - 206に切られており、また、本遺構がS K - 208の堆積土を切っている。よって新旧関係についてはS K - 208 < S K - 207 < S K - 206である。

[平面形・規模] 切りあいのため、南壁側の情報が欠落しているが、残存部分の形状は長方形を呈し、(183)×130×33cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + eで、北・東壁部分は垂直に近い形で立ち上がり、西壁については段状に立ち上がる。壁面は、北壁側はS K - 208の堆積土を壁面としており脆弱で、東西壁については堅緻である。

[底 面] 一部S K - 208の堆積土を底面としており、傾斜があり、やや脆弱である。それ以外の部分については、大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏があり、堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。大谷火山灰層の地山土主体の堆積土で埋め戻し等による人為的堆積状況を呈する。

(木 村)

## S K - 208 (第518図)

[位置] グリッドLR - 365で検出した。

[重複] S K - 207と重複している。本遺構の堆積土がS K - 207に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいのため、南壁側の情報が欠落しているが、隅丸方形を呈したものと考えられ、 $140 \times (128) \times 28\text{cm}$ を測る。

[断面形・壁] 断面形は(a)で、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 残存部分について2層に分層した。全般的にローム粒、炭化粒が含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 209 (第518図)

[位置] グリッドLU - 363で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、 $110 \times 75 \times 12\text{cm}$ を測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。全般的にロームブロック、炭化物が混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 210 (第518図)

[位置] グリッドLX・LY - 367・368で検出した。

[重複] S K - 211と重複している。本遺構がS K - 211を切った形で構築されており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、 $166 \times 134 \times 15\text{cm}$ を測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。また、底面から弱い赤化面を検出した。堆積土の状況を併せて本遺構で焼成坑である。

[堆積土] 3層に分層した。底面直上に堆積する第3層中には焼土粒、灰等焼成時の痕跡が残存している。上位の堆積は自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 211 (第518図)

[位置] グリッドLY - 367・368で検出した。

[重複] S K - 210と重複している。本遺構がS K - 210に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 黒褐色土層での検出であったため、平面プランが明瞭でなく、土層断面上でのプラン確認となった。不整円形を呈し、 $(164) \times (135) \times 26\text{cm}$ を測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底 面] 黒褐色土層を底面とし、ほぼ平坦である。底面は脆弱である。また、底面から焼土を検出した。S K - 210と同様本遺構は焼成坑である。

[堆積土] 5層に分層した。黒褐色土主体の堆積土で、焼土粒、炭化物等が混入しており、本遺構での焼成時の痕跡が残存している。壁際で一部崩落が生じているが概ね自然堆積状況である。

(木 村)

S K - 212 (第519図)

[位 置] グリッドL Y - 367・368で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 長楕円形を呈し、188×114×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底 面] 黒褐色土層を底面とし、やや起伏がある。底面は脆弱である。また、底面直上に焼土粒ならびに炭化粒が堆積しており、本遺構で焼成が行われた可能性が考えられる。

[堆積土] 3層に分層した。底面直上に堆積する第2、3層は焼土粒、炭化粒が混入しており、本遺構での焼成時の痕跡が残存している。第1層は自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 213 (第519図)

[位 置] グリッドL Z - 368で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、148×122×35cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに外傾しながら立ち上がる部分が見られる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、起伏が激しい。底面はやや脆弱である。また、底面の一部で赤化面を検出し、底面直上から炭化物を検出した。本遺構で焼成が行われた可能性が考えられる。

[堆積土] 4層に分層した。壁際に堆積する第4層はロームブロックが多量に混入し、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。全般的に焼土粒、炭化物等が混入する。

(木 村)

S K - 214 (第519図)

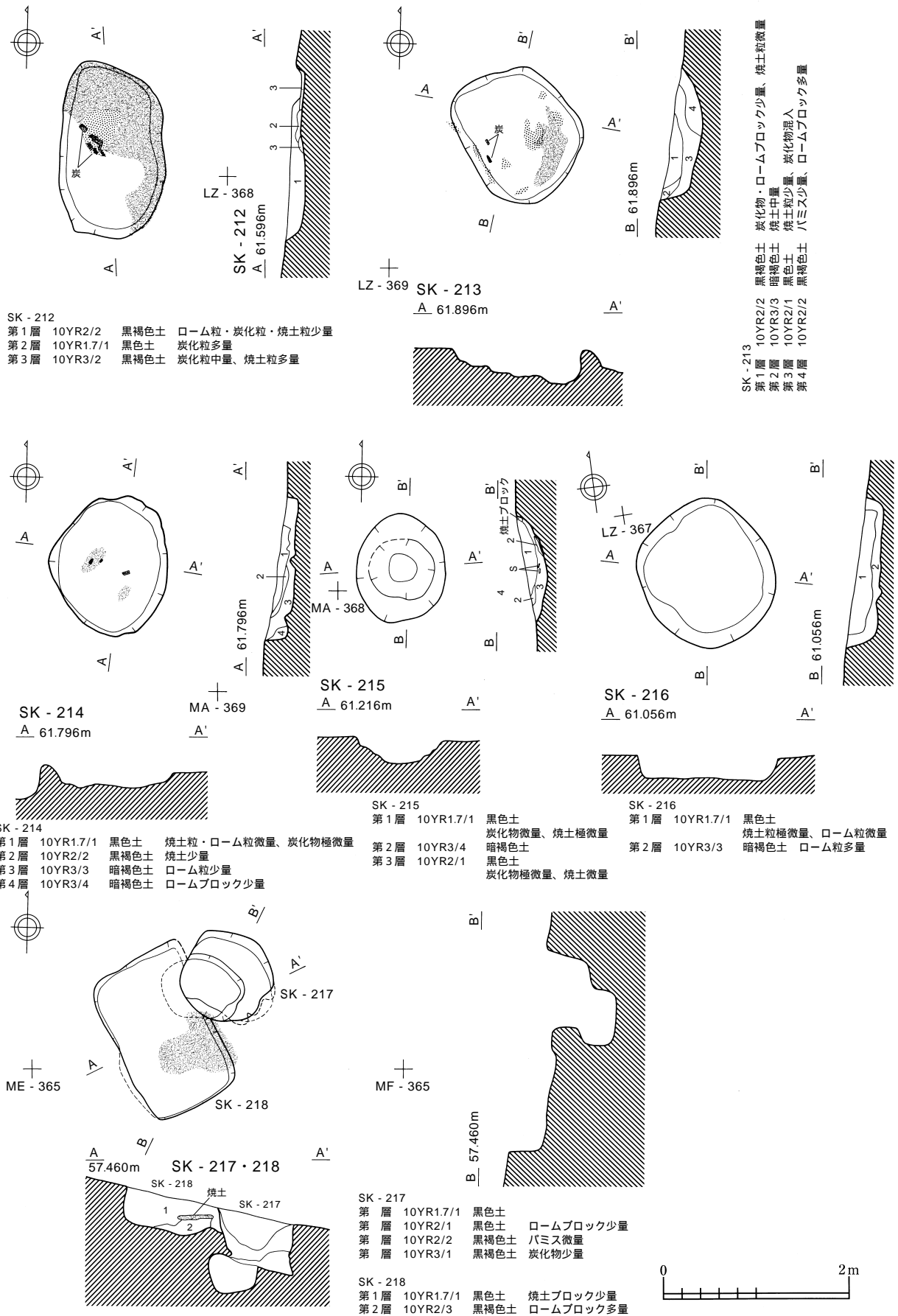
[位 置] グリッドL Z - 368で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、152×128×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、南北軸は垂直に近い形で立ち上がり、東西軸は緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面はやや脆弱である。



第519図 SK - 212 ~ 218

[堆積土] 4層に分層した。第1層から焼土粒と炭化物を検出した。底面直上に堆積する第3層については焼土粒、炭化物等が混入せず、直接本遺構での焼成を裏付ける痕跡は検出しなかった。概ね自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 215 (第519図)

[位 置] グリッドM A - 367・368で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、120×96×29cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面とし、やや窪んだ形状を呈する。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。第2層は大谷火山灰層の地山土主体の堆積土で、弧状に堆積している。第2～3層の面で使用された可能性が考えられる。第1層中には焼土粒、炭化物が混入する。

(木 村)

S K - 216 (第519図)

[位 置] グリッドL Z - 367で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、162×142×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、部分的に起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。底面直上に堆積する第2層は、ローム粒が多量に含まれ、貼り付け等人為的要素を持つ。第1層中は焼土粒、ローム粒が混入し自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 217 (第519図)

[位 置] グリッドM E - 364で検出した。

[重 複] S K - 218と重複している。本遺構がS K - 218の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、98×90×93cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はfで、段を持ち、袋状に入り込んだ形状を呈する。壁面は下部については堅緻で、壁上部についてはS K - 218の堆積土ならびに黒褐色土を壁面としており、脆弱である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。黒褐色土主体の堆積土で自然堆積状況を呈する。

(木 村)

## S K - 218 (第519図)

[位置] グリッドME - 364・365で検出した。

[重複] S K - 217と重複している。本遺構の堆積土がS K - 217に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 長方形を呈し、172×104×46cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。第2層はロームブロックが多量に含まれ、第1層との層界面には焼土が堆積する。人為的要素を含む堆積状況である。

(木村)

## S K - 219 (第520図)

[位置] グリッドME - 366で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、109×98×94cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はfで、袋状の形状を呈する。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。黒褐色土主体の堆積で、自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 220 (第520図)

[位置] グリッドMC・MD - 367で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、90×89×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。暗褐色土系の土が粒状に混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

## S K - 221 (第520図)

[位置] グリッドLX・LY - 371で検出した。

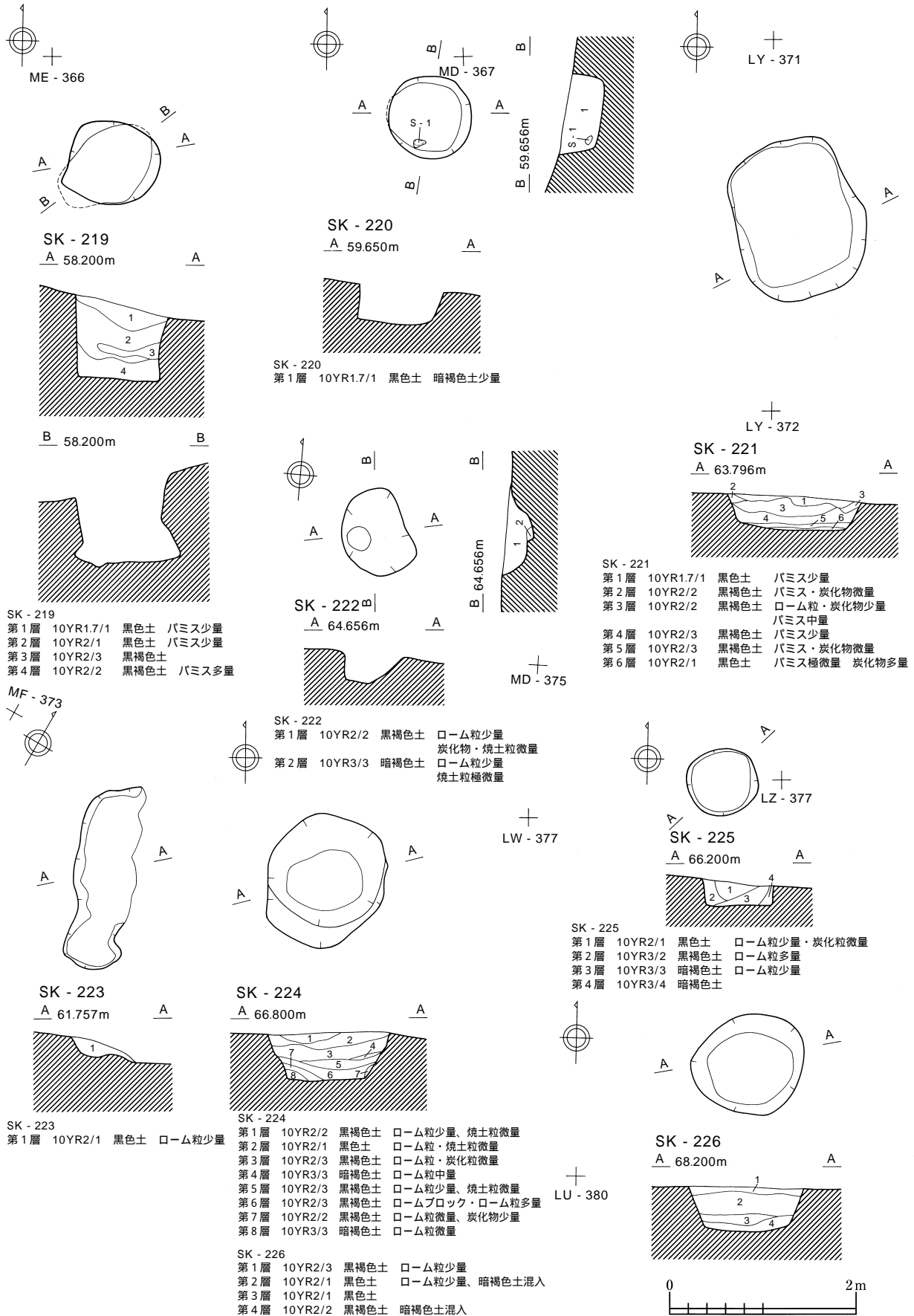
[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、170×140×37cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で外傾しながら立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面直上から炭化物を検出しており、本遺構は製炭土坑である可能性が考えられる。

[堆積土] 6層に分層した。底面直上に堆積する第6層は炭化物の堆積層で、上位に堆積する第5層中からも炭化物の検出があった。第1～4層はパミス等を含み自然堆積状況を呈する。



第520図 SK - 219 ~ 226

(木村)

S K - 222 (第520図)

[位置] グリッドMC - 374で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、94×68×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa+dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が見られる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや傾斜がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。全般的にローム粒、焼土粒が混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 223 (第520図)

[位置] グリッドMF - 373で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 約半分が削平を受けており、残存部分からの長方形を呈したものと推定される。残存部分での規模は、(202)×(67)×(19)cmを測る。

[断面形・壁] 残存部分での断面形は(d)で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 残存部分について1層に分層した。ローム粒が混入している。堆積状況の詳細については不明であるが、自然堆積と推定される。

(木村)

S K - 224 (第520図)

[位置] グリッドLV - 377で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、147×128×54cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、壁上部で緩やかな形状が見られる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 8層に分層した。全般的にローム粒、焼土粒が混入し、一部崩落が生じた堆積状況を呈する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 225 (第520図)

[位置] グリッドLY - 376・377で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、76×72×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。



[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。一部壁の崩落が生じており、自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 226 (第520図)

[位 置] グリッドL U - 379で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、122×110×47cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面とし、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。黒色系土の堆積で、底面に堆積する第4層は暗褐色土が粒状に混入する。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 227 (第521図)

[位 置] グリッドM E - 377で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 長楕円形を呈し、213×124×56cmを測る。

[断面形・壁] 東側部分が一部削平を受けているが、断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 8層に分層した。上位に堆積する第1～3層は焼土粒が含まれる。壁際の一部で崩落が生じており、自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 228 (第521図)

[位 置] グリッドM F - 376で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、155×139×84cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はcで、壁上部の一部で緩やかに立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 5層に分層した。崩落が生じた堆積状況を呈しており、自然堆積状況を呈する。

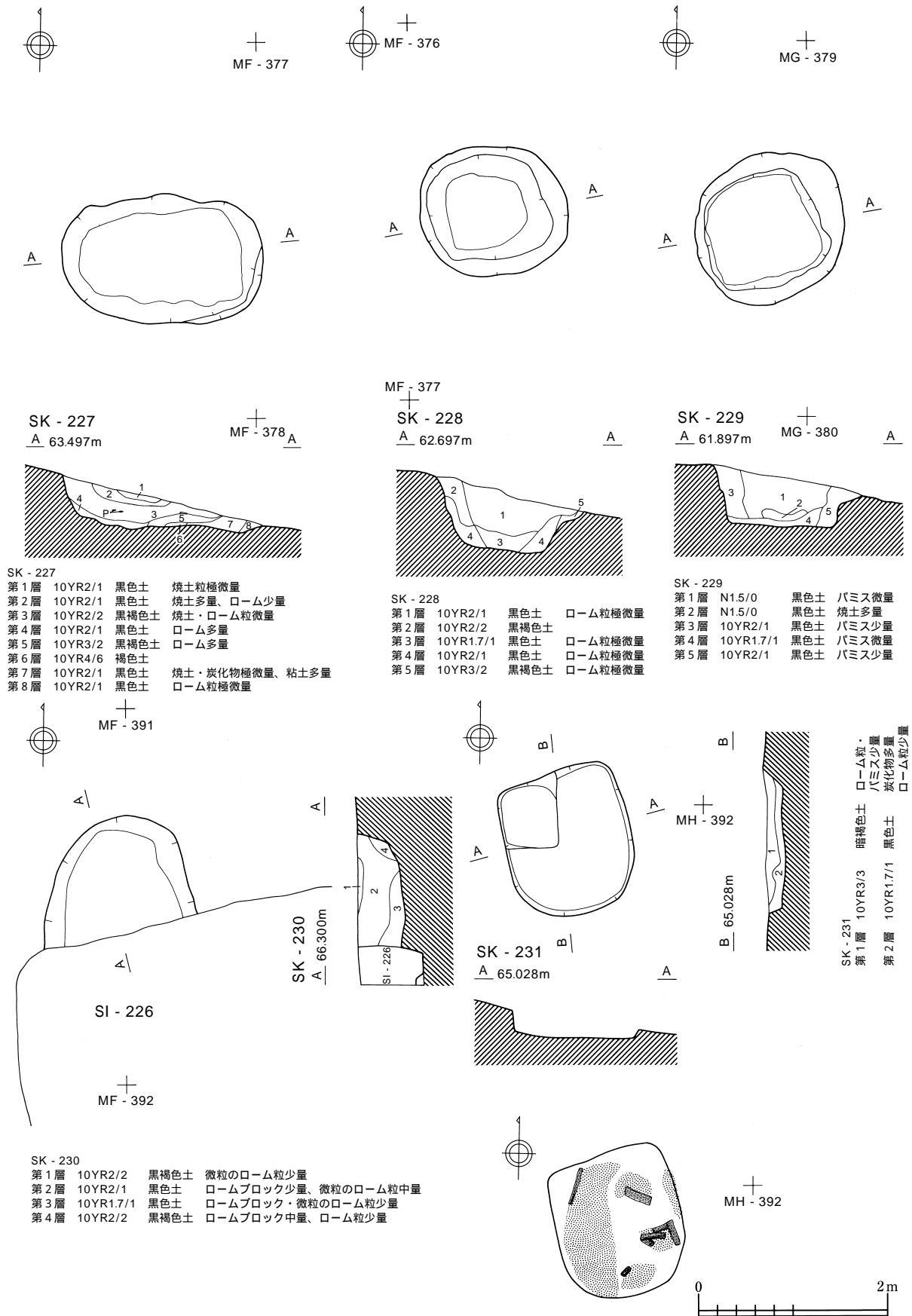
(木 村)

S K - 229 (第521図)

[位 置] グリッドM F・M G - 379で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、173×151×64cmを測る。



第521図 SK - 227 ~ 231

[断面形・壁] 断面形はbで、一部内側に入り込む部分が見られるが、壁上部で緩やかに立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 5層に分層した。壁の崩落が生じた堆積状況を呈し、自然堆積状況を呈する。第2層から焼土粒が多量に検出した。

(木 村)

S K - 230 (第521図)

[位 置] グリッドME・MF - 391で検出した。

[重 複] S I - 226と重複している。本遺構の堆積土がS I - 226に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいのため詳細は不明であるが、残存部分から楕円形を呈したものと考えられ、(122) × 159 × 50cmを測る。

[断面形・壁] 残存部分の断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや窪んだ形状を呈する。底面は堅緻である。

[堆積土] 残存部分について4層に分層した。全般的にロームブロック、ローム粒を含み、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 231 (第521図)

[位 置] グリッドMG - 391・392で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、152 × 133 × 20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が見られる。壁面はやや堅緻である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。底面の北西側の一部がピット状に落ち込みを検出した。規模は67 × 60 × 5cmを測る。また、底面直上から炭化材、炭化粒を検出し、本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[堆積土] 2層に分層した。底面直上に堆積する第2層が炭化物の包含層である。上位の堆積は、自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 232 (第522図)

[位 置] グリッドMG・MH - 393で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、97 × 83 × 99cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はfで、袋状の形状を持つ。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面とし、やや窪んだ形状を呈する。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。壁の崩落が生じており、自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 233 (第522図)

[位 置] グリッドMG - 394で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、114×104×71cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 5層に分層した。一部崩落が生じた自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 234 (第522図)

[位 置] グリッドMH・MI - 387・388で検出した。

[重 複] S K - 235と重複している。削平のため、土層堆積上で新旧関係の確認ができなかったが底面、壁面の残存状況から本遺構の方が新しいものと考えられる。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、144×(127)×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。また、西壁の壁面上部から赤化面を検出した。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。底面部分は赤化の度合いが強く、2～4cmの厚さで硬化していた。堆積土の状況と併せて本遺構は焼成坑である。

[堆積土] 3層に分層した。一部流入土が堆積しており、底面直上に堆積する第2層中から炭化物微量、焼土粒多量、ローム粒微量検出した。また、出土遺物については碎片化した土師器椀、甕の破片が出土したのみである。

(木 村)

S K - 235 (第522図)

[位 置] グリッドMH - 387・388で検出した。

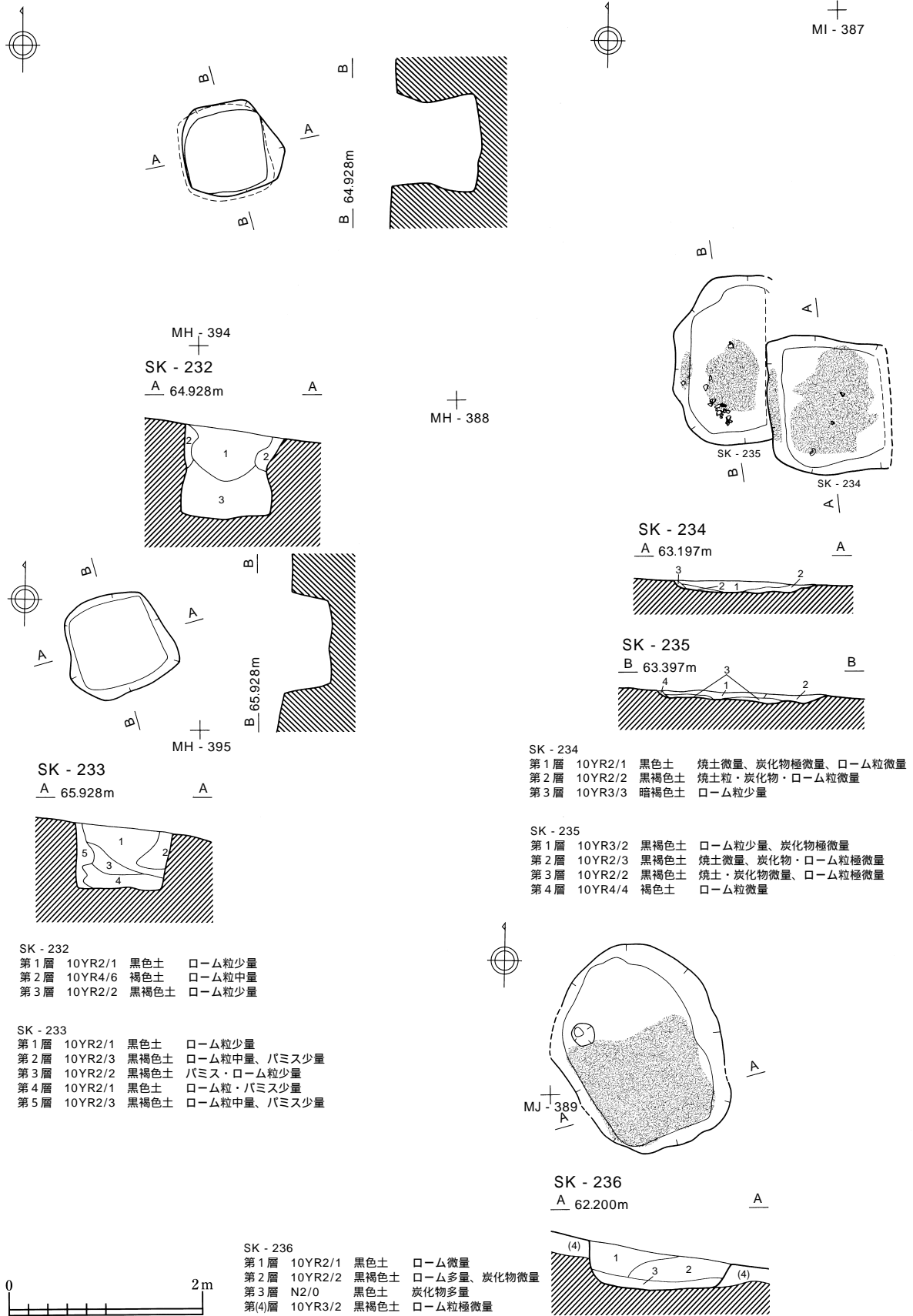
[重 複] S K - 234と重複している。削平のため、土層堆積上で新旧関係の確認ができなかったが、底面、壁面の残存状況から本遺構の方が古いものと考えられる。

[平面形・規模] 切りあいならびに重複のため、東壁側の情報は欠落しているが、残存部分から長方形を呈したのと考えられ、175×(95)×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。また、西壁の壁面下部から赤化面を検出した。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。底面中央部は赤化の度合いがS K - 234と同様強く、2～3cmの厚さで硬化していた。堆積土の状況と併せて本遺構は焼成坑である。

[堆積土] 4層に分層した。S K - 234と同様一部流入土が堆積しており、底面直上に堆積する第3層



第522図 SK - 232 ~ 236

中から焼土微量、炭化物微量、ローム粒微量検出した。上位の堆積土についても同様の混入物が見られる。また、出土遺物については、S K - 234と同様碎片化した土師器椀、甕の碎片が出土したのみである。

(木 村)

S K - 236 (第522図)

[位 置] グリッドM J - 388・389で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 長楕円形を呈し、218×175×48cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で外傾しながら立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや窪んだ形状を呈する。底面はやや堅緻である。底面直上に炭化物が堆積しており、底面は赤化している。本遺構は焼成坑であると考えられる。また、底面北西部分からピット状の落ち込みを検出した。規模は25×23×22cmを測る。

[堆積土] 3層に分層した。第3層は炭化材の包含層で、上位に堆積する第2層はロームブロックが多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 237 (第523図)

[位 置] グリッドM D - 400で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、108×68×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや傾斜がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。炭化粒、ローム粒が混入する。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 238 (第523図)

[位 置] グリッドM E - 398・399で検出した。

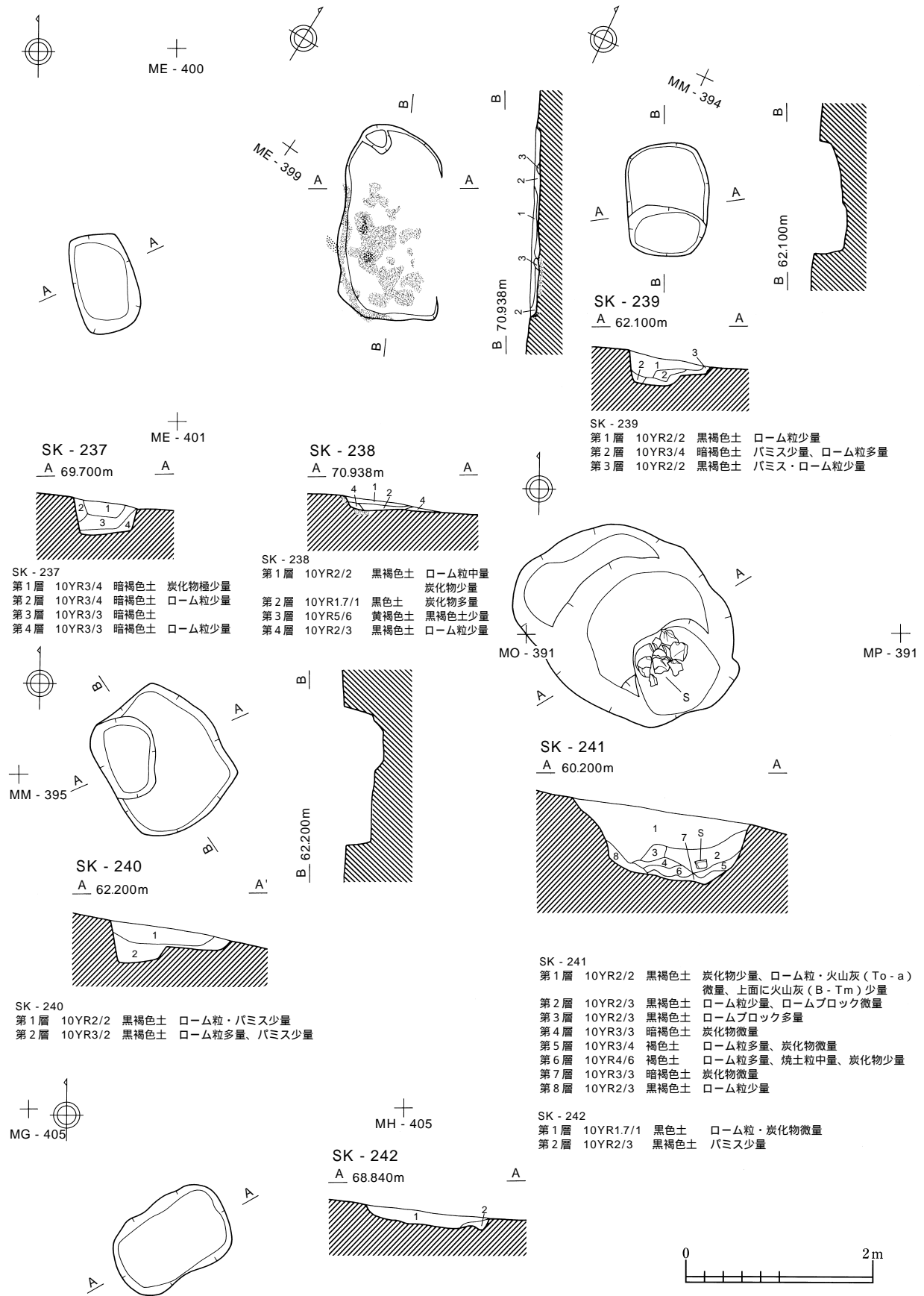
[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整長方形を呈し、210×(105)×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は(a)で、垂直に近い形で外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。また、南壁～西壁にかけて壁面が2～4cmの厚さで赤化していた。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。底面は壁面と同様赤化した部分を検出しており、5cmの厚さで赤化していた。底面直上から炭化物を検出しており、本遺構は焼成坑であると考えられる。また、北壁側の底面からピット状の落ち込みを検出した。規模は31×25×10cmを測る。

[堆積土] 4層に分層した。一部崩落による堆積状況を呈し、第3層として取り扱った土層は大谷火山灰層の地山土主体の土層で、ブロック状に混入した堆積状況である。第2層から炭化物を多量に検出し



第523図 SK - 237 ~ 242

た。自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 239 (第523図)

[位 置] グリッドM L・MM - 394で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、123×86×27cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや傾斜がある。底面はやや堅緻である。また、南壁側からピット状の落ち込みを検出した。規模は80×54×10cmを測る。

[堆積土] 3層に分層した。全般的にローム粒が混入しており、自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 240 (第523図)

[位 置] グリッドMM - 394・395で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、147×130×31cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は、やや堅緻である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや堅緻である。また、底面北西壁側からピット状の落ち込みを検出した。規模は88×67×20cmを測る。

[堆積土] 2層に分層した。底面直上ならびにピット状の落ち込みに堆積する第2層はローム粒が多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。第1層については、自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 241 (第523図)

[位 置] グリッドM O - 390・391で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形楕円形を呈し、255×194×88cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、傾斜がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 8層に分層した。第1～6層の堆積については、自然礫の廃棄等が伴っており、ロームブロック、炭化物、焼土粒等が混入している。廃棄を伴った人為堆積状況を呈する。第1層からT o - a火山灰、B - T m火山灰を粒状に混入した形で検出した。

(木 村)

S K - 242 (第523図)

[位 置] グリッドM G - 405で検出した。

[重 複] なし。



[平面形・規模] 長方形を呈し、130×90×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa+dで、垂直に近い形で外傾しながら立ち上がる部分と緩やかに外傾しながら立ち上がる部分が見られる。壁面はやや堅緻である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。一部崩落が生じており、自然堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 243 (第524図)

[位 置] グリッドMD - 408で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、110×104×85cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はcで、壁上部の一部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 7層に分層した。一部崩落が生じた堆積状況を呈しているが、全般的にロームブロック、ローム粒等が混入しており、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 244 (第524図)

[位 置] グリッドMD - 409で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、112×111×93cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 9層に分層した。黒色土と黒褐色土の混合層ならびにロームブロックが多量混入する土層堆積で、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木 村)

S K - 245 (第524図)

[位 置] グリッドMD - 413で検出した。

[重 複] S K - 246と重複している。本遺構がS K - 246の堆積土を切って構築されており、本遺構の方が新しい。

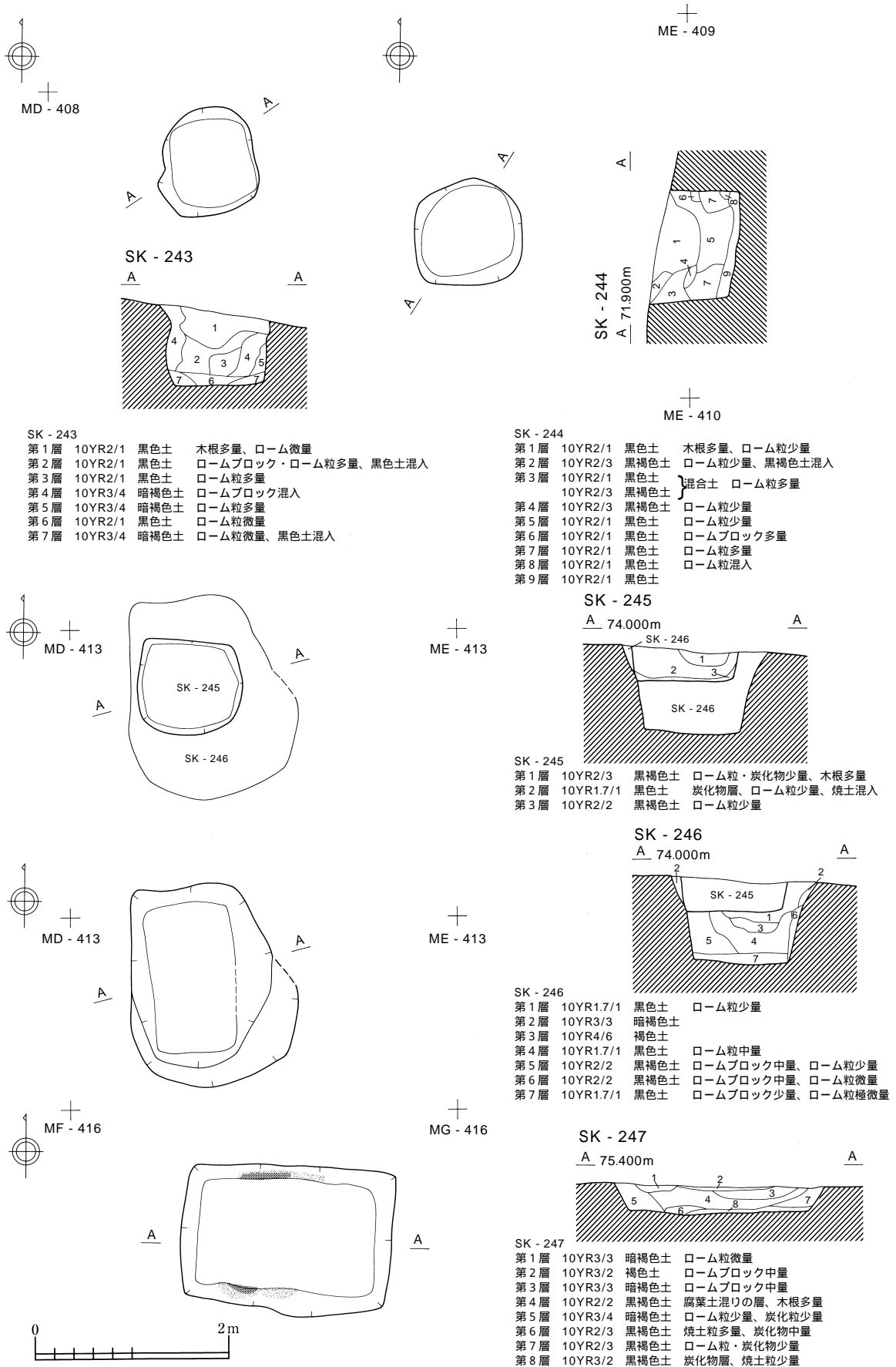
[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、108×98×36cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はS K - 246の堆積土を壁面としており、脆弱である。

[底 面] S K - 246の堆積土を底面としており、ほぼ平坦である。底面は脆弱である。

[堆積土] 3層に分層した。底面直上に堆積する第3層はローム粒が混入する。第1層については一部攪乱により土層が乱されている。自然堆積状況を呈する。

(木 村)



第524図 SK - 243 ~ 247

S K - 246 (第524図)

[位置] グリッドMD - 412・413で検出した。

[重複] S K - 245と重複している。本遺構の堆積土を切ってS K - 245が構築されており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 不整長方形を呈し、211×177×90cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、壁上部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや窪んだ形状を呈する。底面は堅緻である。

[堆積土] 7層に分層した。下層部分については、一般的にロームブロック・ローム粒が混入し、中層部分の第3層は焼土層である。一部埋め戻し等による人為堆積を含む堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 247 (第524図)

[位置] グリッドMF - 416で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、218×159×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。また、南北壁面下部から赤化面ならびに還元面を検出した。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。底面直上に堆積する第8層から炭化材を検出しており、壁面の状況を併せて本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[堆積土] 8層に分層した。底面直上に堆積する第8層は炭化材の包含層で、その上位に堆積する第6層中から多量の焼土粒を検出している。上位の堆積は一部攪乱等により土層堆積が乱されているが、一般的にロームブロックを含み埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 248 (第525図)

[位置] グリッドMP - 414で検出した。

[重複] S I - 241と重複している。本遺構がS I - 241の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

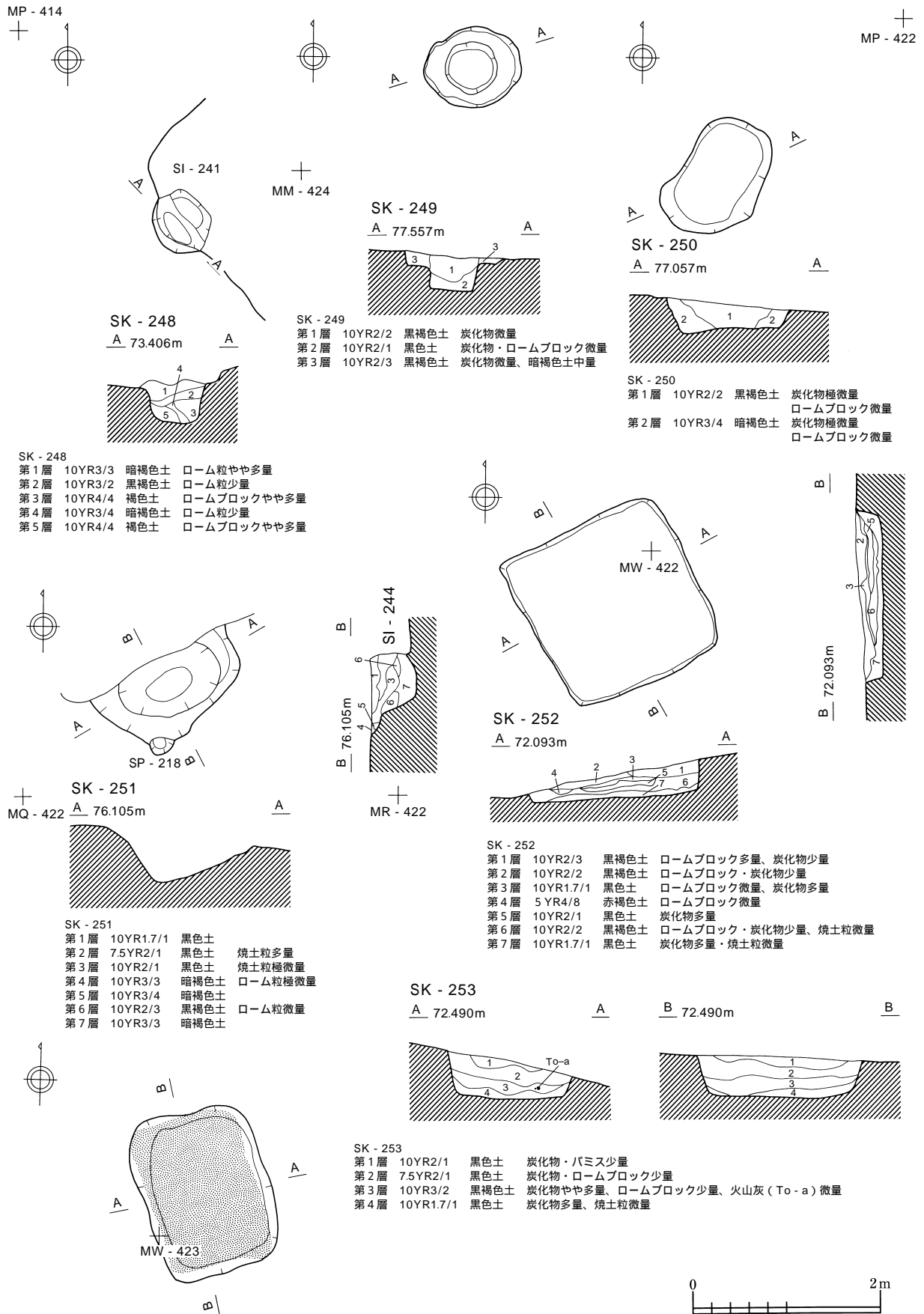
[平面形・規模] 楕円形を呈し、70×58×61cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、壁上部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面はS I - 241との重複部分についてはS I - 241の堆積土を一部壁面としており、やや脆弱で、それ以外の部分についてはやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 5層に分層した。一般的にローム粒・ロームブロックを含み、人為堆積状況を呈する。

(木村)



第525図 SK - 248 ~ 253

S K - 249 (第525図)

[位置] グリッドMM - 423で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、56×56×39cmを測る。また壁上部に楕円形の掘り方を持ち、掘り方の規模は104×85×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は掘り方部分を除いて堅緻であり、掘り方部分についてはやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面とし、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。全般的に炭化物が混入する。掘り方部分である第3層は暗褐色土が混入する。

(木村)

S K - 250 (第525図)

[位置] グリッドMO - 422で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、135×90×36cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに外傾しながら立ち上がる部分が見られる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面とし、底面中央部がやや隆起している。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。全般的にロームブロック、炭化物が混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 251 (第525図)

[位置] グリッドMQ - 421で検出した。

[重複] S I - 244、S P - 218と重複している。本遺構の堆積土がいずれの遺構にも切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいのため、残存部分から推定形であるが、不整楕円形を呈し、157×(86)×56cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はc + gで、V字状に立ち上がる部分と壁上部の一部で緩やかな立ち上がりの部分が見られる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面とし、やや窪んだ形状を呈する。底面は堅緻である。

[堆積土] 切りあいのため、残存部分について7層に分層した。第2層中に焼土粒が多量混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 252 (第525図)

[位置] グリッドMV・MW - 421・422で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、184×180×37cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 黒褐色土層を底面としており、ほぼ平坦である。底面は脆弱である。底面直上に堆積する第7層中から多量の炭化材、炭化物を検出しており、併せて焼土粒を検出したことから本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[堆積土] 7層に分層した。第7層は炭化材、炭化物の包含層で、上位に堆積する土層については全般的にロームブロック、炭化物を多量に含み、人為堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 253 (第525図)

[位置] グリッドMV・MW - 422・423で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、178×135×44cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや脆弱である。底面直上に堆積する第4層から多量の炭化材、炭化物を検出しており、併せて焼土粒を検出したことから本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[堆積土] 4層に分層した。第4層は炭化材、炭化物の包含層で、上位に堆積する土層については全般的に炭化物ロームブロックを含み、自然堆積状況を呈する。第3層中からT o - a火山灰を粒状に検出した。

(木村)

S K - 254 (第526図)

[位置] グリッドMW - 422・423で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、140×126×56cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、壁上部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。崩落が生じた堆積状況を呈し、全般的にロームブロックを含む堆積土で、自然堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 255 (第526図)

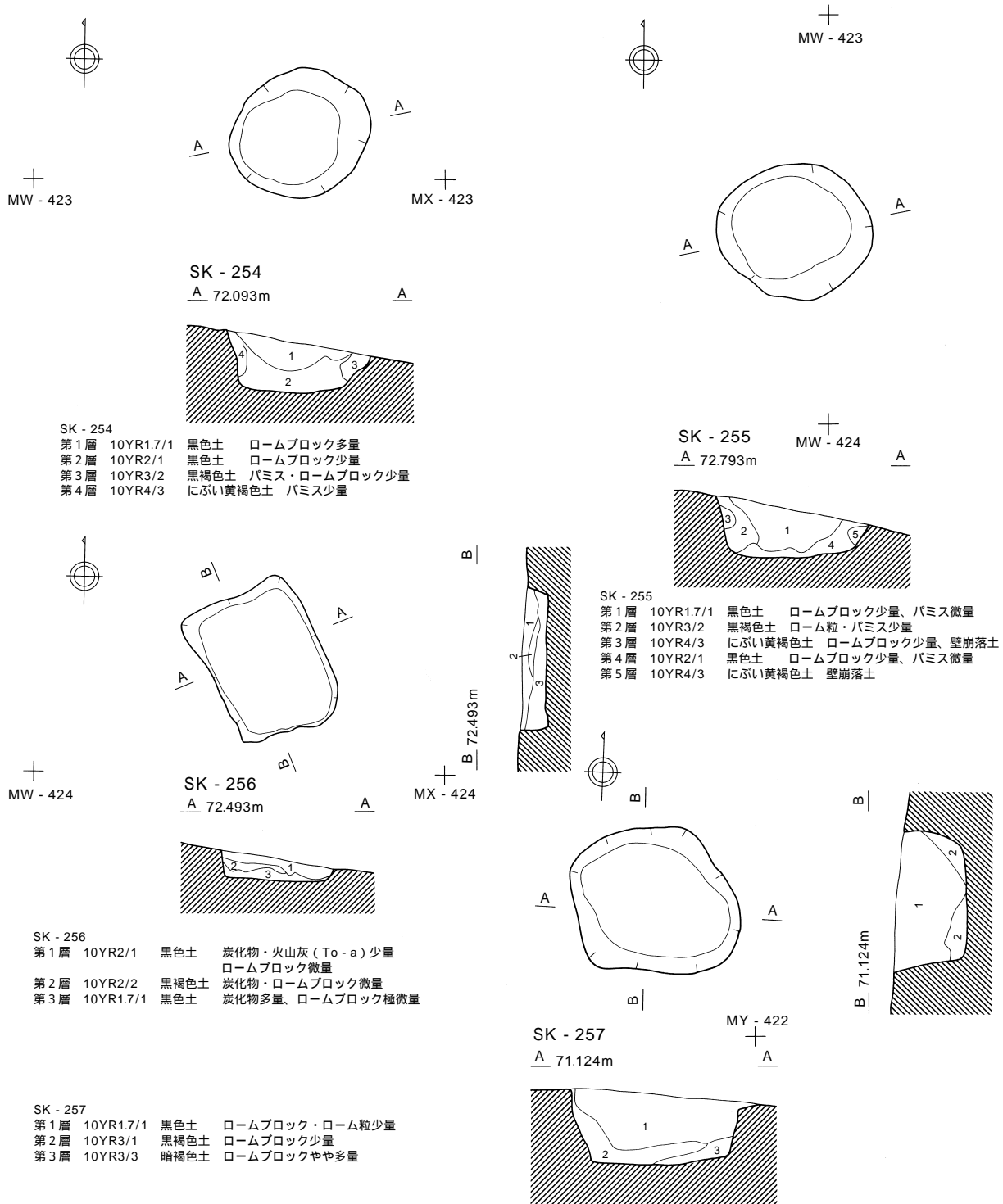
[位置] グリッドMV・MW - 423で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、152×135×58cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。



第526図 SK - 254 ~ 257

[堆積土] 5層に分層した。一部崩落が生じた堆積状況で、全般的にロームブロック、ローム粒、パミスが混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)

S K - 256 (第526図)

[位置] グリッドMW - 423で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、148×112×25cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや脆弱である。底面直上から炭化材、炭化物を多量に検出しており、本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[堆積土] 3層に分層した。第3層は炭化材、炭化物の包含層である。上位に堆積する第1、2層についても炭化物とロームブロックが混入しており、自然堆積状況を呈する。第1層中からT o - a火山灰を粒状に検出した。

(木村)

S K - 257 (第526図)

[位置] グリッドMX - 421で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、176×160×70cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はcで、壁上部の一部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 3層に分層した。崩落が生じた堆積状況で、全般的にロームブロックが混入する。自然堆積状況を呈する。

(木村)



#### 4. ピット

柱穴と考えられるものやそれ以外の用途不明なもので、土坑よりも小規模なものを一括した。平面形、断面形などの類型化については、土坑と同様に取り扱った。なお、柱穴が配列をなし、掘立柱建物や柵として認定できるものについては、S B、S Aとして、別に取り扱っている。

##### S P - 01 (第527図)

[位置] グリッドL S - 292で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、26×26×13cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

##### S P - 02 (第527図)

[位置] グリッドL S - 291・292で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、50×46×19cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、擂鉢状を呈する。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

##### S P - 03 (第527図)

[位置] グリッドL T - 294・295で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、48×42×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、西側の壁において、段状の立ち上がりがみられる。それ以外の部分は、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。炭化物を混入し、褐色を呈する1層が壁際に堆積し、それ以外の部分にはローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する2層が堆積している。2層が柱根、1層が埋土と考えられることから、本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

##### S P - 04 (第527図)

[位置] グリッドL S - 294・295で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、32×26×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。ローム粒、炭化物、焼土粒を混入し、黒褐色、暗褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 05 (第527図)

[位置] グリッドL S - 295で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、22×22×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、南側の壁において、段状の立ち上がりがみられる。それ以外の部分は、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] ローム粒、炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 06 (第527図)

[位置] グリッドL R - 295で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、38×26×8cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかな立ち上がりがみられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。下層は褐色を呈する土層で、上層はロームブロック、炭化粒を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 07 (第527図)

[位置] グリッドL U・L V - 296で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、34×26×31cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 08 (第527図)

[位置] グリッドL S - 296で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、50×38×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。下層は暗褐色・褐色を呈する土層、上層は黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈する。

S P - 09 (第527図)

[位 置] グリッドLR - 296で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、48×44×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。下層は黒褐色・暗褐色を呈する土層、上層は暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈する。

S P - 10 (第527図)

[位 置] グリッドLU - 298で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、116×38×33cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 11 (第527図)

[位 置] グリッドLT・LU - 300で検出した。

[重 複] SD - 01と重複している。本遺構の堆積土がSD - 01に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 円形を呈し、30×30×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] 炭化物、焼土粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 12 (第527図)

[位 置] グリッドLT - 300で検出した。

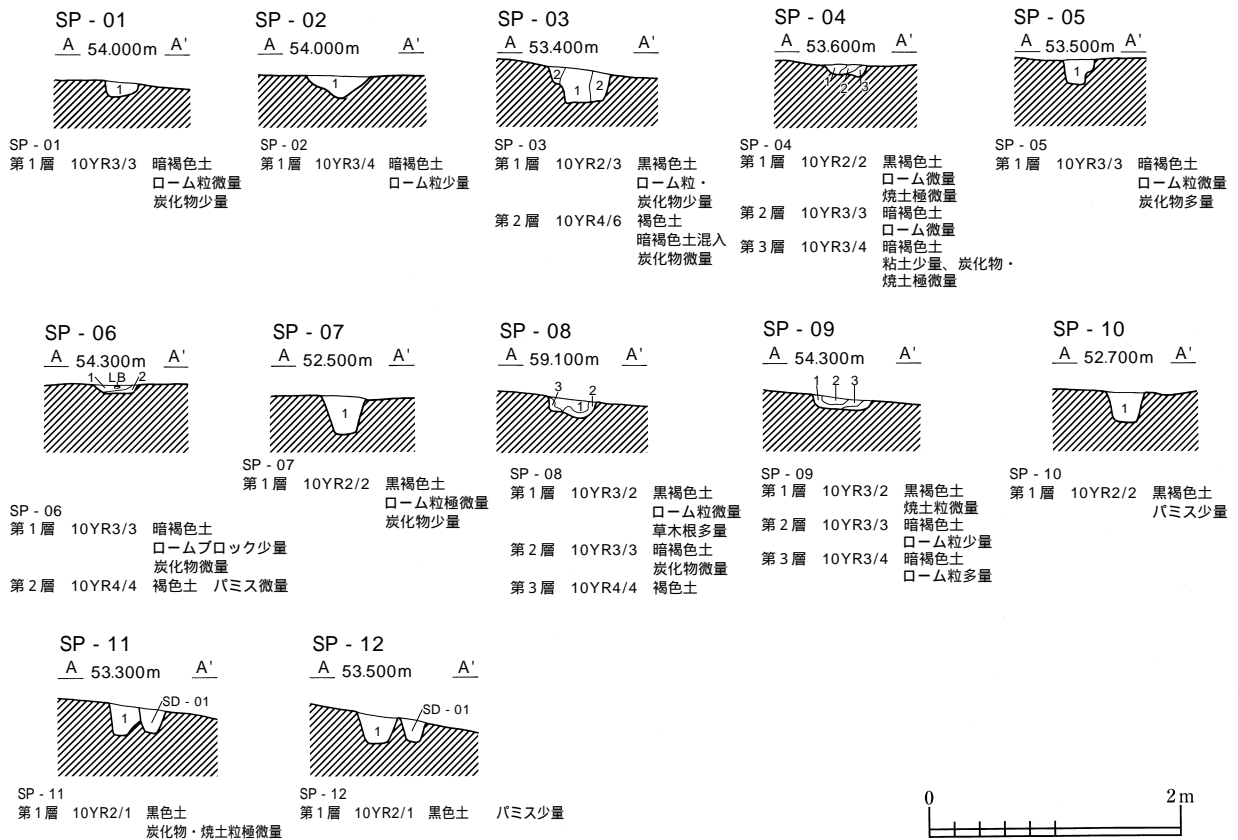
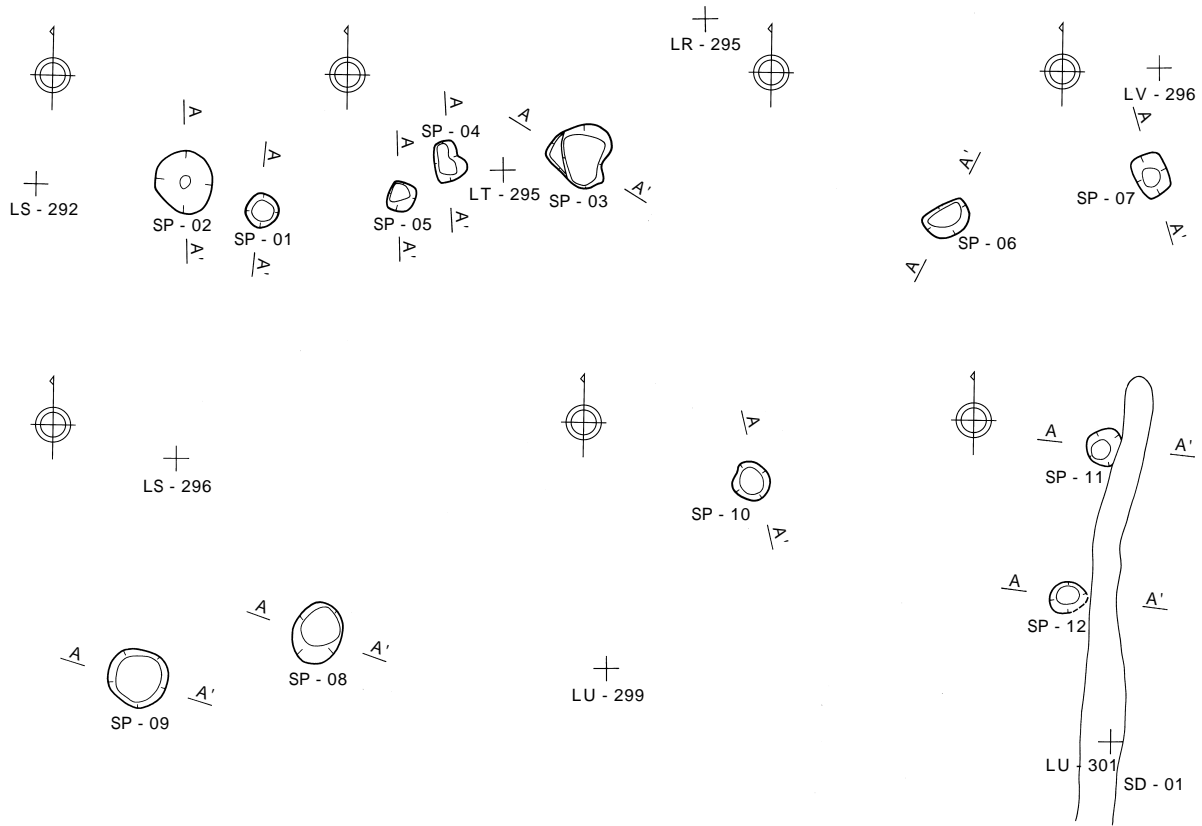
[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、30×24×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。



第527図 SP - 01 ~ 12

S P - 13 (第528図)

[位置] グリッドL J - 301で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、46×36×34cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、壁上部で緩やかな傾斜がみられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] 炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 14 (第528図)

[位置] グリッドL T - 304で検出した。

[重複] S D - 01と重複している。本遺構がS D - 01の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 円形を呈し、32×28×36cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

S P - 15 (第528図)

[位置] グリッドL W - 304で検出した。

[重複] S I - 37、S K - 66と重複している。重複関係は、S I - 37 < S K 66 < S P - 15である。

[平面形・規模] 円形を呈し、84×46×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、若干の起伏がみられる。

[堆積土] 2層に分層した。底面において、ローム粒を多量に混入し黒褐色を呈する土層が部分的にみられる他は、黒色を呈する土層である。本遺構の堆積は、埋め戻しによる人為的要因が強いと考えられる。

S P - 16 (第528図)

[位置] グリッドL Z - 301で検出した。

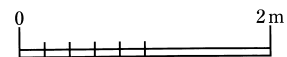
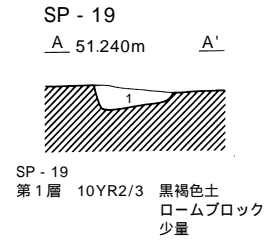
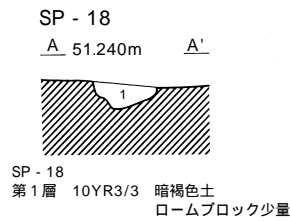
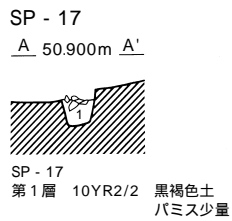
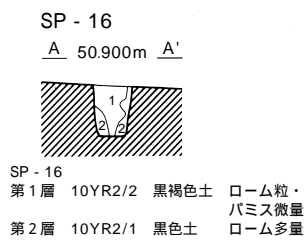
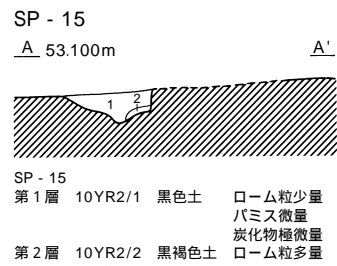
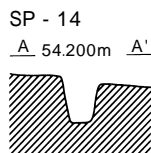
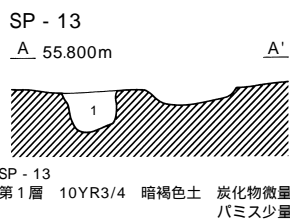
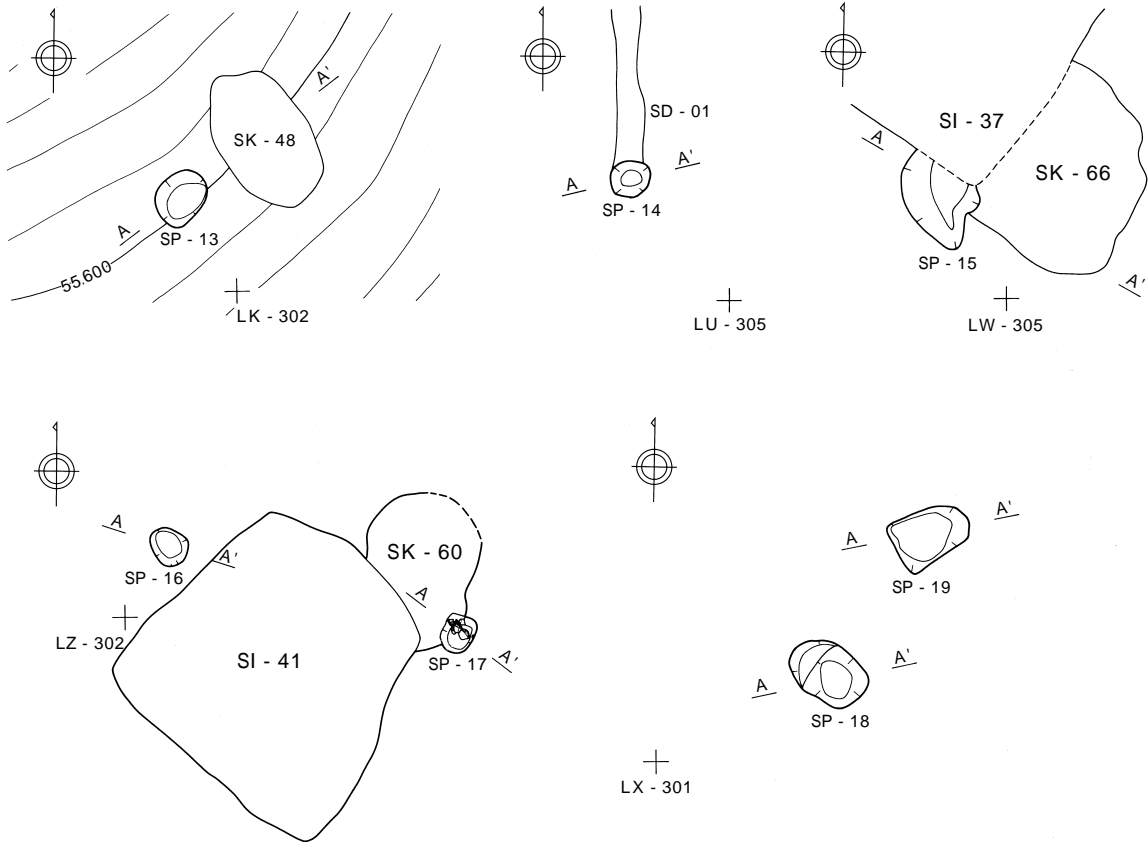
[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、32×28×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。ロームを多量に混入し、黒色を呈する第2層が壁際に堆積し、それ以外の部分には、黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、埋め戻しによる人為的要因が強いと考えられる。



第528図 SP - 13 ~ 19

S P - 17 (第528図)

[位置] グリッドL Z - 302で検出した。

[重複] S K - 60と重複している。本遺構がS K - 60の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、31×25×31cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。上層において、礫が6点出土している。これらは、廃棄によるものと考えられることから、本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 18 (第528図)

[位置] グリッドL X - 300で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、66×42×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はd + eで、緩やかに立ち上がる部分と段状に立ち上がる部分がみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、若干の起伏がみられる。

[堆積土] ロームブロックを混入し、暗褐色を呈する土層による単一層であることから、本遺構の堆積は、埋め戻しによる人為的要因が強いと考えられる。

S P - 19 (第528図)

[位置] グリッドL X - 300で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整方形を呈し、62×42×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層による単一層であることから、本遺構の堆積は、埋め戻しによる人為的要因が強いと考えられる。

S P - 20 (第529図)

[位置] グリッドL Z - 300で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、28×22×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層であることから、本遺構の堆積は、埋め戻しによる人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 21 (第529図)

[位置] グリッドL Z - 299で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、25×18×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層で、上層は黒褐色を呈する土層である。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。

## S P - 22 (第529図)

[位置] グリッドL Z - 300で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、32×22×8cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 23 (第529図)

[位置] グリッドL Z - 299で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、60×34×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] ローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 24 (第529図)

[位置] グリッドL Z - 299で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、28×22×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。底面東側において、10×9×3cmの落ち込みがみられる。

[堆積土] 2層に分層した。ローム粒を混入する黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。



S P - 25 (第529図)

[位置] グリッドMA - 300で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、66×38×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、平坦である。

[堆積土] ローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 26 (第529図)

[位置] グリッドMA - 300で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、88×54×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としており、南東側に入り込むような状態を呈している。

[堆積土] 3層に分層した。底面において部分的に、にぶい黄褐色を呈する土層がみられ、それ以外の部分は、ローム粒を混入し、黒褐色、暗褐色を呈する土層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 27 (第529図)

[位置] グリッドME - 301で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、34×28×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。平坦である。

[堆積土] ローム粒、ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 28 (第529図)

[位置] グリッドME - 303で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、17×14×35cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はgで、V字状の立ち上がりがみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 29 (第529図)

[位置] グリッドME - 303で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、 $20 \times 19 \times 20$ cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はgで、V字状の立ち上がりが見られる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 焼土粒、焼土ブロックを混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 30 (第529図)

[位置] グリッドMF - 301で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、 $60 \times 56 \times 32$ cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa+eで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と段状に立ち上がる部分が見られる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 31 (第529図)

[位置] グリッドMF - 301で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、 $34 \times 25 \times 17$ cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 32 (第529図)

[位置] グリッドMF - 301で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、 $36 \times 28 \times 21$ cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、挿鉢状に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 33 (第529図)

- [位置] グリッドMD - 304で検出した。
- [重複] S P - 34と重複している。本遺構がS P - 34の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。
- [平面形・規模] 楕円形を呈し、62×40×40cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はhで、擂鉢状に立ち上がる。
- [底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。
- [堆積土] 炭化物、焼土粒を混入し、にぶい黄褐色を呈する土層による単一層である。二次堆積と考えられるT o - aが確認でき、本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 34 (第529図)

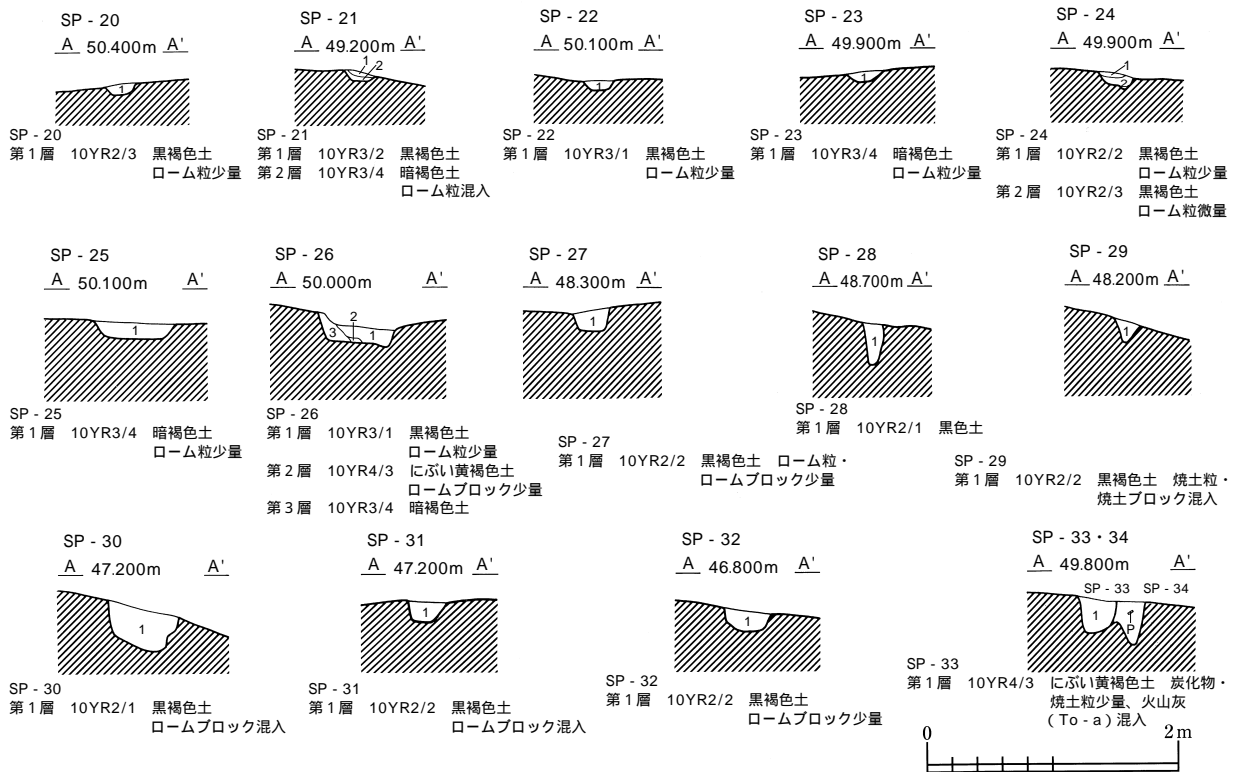
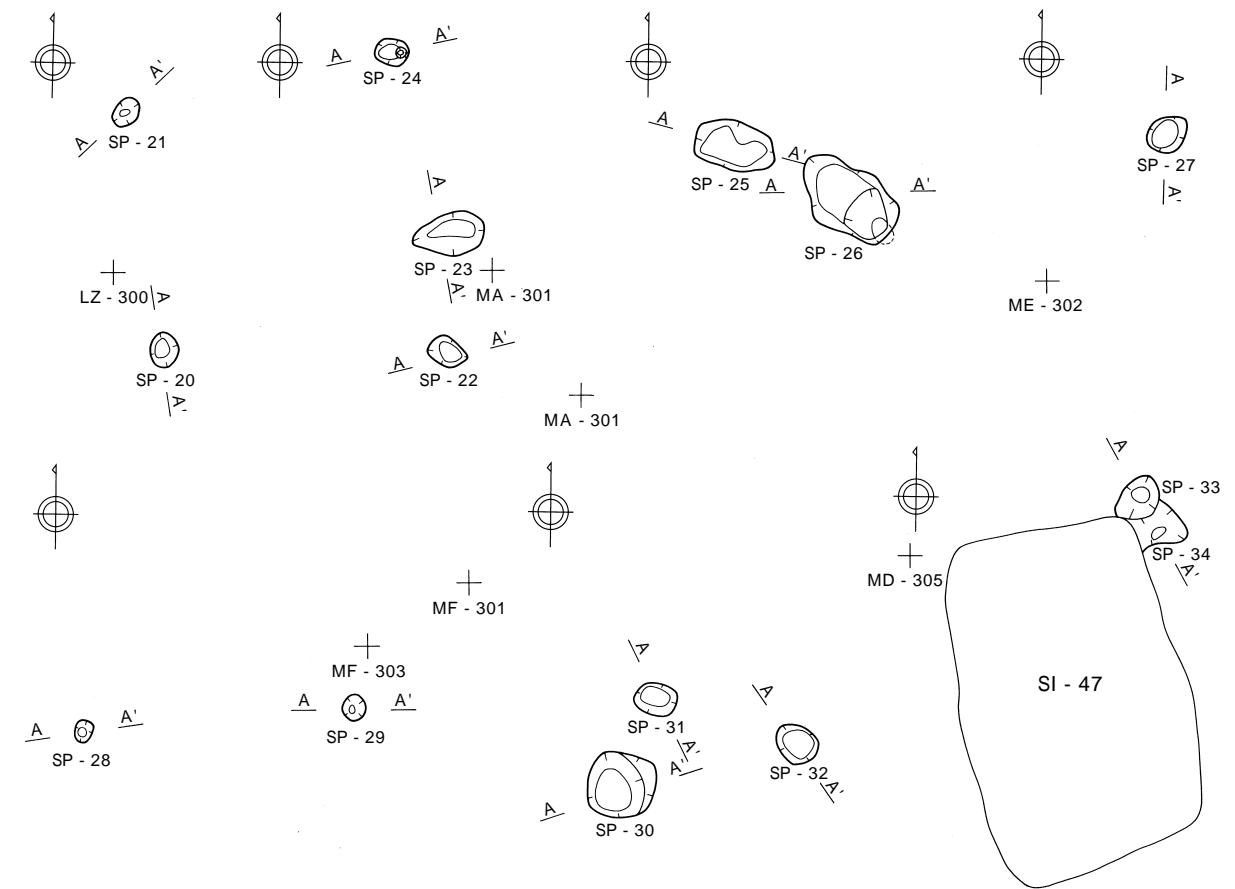
- [位置] グリッドMD - 304で検出した。
- [重複] S P - 33、S I - 47と重複している。本遺構がS P - 33、S I - 47の堆積土に切られており、本遺構の方が古い。
- [平面形・規模] 不整形を呈し、39×18×34cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はgで、V字状に立ち上がる。
- [底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。
- [堆積土] 炭化物、焼土粒を混入し、にぶい黄褐色を呈する土層による単一層である。二次堆積と考えられるT o - aが確認でき、本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 35 (第530図)

- [位置] グリッドME - 305で検出した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 円形を呈し、19×19×13cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はgで、V字状に立ち上がる。
- [底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。
- [堆積土] 炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 36 (第530図)

- [位置] グリッドME - 305で検出した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 円形を呈し、22×22×16cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。
- [底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。
- [堆積土] 炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。



第529図 SP - 20 ~ 34

S P - 37 (第530図)

[位置] グリッドMF - 306・307で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、40×36×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はxで、底が北東側に入り込むような形状を呈する。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 38 (第530図)

[位置] グリッドMA - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、28×18×34cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 39 (第530図)

[位置] グリッドMA - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、38×22×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 40 (第530図)

[位置] グリッドMC - 308で検出した。

[重複] SD - 09と重複している。本遺構がSD - 09の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 円形を呈し、22×21×8cmを測る。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

S P - 41 (第530図)

[位置] グリッドMC - 308で検出した。

[重複] SD - 09と重複している。本遺構がSD - 09の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、30×23×18cmを測る。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

## S P - 42 (第530図)

[位置] グリッドMC - 309で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、28×28×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロック、炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 43 (第530図)

[位置] グリッドMB - 309で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、62×54×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 44 (第530図)

[位置] グリッドMB - 309で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、36×28×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 45 (第530図)

[位置] グリッドME - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、34×32×25cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。壁際において、ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層、それ以外の部分には、炭化物、焼土粒を混入し、黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 46 (第530図)

[位置] グリッドMG - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、46×32×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。壁際において、黒褐色、暗褐色を呈する土層、それ以外の部分には、黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 47 (第530図)

[位置] グリッドMG - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、45×38×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 48 (第530図)

[位置] グリッドMG - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、38×26×11cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 49 (第530図)

[位置] グリッドMG - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、29×28×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

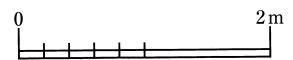
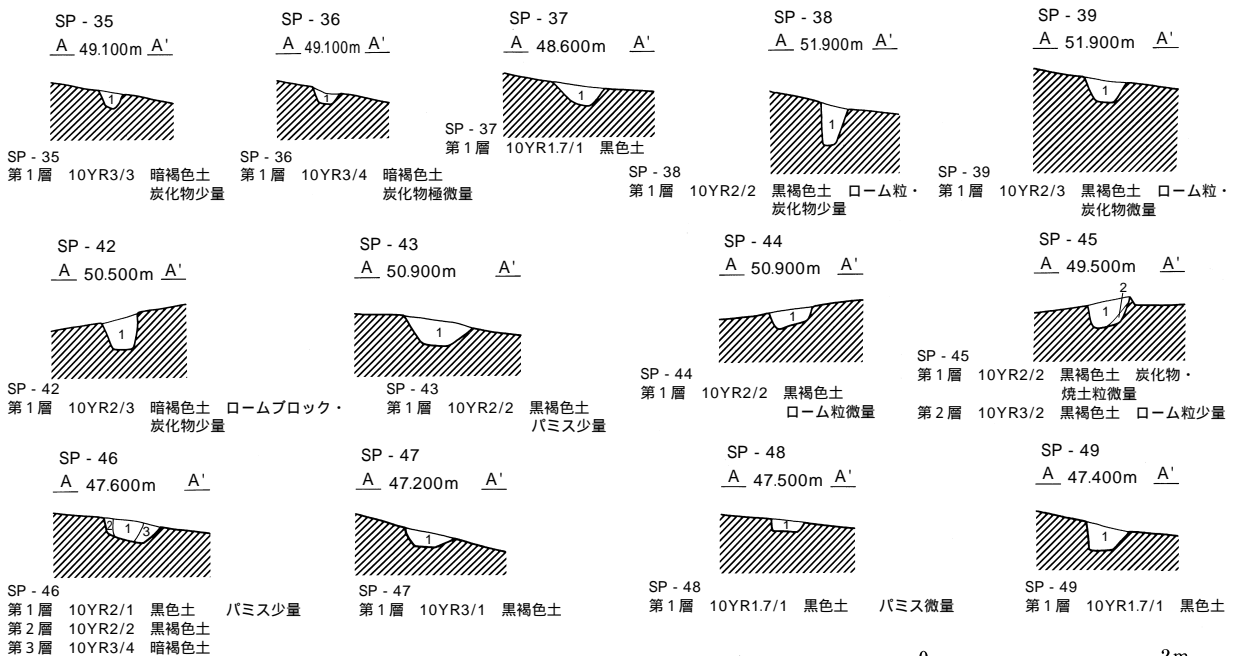
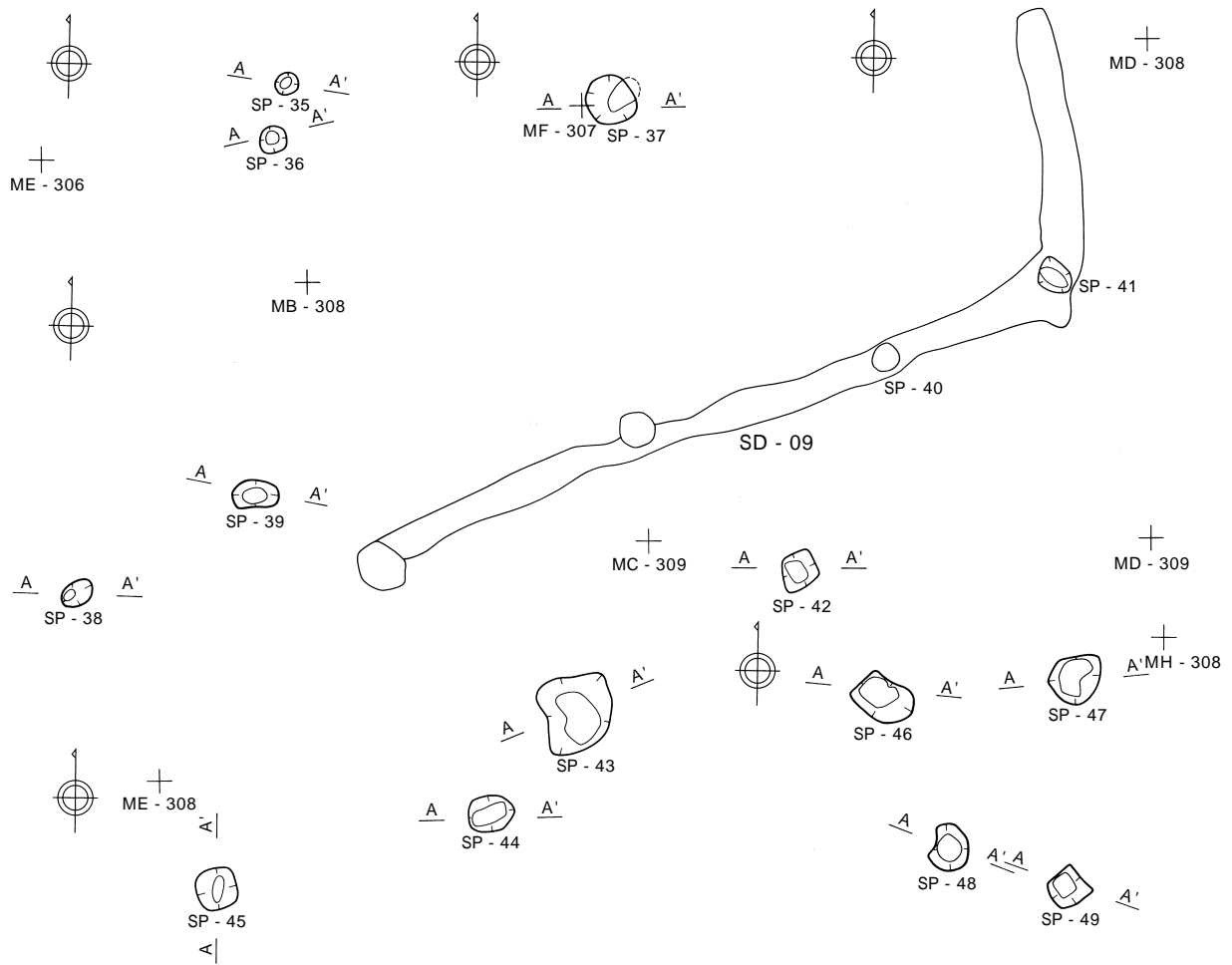
S P - 50 (第531図)

[位置] グリッドMH - 309で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、26×18×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。



第530図 SP - 35 ~ 49



[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 51 (第531図)

[位 置] グリッドMH - 310で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、44×17×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 52 (第531図)

[位 置] グリッドMH - 309・310で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、66×38×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はgで、V字状の立ち上がりを呈する。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は黒褐色を呈する土層、上層は黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 53 (第531図)

[位 置] グリッドLM - 305で検出した。

[重 複] S I - 59と重複している。本遺構の堆積土がS I - 59に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいにより、明確な平面形は不明であるが、隅丸方形を呈し、52×32×15cmを測ると推定できる。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。炭化物、焼土粒を混入し、黒色を呈する土層が壁際に部分的に堆積し、それ以外の部分には、炭化物、焼土粒を混入し、にぶい黄褐色を呈する土層が堆積し、部分的に攪乱を受けている。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 54 (第531図)

[位 置] グリッドLN - 304で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、56×48×19cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はgで、V字状の立ち上がりを呈する。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は暗褐色を呈する土層、上層は、焼土粒を混入し、黒褐色を呈する土

層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 55 (第531図)

[位置] グリッドLN - 308で検出した。

[重複] S I - 63、S D - 12と重複している。本遺構が、S I - 63、S D - 12の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 円形を呈し、72×60×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、擂鉢状の立ち上がりを呈する。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 6層に分層した。褐色、暗褐色を主体とする土層が堆積している。ローム粒、炭化物、焼土粒を混入し、土師器片も出土していることから、本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 56 (第531図)

[位置] グリッドLP - 306で検出した。

[重複] S I - 65と重複している。本遺構がS I - 65の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、68×64×29cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はcで、壁上部において、一部緩やかな立ち上がりがみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。下層は炭化物を多量に混入し、黒色を呈する土層、中層から上層はローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積しており、上層においては、二次堆積と考えられるTo - a火山灰が確認できる。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 57 (第531図)

[位置] グリッドLQ - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、36×34×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は黒褐色を呈する土層、上層はローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。

S P - 58 (第531図)

[位置] グリッドLP・LQ - 318で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、32×31×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因

が強いと考えられる。

S P - 59 (第531図)

[位置] グリッドL W - 317で検出した。

[重複] S P 243と重複している。本遺構の堆積土が、S P - 243に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいにより、明確な平面形は不明であるが、不整形円形を呈し、40×30×34cmを測ると推定できる。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。上層に部分的に黒褐色に呈する土層、それ以外の部分には炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 60 (第531図)

[位置] グリッドL Y - 317で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、42×35×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はxで、底面西側に落ち込みがみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層、上層は炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 61 (第532図)

[位置] グリッドL Z - 316で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、38×30×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 62 (第532図)

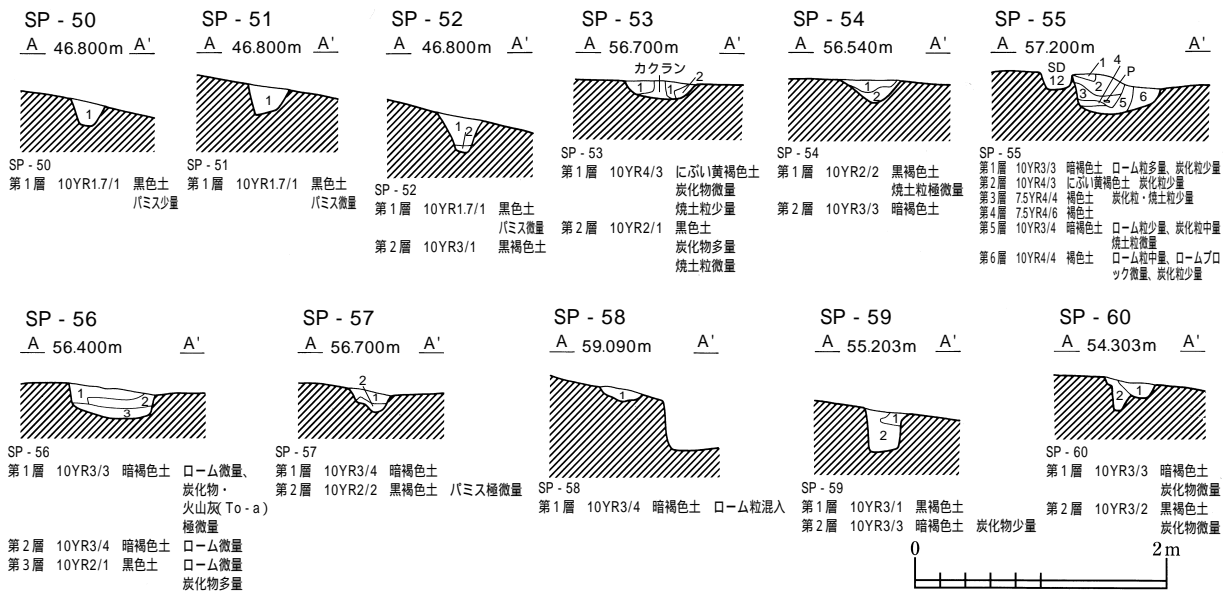
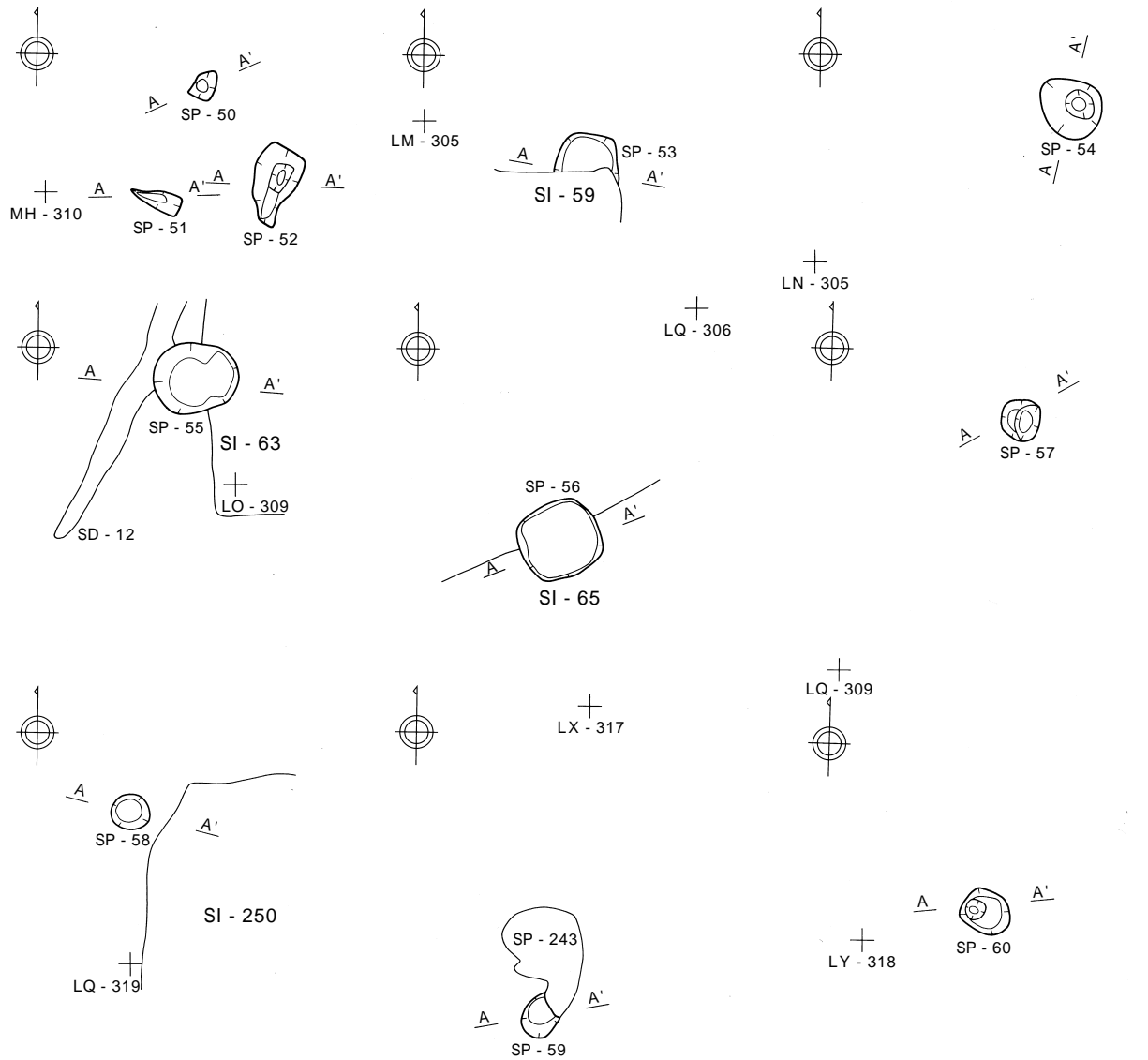
[位置] グリッドM A - 316で検出した。

[重複] S K - 114と重複している。本遺構がS K - 114の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、42×40×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。



第531図 SP - 50 ~ 60

[堆積土] 暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 63 (第532図)

[位置] グリッドMA - 316で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、42×30×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 64 (第532図)

[位置] グリッドLZ・MA - 319で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、64×56×34cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。ローム粒、炭化物を混入し、黒褐色、暗褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 65 (第532図)

[位置] グリッドMD - 319で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、43×38×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を多量に混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 66 (第532図)

[位置] グリッドMD - 319で検出した。

[重複] S P - 246と重複している。本遺構の堆積土がS P - 246に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいにより明確な平面形は不明であるが、楕円形を呈し、68×44×18cmを測ると推定できる。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。ローム粒を混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 67 (第532図)

[位置] グリッドMD - 320で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、56×34×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。ローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 68 (第532図)

[位置] グリッドMA - 320で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、80×66×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 焼土粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。堆積土より礫が出土しており、本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 69 (第533図)

[位置] グリッドMA - 320で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、40×28×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 焼土粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 70 (第533図)

[位置] グリッドMA - 321で検出した。

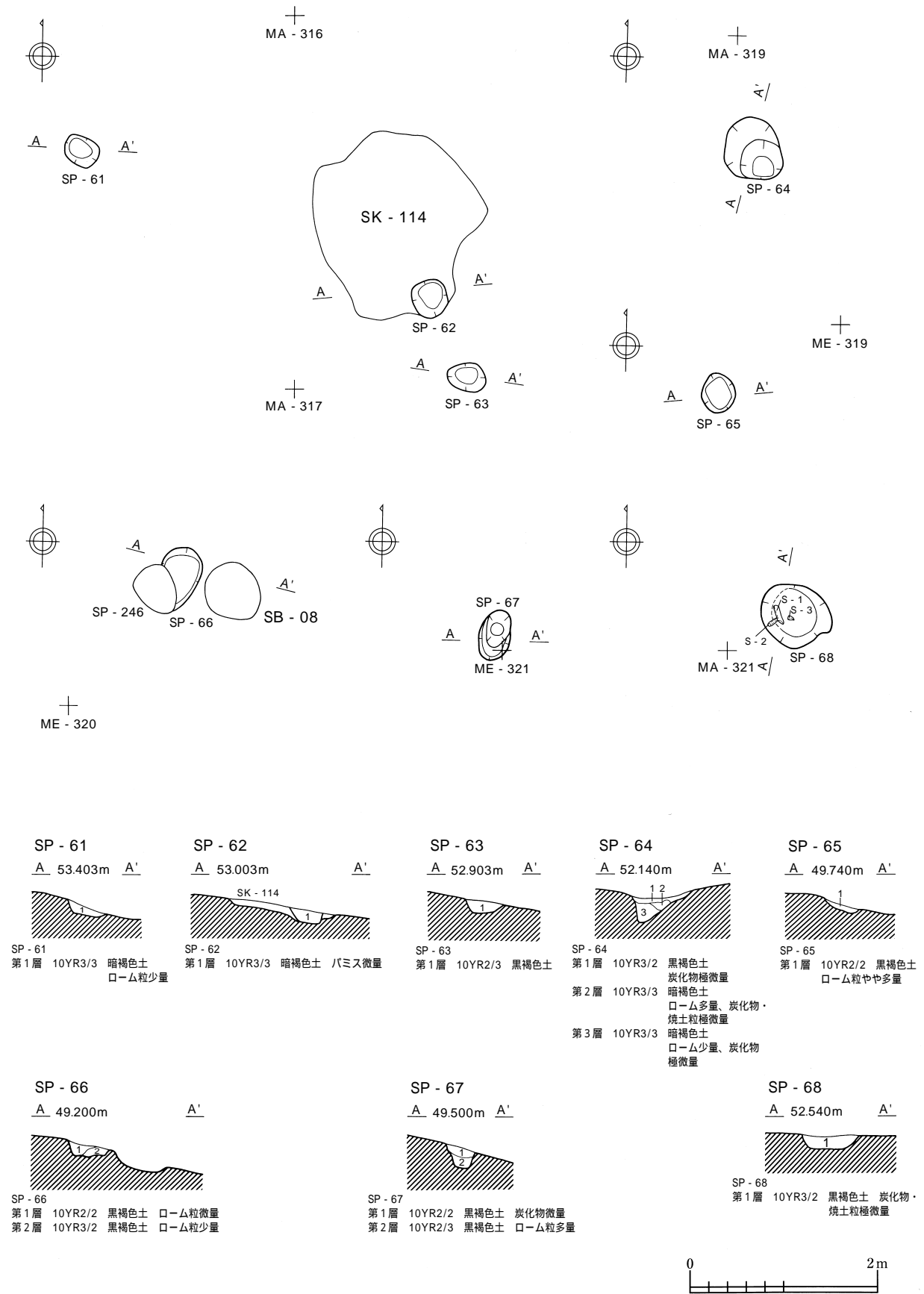
[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、56×38×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は、若干の起伏がみられる。

[堆積土] 2層に分層した。壁際において、部分的に、にぶい黄褐色を呈する土層が堆積し、それ以外の部分には、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。



第532図 SP - 61 ~ 68

## S P - 71 (第533図)

[位置] グリッドMB - 321で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、50×26×21cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はcで、壁上部において一部緩やかな傾斜がみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒・砂粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 72 (第533図)

[位置] グリッドMA - 321で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、26×24×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 砂粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 73 (第533図)

[位置] グリッドMA - 321で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、33×20×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 74 (第533図)

[位置] グリッドMA - 321で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、48×30×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 75 (第533図)

[位置] グリッドMB - 322で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、52×42×18cmを測る。



[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 砂粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 76 (第533図)

[位 置] グリッドMA - 322で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、50×34×13cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面には、若干の起伏がみられる。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 77 (第533図)

[位 置] グリッドMA - 322で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、56×32×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 78 (第533図)

[位 置] グリッドMA - 322で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、36×22×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。壁際に黒褐色を呈する土層、それ以外の部分には黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 79 (第533図)

[位 置] グリッドMC - 322で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、110×98×42cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面中央部付近に、40×21×11cmの落ち込みが確認できる。

[堆積土] 3層に分層した。底部の落ち込みには、ロームブロックを混入し、暗褐色、黒褐色を主体と

する土層、それ以外の部分には、ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 80 (第533図)

[位置] グリッドMD - 322で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、66×39×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層、上層は焼土粒を混入し、黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 81 (第534図)

[位置] グリッドL Z - 322で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、50×41×49cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。下層はにぶい黄褐色を呈する土層、中層から上層は黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。

S P - 82 (第534図)

[位置] グリッドL Z - 322で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整方形を呈し、38×30×11cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。ローム粒を混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。

S P - 83 (第534図)

[位置] グリッドL Z - 322で検出した。

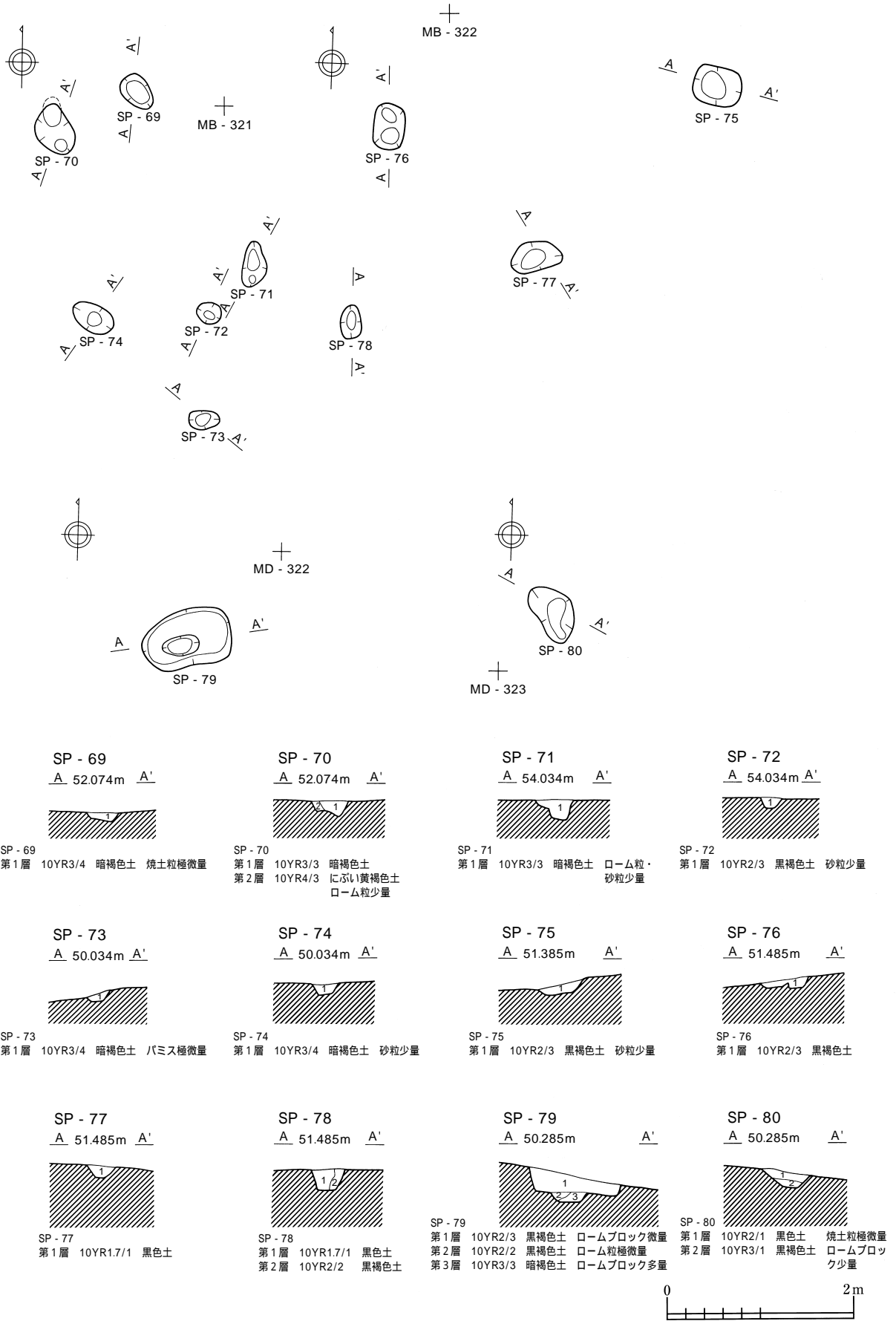
[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、46×44×27cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は黒褐色を呈する土層、上層は黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。



第533図 SP - 69 ~ 80

## S P - 84 (第534図)

[位置] グリッドL Z - 322で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、42×40×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。ロームブロックを混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。

## S P - 85 (第534図)

[位置] グリッドL Z - 322で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、24×18×8cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。

## S P - 86 (第534図)

[位置] グリッドM E - 326で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、28×28×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。

## S P - 87 (第534図)

[位置] グリッドM E - 326で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、33×26×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。ローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層が壁際に堆積し、それ以外の部分には、黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。

## S P - 88 (第534図)

[位置] グリッドL Y - 325・326で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、71×57×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。ロームブロック、ローム粒を混入し、黒色、暗褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。

S P - 89 (第534図)

[位 置] グリッドL X - 326で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、35×24×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層、上層はローム粒を混入し、黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。

S P - 90 (第534図)

[位 置] グリッドL U - 324で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、24×20×13cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 91 (第534図)

[位 置] グリッドL U - 324で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、28×24×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 92 (第534図)

[位 置] グリッドL U - 325・326で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、36×28×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 93 (第534図)

[位置] グリッドLU - 325・326で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、25×22×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面が西から東へ若干下降している。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 94 (第534図)

[位置] グリッドLU - 325で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、40×39×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 4層に分層した。ローム粒を混入し、黒褐色、黒色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 95 (第534図)

[位置] グリッドLU - 325で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、34×32×13cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 96 (第534図)

[位置] グリッドLU・LV - 325で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、40×32×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。ローム粒、ロームブロックを混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積して

いる。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 97 (第534図)

[位置] グリッドL V - 325で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、40×32×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。ローム粒を混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 98 (第534図)

[位置] グリッドL V - 325で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、22×22×11cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 99 (第535図)

[位置] グリッドL P - 328で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、40×38×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はcで、壁上部で一部緩やかな立ち上がりがみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、焼土、炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。堆積土上位において礫が出土している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 100 (第535図)

[位置] グリッドL P - 328で検出した。

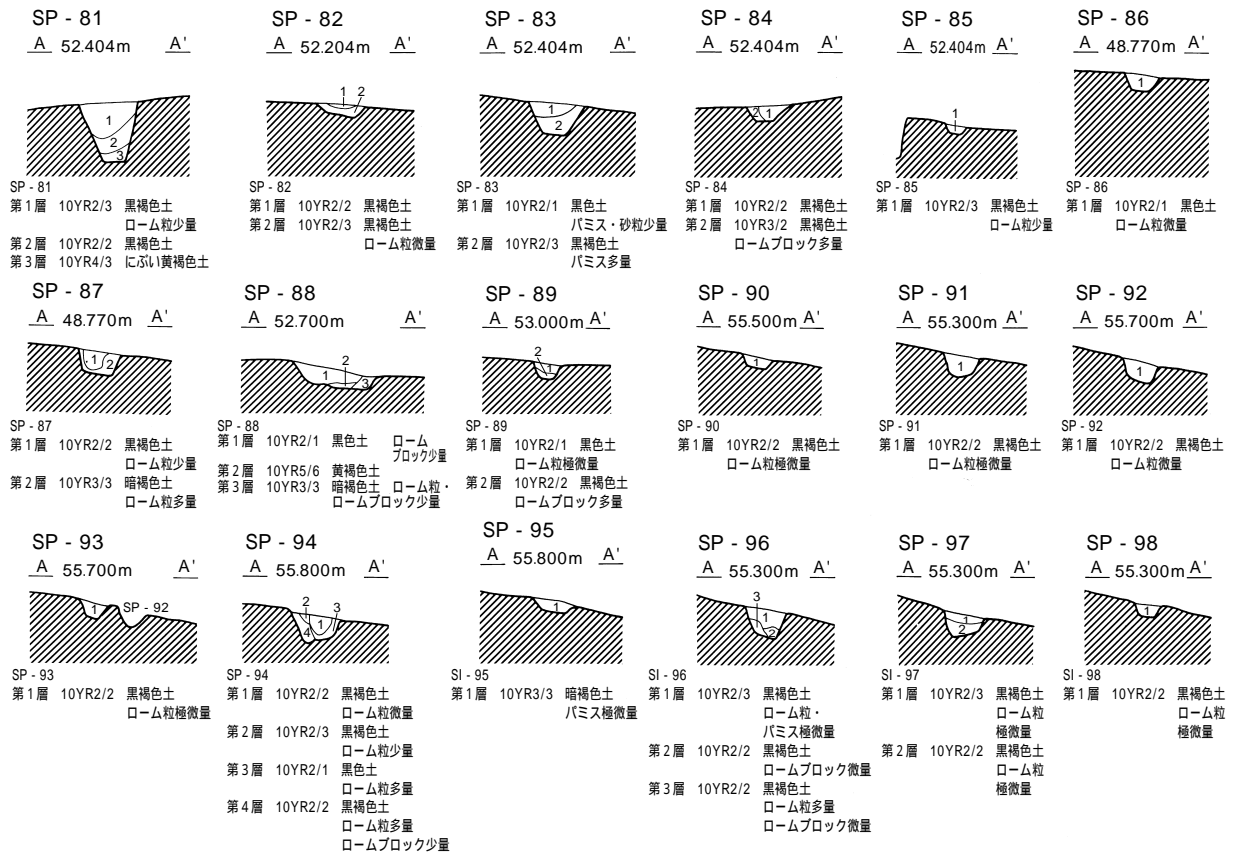
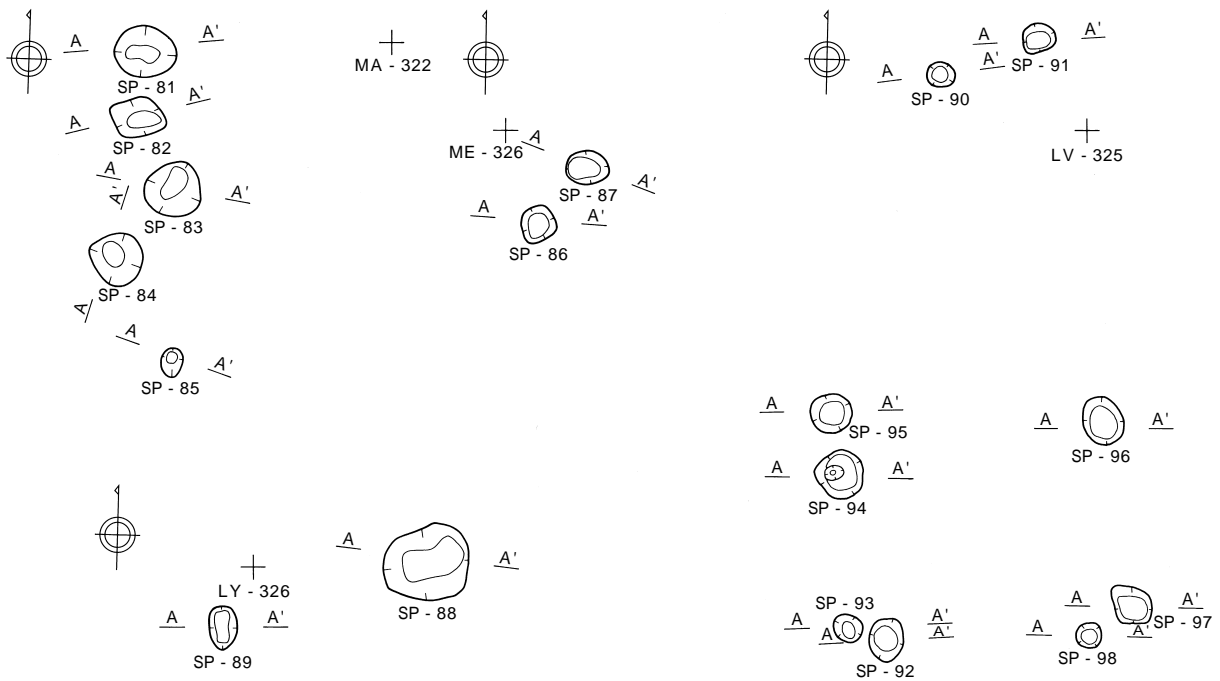
[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、36×32×54cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を多量に混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。



第534図 SP - 81 ~ 98



S P - 101 (第535図)

[位置] グリッドLP - 329で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、44×40×60cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを多量に混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 102 (第535図)

[位置] グリッドLP - 329・330で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、36×36×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 103 (第535図)

[位置] グリッドLP - 328で検出した。

[重複] S I - 108、S P - 104と重複している。新旧関係は、S I - 108 < S P - 103 < S P - 104である。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、36×28×41cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 暗褐色、褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 104 (第535図)

[位置] グリッドLP - 328で検出した。

[重複] S I - 108、S P - 103と重複している。新旧関係は、S I - 108 < S P - 103 < S P - 104である。

[平面形・規模] 円形を呈し、43×25×53cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 暗褐色、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 105 (第535図)

[位置] グリッドLP - 331で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、57×28×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面には、若干の起伏がみられる。

[堆積土] ロームブロック、炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 106 (第535図)

[位置] グリッドLP - 332で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、40×36cmを測る。

S P - 107 (第535図)

[位置] グリッドLP - 333で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、69×34×34cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はxで、段状に立ち上がる部分と、激しく落ち込む部分がみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は、起伏がはげしい。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化物、ロームブロックを混入し、暗褐色を呈する土層、上層は炭化物、ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 108 (第535図)

[位置] グリッドLT - 332で検出した。

[重複] SD - 17とSP - 110、SP - 109と重複している。本遺構がSD - 17とSP - 110の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。SP - 109との新旧関係については、不明である。

[平面形・規模] 不整形を呈し、58×48×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、擂鉢状に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は、起伏がはげしい。

[堆積土] 炭化物、ロームブロックを混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 109 (第535図)

[位置] グリッドLT - 332で検出した。

[重複] SD - 18とSP - 110、SP - 108と重複している。本遺構がSD - 18とSP - 110の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。SP - 108との新旧関係については、不明である。

[平面形・規模] 不整形を呈し、52×36×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は、起伏がはげしい。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化物、ロームブロックを混入し、褐色を呈する土層、上層は炭化物、ロームブロックを混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 110 (第535図)

[位 置] グリッドL T - 332で検出した。

[重 複] S D - 17、S D - 18とS P - 108、S P - 109と重複している。新旧関係については、S D - 17、S D - 18 < S P - 110 < S P - 108、S P - 109である。

[平面形・規模] 不整形を呈し、64×36×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は、若干の起伏がみられる。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色、にぶい黄褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 111 (第535図)

[位 置] グリッドL T - 331で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、40×37×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロック、粘土ブロック、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 112 (第536図)

[位 置] グリッドL U - 331で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、30×24×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

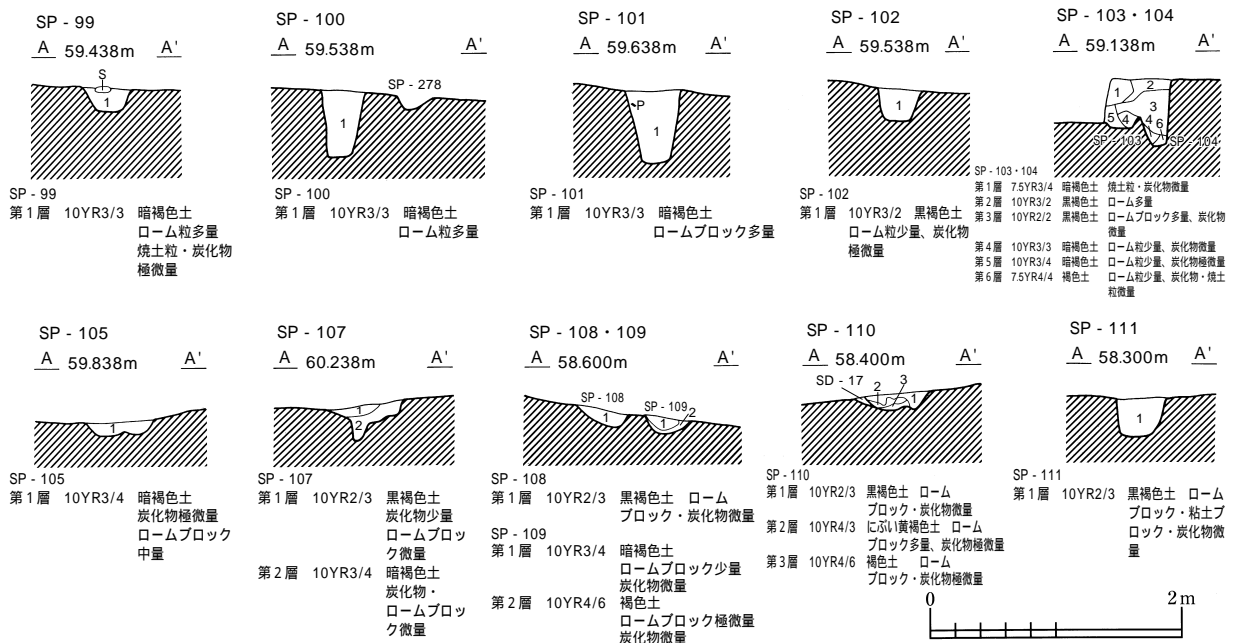
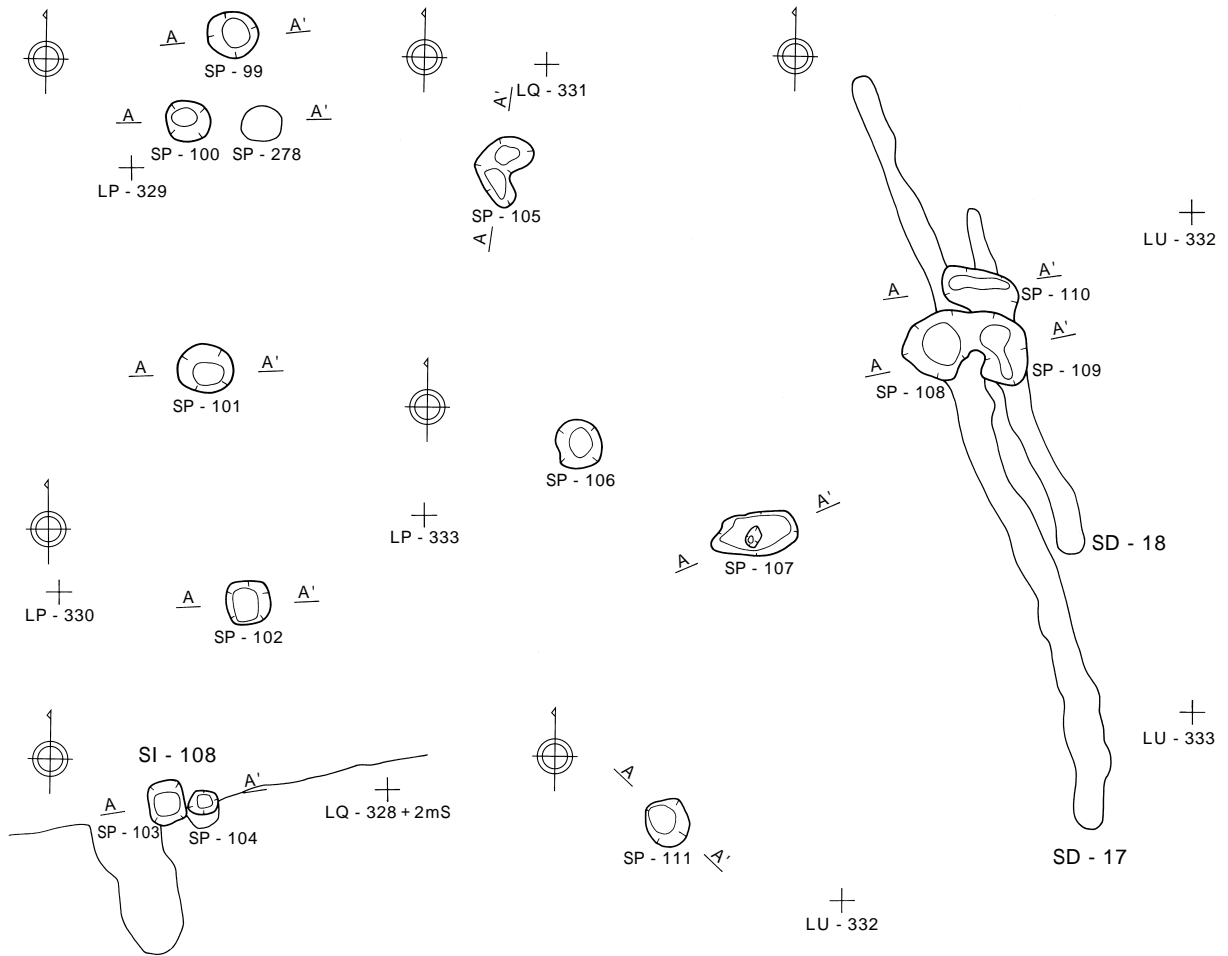
[堆積土] 2層に分層した。ロームブロック、炭化物を混入し、黒褐色、暗褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 113 (第536図)

[位 置] グリッドM D - 333で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、59×48×74cmを測る。



第535図 SP - 99 ~ 111

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。下層はロームブロックを混入し、にぶい黄褐色を呈する土層、中層は炭化物、ローム粒を混入し、黒色を呈する土層、上層はロームブロック、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。

S P - 114 (第536図)

[位 置] グリッドLR - 335で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、37×33×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロック、炭化物を混入し、褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 115 (第536図)

[位 置] グリッドLR - 335・336で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、51×40×36cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はfで、袋状に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。ロームブロック、炭化物を混入し、暗褐色、褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 116 (第536図)

[位 置] グリッドLS - 335で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、33×25×11cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物を混入し、褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 117 (第536図)

[位 置] グリッドLS - 336で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、44×35×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化物を混入し、褐色を呈する土層、上層はロームブロック、焼土粒を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。

S P - 118 (第536図)

[位置] グリッドLS - 335で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、29×25×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。ロームブロック、炭化物を混入し、暗褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然堆積状況を呈すると考えられる。

S P - 119 (第536図)

[位置] グリッドLT - 335で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、35×29×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロック、炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 120 (第536図)

[位置] グリッドLQ - 336で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、31×30×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロック、炭化物、焼土粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 121 (第536図)

[位置] グリッドLP - 336で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、30×29×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、挿鉢状に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化物を混入し、褐色を呈する土層、上層はロームブロック、焼土粒を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 122 (第536図)

[位置] グリッドLP - 336で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、32×26×36cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はgで、V字状に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化物を混入し、褐色を呈する土層、上層はロームブロック、焼土粒を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 123 (第536図)

[位置] グリッドLO・LP - 338で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、40×38×13cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 124 (第537図)

[位置] グリッドMB - 338で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、32×28×19cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 125 (第537図)

[位置] グリッドMB・MC - 338で検出した。

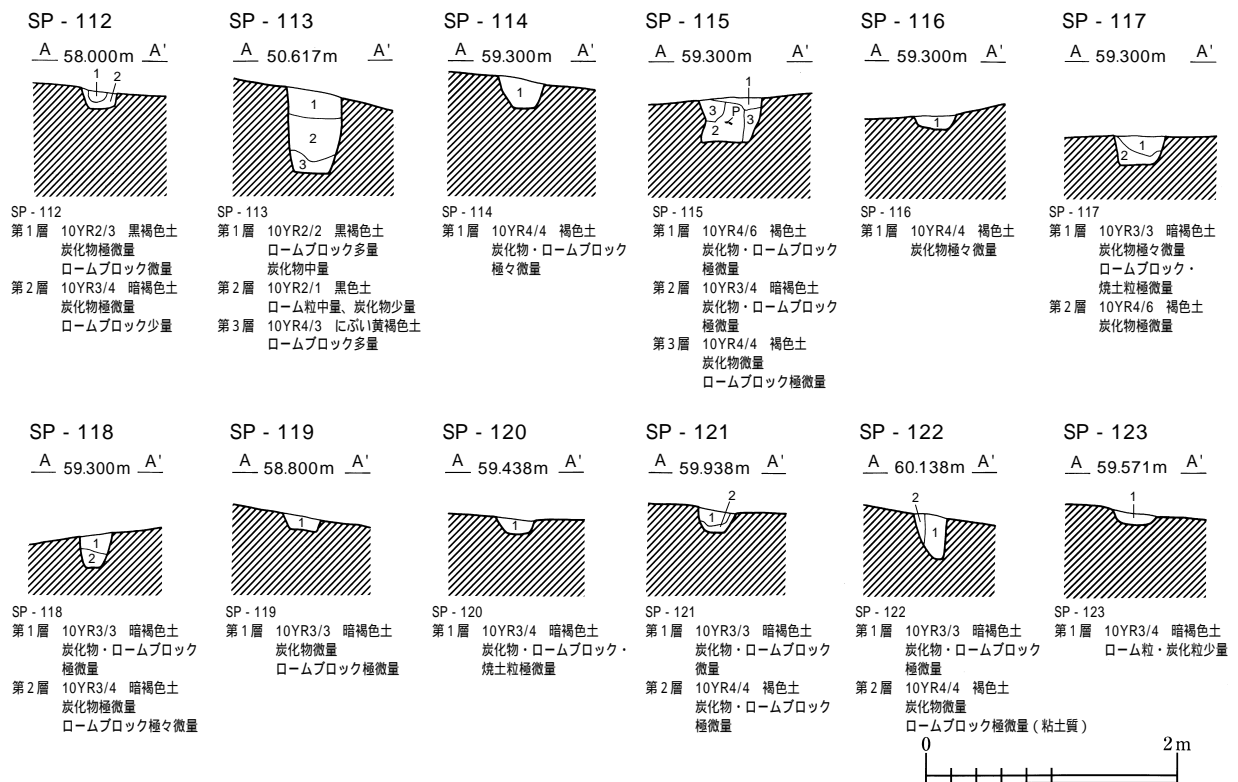
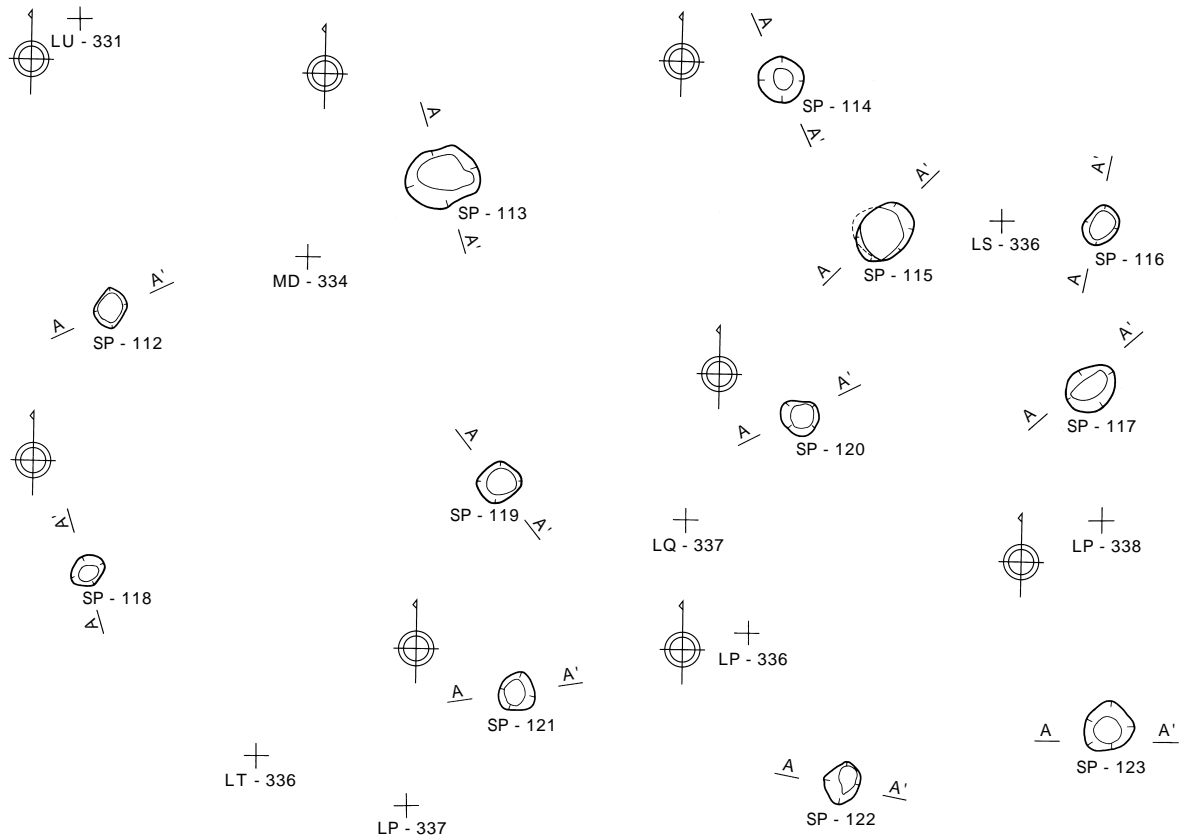
[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、32×26×11cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒を多量に混入し、にぶい黄褐色を呈する土層、上層は黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。



第536図 SP - 112 ~ 123



S P - 126 (第537図)

[位置] グリッドMC - 337で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、34×29×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を多量に混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 127 (第537図)

[位置] グリッドMC - 337で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、42×28×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物、ロームブロックを混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 128 (第537図)

[位置] グリッドMC - 338で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、36×34×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 129 (第537図)

[位置] グリッドMC - 338で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、28×28×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はgで、V字状に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒を混入し、にぶい黄褐色を呈する土層、上層はローム粒を混入し、黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 130 (第537図)

[位置] グリッドMC - 338で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、 $26 \times 22 \times 11\text{cm}$ を測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 131 (第537図)

[位置] グリッドMD - 338で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、 $32 \times 24 \times 14\text{cm}$ を測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 132 (第537図)

[位置] グリッドMB - 338で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、 $28 \times 24 \times 24\text{cm}$ を測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 133 (第537図)

[位置] グリッドMD - 338・339で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、 $32 \times 30 \times 12\text{cm}$ を測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 134 (第537図)

[位置] グリッドMC - 339で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、 $26 \times 18 \times 18\text{cm}$ を測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 135 (第537図)

[位 置] グリッドMC - 339で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、23×20×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 136 (第537図)

[位 置] グリッドMC - 340で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、28×28×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。下層は暗褐色を呈する土層、上層は黒色を呈する土層、壁際に部分的ににぶい黄褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 137 (第537図)

[位 置] グリッドMB・MD - 340で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、38×34×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

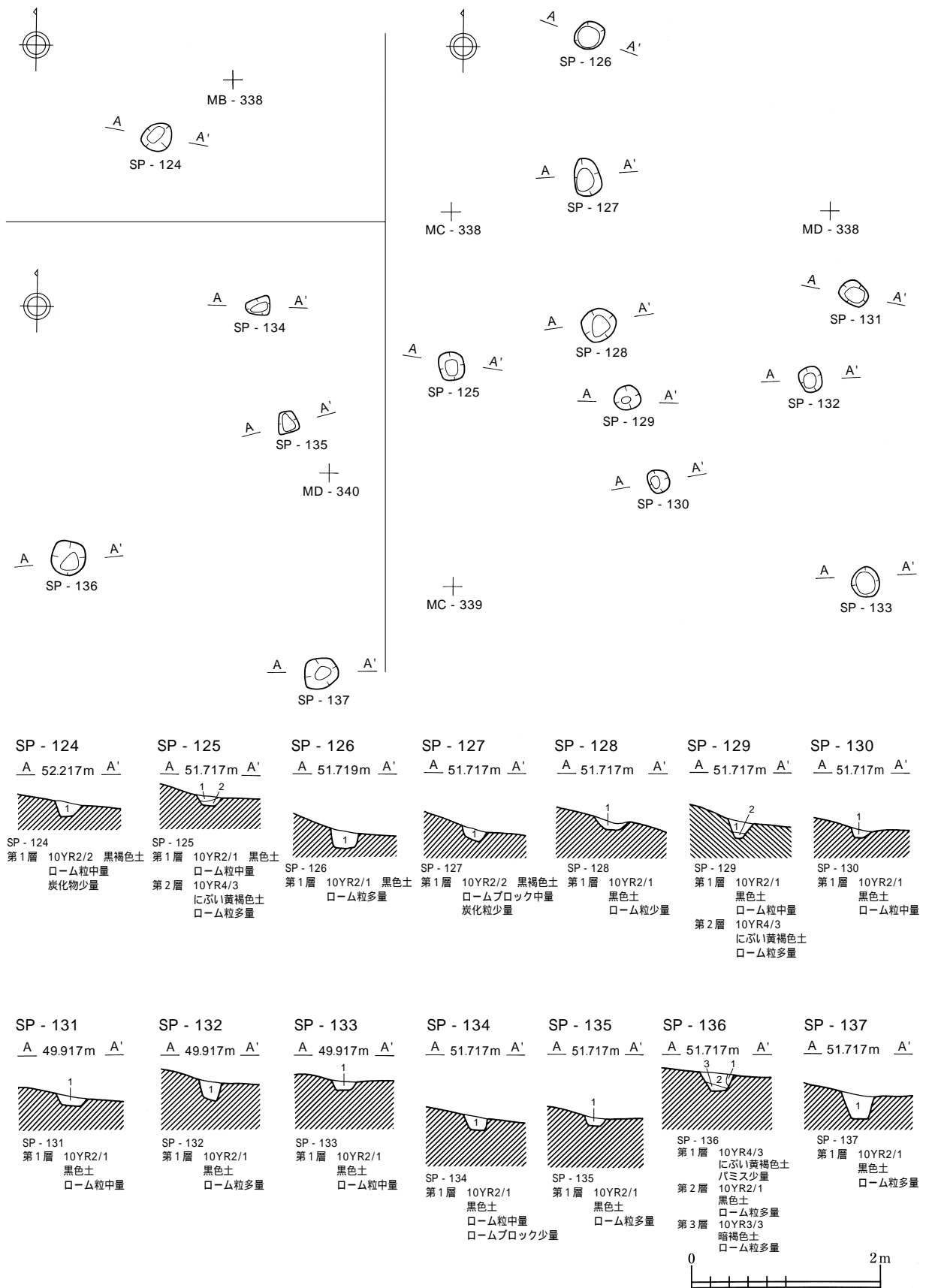
S P - 138 (第538図)

[位 置] グリッドMB - 339で検出した。

[重 複] S I - 139と重複している。本遺構の堆積土がS I - 139に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいにより、明確な平面形・規模は不明であるが、不整楕円形を呈し、86×44×22cmを測ると推定できる。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。



第537図 SP - 124 ~ 137

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 4層に分層した。ローム粒、ロームブロック、炭化物を混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 139 (第538図)

[位 置] グリッドM B - 339で検出した。

[重 複] S I - 138と重複している。本遺構の堆積土がS I - 138の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、86×68×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は、ロームブロック、炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層、上層は、ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 140 (第538図)

[位 置] グリッドM F - 343で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、68×48×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はfで、段状に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。ローム粒を混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 141 (第538図)

[位 置] グリッドL B - 348で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、35×34×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物、ローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 142 (第538図)

[位 置] グリッドL B - 348で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、46×42×25cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。炭化物、ローム粒、ロームブロックを混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 143 (第538図)

[位置] グリッドL B - 348で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、40×39×47cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化粒、ローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 144 (第538図)

[位置] グリッドL B - 348で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、39×37×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。下層と壁際に炭化粒、ローム粒を混入し、褐色を呈する土層が堆積し、それ以外の部分は黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 145 (第538図)

[位置] グリッドL E - 352で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、29×26×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、擂鉢状の立ち上がりがみられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層、上層は炭化物、ローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 146 (第538図)

[位置] グリッドL F - 353で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、34×30×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層、上層はローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 147 (第538図)

[位 置] グリッド L F - 353で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、30×28×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 148 (第538図)

[位 置] グリッド L R - 360で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、30×26×11cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 149 (第538図)

[位 置] グリッド L R・L S - 361で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、29×24×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 150 (第539図)

[位 置] グリッド L S - 359で検出した。

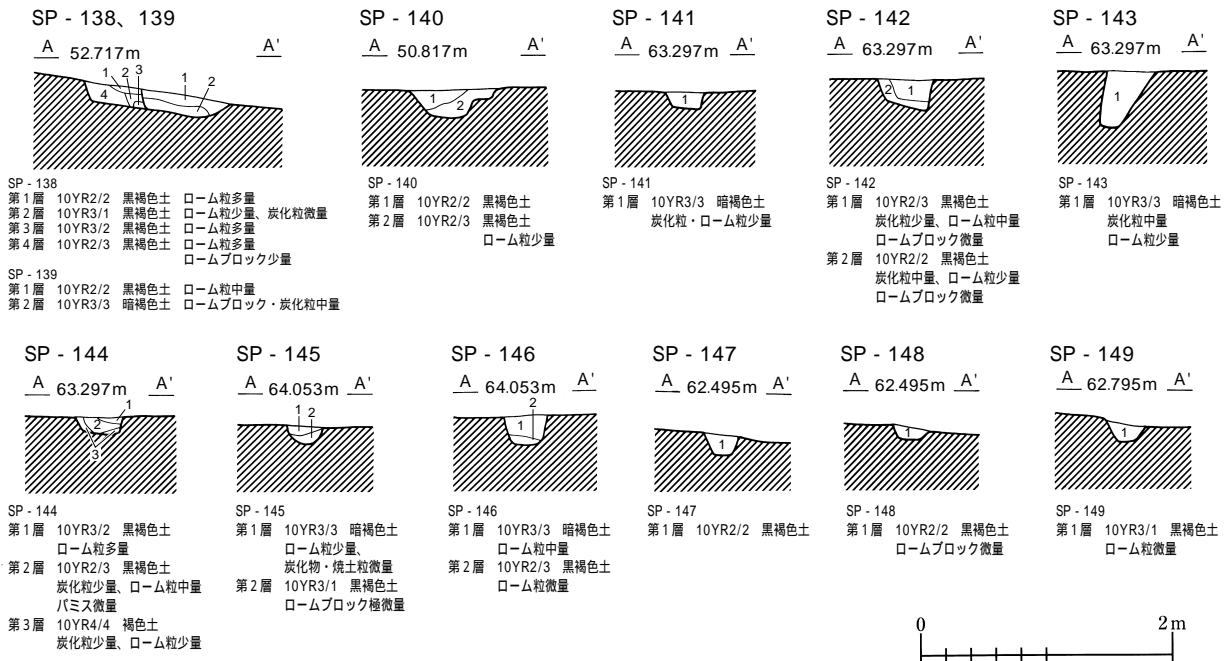
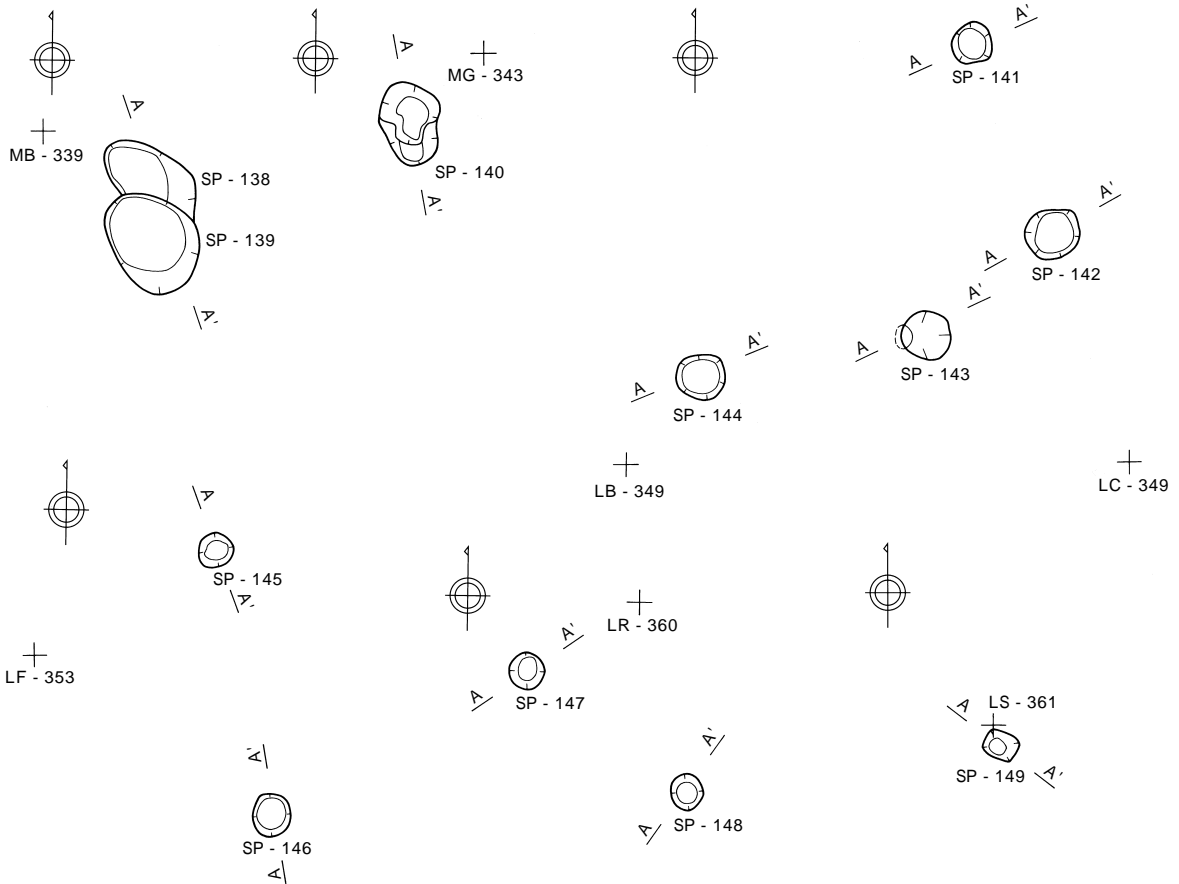
[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、30×26×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。



第538図 SP - 138 ~ 149



S P - 151 (第539図)

[位置] グリッド L S - 359 で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、28×22×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 152 (第539図)

[位置] グリッド L S - 359 で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、32×26×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 153 (第539図)

[位置] グリッド L S - 360 で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、32×26×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 154 (第539図)

[位置] グリッド L S ・ L T - 358 で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、38×32×35cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 155 (第539図)

[位置] グリッド L T - 358 で検出した。

[重複] S X - 03と重複している。本遺構がS X - 03の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 円形を呈し、20×16×36cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 156 (第539図)

[位置] グリッドLT - 358で検出した。

[重複] SX - 03と重複している。本遺構がSX - 03の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、34×30×27cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロック、ローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 157 (第539図)

[位置] グリッドLT - 359で検出した。

[重複] SX - 04と重複している。本遺構がSX - 04の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整形を呈し、68×24×68cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、壁上部で緩やかな立ち上がりがみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 4層に分層した。黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 158 (第539図)

[位置] グリッドL T - 359で検出した。

[重複] S X - 04と重複している。本遺構がS X - 04の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 円形を呈し、36×30×38cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 5層に分層した。褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 159 (第539図)

[位置] グリッドL T - 358で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、22×22×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 160 (第539図)

[位置] グリッドL U - 358で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、22×22×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 161 (第539図)

[位置] グリッドL U - 358で検出した。

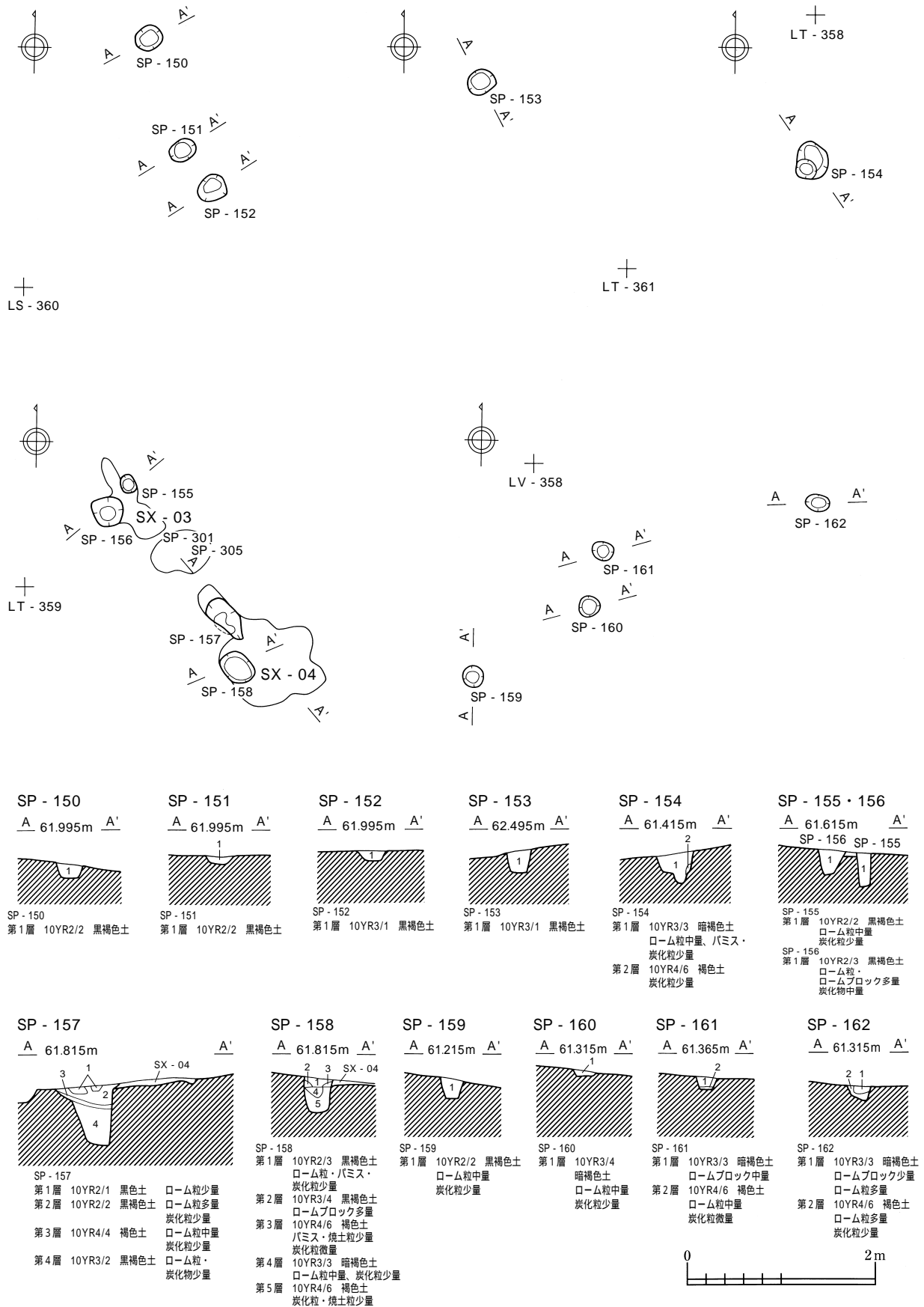
[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、22×20×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒、炭化物を混入し、褐色を呈する土層、中層から上層はロームブロックを混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。



第539図 SP - 150 ~ 162

S P - 162 (第539図)

[位置] グリッドLU - 358で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、26×18×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒、炭化物を混入し、褐色を呈する土層、上層はロームブロック、ローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 163 (第539図)

[位置] グリッドLU - 358で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、52×47×25cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + fで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と袋状に立ち上がる部分がみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。ロームブロック、炭化物を混入し、黒褐色、褐色、暗褐色を呈する土層が混在したような状況を呈する。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 164 (第540図)

[位置] グリッドLV - 357で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、54×54×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 4層に分層した。下層はロームブロック、炭化物を混入し褐色を呈する土層が堆積し、上層は黒褐色、暗褐色を呈する土層が混在したような状況を呈する。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 165 (第540図)

[位置] グリッドLW - 357で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、62×46×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はロームブロック、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層が堆積し、上層はロームブロック、炭化物を混入し、黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 166 (第540図)

[位置] グリッドL T - 359・360で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、50×42×21cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はロームブロック、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層が堆積し、上層はロームブロック、炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 167 (第540図)

[位置] グリッドL V - 360で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、44×39×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロック、炭化物、焼土粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 168 (第540図)

[位置] グリッドL K - 370で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、52×50×25cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はb + hで、壁上部で緩やかな傾斜がみられ、底面は擂鉢状を呈する。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。粘土を混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 169 (第540図)

[位置] グリッドL M - 368で検出した。

[重複] S I - 180と重複している。本遺構が、S I - 180の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、52×50×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。下層と中層は、ローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層、上層は、ロームブロック、炭化物を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 170 (第540図)

[位置] グリッドLP - 368で検出した。

[重複] S P - 171、S I - 183と重複している。重複関係は、S I - 183 < S P - 170 < S P - 171である。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、52×28×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 4層に分層した。下層は暗褐色を主体とする土層、上層は黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 171 (第540図)

[位置] グリッドLP - 368で検出した。

[重複] S P - 170と重複している。重複関係は、S I - 183 < S P - 170 < S P - 171である。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、44×28×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はxで、断面形の起伏が激しい。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 4層に分層した。黒褐色、暗褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 172 (第540図)

[位置] グリッドLP - 368で検出した。

[重複] S I - 183と重複している。本遺構の堆積土が、S I - 183に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切り合いにより、明確な平面形、規模は不明であるが、残存値で24×(14)×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを多量に混入し、褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 173 (第540図)

[位置] グリッドLQ - 368で検出した。

[重複] S I - 183と重複している。本遺構が、S I - 183の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は68×48×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 5層に分層した。黒褐色、暗褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為

的要因が強いと考えられる。

S P - 174 (第540図)

[位置] グリッドLP - 368で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、規模は28×22×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はgで、V字状に近い立ち上がりを呈する。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は褐色を呈する土層、上層は暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 175 (第540図)

[位置] グリッドLP - 367・368で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、規模は32×30×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 176 (第540図)

[位置] グリッドLQ - 367で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は30×30×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒、焼土粒を混入し、褐色を主体する土層、上層はローム粒、焼土粒、炭化物を混入し、黒褐色を主体とする土層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 177 (第540図)

[位置] グリッドLQ - 367で検出した。

[重複] なし。

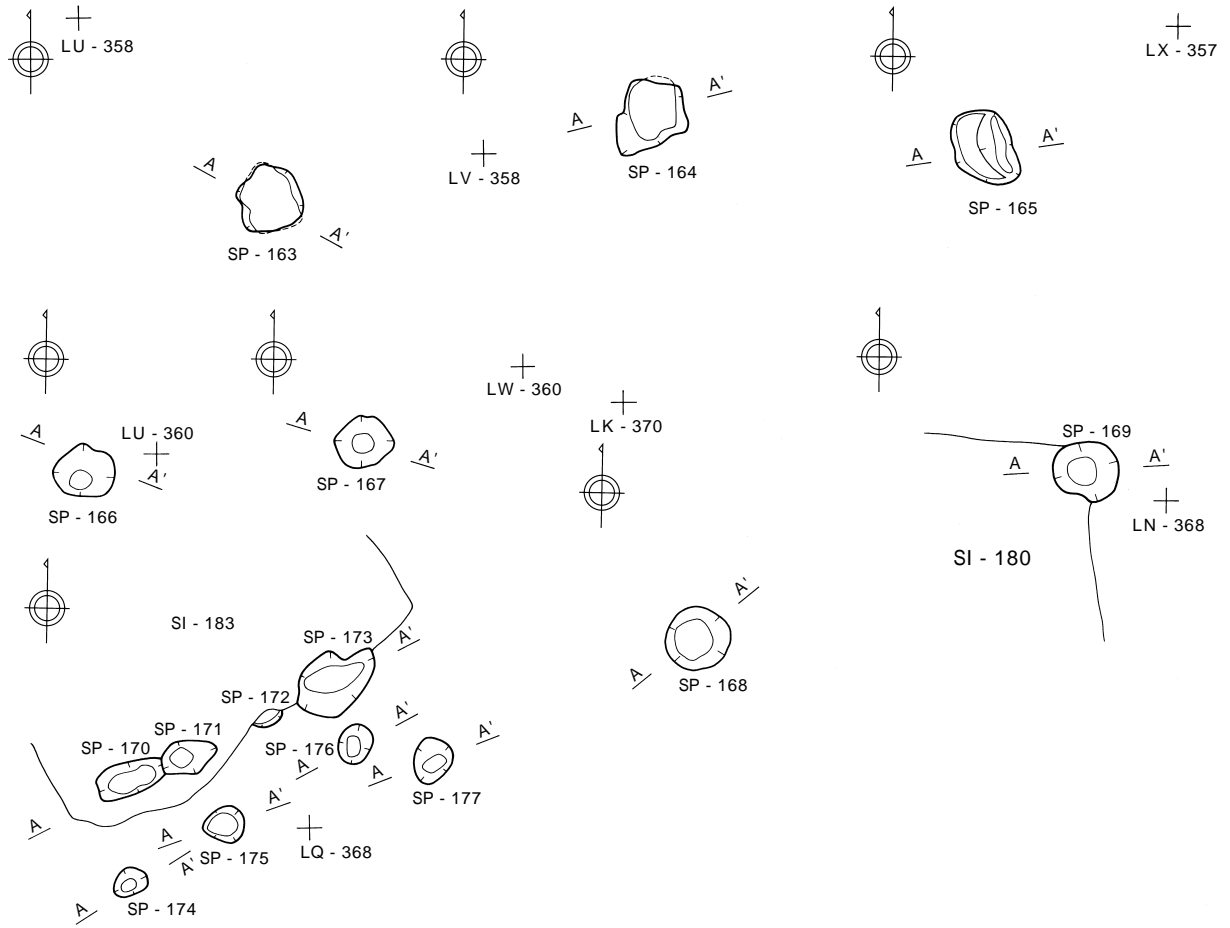
[平面形・規模] 不整形円形を呈し、規模は34×32×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

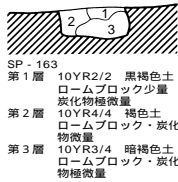
[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

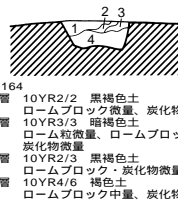




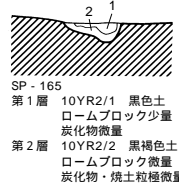
SP - 163  
A 61.496m A'



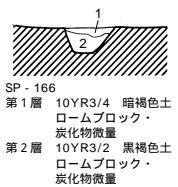
SP - 164  
B 61.196m B'



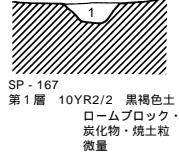
SP - 165  
A 60.056m A'



SP - 166  
A 62.496m A'



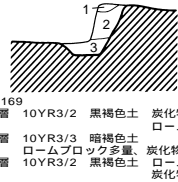
SP - 167  
A 62.296m A'



SP - 168  
A 68.002m A'



SP - 169  
A 66.799m A'



SP - 170・171・172・173  
A 65.899m A'



- SP - 170  
第1層 10YR3/4 暗褐色土  
ローム粒微量
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土  
ロームブロック多量、炭化物微量
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土  
ローム粒、焼土粒微量
- 第4層 7.5YR3/4 暗褐色土  
焼土粒少量、炭化物、  
ローム粒微量
- SP - 171  
第1層 10YR3/2 黒褐色土  
第2層 10YR3/4 暗褐色土  
ローム粒多量、焼土粒極微量
- 第3層 10YR3/3 暗褐色土  
ローム粒、焼土粒、炭化物微量
- 第4層 10YR2/3 黒褐色土  
焼土粒極微量
- SP - 173  
第1層 10YR2/2 黒褐色土  
焼土粒、炭化物微量
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土  
焼土粒微量、ローム粒少量
- 第3層 10YR4/3 にがい黄褐色土  
ローム粒微量
- 第4層 10YR3/4 暗褐色土  
焼土粒少量、炭化物微量
- 第5層 10YR3/3 暗褐色土  
ロームブロック、ローム粒、  
焼土粒、炭化物微量

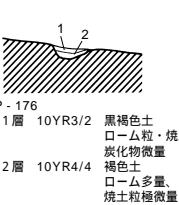
SP - 174  
A 65.899m A'



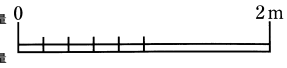
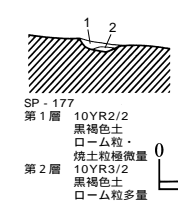
SP - 175  
A 65.899m A'



SP - 176  
A 65.899m A'



SP - 177  
A 65.899m A'



第540図 SP - 163 ~ 177

## S P - 178 (第541図)

[位置] グリッドLQ - 370で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は66×46×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 179 (第541図)

[位置] グリッドLO - 372で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は36×30×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 焼土粒、ローム粒、炭化粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 180 (第541図)

[位置] グリッドLO・LP - 373で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は48×40×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 焼土粒、ローム粒、炭化粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 181 (第541図)

[位置] グリッドLP - 373で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は30×24×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、炭化粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 182 (第541図)

[位置] グリッドLQ - 371で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は48×22×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化粒を混入し、暗褐色を呈する土層、上層はローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然的堆積状況を呈すると考えられる。

S P - 183 (第541図)

[位 置] グリッドLR - 365で検出した。

[重 複] S I - 188と重複している。本遺構がS I - 188に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は56×46×52cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 4層に分層した。下層は暗褐色を主体とする土層、上層は黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 184 (第541図)

[位 置] グリッドLR - 365で検出した。

[重 複] S I - 188と重複している。本遺構がS I - 188に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、規模は50×50×58cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + fで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と袋状に立ち上がる部分がみられる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 4層に分層した。下層は暗褐色を主体とする土層、中層は褐色を呈する土層、上層は黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 185 (第541図)

[位 置] グリッドLU - 363で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は34×22×31cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + fで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と袋状に立ち上がる部分がみられる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物、焼土粒を混入し、褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 186 (第541図)

[位 置] グリッドLV - 363で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は49×46×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。下層から壁際にかけてはロームブロック、炭化物を混入し、褐色を呈する土層、上層は炭化物、ロームブロックを混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 187 (第541図)

[位置] グリッドL V・L W - 364で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は60×45×43cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。下層から中層及び、壁際にかけてはロームブロック、炭化物を混入し、褐色を呈する土層、上層は炭化物、ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 188 (第541図)

[位置] グリッドL W - 364で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は66×57×34cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。下層はロームブロック、炭化物を混入し、褐色を呈する土層、中層はロームブロック、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層、上層は焼土粒、炭化物、ロームブロックを混入し、黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然的堆積状況を呈すると考えられる。

S P - 189 (第541図)

[位置] グリッドL W - 364・365で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は51×42×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

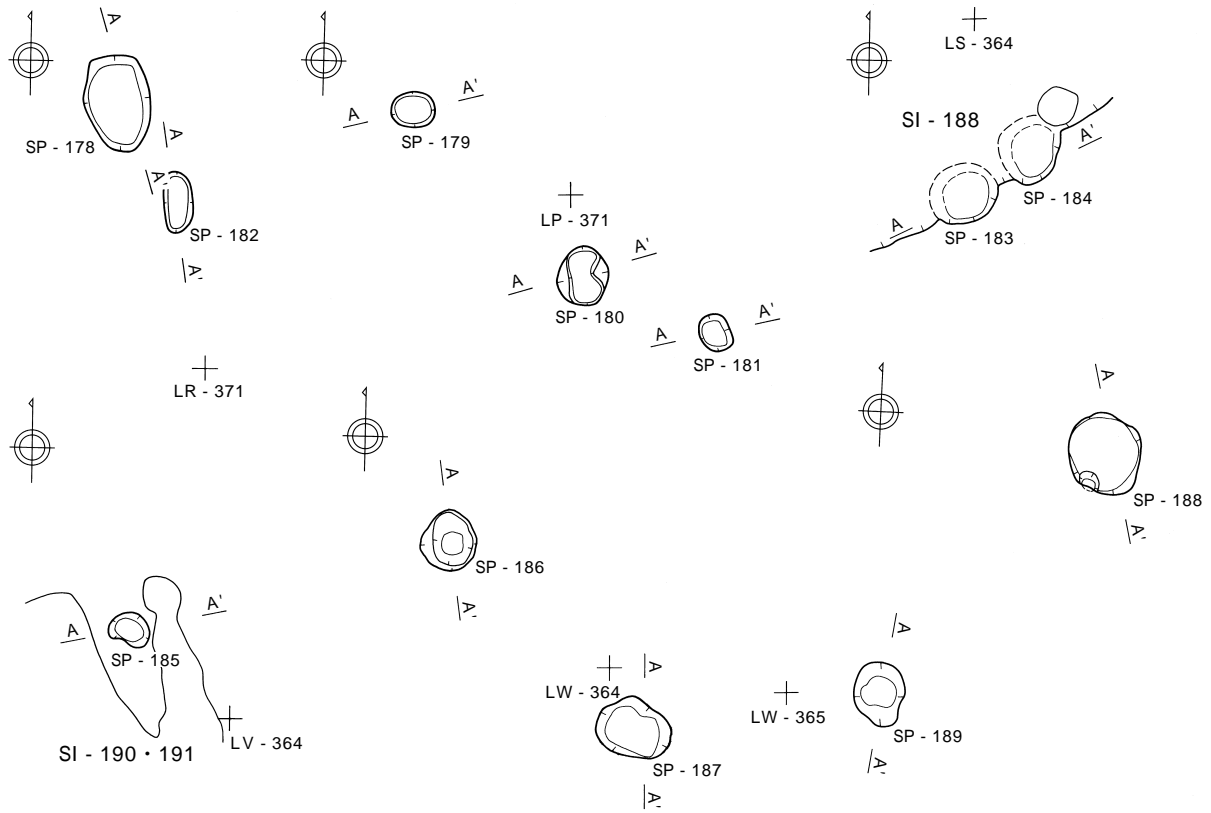
[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロック、焼土粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

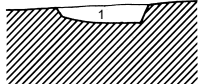
S P - 190 (第542図)

[位置] グリッドL V - 365で検出した。

[重複] なし。



SP - 178  
A 65.499m A'



SP - 178  
第1層 10YR3/1 黒褐色土  
微粒の炭化粒少量

SP - 179  
A 66.799m A'



SP - 179  
第1層 10YR3/4 暗褐色土  
微粒の炭化粒少量  
ローム粒中量

SP - 180  
A 66.799m A'



SP - 180  
第1層 10YR2/2 黒褐色土  
微粒の焼土粒微量  
炭化粒・ローム粒少量

SP - 181  
A 66.799m A'



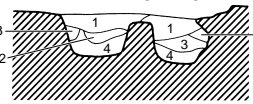
SP - 181  
第1層 10YR2/2 黒褐色土  
ローム粒・微粒の炭  
化粒少量

SP - 182  
A 65.499m A'



SP - 182  
第1層 10YR2/2 黒褐色土  
ローム粒・微粒の炭  
化粒少量  
第2層 10YR3/3 暗褐色土  
微粒の炭化粒少量

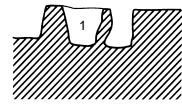
SP - 183・184  
A 64.099m A'



SP - 183  
第1層 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒・炭化物極微量、  
ローム粒少量  
第2層 10YR3/4 暗褐色土  
第3層 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック若干混入  
第4層 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒・炭化物極微量

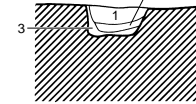
SP - 184  
第1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒中量  
第2層 10YR3/3 暗褐色土  
第3層 10YR4/4 褐色土 焼土粒・炭化物極微量  
第4層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物極微量、ローム粒微量

SP - 185  
A 62.995m A'



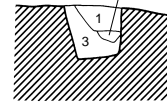
SP - 185  
第1層 10YR4/4 褐色土  
炭化物・焼土粒極微量

SP - 186  
A 62.596m A'



SP - 186  
第1層 10YR2/2 黒褐色土  
ロームブロック・炭化物微量  
第2層 10YR3/3 暗褐色土  
ロームブロック・炭化物微量  
第3層 10YR4/4 褐色土  
ロームブロック・炭化物微量

SP - 187  
A 62.396m A'



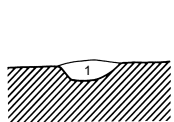
SP - 187  
第1層 10YR2/2 黒褐色土  
ロームブロック・炭化物微量  
第2層 10YR4/4 褐色土  
ロームブロック・炭化物微量  
第3層 10YR4/6 褐色土  
ロームブロック・炭化物微量

SP - 188  
A 62.496m A'

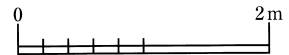


SP - 188  
第1層 10YR2/1 黒色土 炭化物・  
ロームブロック・焼土粒微量  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物・  
ロームブロック微量  
第3層 10YR4/4 褐色土 炭化物・  
ロームブロック極微量

SP - 189  
A 62.496m A'



SP - 189  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物・  
ロームブロック少量、焼土粒微量



第541図 SP - 178 ~ 189

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は47×44×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。ロームブロック、炭化物を混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 191 (第542図)

[位置] グリッドME - 364で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は58×50×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒を混入し黒褐色を呈する土層、上層はローム粒を混入し、黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、自然的堆積状況を呈すると考えられる。

S P - 192 (第542図)

[位置] グリッドME - 364で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は36×32×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + eで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と段状に立ち上がる部分がみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 4層に分層した。黒色、褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 193 (第542図)

[位置] グリッドME - 365で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は36×30×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒を多量に混入し、黒褐色を呈する土層、中層から上層は黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 194 (第542図)

[位置] グリッドME - 365で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は40×26×44cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + eで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と段状に立ち上がる部分がみられる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。ローム粒を混入し、暗褐色、黒色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 195 (第542図)

[位 置] グリッドM F - 364で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は38×32×62cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はe + fで、段状に立ち上がる部分と袋状に立ち上がる部分がみられる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 196 (第542図)

[位 置] グリッドM G - 364・365で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は46×40×54cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 197 (第542図)

[位 置] グリッドM F - 364で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は66×56×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 4層に分層した。黒色と暗褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 198 (第542図)

[位 置] グリッドM G - 365で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は31×30×36cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。ローム粒を混入し、黒色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積

は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 199 (第542図)

[位置] グリッドMH - 364で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は34×28×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 200 (第542図)

[位置] グリッドMH - 365で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は27×24×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はgで、V字状に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 201 (第543図)

[位置] グリッドLO - 375で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、規模は26×20×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + eで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と段状に立ち上がる部分がみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物、焼土粒、ロームを混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 202 (第543図)

[位置] グリッドMF - 373で検出した。

[重複] なし。

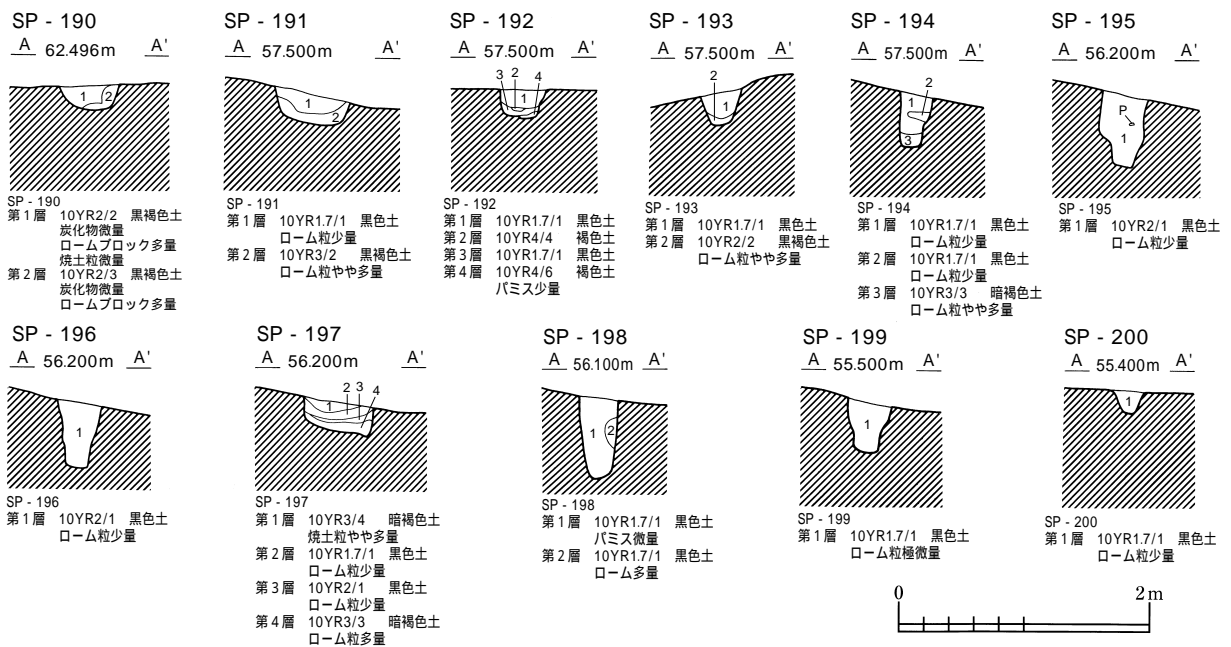
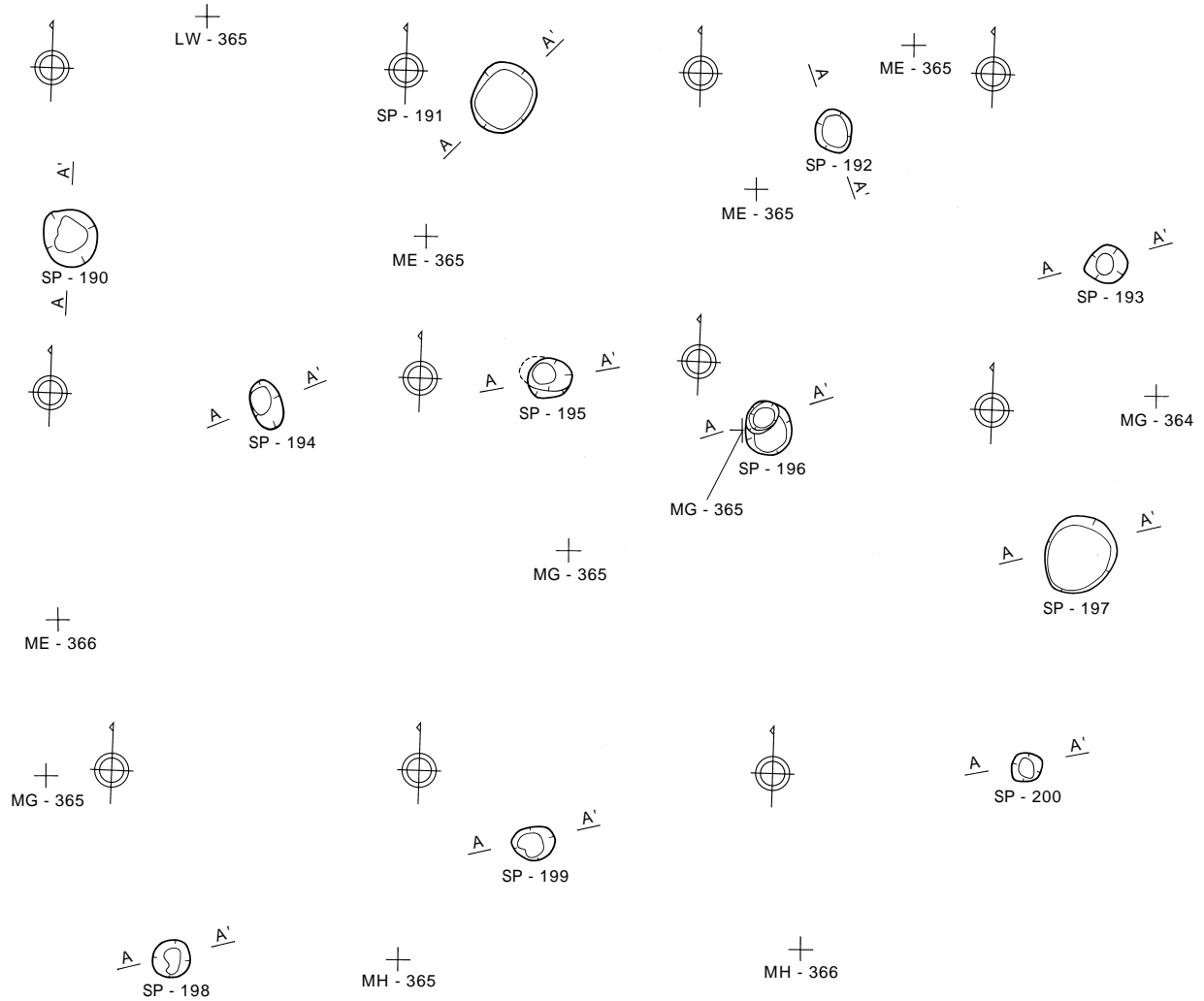
[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は66×50×34cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、挿鉢状の立ち上がりがみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 4層に分層した。黒褐色、黒色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。





第542図 SP - 190 ~ 200

## S P - 203 (第543図)

[位置] グリッドMG - 373で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は48×40×29cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。黒色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 204 (第543図)

[位置] グリッドMG - 373で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は52×36×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 205 (第543図)

[位置] グリッドLL - 376・377で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は74×55×21cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。暗褐色、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 206 (第543図)

[位置] グリッドLU - 377で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は42×36×56cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 5層に分層した。ローム粒、ロームブロックを混入し、暗褐色、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 207 (第543図)

[位置] グリッドLY - 377で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は62×56×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は2段落ちのような状況を呈する。

[堆積土] 5層に分層した。ローム粒、ロームブロックを混入し、暗褐色、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 208 (第543図)

[位 置] グリッドM B - 376で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は60×60×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、挿鉢状の立ち上がりを呈する。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は2段落ちのような状況を呈する。

[堆積土] 粘土を多量に混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 209 (第544図)

[位 置] グリッドL U - 387で検出した。

[重 複] S P - 210と重複している。本遺構の堆積土が、S P - 210に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は30×18×8cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。2次堆積と考えられるT o - a火山灰が混入している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 210 (第544図)

[位 置] グリッドL U - 387で検出した。

[重 複] S P - 209と重複している。本遺構が、S P - 209の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は28×26×22cmを測る。

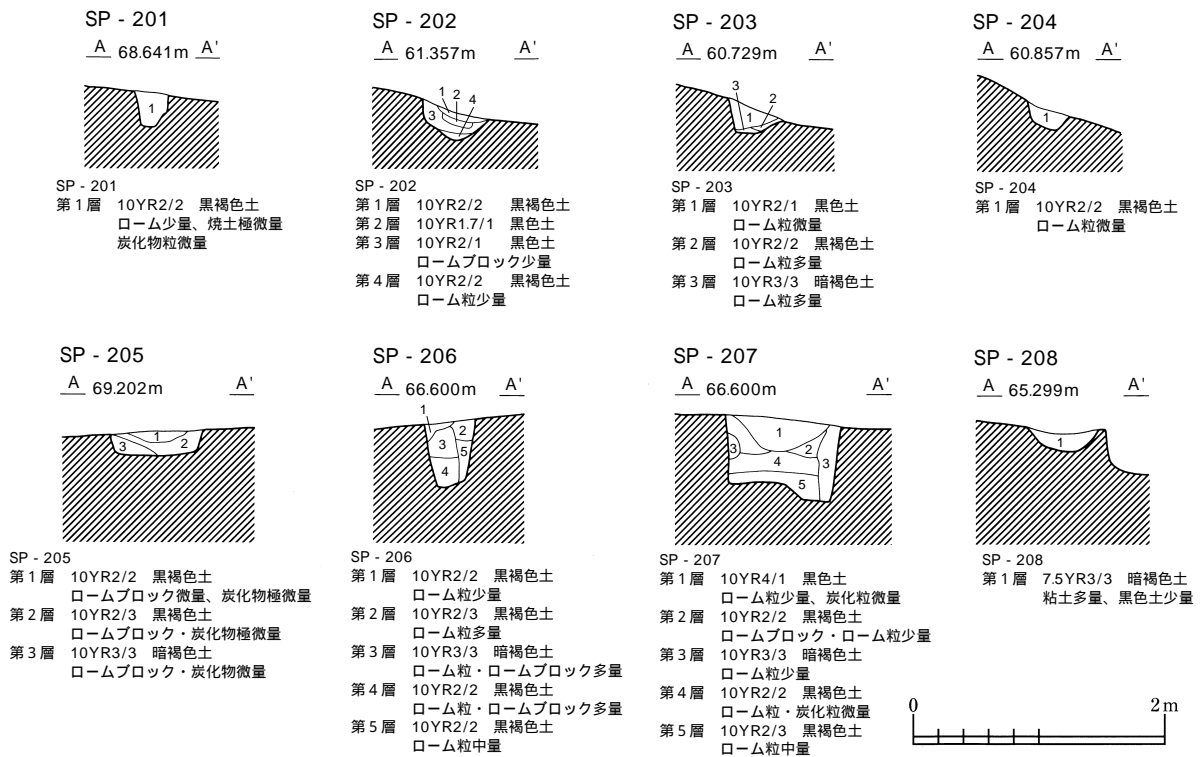
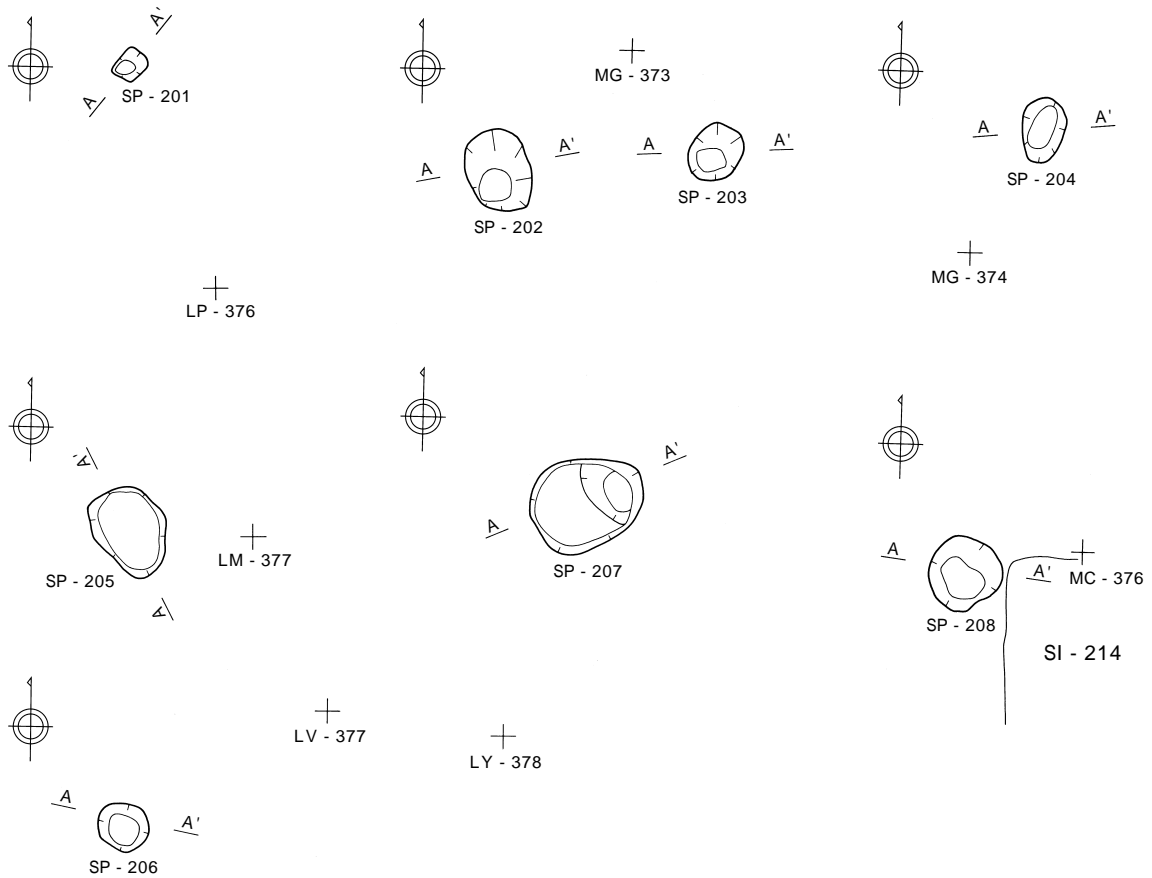
[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は平坦である。

[堆積土] ローム粒、炭化物、焼土粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。2次堆積と考えられるT o - a火山灰が混入している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 211 (第544図)

[位 置] グリッドL U - 387で検出した。



第543図 SP - 201 ~ 208

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は22×20×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、壁上部で緩やかな立ち上がりがみられる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は平坦である。

[堆積土] ロームブロック、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 212 (第544図)

[位 置] グリッドL U - 387・388で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は46×46×38cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層、中層から上層はロームブロック、ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 213 (第544図)

[位 置] グリッドL U - 388で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は24×20×8cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は平坦である。

[堆積土] ローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 214 (第544図)

[位 置] グリッドL U - 387・388で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は24×22×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は平坦である。

[堆積土] ロームブロック、炭化物、焼土粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 215 (第544図)

[位 置] グリッドL U - 388で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は36×30×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はgで、V字状の立ち上がりを呈する。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は平坦である。

[堆積土] ローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 216 (第544図)

[位置] グリッドLU - 393で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は23×18×21cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層、中層～上層は炭化物、焼土粒を混入し、暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 217 (第544図)

[位置] グリッドME - 405で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は64×56×13cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は平坦である。

[堆積土] 4層に分層した。壁際に、黒褐色、褐色を主体とする土層、それ以外の部分には炭化物、焼土粒を混入し、暗褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 218 (第544図)

[位置] グリッドMQ - 421で検出した。

[重複] SK - 251と重複している。本遺構の堆積土が、SK - 251に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切り合いにより、明確な平面形・規模は不明である。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は平坦である。

[堆積土] ロームブロック、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 337 (第545図)

[位置] グリッドLP・LQ - 368で検出した。

[重複] SI - 184と重複している。本遺構がSI - 184の堆積土を切っており、本遺構の方が新し



い。

[平面形・規模] 不整形方を呈し、規模は66×43×35cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 焼土粒、焼土ブロックを混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

SP - 338 (第545図)

[位置] グリッドLQ - 365で検出した。

[重複] SI - 187と重複している。本遺構がSI - 187の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整形円形を呈し、規模は30×26×21cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。暗褐色、褐色、黒褐色を呈する土層が混在したような状況を呈する。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

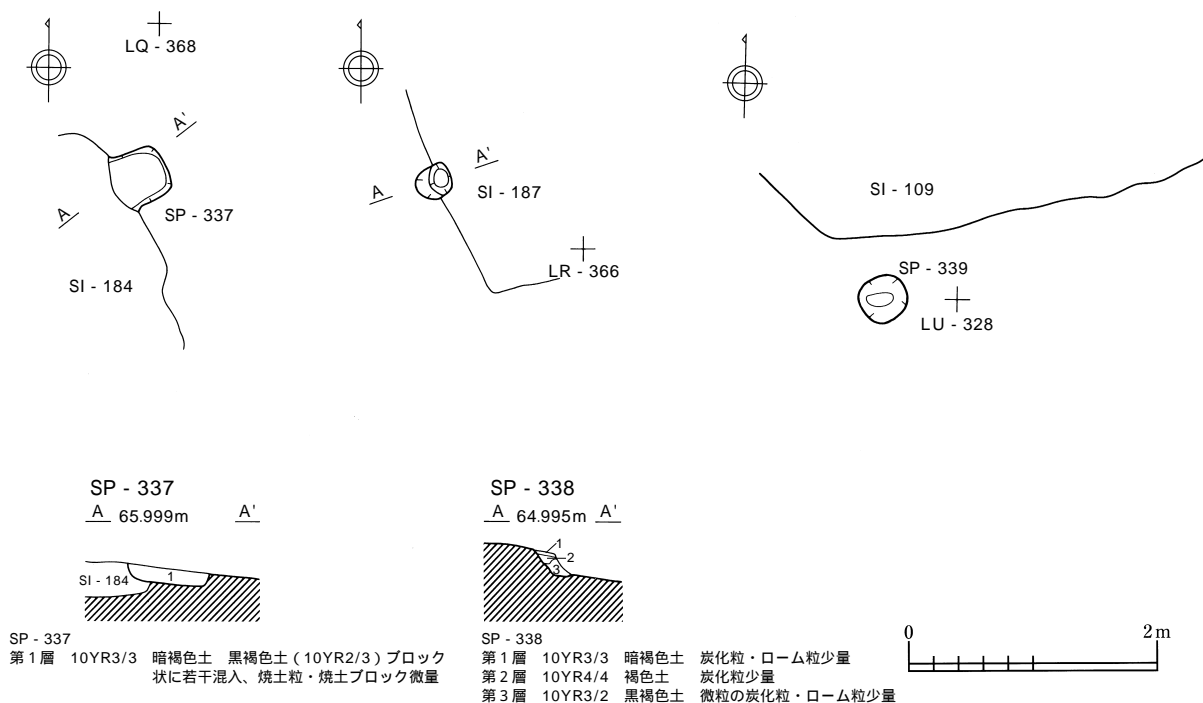
SP - 339 (第545図)

[位置] グリッドLT - 327・328で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は40×40×32cmを測る。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。



第545図 SP - 337 ~ 339



## 5 . 掘立柱建物跡

本報告における掘立柱建物は厳密な意味で倉庫等建物跡と機能したものの以外に住居外に配置する外柱穴ならびに竪穴式住居跡に付属したと考えられる施設等を含めて取り扱った。遺構略号はS Bを付与している。遺構の立地が斜面上に位置することと表土処理の時点で平安時代の生活面を除去した状況からの調査であったため、柱穴配置等において全てを網羅することはできなかった。

### S B - 01 (第546図)

[位置] グリッドL Y - 304 ~ L Y ・ L Z - 305で検出した。

[重複] 検出したピットについて重複はないが、本遺構の軸線上にS I - 38が位置しており、本遺構のピットを切った可能性が考えられる。

[主軸] N - 30° - E。

[規模] 検出部分の規模は1 × 1間で、桁行 ( P 1 - P 2 ) 255cm、梁行 ( P 2 - P 3 ) 210cmを測る。各ピットの規模は、P 1 = 42 × 23 × 28cm、P 2 = 46 × 37 × 27cm、P 3 = 31 × 27 × 25cmを測る。

[堆積土] 各ピットとも暗褐色土主体の堆積土で、焼土粒、炭化物、ローム粒等が混入する。

[関連遺構] 本遺構周辺にS I - 37が位置しており、本遺構の梁行側の軸線と類似した軸線を持つ。S B - 02についてもやや軸線が異なるが、竪穴式住居跡 + 掘立柱建物跡の施設として機能した可能性が考えられる。

### S B - 02 (第546図)

[位置] グリッドL Y - 306 ~ L Z - 306で検出した。

[重複] S B - 01と同様検出したピットについて重複はないが、本遺構の軸線上にS I - 38・39が位置しており、本遺構のピットを切った可能性が考えられる。

[主軸] N - 60° - W。

[規模] 検出部分の規模は2 × 1間で、桁行 ( P 2 - P 4 ) 390cm、梁行 ( P 1 - P 2 ) 235cmを測る。桁行の柱間はP 2 - P 3 ( 180cm )、P 3 - P 4 ( 210cm ) と間隔が一定でない。各ピットの規模は、P 1 = 30 × 25 × 30cm、P 2 = 53 × 40 × 32cm、P 3 = 35 × 34 × 16cm、P 4 = 26 × 25 × 22cmを測る。

[堆積土] 各ピットとも暗褐色土主体の堆積土で、ロームブロック、ローム粒が混入する。

[関連遺構] S B - 01と同様本遺構周辺にS I - 37が位置しており、本遺構の桁行の軸線と類似した軸線を持っている。竪穴式住居跡 + 掘立柱建物跡の施設として機能した可能性が考えられる。

### S B - 03 (第546図)

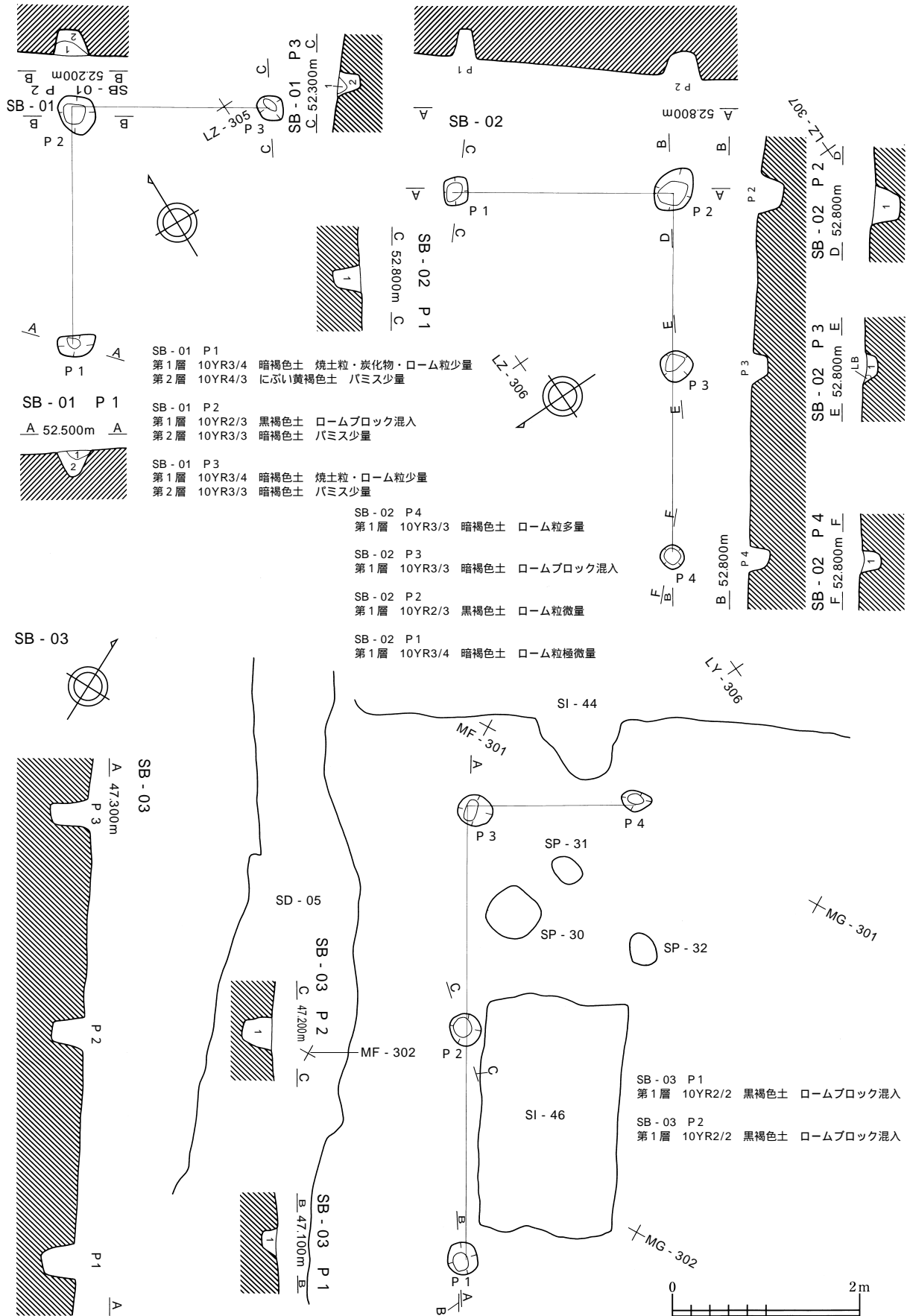
[位置] グリッドM F - 301 ~ 302で検出した。

[重複] なし。

[主軸] N - 30° - W。

[規模] 検出部分の規模は2 × 1間で、桁行 ( P 1 - P 3 ) 480cm、梁行 ( P 3 - P 4 ) 180cmを測る。桁行の柱間はP 1 - P 2 ( 250cm )、P 2 - P 3 ( 230cm ) と間隔が一定でない。各ピットの規模は、P 1 = 35 × 32 × 16cm、P 2 = 35 × 33 × 31cm、P 3 = 37 × 34 × 38cm、P 4 = 34 × 24 × 33cmを測る。

[堆積土] 黒褐色土主体の堆積土で、ロームブロックが混入する。



第546図 SB - 01 ~ 03

[関連遺構] 桁行の軸線上にS I - 44が位置しており、またS I - 44の斜面上部にS D - 05が位置している。セット関係上では竪穴式住居跡+掘立柱建物跡+外周溝の取扱いとなり得る。

S B - 04 (第547図)

[位置] グリッドM E - 306 ~ M F - 307で検出した。

[重複] 本遺構P1がS I - 52と重複している。本遺構のピットが切られて検出しており、本遺構の方が古い。またS D - 08と重複している。本遺構が切っており本遺構の方が新しい。

[主軸] N - 7° - E。

[規模] 一部の柱穴を検出することができなかったが、検出したピットの状況から2×2間であったと考えられ、桁行(P1 - P3)540cm、梁行(P1 - P6)490cmを測る。桁行の柱間はP1 - P2、P2 - P3、P5 - P6いずれも270cmで、梁行の柱間はP3 - P4(270cm)、P6 - P7、P7 - P1が245cmを測り、南北で柱間が異なる。各ピットの規模は、P1 = 40×35×46cm、P2 = 47×42×59cm、P3 = 60×48×56cm、P4 = 44×40×47cm、P6 = 37×30×28cm、P7 = 36×33×42cmを測る。

[堆積土] 暗褐色土が堆積するピットと黒褐色土が堆積するピットがあり、堆積状況が異なる。

[関連遺構] 本遺構の西側ならびに北側の軸線に沿って溝が走っており雨樋溝、もしくは壁溝等本遺構に帰属した可能性が考えられる。

S B - 05 (第547図)

[位置] グリッドM F - 308 ~ 309で検出した。

[重複] なし。

[主軸] N - 12° - E。

[規模] 検出部分の規模は2×1間で、桁行(P1 - P3)375cm、梁行(P1 - P4)170cmを測る。桁行の柱間はP1 - P2(195cm)、P2 - P3(180cm)と間隔が一定でない。各ピットの規模は、P1 = 35×32×46cm、P2 = 24×17×39cm、P3 = 58×45×53cm、P4 = 40×31×30cmを測る。

[関連遺構] S B - 04と同様本遺構についても溝が走っており、帰属した可能性が考えられる。

S B - 06 (第548図)

[位置] グリッドL X - 314 ~ L Y - 314で検出した。

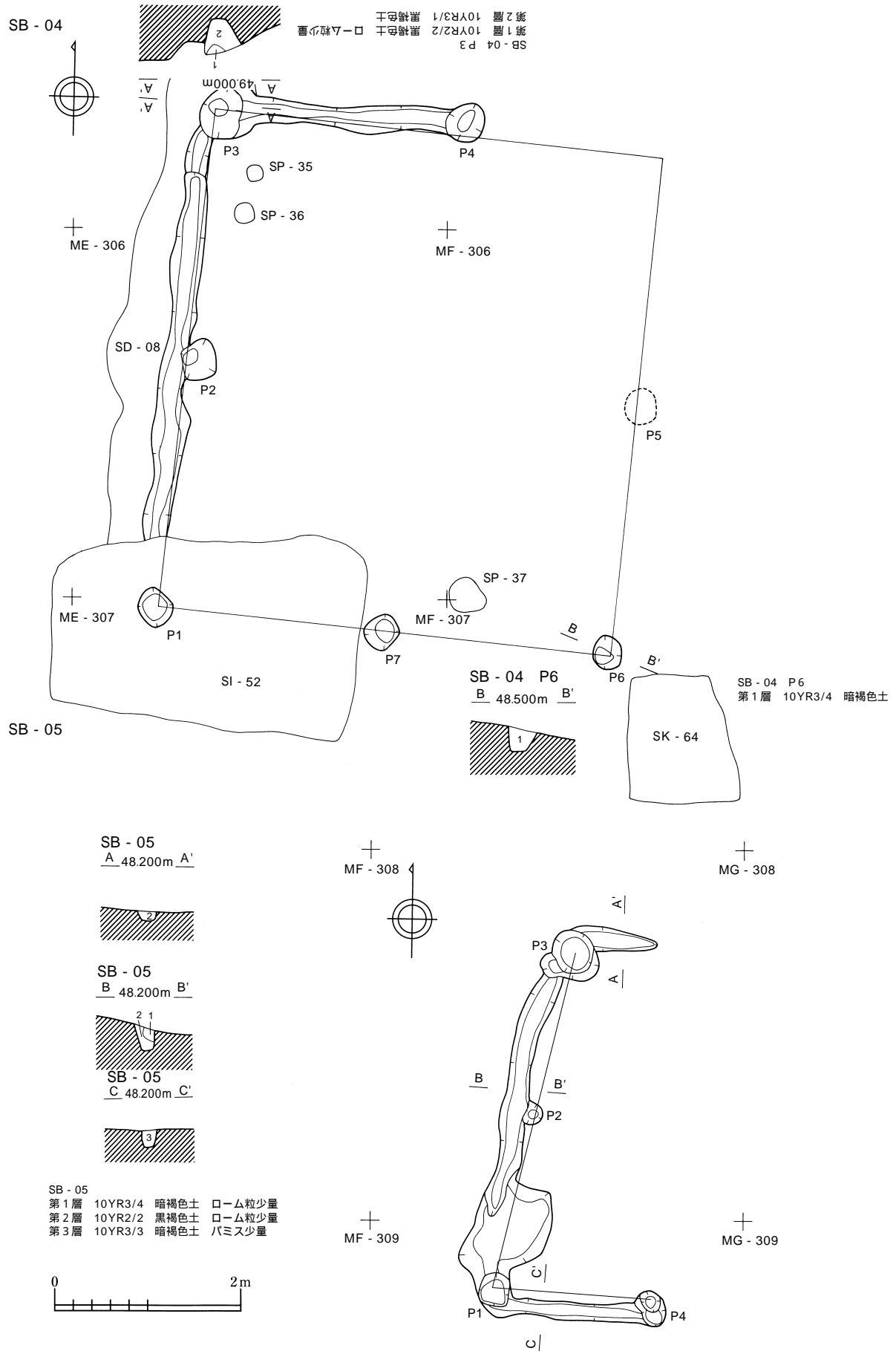
[重複] なし。

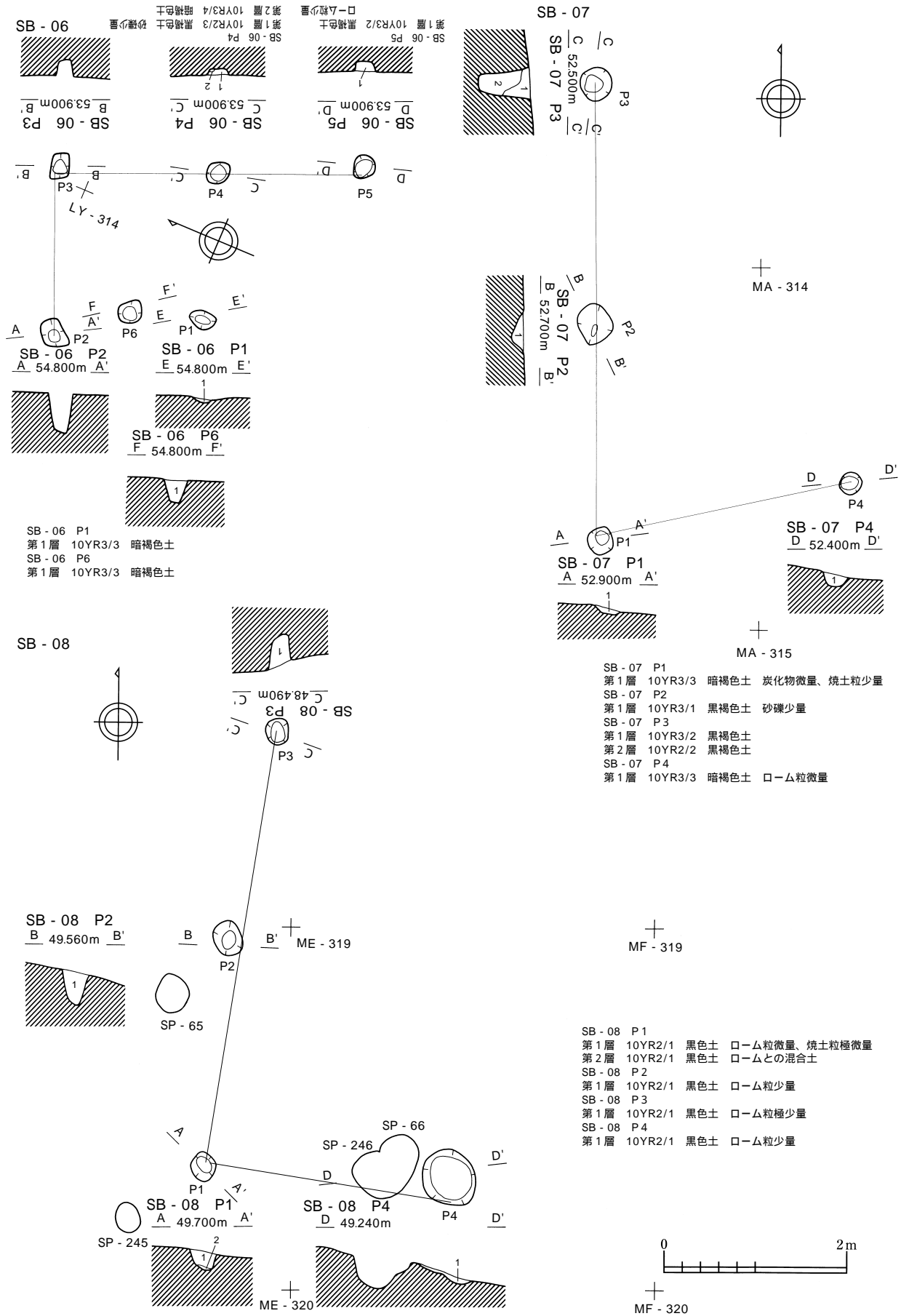
[主軸] N - 22° - W。

[規模] 検出部分の規模は2×1間で、桁行(P3 - P5)335cm、梁行(P2 - P3)180cmを測る。桁行の柱間はP1 - P2(165cm)、P3 - P4(180cm)、P4 - P5(155cm)と間隔が一定でない。各ピットの規模は、P1 = 30×20×4cm、P2 = 31×25×42cm、P3 = 27×21×19cm、P4 = 25×23×7cm、P5 = 27×25×11cm、P6 = 26×23×24cmを測る。

[堆積土] 黒褐色土ならびに暗褐色土が主体の堆積土である。

[関連遺構] 詳細について不明。





第548図 SB - 06 ~ 08

## S B - 07 (第548図)

[位置] グリッドL Z - 313 ~ M A - 314で検出した。

[重複] 検出部分での重複はないが、軸線上にS I - 86が位置しており本遺構のピットが切られた可能性が考えられる。

[主軸] 真北である。

[規模] 検出部分の規模は2 × 1間で、桁行(P1 - P3)500cm、梁行(P1 - P4)285cmを測る。桁行の柱間はP1 - P2(230cm)、P2 - P3(270cm)と間隔が一定でない。各ピットの規模は、P1 = 28 × 28 × 11cm、P2 = 40 × 35 × 12cm、P3 = 37 × 32 × 57cm、P4 = 25 × 24 × 17cmを測る。

[堆積土] 黒褐色土が堆積土の主体をなすピットが多い。P2の堆積土中から砂粒を検出した。

[関連遺構] 本遺構の軸線の延長線上にS I - 79が位置しており、本遺構とほぼ同軸であるため、竪穴式住居跡 + 掘立柱建物跡のセット関係であった可能性が考えられる。また、本遺構周辺部に位置する土坑、ピットについても柱穴状の掘り方を持つ遺構があり、掘立柱建物として機能した可能性についても考えられる。

## S B - 08 (第548図)

[位置] グリッドM D - 318 ~ M E - 319で検出した。

[重複] なし。

[主軸] N - 8° - E。

[規模] 検出部分の規模は2 × 1間で、桁行(P1 - P3)485cm、梁行(P1 - P4)270cmを測る。桁行の柱間はP1 - P2(250cm)、P2 - P3(235cm)と間隔が一定でない。各ピットの規模は、P1 = 34 × 28 × 23cm、P2 = 38 × 30 × 38cm、P3 = 29 × 25 × 40cm、P4 = 65 × 60 × 10cmを測る。

[堆積土] 黒色土主体の堆積土で、ロームブロック、ローム粒が混入する。

[関連遺構] 詳細について不明。

## S B - 09 (第549図)

[位置] グリッドL W - 323 ~ L X - 323で検出した。

[重複] なし。

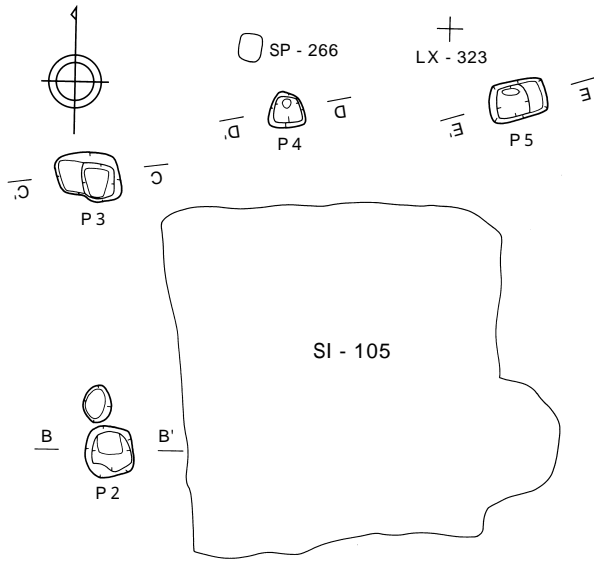
[主軸] N - 7° - W。

[規模] 検出部分の規模は2 × 2間で、桁行(P1 - P3)450cm、梁行(P3 - P5)345cmを測る。桁行の柱間はP1 - P2、P2 - P3いずれも225cmで、梁行の柱間はP3 - P4(165cm)、P4 - P5(180cm)と間隔が一定でない。各ピットの規模は、P1 = 40 × 36 × 24cm、P2 = 40 × 38 × 36cm、P3 = 58 × 40 × 45cm、P4 = 29 × 24 × 14cm、P5 = 47 × 33 × 20cmを測る。

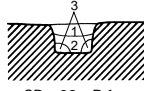
[堆積土] 黒褐色土主体の堆積土で、ロームブロック、ローム粒が混入するピットがある。

[関連遺構] 本遺構の内側にS I - 105が位置しており、本遺構の柱穴配置が一部欠落している検出状況であったことからS I - 105の土留めもしくは外柱穴の可能性はある。

SB - 09



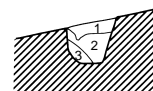
SB - 09 P 1  
A 53.903m A'



SB - 09 P 1  
第1層 10YR2/2  
第2層 10YR1.7/1  
第3層 10YR2/3

黒褐色土 ローム粒混入  
黒色土 ローム粒多量  
黒褐色土 ローム粒多量

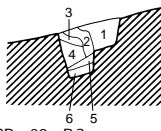
SB - 09 P 2  
B 53.903m B'



SB - 09 P 2  
第1層 10YR2/2  
第2層 10YR2/1  
第3層 10YR5/6

黒褐色土 ロームブロック混入  
黒褐色土 ローム粒多量  
黄褐色土 ローム粒多量

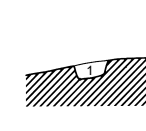
SB - 09 P 3  
C 53.903m C'



SB - 09 P 3  
第1層 10YR2/3  
第2層 10YR4/6  
第3層 10YR2/1  
第4層 10YR2/2  
第5層 10YR1.7/1  
第6層 10YR2/1

黒褐色土 ロームブロック多量  
褐色土  
黒色土  
黒褐色土 ロームブロック多量  
黒色土 ローム粒混入  
黒色土 ローム粒多量

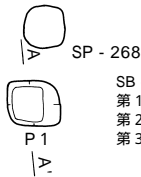
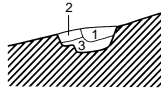
SB - 09 P 4  
D 53.903m D'



SB - 09 P 4  
第1層 10YR2/3

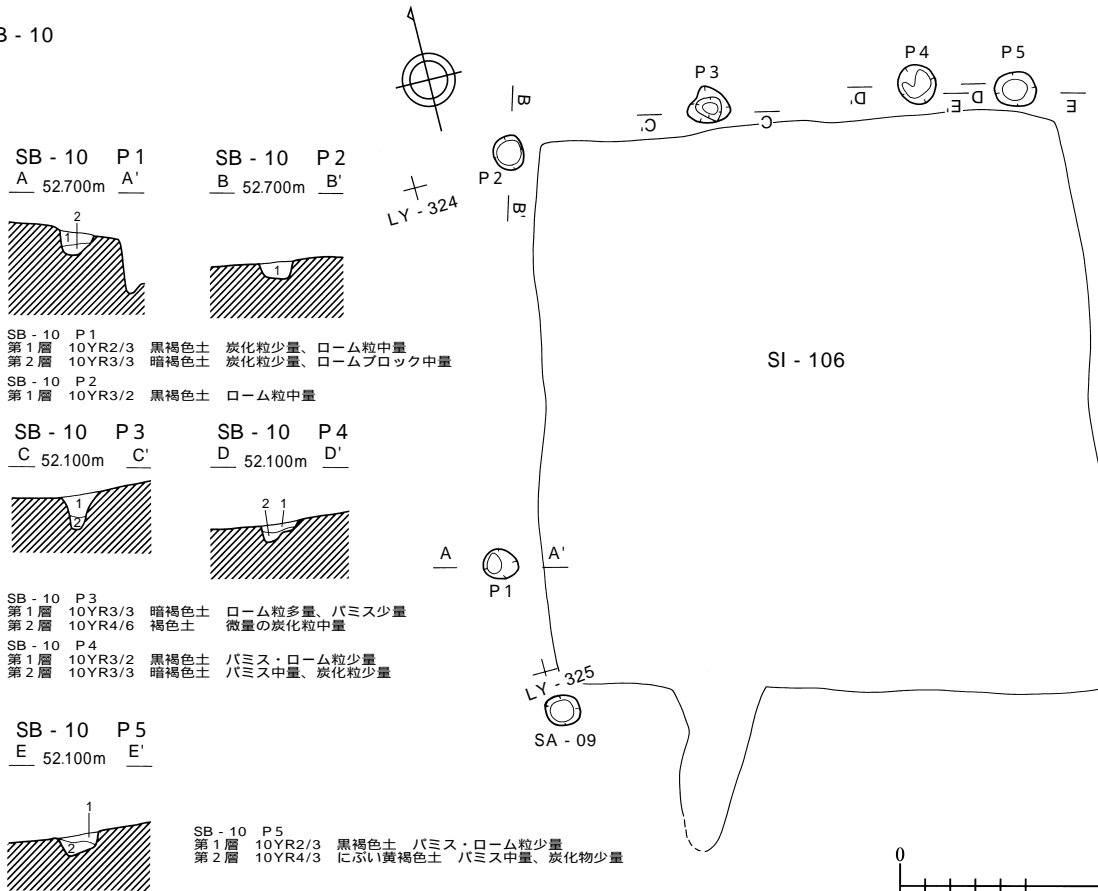
黒褐色土 ローム粒多量、固くしまっている

SB - 09 P 5  
E 53.903m E'

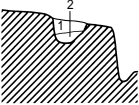


SP - 268  
SB - 09 P 5  
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒微量  
第2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒少量  
第3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒多量、固くしまっている

SB - 10

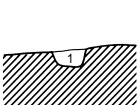


SB - 10 P 1  
A 52.700m A'



SB - 10 P 1  
第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化粒少量、ローム粒中量  
第2層 10YR3/3 暗褐色土 炭化粒少量、ロームブロック中量

SB - 10 P 2  
B 52.700m B'



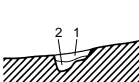
SB - 10 P 2  
第1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒中量

SB - 10 P 3  
C 52.100m C'



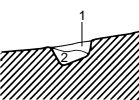
SB - 10 P 3  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多量、パミス少量  
第2層 10YR4/6 褐色土 微量の炭化粒中量

SB - 10 P 4  
D 52.100m D'

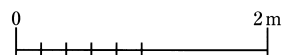


SB - 10 P 4  
第1層 10YR3/2 黒褐色土 パミス・ローム粒少量  
第2層 10YR3/3 暗褐色土 パミス中量、炭化粒少量

SB - 10 P 5  
E 52.100m E'



SB - 10 P 5  
第1層 10YR2/3 黒褐色土、パミス・ローム粒少量  
第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土、パミス中量、炭化物少量



第549図 SB - 09・10

## S B - 10 (第549図)

[位置] グリッドL X - 324 ~ L Z - 324で検出した。

[重複] なし。

[主軸] 東西軸でN - 15° - Eである。

[規模] 検出部分の規模は3 × 1間で、桁行(P2 - P5)400cm、梁行(P1 - P2)340cmを測る。桁行の柱間はP2 - P3(165cm)、P3 - P4(165cm)、P4 - P5(70cm)と一部の柱間が短い。各ピットの規模は、P1 = 28 × 24 × 21cm、P2 = 28 × 23 × 14cm、P3 = 35 × 28 × 30cm、P4 = 33 × 30 × 18cm、P5 = 33 × 27 × 20cmを測る。

[堆積土] 黒褐色土ならびに暗褐色土が堆積の主体を成し、炭化粒、パミス、ロームブロック、ローム粒が混入する。

[関連遺構] 本遺構の内側にS I - 106が位置しており、S B - 09と同様の検出状況であったことからS I - 106の土留めもしくは外柱穴の可能性はある。

## S B - 11 (第550図)

[位置] グリッドM D - 324 ~ M E - 325で検出した。

[重複] 本遺構P4がS K - 128と重複しているが、削平のため詳細については不明である。

[主軸] N - 1° - E。

[規模] 検出部分の規模は2 × 1間で、桁行(P2 - P4)405cm、梁行(P1 - P2)220cmを測る。桁行の柱間はP2 - P3(185cm)、P3 - P4(220cm)を測る。各ピットの規模は、P1 = 57 × 43 × 22cm、P2 = 41 × 39 × 25cm、P3 = 49 × 38 × 21cm、P4 = 47 × 38 × 13cmを測る。

[堆積土] 暗褐色土ならびに褐色土主体の堆積土で、パミス、ロームブロック、ローム粒が混入する。P2については柱設置部分にあたる第1層中から自然礫が2点出土した。

[関連遺構] 詳細について不明。

## S B - 12 (第550図)

[位置] グリッドL P - 330 ~ L Q - 331で検出した。

[重複] なし。

[主軸] N - 7° - W。

[規模] 規模は2 × 2間の総柱の掘立柱建物跡である。桁行(P1 - P3、P5 - P7)450cm、梁行(P3 - P5、P7 - P1)420cmを測る。桁行の柱間はP1 - P2、P2 - P3、P5 - P6、P6 - P7いずれも225cmで、梁行の柱間はP1 - P7、P2 - P9、P3 - P4、P4 - P5、P6 - P9、P7 - P8いずれも210cmを測る。各ピットの規模はP1 = 82 × 80 × 53cm、P2 = 90 × 76 × 61cm、P3 = 83 × 61 × 62cm、P4 = 83 × 82 × 53cm、P5 = 76 × 70 × 38cm、P6 = 108 × 85 × 37cm、P7 = 78 × 75 × 43cm、P8 = 65 × 58 × 45cm、P9 = 65 × 62 × 73cmを測る。

[堆積土] 各ピットとも黒褐色土を主体とする堆積土で、暗褐色土ならびに褐色土が混合する土層堆積を呈している。土層堆積上で柱の抜き取り痕が観察でき、柱根は残存していない。P5の第3、5層、P9の第1層からT o - a火山灰を粒状に検出した。

[関連遺構] 本遺構周辺にS I - 108、S B - 13が位置し、周辺に点在する竪穴式住居跡の倉庫として



帰属した可能性が考えられる。

S B - 13 (第550、551図)

[位置] グリッド L P - 331 ~ L Q - 333 で検出した。

[重複] なし。

[主軸] N - 13° - W。

[規模] 3 × 2 間の総柱の掘立柱建物跡である。桁行 ( P 6 - P 9 ) 660cm、梁行 ( P 4 - P 7 ) 437cmを測る。桁行の柱間は P 1 - P 2、P 2 - P 3、P 3 - P 4、P 6 - P 7、P 7 - P 8、P 8 - P 9、P 11 - P 10がいずれも220cmを測り、棟持柱の P 5 - P 12間が240cmを測り、柱間が異なる。梁行の柱間は P 1 - P 10、P 2 - P 11、P 3 - P 12、P 4 - P 5、P 9 - P 10がいずれも 205cmを測り、P 5 - P 6 (225cm)、P 7 - P 12 (220cm)、P 8 - P 11 (215cm) の柱間は他と異なる。各ピットの規模は、P 1 = 43 × 32 × 34cm、P 2 = 45 × 38 × 53cm、P 3 = 36 × 33 × 30cm、P 4 = 50 × 43 × 50cm、P 5 = 63 × 39 × 25cm、P 6 = 48 × 40 × 35cm、P 7 = 60 × 40 × 22cm、P 8 = 65 × 48 × 39cm、P 9 = 57 × 40 × 26cm、P 10 = 37 × 30 × 55cm、P 11 = 55 × 50 × 35cm、P 12 = 39 × 38 × 37cmを測る。

[堆積土] 一般的に暗褐色土を主体とする堆積土で、黒褐色土主体の堆積土も一部のピットで観察された。ロームブロック、炭化物を混入するものが多く見られる。土層堆積土上から抜き取り痕は確認できなかったが、ピット脇に抜き取り痕上の掘り込みが見られるピット ( P 6、P 7、P 8、P 9、P 11、) がある。

[関連遺構] 本遺構周辺部に S I - 108、S B - 12等が位置し、S B - 12とは時期が異なるが周辺の竪穴式住居跡と関連した可能性が考えられる。

S B - 14 (第552図)

[位置] グリッド L S - 335 で検出した。

[重複] なし。

[主軸] N - 26° - W。

[規模] 検出部分の規模は 1 × 1 間で、桁行 ( P 2 - P 3 ) 265cm、梁行 ( P 1 - P 2 ) 260cmを測る。各ピットの規模は P 1 = 47 × 40 × 93cm、P 2 = 48 × 38 × 56cm、P 3 = 34 × 29 × 40cmを測る。

[堆積土] 暗褐色土主体の堆積土で、ロームブロック、炭化物が混入する。

[関連遺構] 詳細について不明。

S B - 15 (第274・552図)

[位置] グリッド M D - 343 ~ 344 で検出した。

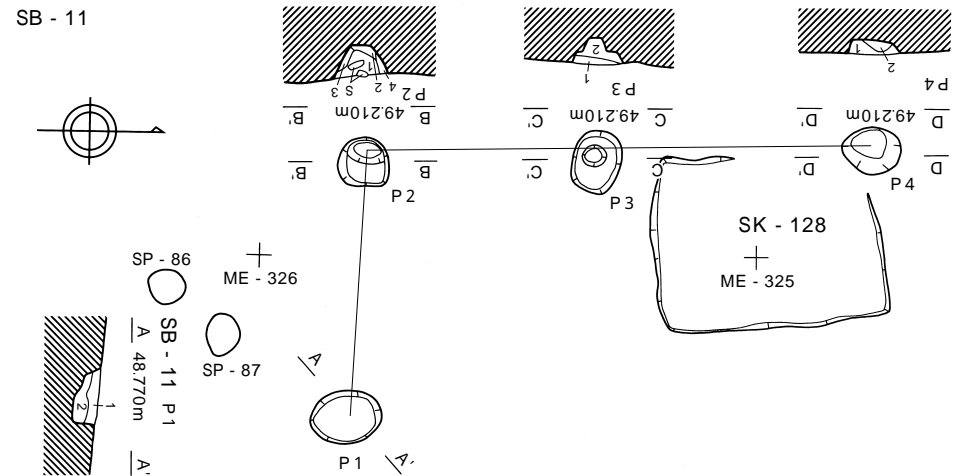
[重複] なし。

[主軸] ほぼ真北である。

[規模] 検出時点で桁行 2 間のみの検出で550cmを測る。柱間は P 1 - P 2 (290cm)、P 2 - P 3 (260cm) を測り、間隔が一定でない。各ピットの規模は、P 1 = 18 × 17 × 11cm、P 2 = 38 × 27 × 18cm、P 3 = 28 × 26 × 20cmを測る。

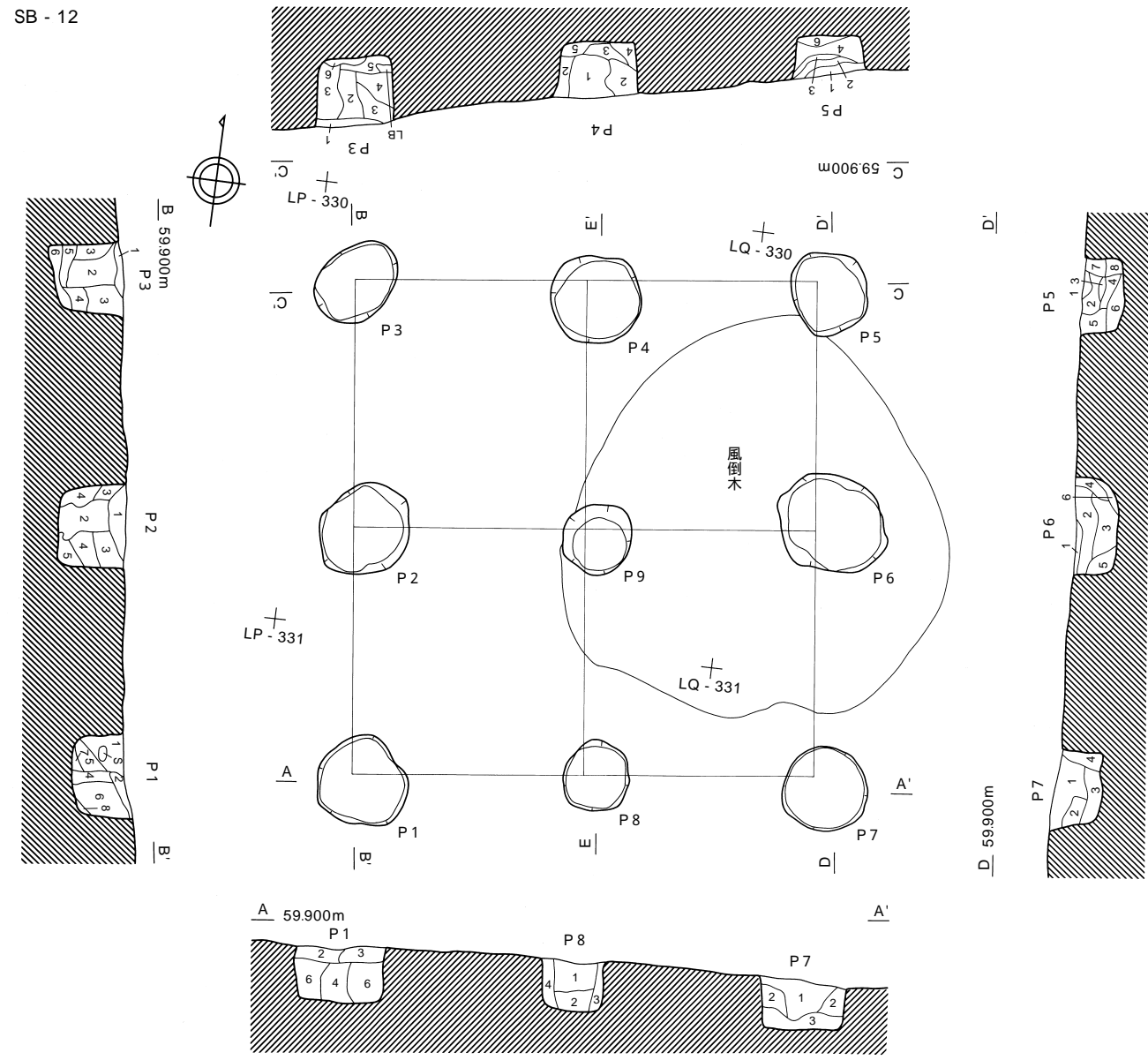
[堆積土] P 1、2は黒色土を主体とする堆積土で、P 3は暗褐色土を主体とする堆積土である。ローム

SB - 11



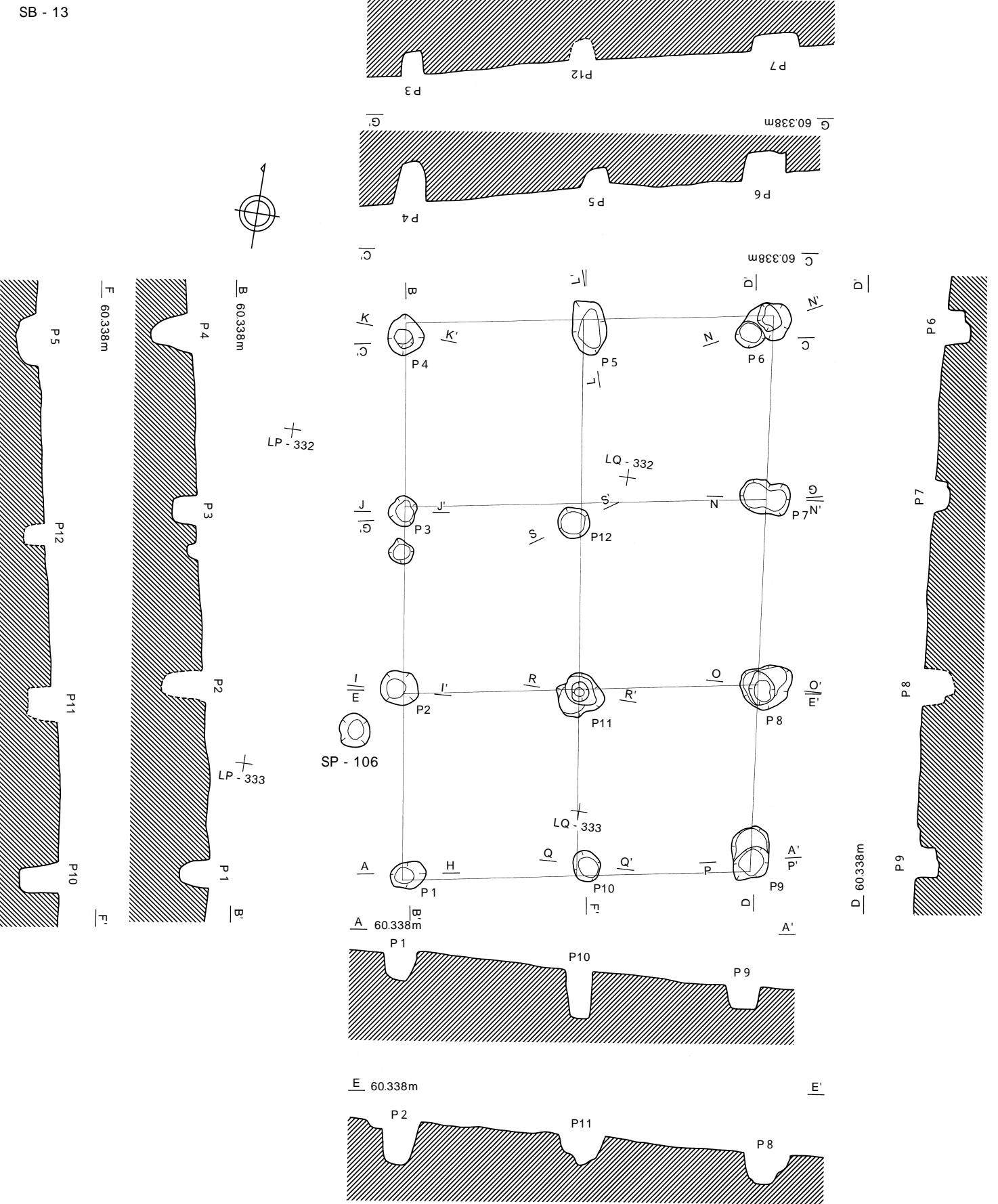
- SB - 11 P1  
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒微量  
 第2層 10YR4/4 褐色土 ローム粒混入
- SB - 11 P2  
 第1層 10YR17/1 黒色土 ローム粒混入  
 第2層 10YR5/8 黄褐色土 崩落土  
 第3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒・バミス  
 第4層 10YR4/4 褐色土 ローム粒・バミス多量
- SB - 11 P3  
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒・バミス・  
 焼土粒混入  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ローム  
 ブロック・バミス多量
- SB - 11 P4  
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒混入  
 第2層 10YR4/4 褐色土 ローム粒・バミス多量

SB - 12

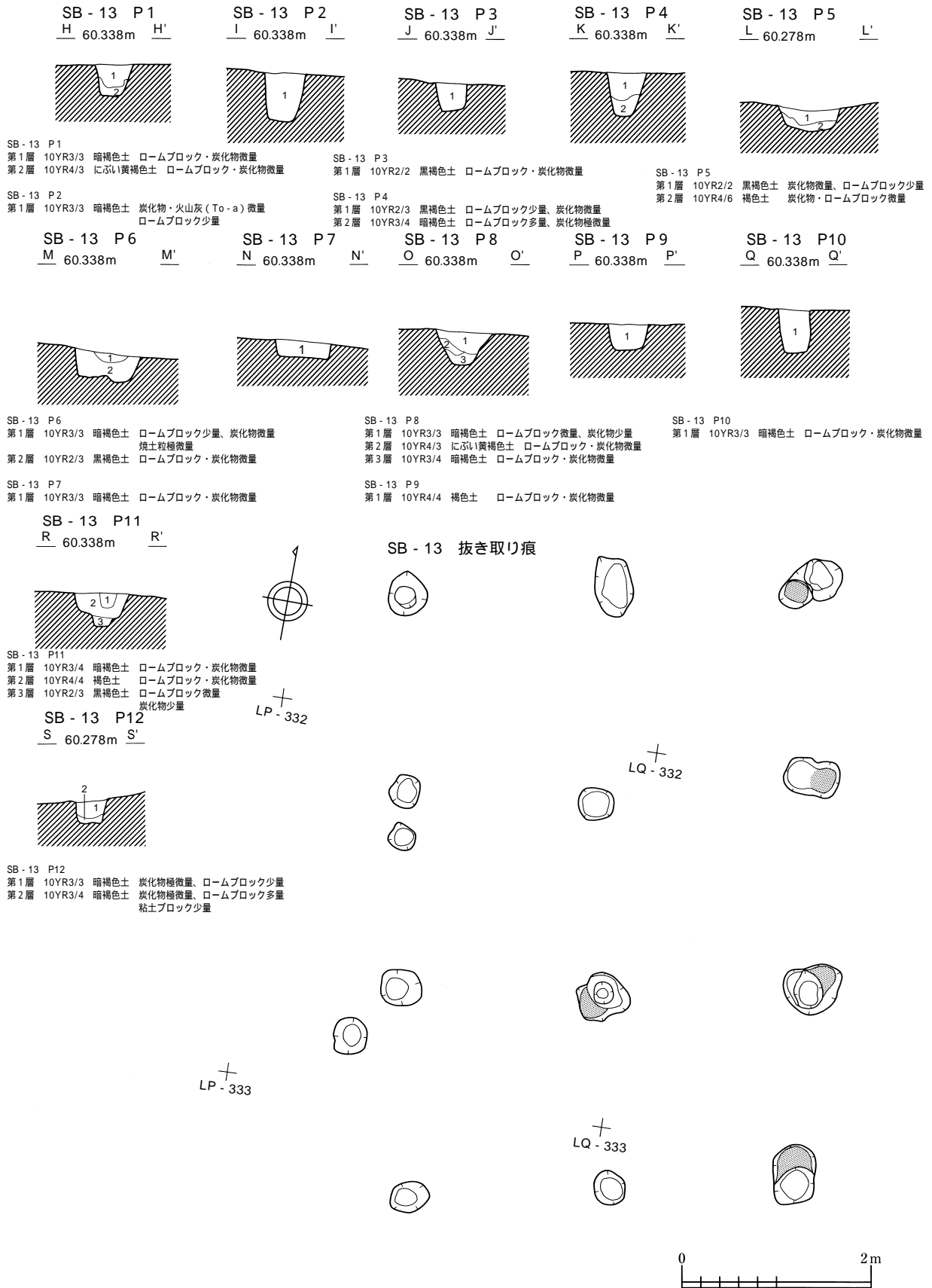


- SB - 12 P1  
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 バミス少量  
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック・バミス少量  
 第3層 10YR2/3 黒褐色土 バミス多量  
 第4層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック少量  
 第5層 10YR3/3 暗褐色土 バミスやや多量  
 第6層 10YR5/6 黄褐色土 黒褐色土少量、ロームブロック・バミス多量  
 第7層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック・バミス少量  
 第8層 10YR2/2黒褐色土と10YR5/6黄褐色土との混合土
- SB - 12 P2  
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 バミス少量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック・バミス少量  
 第3層 10YR4/6褐色土と10YR3/4暗褐色土との混合土、バミス・ローム粒多量  
 第4層 10YR4/6 褐色土 ロームブロック多量  
 第5層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック多量  
 第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・バミス少量
- SB - 12 P3  
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 バミス極微量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒極微量  
 第3層 10YR4/6褐色土と10YR3/4暗褐色土との混合土、バミス・ローム粒多量  
 第4層 10YR4/6 褐色土 ロームブロック多量  
 第5層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック多量  
 第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・バミス少量
- SB - 12 P4  
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 バミス少量  
 第2層 10YR4/6褐色土と10YR3/4暗褐色土との混合土  
 第3層 10YR4/6 褐色土 ロームブロック・バミス多量  
 第4層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多量  
 第5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・バミス少量
- SB - 12 P5  
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 バミス少量  
 第2層 10YR3/4 暗褐色土 バミス少量  
 第3層 10YR2/2 黒褐色土 バミス少量、火山灰 (To-a) 中量  
 第4層 10YR3/3 暗褐色土 バミス多量、ローム粒少量  
 第5層 10YR3/3 暗褐色土 火山灰 (To-a) 少量  
 第6層 10YR2/2 黒褐色土 バミスやや多量  
 第7層 10YR2/3 黒褐色土 バミス極微量  
 第8層 10YR2/1 黒色土
- SB - 12 P6  
 第1層 10YR4/4 暗褐色土 ローム粒多量  
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒・バミス中量  
 第3層 10YR2/3 黒褐色土 バミス多量  
 第4層 10YR2/2 黒褐色土 バミス少量  
 第5層 10YR4/6 褐色土 バミス・ローム粒多量  
 第6層 10YR5/6 黄褐色土 黒褐色土少量
- SB - 12 P7  
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒少量  
 バミス中量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック  
 やや多量  
 第3層 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック  
 ・バミス多量  
 火山灰 (To-a)  
 少量  
 第4層 10YR4/6 褐色土 ローム粒・バミス  
 多量
- SB - 12 P8  
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 バミス極微量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・バミス  
 少量  
 第3層 10YR4/6 褐色土 黒褐色土少量  
 ローム粒多量  
 第4層 10YR3/3 暗褐色土 バミス中量
- SB - 12 P9  
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 バミス・  
 火山灰 (To-a)  
 少量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量  
 黒褐色土少量  
 第3層 10YR4/6 褐色土 ロームブロック  
 多量  
 第4層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多量  
 第5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・バミス  
 少量

SB - 13



第550図 SB - 11 ~ 13



第551図 SB - 13

粒が混入する。

[ 関連遺構 ] S B - 16と同様本遺構の軸線の延長線上に S I - 138が位置し、竪穴式住居跡 + 外周溝 + 掘立柱建物跡のセット関係となる。本遺構が斜面上に立地しており、朝日山 ( 3 ) 遺跡検出の竪穴式住居跡 + 外周溝 + 掘立柱建物跡と同様斜面下側の部分からピットの検出はなかった。

S B - 16 ( 第274・552図 )

[ 位 置 ] グリッド M D - 343 ~ 345で検出した。

[ 重 複 ] なし

[ 主 軸 ] N - 5 ° - E。

[ 規 模 ] S B - 15と同様検出時点で桁行 2 間のみを検出で 540cm を測る。柱間は P 1 - P 2 ( 290cm )、P 2 - P 3 ( 250cm ) を測り、間隔が一定でない。各ピットの規模は、P 1 = 28 × 25 × 25cm、P 2 = 38 × 35 × 56cm、P 3 = 38 × 30 × 38cm を測る。

[ 堆積土 ] 黒色土主体とする堆積土で、ローム粒が混入する。

[ 関連遺構 ] S B - 15と同様本遺構の軸線の延長線上に S I - 138が位置し、竪穴式住居跡 + 外周溝 + 掘立柱建物跡のセット関係となる。本遺構が斜面上に立地しており、S B - 15と同様斜面下側の部分からピットの検出はなかった。

S B - 17 ( 第552図 )

[ 位 置 ] グリッド L C - 354 ~ L D - 355で検出した。

[ 重 複 ] なし。

[ 主 軸 ] N - 8 ° - E。

[ 規 模 ] 検出部分の規模は 1 × 2 間で、桁行 ( P 1 - P 2 ) 350cm、梁行 ( P 1 - P 3 ) 265cm を測る。梁行の柱間は P 1 - P 4 ( 115cm )、P 4 - P 3 ( 150cm ) を測り、間隔が一定でない。各ピットの規模は、P 1 = 42 × 31 × 10cm、P 2 = 30 × 26 × 17cm、P 3 = 29 × 25 × 6 cm、P 4 = 39 × 35 × 14cm を測る。

[ 堆積土 ] 黒褐色土を主体とする堆積土で、ローム粒、炭化粒、パミスが混入する。

[ 関連遺構 ] 詳細について不明。

S B - 18 ( 第553図 )

[ 位 置 ] グリッド L I - 365 ~ L J - 366で検出した。

[ 重 複 ] なし。

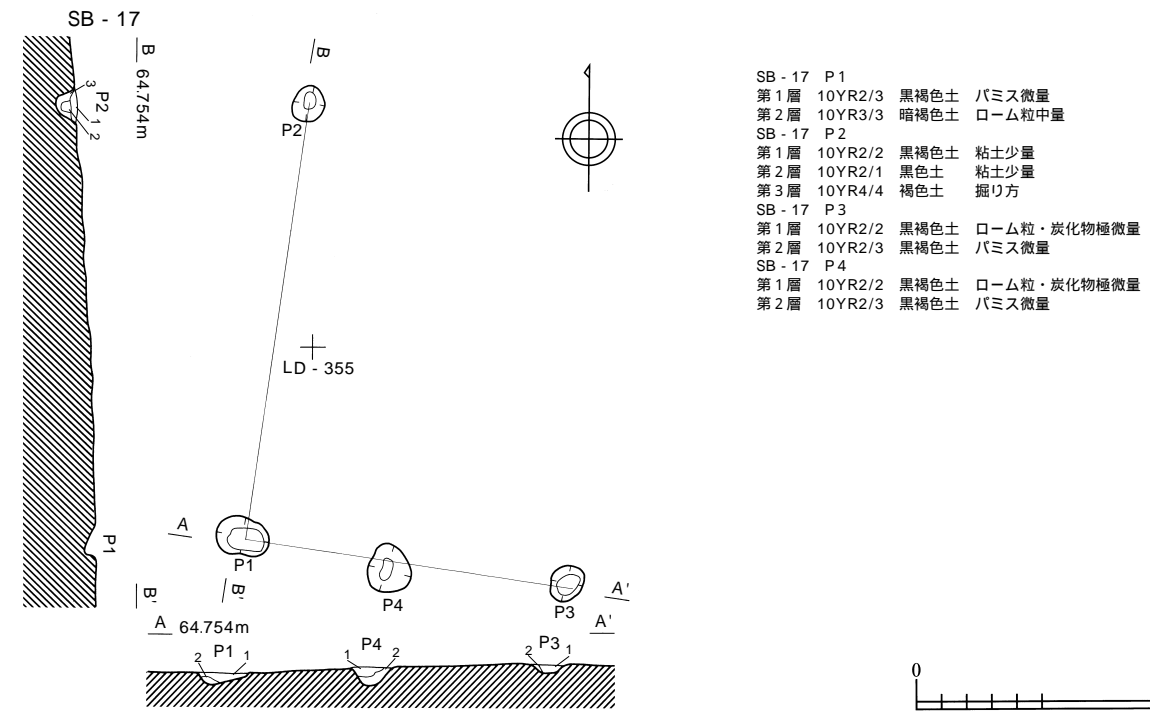
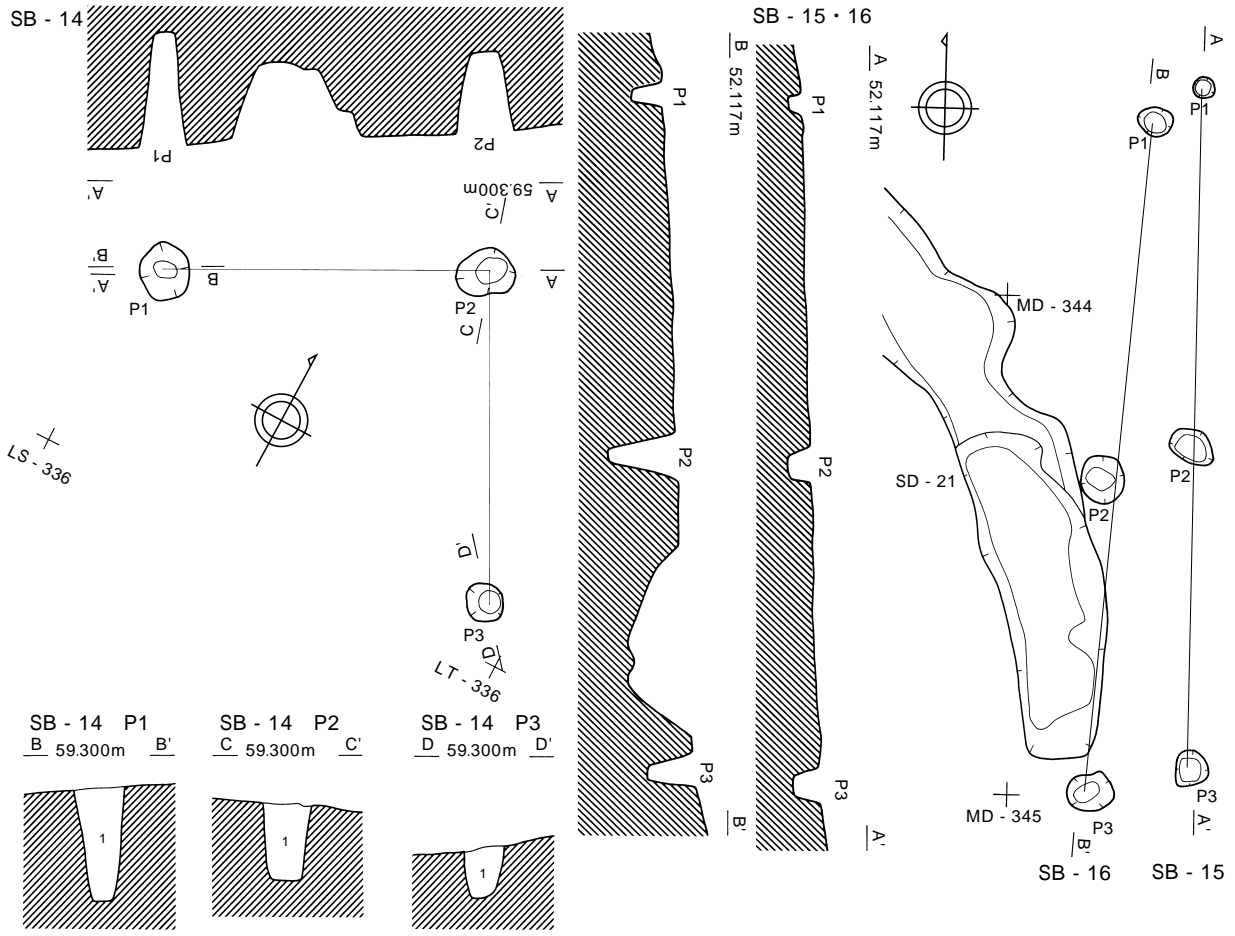
[ 主 軸 ] N - 37 ° - W。

[ 規 模 ] 検出部分の規模は 2 × 1 間で、桁行 ( P 1 - P 3 ) 500cm、梁行 ( P 1 - P 4 ) 210cm を測る。桁行の柱間は P 1 - P 2 ( 220cm )、P 2 - P 3 ( 280cm ) を測り、間隔が一定でない。

各ピットの規模は、P 1 = 43 × 28 × 45cm、P 2 = 30 × 20 × 32cm、P 3 = 26 × 16 × 10cm、P 4 = 32 × 24 × 23cm を測る。

[ 堆積土 ] 黒色土主体の堆積土でロームブロック、ローム粒が混入する。

[ 関連遺構 ] 詳細について不明。



第552図 SB - 14 ~ 17

S B - 19 (第553図)

[位置] グリッドME - 391 ~ MF - 392で検出した。

[重複] なし。

[主軸] 軸線が一定でなく不明。

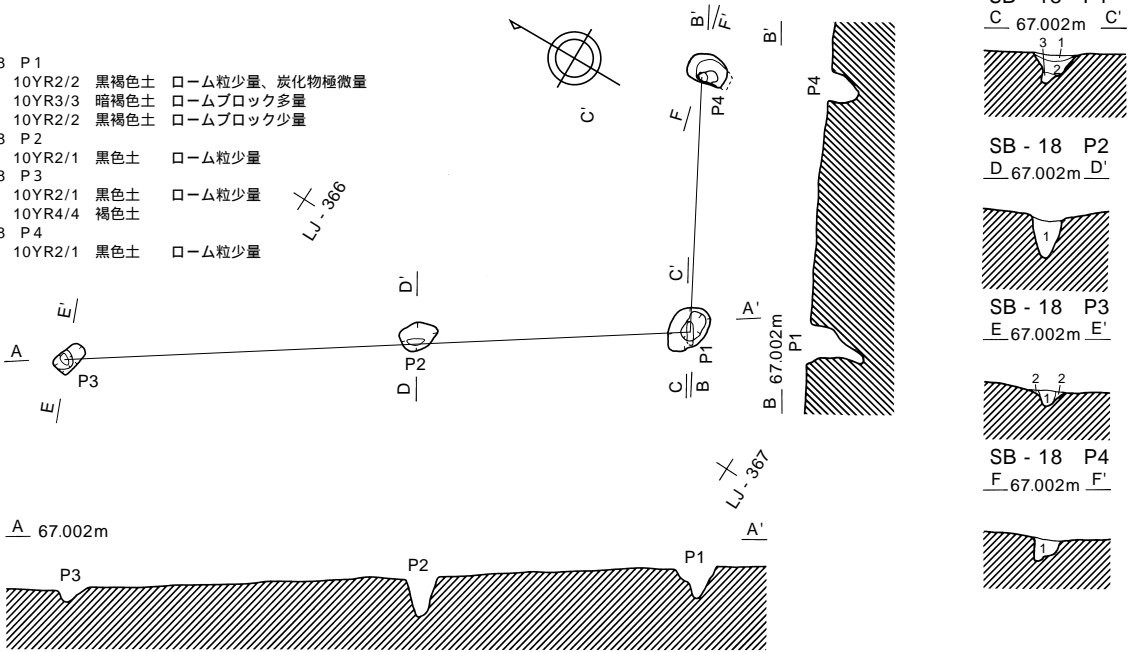
[規模] S I - 226を囲むようにピットが位置しており、外柱穴もしくは柵等の要素もある。各ピットの規模は、P1 = 21 × 21 × 5 cm、P2 = 25 × 21 × 11 cm、P3 = 27 × 22 × 12 cm、P4 = 22 × 20 × 6 cm、P5 = 25 × 21 × 10 cm、P6 = 31 × 26 × 14 cmを測る。

[堆積土] P1はにぶい黄褐色土、P2は褐色土、P3、4は黒褐色土と暗褐色土、P5、6は黒褐色土を主体とする堆積土でローム粒、炭化粒が混入する。

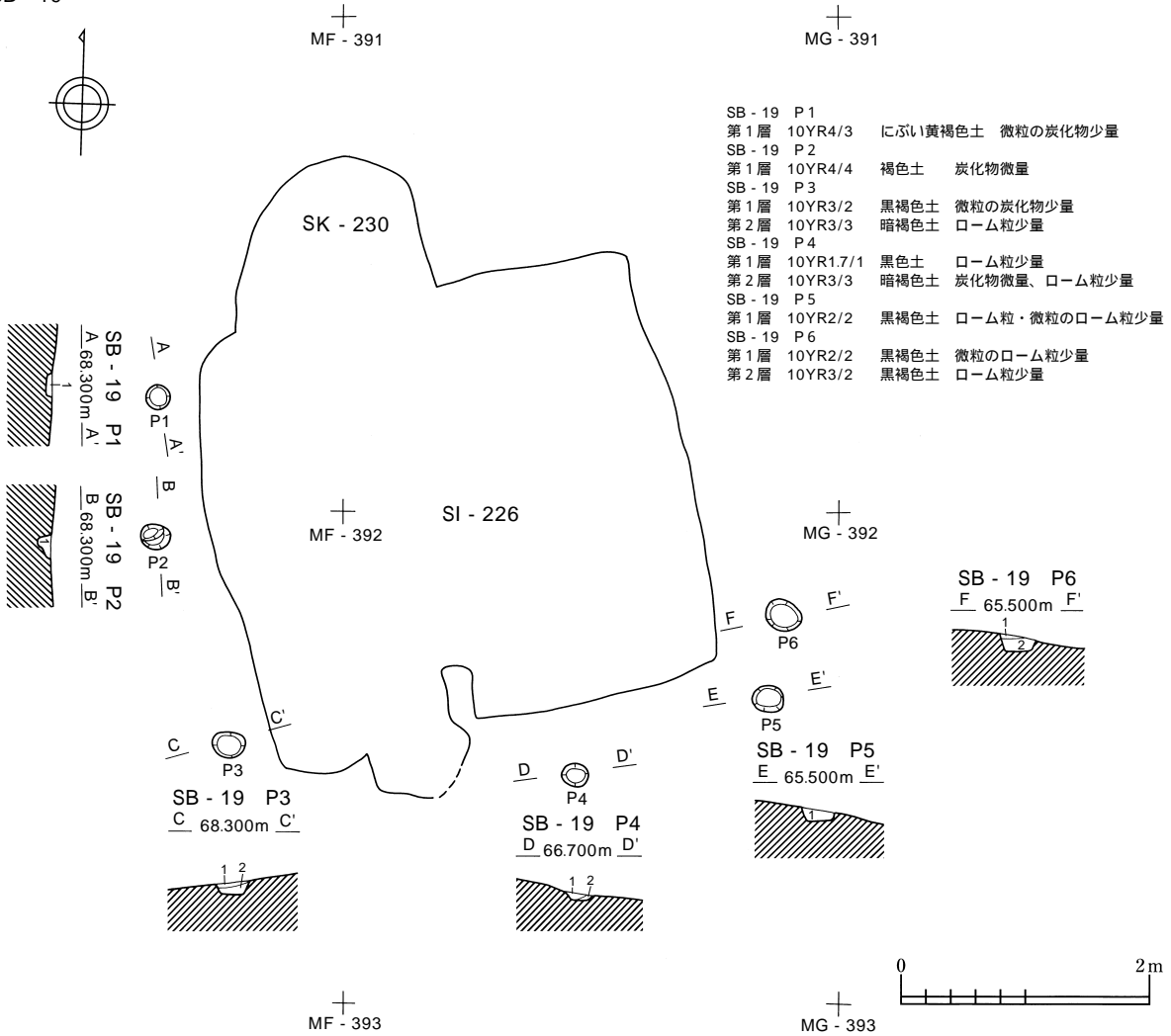
[関連遺構] [規模]の項目で触れたが本遺構の内側にS I - 226が位置しており、本遺構がS I - 226に帰属した可能性が考えられる。

SB - 18

- SB - 18 P1  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量、炭化物極微量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック多量  
 第3層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック少量  
 SB - 18 P2  
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒少量  
 SB - 18 P3  
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒少量  
 第2層 10YR4/4 褐色土  
 SB - 18 P4  
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒少量



SB - 19



- SB - 19 P1  
 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 微粒の炭化物少量  
 SB - 19 P2  
 第1層 10YR4/4 褐色土 炭化物微量  
 SB - 19 P3  
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 微粒の炭化物少量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒少量  
 SB - 19 P4  
 第1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒少量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 炭化物微量、ローム粒少量  
 SB - 19 P5  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・微粒のローム粒少量  
 SB - 19 P6  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 微粒のローム粒少量  
 第2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒少量

第553図 SB - 18・19

## 6 . 柵

本報告における柵は柱穴として機能したと考えられるピットが一定の配列を呈するものについて採用した。遺跡の立地が丘陵の斜面上であるため、厳密に直線状の配列を呈さないものや柱間が一定でないものについても周辺の他の遺構との関連等で柵として取り扱ったものがある。明確な柵列として認定できるものが少ない。竪穴式住居跡周辺に位置するものについては境界としての役割以外に斜面からの流入土を防ぐ土留めとしての機能が一部あったものと考えられる。

### S A - 01 (第554図)

[位置] グリッド L S - 292 ~ L T - 292 で検出した。

[重複] S I - 21 の北壁と一部重複している。配列上 S I - 21 と関連性が考えられ、同時並存の可能性が考えられる。

[規模] 各ピットの規模は、P 1 = 24 × 24 × 8 cm、P 2 = 27 × 24 × 7 cm、P 3 = 24 × 24 × 10 cm を測る。

[配列] 東西軸で直線状に配置する。柱間は、P 1 - P 2 (156cm)、P 2 - P 3 (312cm) である。

[堆積土] 各ピットとも褐色土を主体とする堆積土である。

[関連遺構] S A - 02 と併せて S I - 21 を囲むように構築されており、S I - 21 と関連した可能性が考えられる。

### S A - 02 (第554図)

[位置] グリッド L R - 292 ~ L S - 293 で検出した。

[重複] なし。

[規模] 各ピットの規模は、P 1 = 31 × 24 × 8 cm、P 2 = 39 × 37 × 9 cm を測る。

[配列] 南北軸で直線状に配置する。柱間は、P 1 - P 2 (405cm) である。

[堆積土] P 1 は暗褐色土を主体とする堆積土で、ロームブロックが多量混入する。P 2 は黒褐色土ならびに褐色土が堆積しており、第 1 層にはローム粒が中量含まれる。

[関連遺構] S A - 01 と同様な遺構が S I - 21 を囲むように構築されており、S I - 21 と関連した可能性が考えられる。

### S A - 03 (第554図)

[位置] グリッド L Q - 294 ~ L T - 295 で検出した。

[重複] なし。

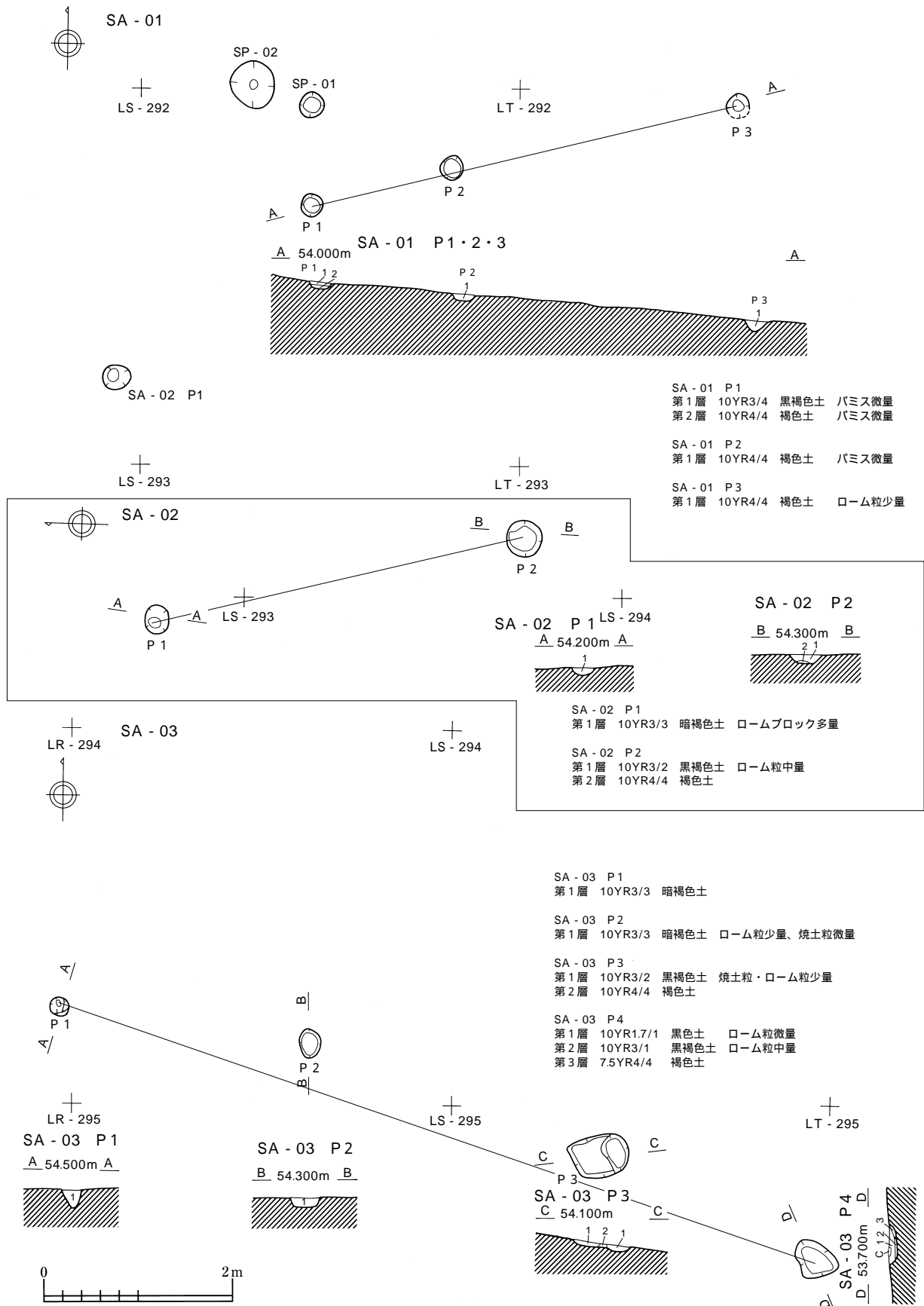
[規模] 各ピットの規模は、P 1 = 22 × 20 × 20 cm、P 2 = 30 × 24 × 10 cm、P 3 = 60 × 45 × 14 cm、P 4 = 44 × 32 × 9 cm を測る。

[配列] 東西軸で不整配列を呈する。柱間は P 1 - P 2 (270cm)、P 2 - P 3 (342cm)、P 3 - P 4 (240cm) を測り、一定でない。

[堆積土] P 1、P 2 は暗褐色土を主体とする堆積土で、P 3、P 4 は黒褐色土を主体とする堆積土である。

[関連遺構] 周辺に S P - 03 ~ 06 が位置し、S A - 04 と併せ関連性が考えられる。





第554図 SA - 01 ~ 03

S A - 04 (第555図)

[位置] グリッドLR - 295 ~ LT - 295で検出した。

[重複] なし。

[規模] 各ピットの規模は、P1 = 32 × 22 × 23cm、P2 = 52 × 50 × 21cm、P3 = 32 × 30 × 10cmを測る。

[配列] 東西軸で直線状に配置する。柱間はP1 - P2 (300cm)、P2 - P3 (265cm)を測り、一定でない。

[堆積土] P1は、黒褐色土、暗褐色土が堆積し、炭化物が混入する。P2は、にぶい黄褐色土、暗褐色土、褐色土が堆積し、炭化粒が混入する。P3は黒褐色土が堆積し、ローム粒が混入する。

[関連遺構] SA - 03と同様周辺にSP - 03 ~ 06が位置し、関連性が考えられる。

S A - 05 (第555図)

[位置] グリッドMA - 299 ~ MB - 300で検出した。

[重複] SA - 06P1と重複している。本遺構P2がSA - 06P1の堆積土を切った形で構築されており、本遺構の方が新しい。

[規模] 各ピットの規模は、P1 = 40 × 38 × 30cm、P2 = 38 × 34 × 37cm、P3 = 46 × 32 × 40cmを測る。

[配列] 南北軸で直線状に配置する。柱間はP1 - P2 (240cm)、P2 - P3 (240cm)を測る。

[堆積土] P1、2は黒褐色土主体の堆積土で、ローム粒が混入する。P3はにぶい黄褐色土が堆積し、ローム粒が混入する。

[関連遺構] 斜面下に位置するSI - 44とほぼ同軸であり、住居の継続時期に機能した可能性が考えられる。

S A - 06 (第555図)

[位置] グリッドMB - 300で検出した。

[重複] SA - 05P2と本遺構P1が重複している。本遺構のP1がSA - 05P2に切られており、本遺構の方が古い。

[規模] 各ピットの規模は、P1 = 30 × (21) × 13cm、P2 = 36 × 31 × 18cmを測る。

[配列] 南北軸で直線状に配置する。柱間はP1 - P2 (260cm)を測る。

[堆積土] P1、2とも黒褐色土主体の堆積土でローム粒が混入する。

[関連遺構] 詳細について不明。

S A - 07 (第555図)

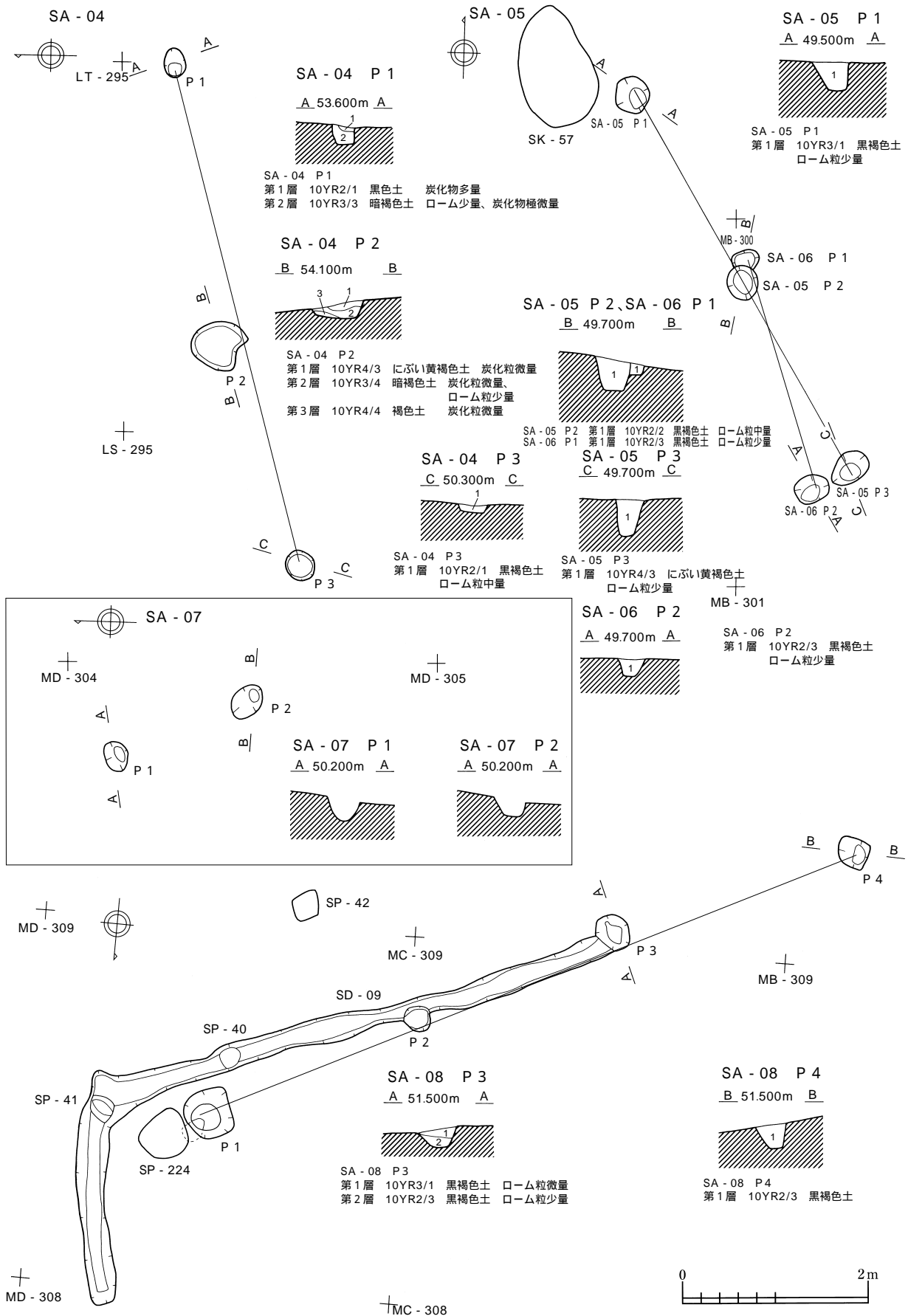
[位置] グリッドMC - 304で検出した。

[重複] なし。

[規模] 各ピットの規模は、P1 = 35 × 25 × 26cm、P2 = 41 × 30 × 20cmを測る。

[配列] 南北軸で直線状に配置する。柱間はP1 - P2 (162cm)を測る。

[関連遺構] 軸線の延長線上にSI - 42が位置し、本遺構と関連性が考えられる。



第555図 SA - 04 ~ 08

S A - 08 (第555図)

- [位置] グリッドMB・MC - 308、MA・MB - 309で検出した。
- [重複] P2、3がSD - 09と重複している。本遺構がSD - 09を切っており本遺構の方が新しい。
- [規模] 各ピットの規模は、P1 = 58 × 57 × 59cm、P2 = 30 × 27 × 18cm、P3 = 40 × 36 × 21cm、P4 = 35 × 31 × 28cmを測る。
- [配列] 東西軸でほぼ直線状に配置する。柱間はP1 - P2 (270cm)、P2 - P3 (230cm)、P3 - P4 (270cm) を測る。
- [堆積土] いずれのピットも黒褐色土主体の堆積土である。
- [関連遺構] 詳細については不明。

S A - 09 (第556図)

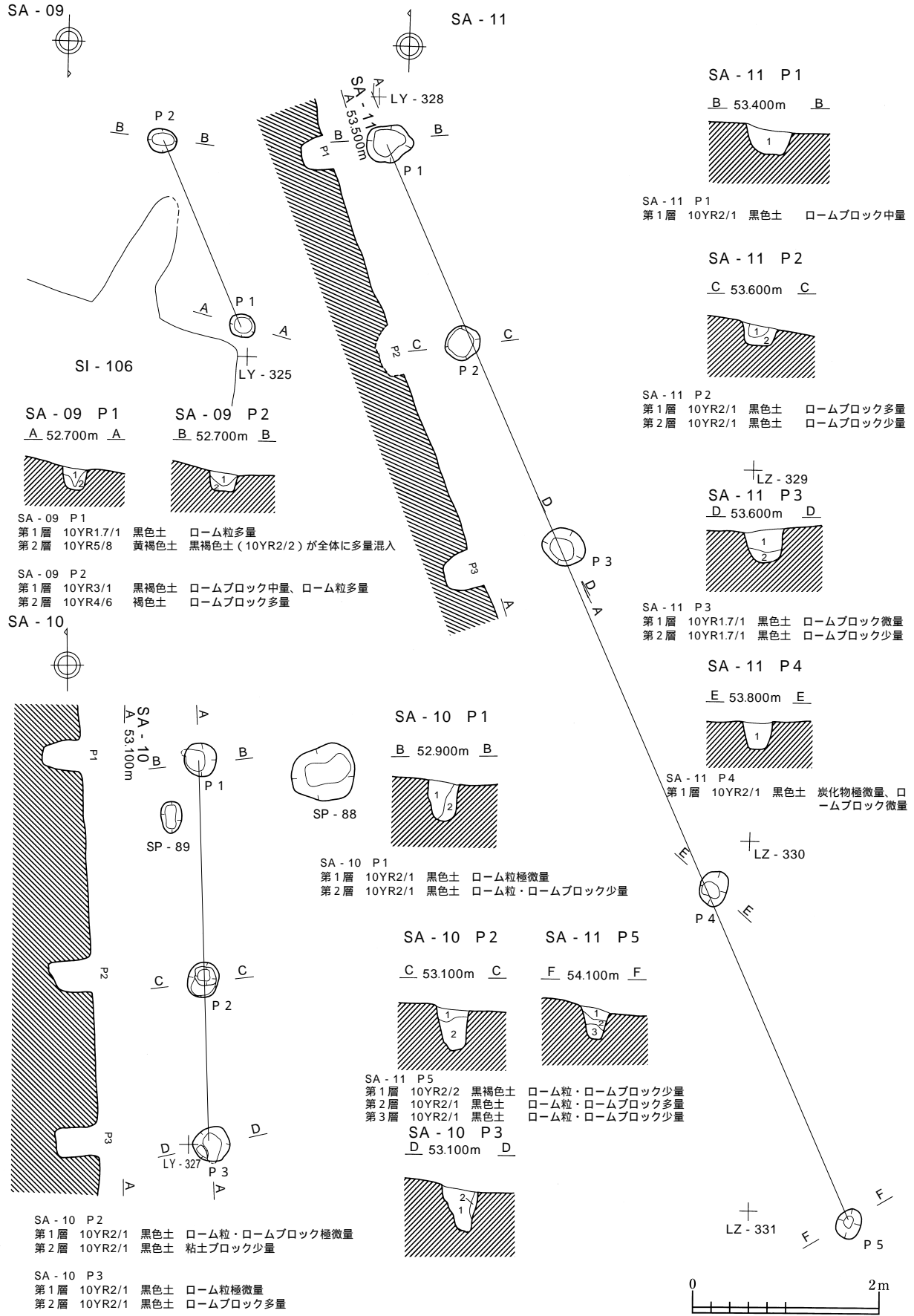
- [位置] グリッドLY - 325で検出した。
- [重複] なし。
- [規模] 各ピットの規模は、P1 = 31 × 26 × 26cm、P2 = 29 × 25 × 21cmを測る。
- [配列] 直線状に配置する。柱間はP1 - P2 (220cm) を測る。
- [堆積土] 各ピットともロームブロック、ローム粒を多量に含む堆積土で、急激な埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。
- [関連遺構] 隣接するSI - 106のカマド周辺に本遺構が配置しており、土留め等に役割を果たした可能性が考えられる。

S A - 10 (第556図)

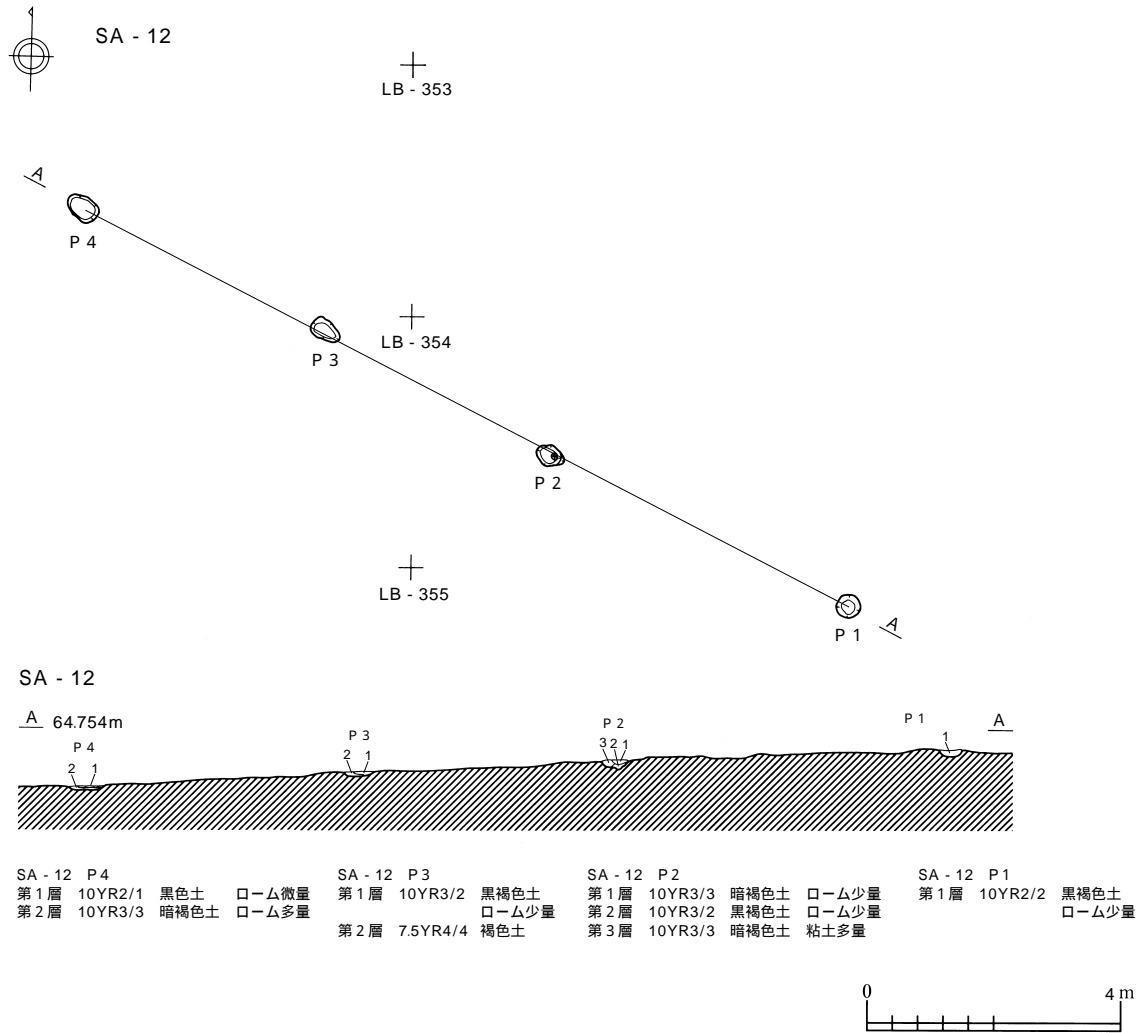
- [位置] グリッドLX - 325 ~ LY - 327で検出した。
- [重複] なし。
- [規模] 各ピットの規模は、P1 = 37 × 34 × 43cm、P2 = 38 × 33 × 45cm、P3 = 40 × 38 × 44cmを測る。
- [配列] 南北軸で直線状に配置する。柱間はP1 - P2 (230cm)、P2 - P3 (190cm) を測り、一定でない。
- [堆積土] 各ピットとも黒色土主体の堆積土で、ロームブロック、ローム粒が混入する。
- [関連遺構] 詳細については不明。

S A - 11 (第556図)

- [位置] グリッドLX・LY - 328、LZ - 330・331で検出した。
- [重複] なし。
- [規模] 各ピットの規模は、P1 = 50 × 39 × 28cm、P2 = 37 × 33 × 28cm、P3 = 47 × 39 × 35cm、P4 = 38 × 29 × 29cm、P5 = 32 × 26 × 48cmを測る。
- [配列] 南北軸で直線状に配置する。柱間はP1 - P2 (230cm)、P2 - P3 (240cm)、P3 - P4 (400cm)、P4 - P5 (390cm) を測り、一定でない。
- [堆積土] 各ピットとも黒色土主体の堆積土で、ロームブロック、ローム粒が混入する。



第556図 SA - 09 ~ 11



第557図 SA - 12

[関連遺構] 本遺構の軸線の斜面下にS I - 120、S N - 05・06が位置し、土留めもしくは区画として機能した可能性が考えられる。

S A - 12 (第557図)

[位置] グリッドK Z - 353 ~ L C - 355で検出した。

[重複] なし。

[規模] 各ピットの規模は、P 1 = 28 × 26 × 10cm、P 2 = 50 × 34 × 15cm、P 3 = 51 × 35 × 8 cm、P 4 = 53 × 37 × 8 cmを測る。

[配列] 東西軸で直線状に配置する。柱間はP 1 - P 2 (520cm)、P 2 - P 3 (420cm)、P 3 - P 4 (420cm)を測る。

[堆積土] 各ピットとも黒褐色土を主体とする堆積土でP 2は掘り方への充填土が残存している。

[関連遺構] 詳細について不明。

## 7. 鉄生産関連遺構

当委員会が調査を実施した野木遺跡北地区から検出した鉄生産関連遺構は、製鉄炉2基（SN-03、SN-05）、鍛冶炉2基（SI-29（新）内、SI-141内）、製鉄関連遺物の排滓場4箇所（うち、廃絶した住居の落ち込みを利用したものが2箇所；SI-68、SI-120、土坑を利用したものが2箇所；SK-85、SK-181）、鍛冶関連遺物の排滓場3箇所（いずれも廃絶した住居の落ち込みを利用したもので；SI-70、SI-107、SI-245）、明確な用途が不明な遺構2基（SN-04、SN-06）である。これらは本遺跡で行われた鉄生産工程において相互に関連性を持つものであり、項を同じくして取り上げられるべきものであると考えられるが、本項では、製鉄炉2基、明確な用途が不明な遺構2基について取り扱うこととし、住居内から検出した鍛冶炉や住居跡・土坑の落ち込みを利用した排滓場については、前者については住居内の付属施設、後者は住居跡ないし土坑の堆積土の項目で取扱い、第2章第2節「1. 竪穴式住居跡」、「2. 土坑」で記述した。

（設楽）

## SN-03（第558～565図）

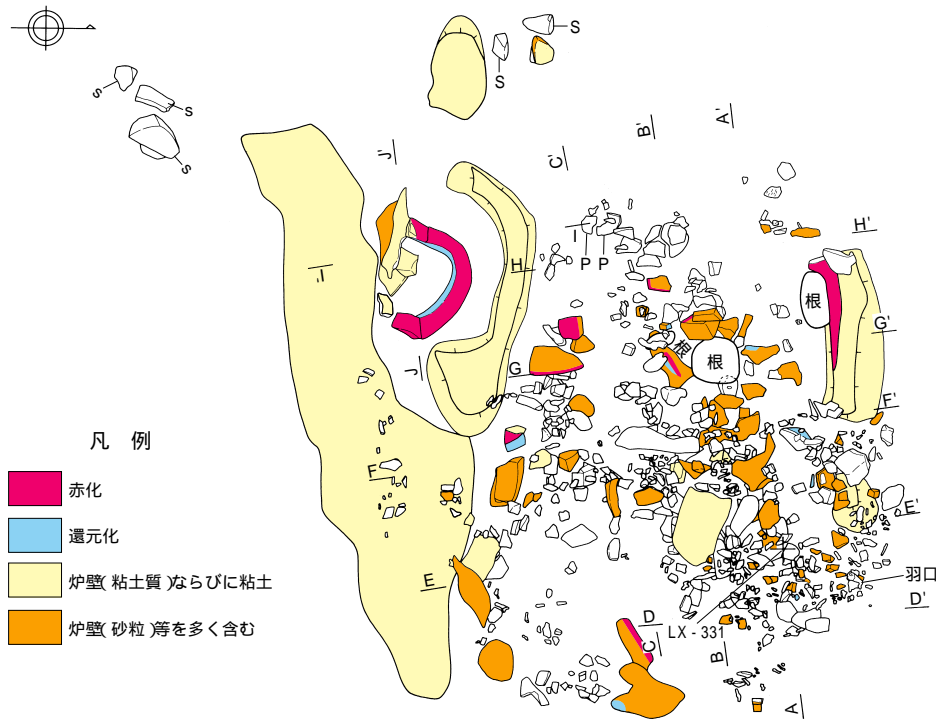
調査区の東側、LW・LX-330・331で検出した。SI-118の掘り下げ中に住居の中央部より東寄りの部分で覆土上に残存していた木根付近から多量の鉄滓が出土したことから確認した。SI-118については焼失住居であり、住居覆土第12層から多量の炭化材、炭化物を検出している。本遺構ならびに隣接するSN-04の構築面についてはSI-118の南半部付近で堆積している住居覆土第7～11層が本遺構周辺で確認できず、粘土層である住居覆土第6層が住居壁際から本遺構にかけて傾斜しながら堆積していることから住居覆土第6層が本遺構の構築面であり、炉周辺部は住居覆土第12層直上が構築面であることが考えられる。よって本遺構ならびにSN-04はSI-118に帰属しないものと考えられ、本遺構ならびにSN-04がSI-118より新しいものと考えられる。

また、本遺構より約11m離れた東北東寄りの斜面上にSN-05・06ならびにSI-120が位置する。

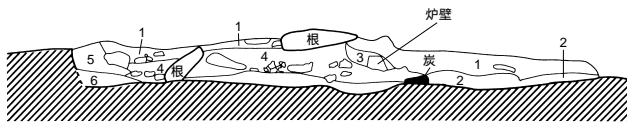
本遺構は、破壊が著しくさらに木根により土層堆積に大きく影響が生じており、遺物の流動要因が極めて高い状況であった。多量の鉄滓、炉壁破片ならびに粘土ブロックが散逸した状況で検出された。

本遺構から出土した遺物は、炉壁（溶解物を含む）25,596g、砂鉄焼結塊1,390g、炉内滓27,164g、流動滓（単位流動滓を含む）39,058g、流動滓（鳥足状）11,742g、流出孔滓2,578g、流出溝滓23,073g、鉄塊系遺物L（ ）78g、鉄塊系遺物M（ ）62g、鉄塊系遺物H（ ）40g、（ ）2,366g、その他（工具痕付滓、工具付着滓等）2,106g、総重量135,253gであり、出土遺物から製鉄炉と判断した。

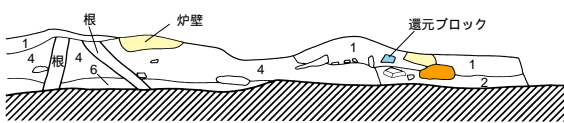
土層堆積上においても第1～5層において遺物が混在した堆積状況で、明瞭な炉床部が検出されなかった。ただし、セクションラインB-B'、C-C'ならびにH-H'で交差する部分について多量の鉄滓ならびに炉壁破片が出土した部分よりやや西側にあたる部分は、住居跡床面直上に本遺構の堆積土のみが堆積しており、焼失住居の炭化材等が含まれるSI-118の堆積土が確認できず、加えて炉の構造物が北側の一部で残存していたが、その炉壁の被熱した赤化部分が平面図の中央部分よりやや右上にある木根周辺部（重量分布図上でB-1）でしか検出しなかったことから炉体そのものは平面図中央部よりやや右上周辺（重量分布図上でB-1・2）に存在した可能性が考えられる。前庭部については出土遺物が破壊ならびに木根等による二次的な影響が考慮されるが、出土鉄滓の重量分布状況のうち炉内



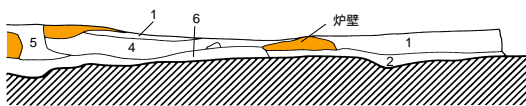
SN - 03  
A. 56.300m



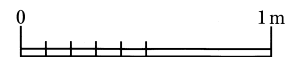
SN - 03  
B. 56.300m



SN - 03  
C. 56.300m

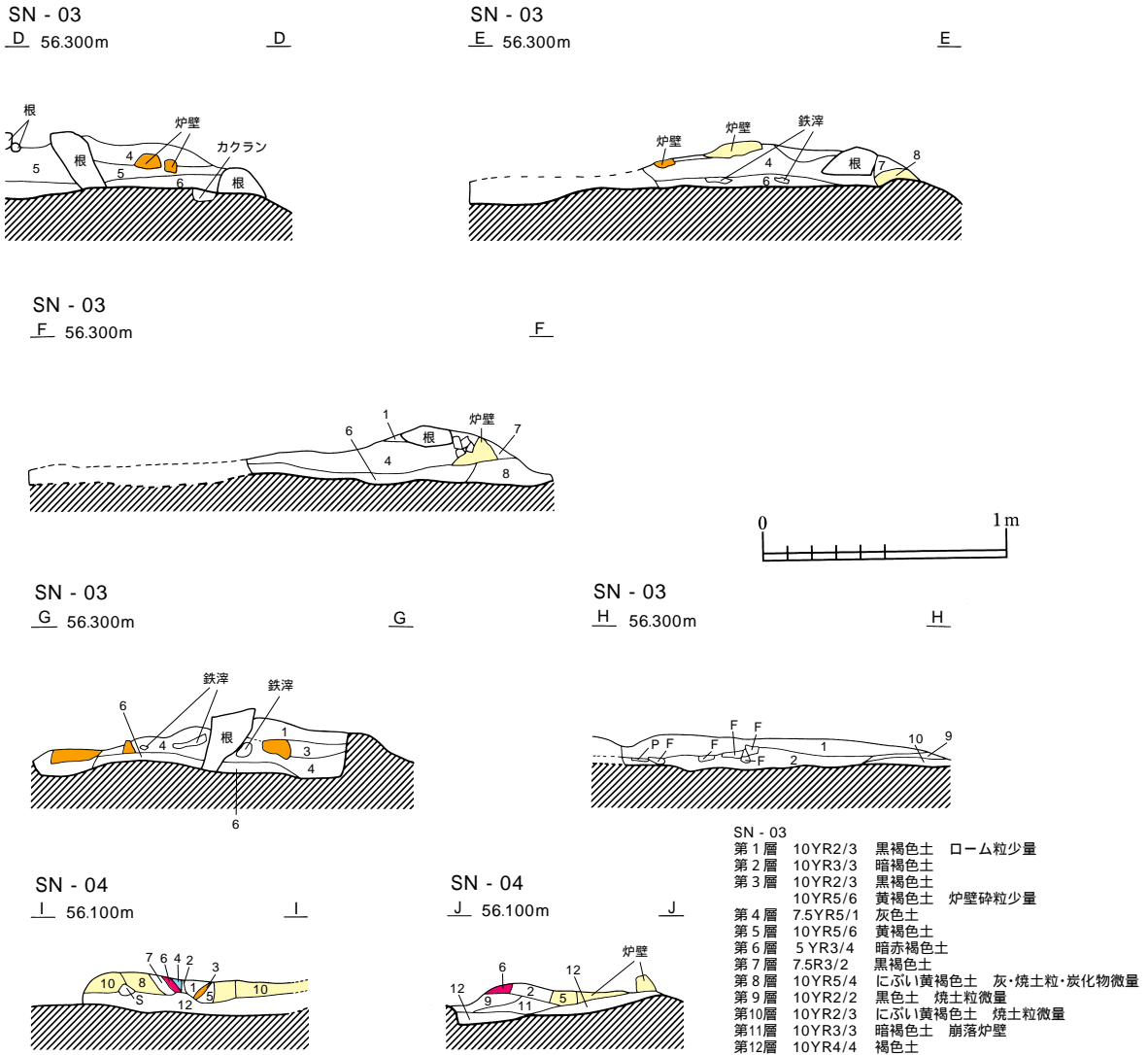


層	色	成分
第1層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒・鉄滓少量、炭化粒微量、 焼土粒極微量
第2層	10YR2/2 黒褐色土	炭化物多量、炭化粒・炉壁砕粒・焼土 粒少量、鉄滓極少量
第3層	10YR2/3 黒褐色土	炭化粒極微量、焼土粒少量
第4層	10YR2/1 黒色土	鉄滓多量、炉壁砕ブロック等含む
第5層	10YR1.7/1 黒色土	焼土粒少量
第6層	10YR2/1 黒色土	ローム粒・焼土粒微量、炭化物少量
第7層	10YR5/6 黄褐色土	
第8層	7.5YR2/3 極暗褐色土	
第9層	10YR3/4 暗褐色土	焼土粒微量
第10層	10YR2/3 黒褐色土	炭化物微量



第558図 SN - 03・04





第559図 SN - 03・04

滓、流出孔滓ならび流出溝滓の分布状況が重量分布図上のD・E - 1 ~ 3周辺に集中することから該当地点の周辺部に存在した可能性が考えられる。炉背側については炉体ならびに前庭部の推定位置からの類推に過ぎないが重量分布図上のA - 1もしくはA - 2周辺部に位置した可能性がある。送風施設については検出状況が炉の破壊状況が著しかったため確認することができなかった。また、堆積層の除去時点でS I - 118の床面が検出したのみで地下構造については存在しないものと考えられる。

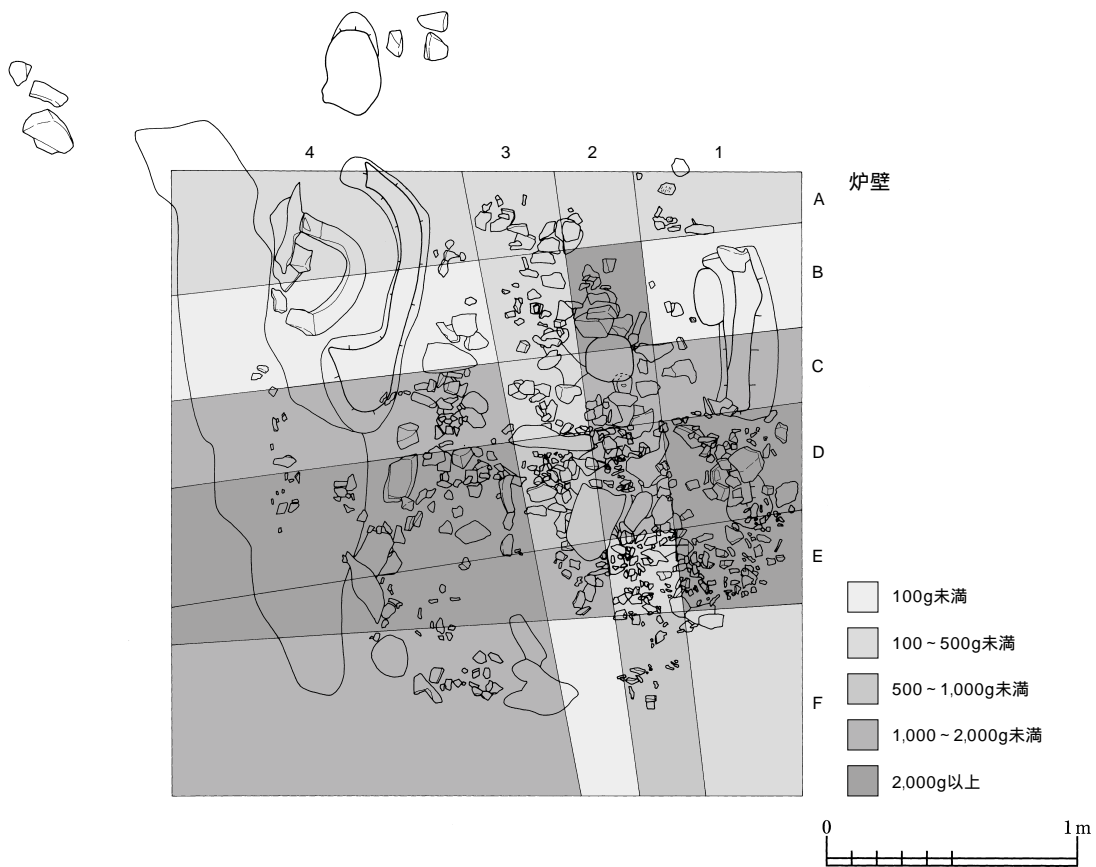
本遺構の排滓場については、本遺構が斜面上に立地する住居の廃絶後の部分を利用したものであり、本遺構より下の斜面に存在した可能性が考えられるが、当委員会の発掘調査前の時点で表土処理が完了していたことにより本遺構周辺部については排滓場を捉えることができなかった。しかしながら、本遺構より東北東に約11m離れた斜面上から検出したS I - 120の堆積層から排滓と考えられる製鉄関連の鉄滓が出土しており、その堆積層より上部に構築されたSN - 05から出土した鉄滓と合致性が見出せないことから本遺構の排滓場として機能した可能性についても指摘されうる。(木村)



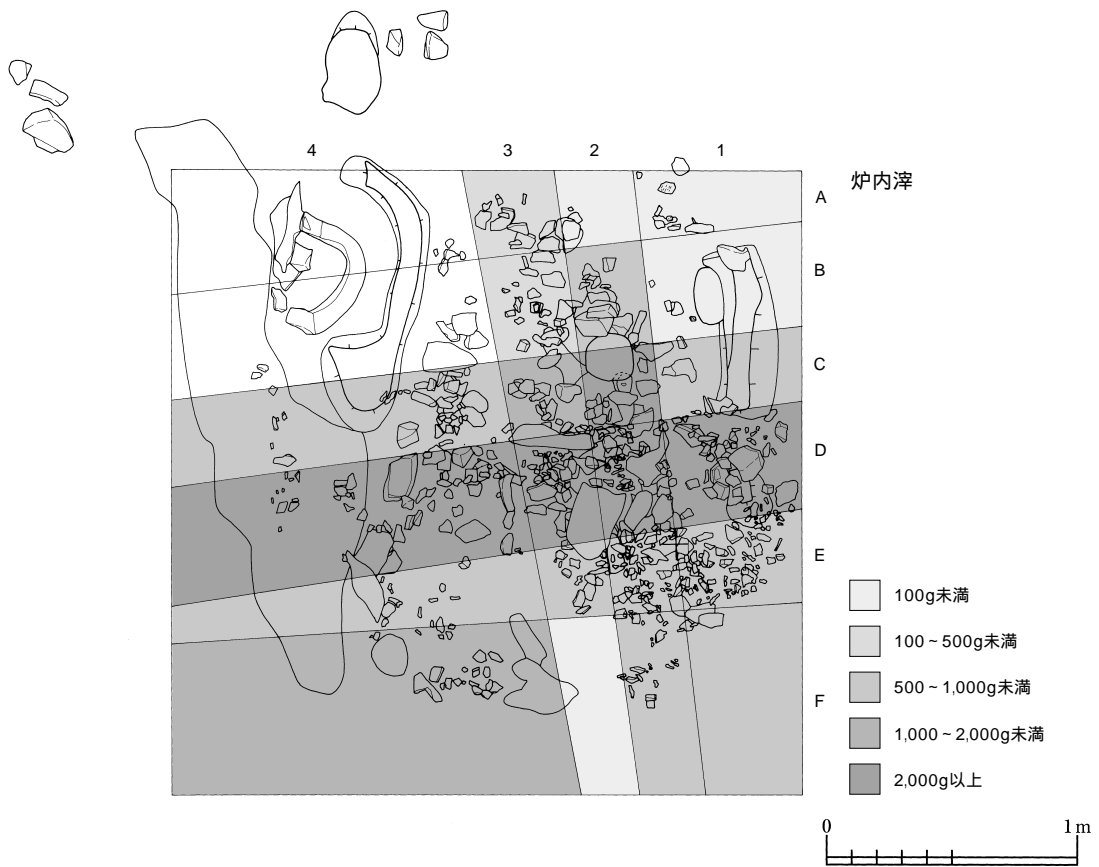
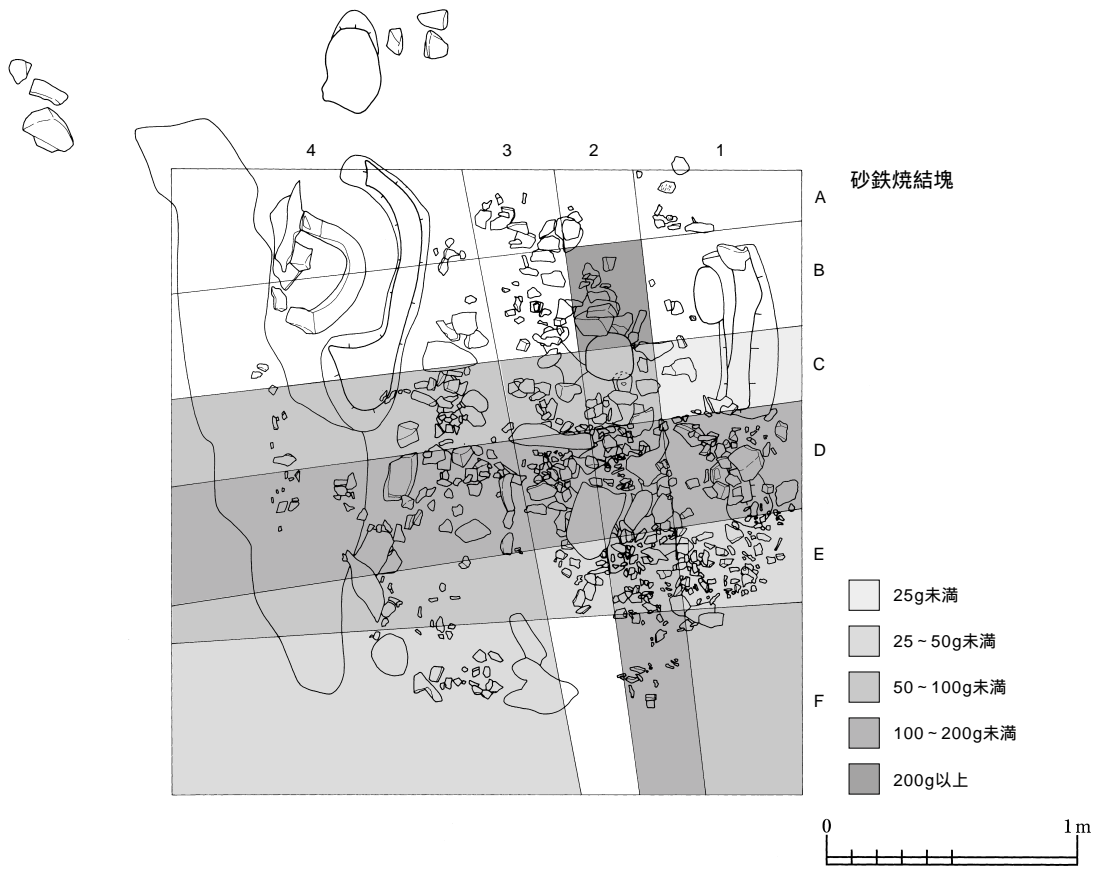
写真2 SN - 03遺物出土状況



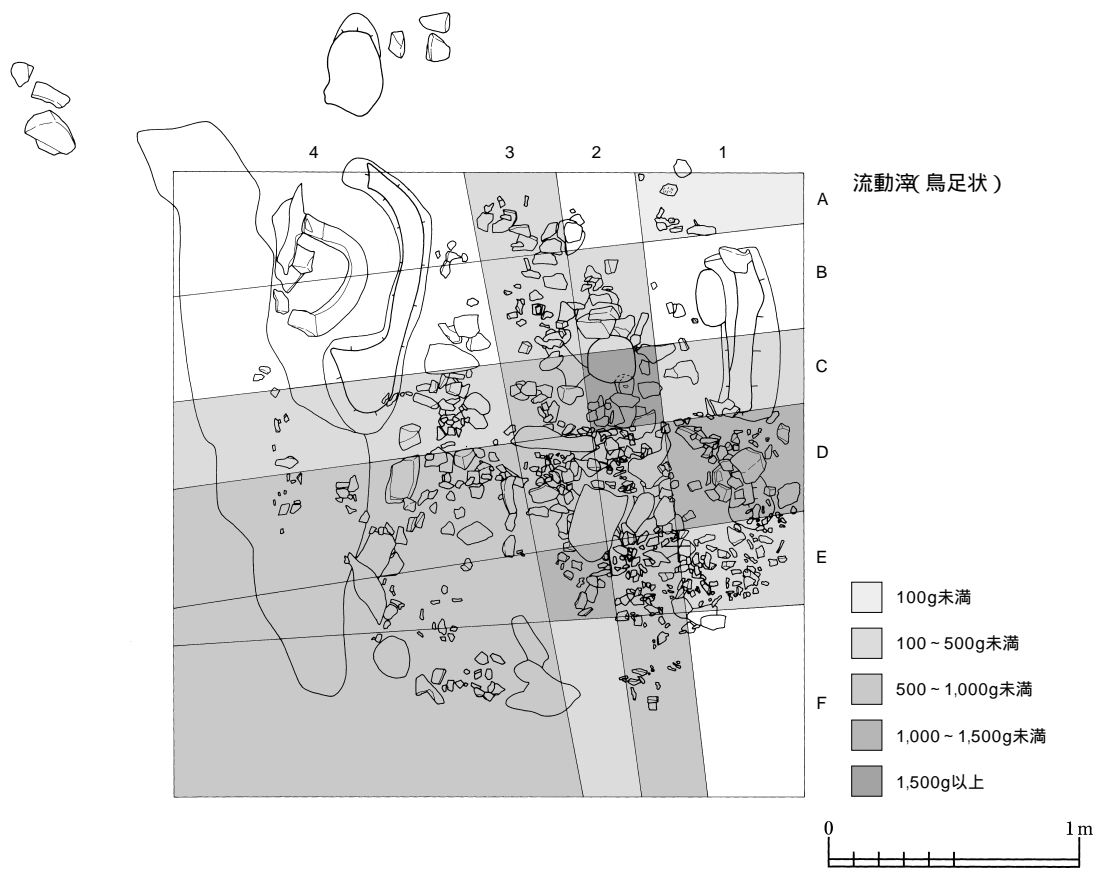
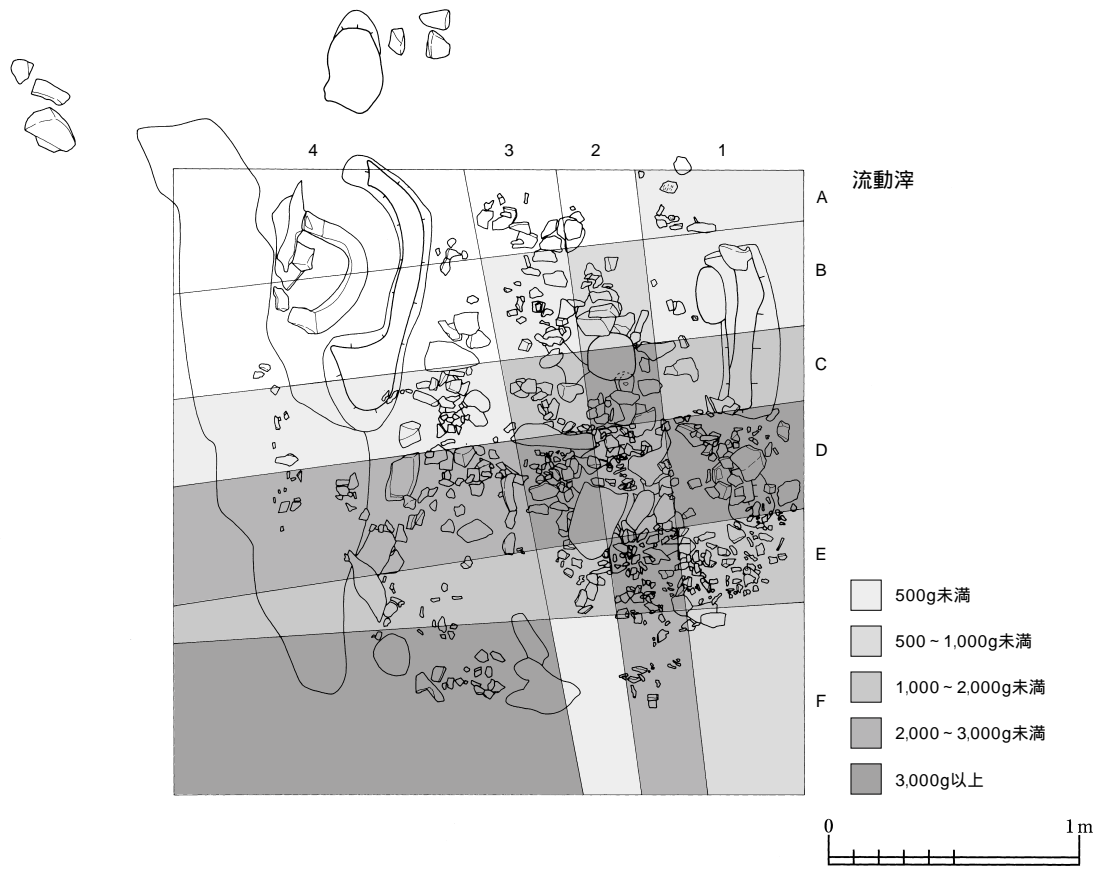
写真3 SN - 03完掘



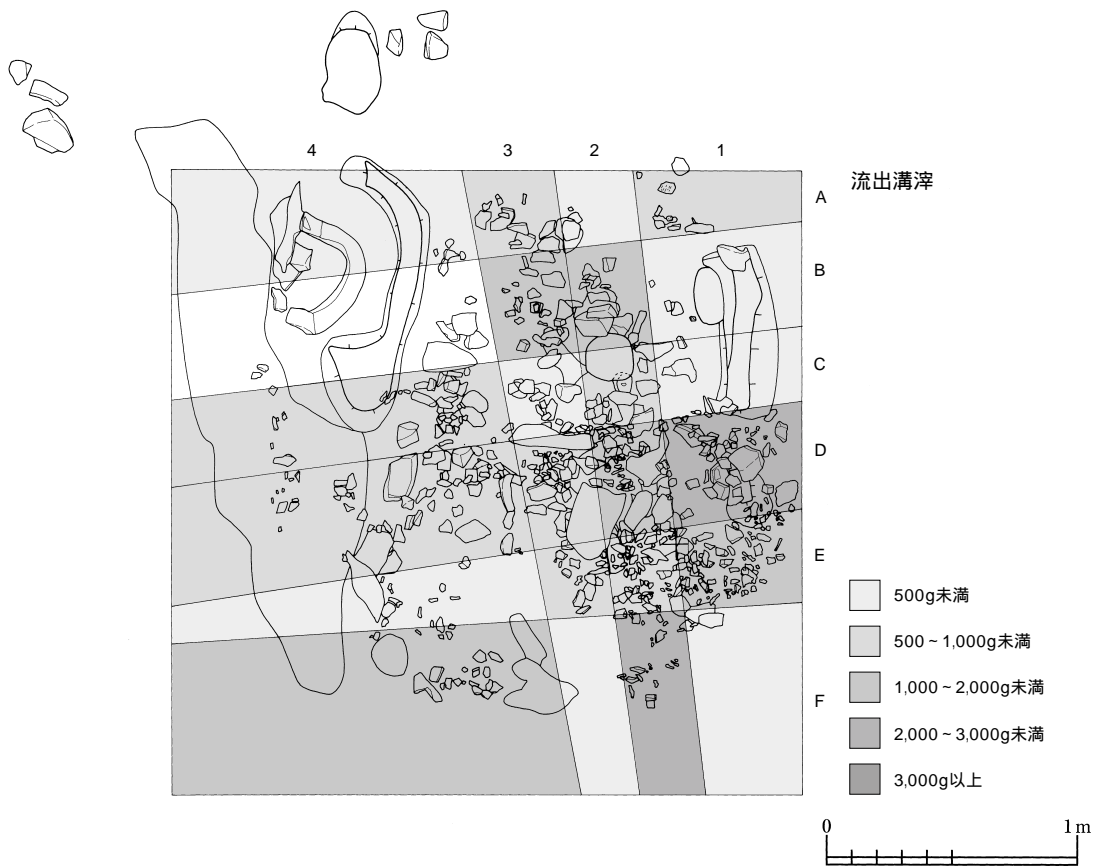
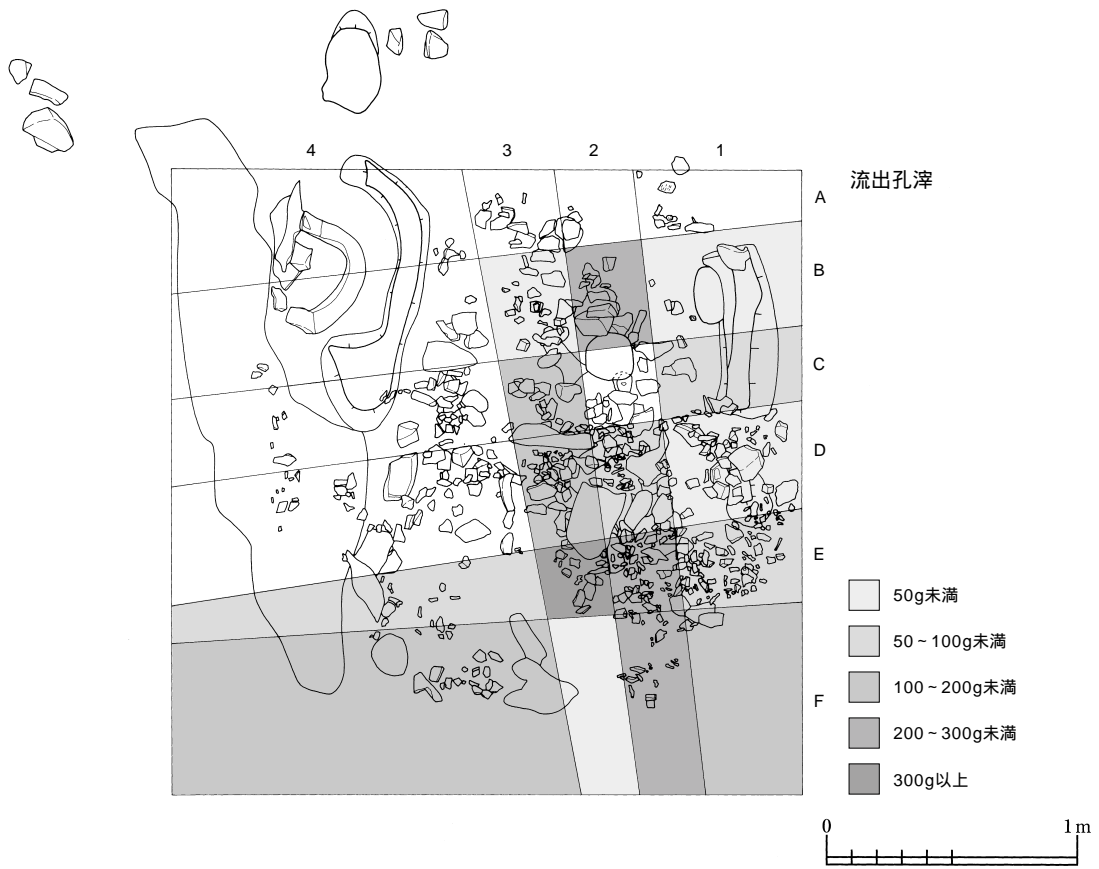
第560図 SN - 03 重量分布図



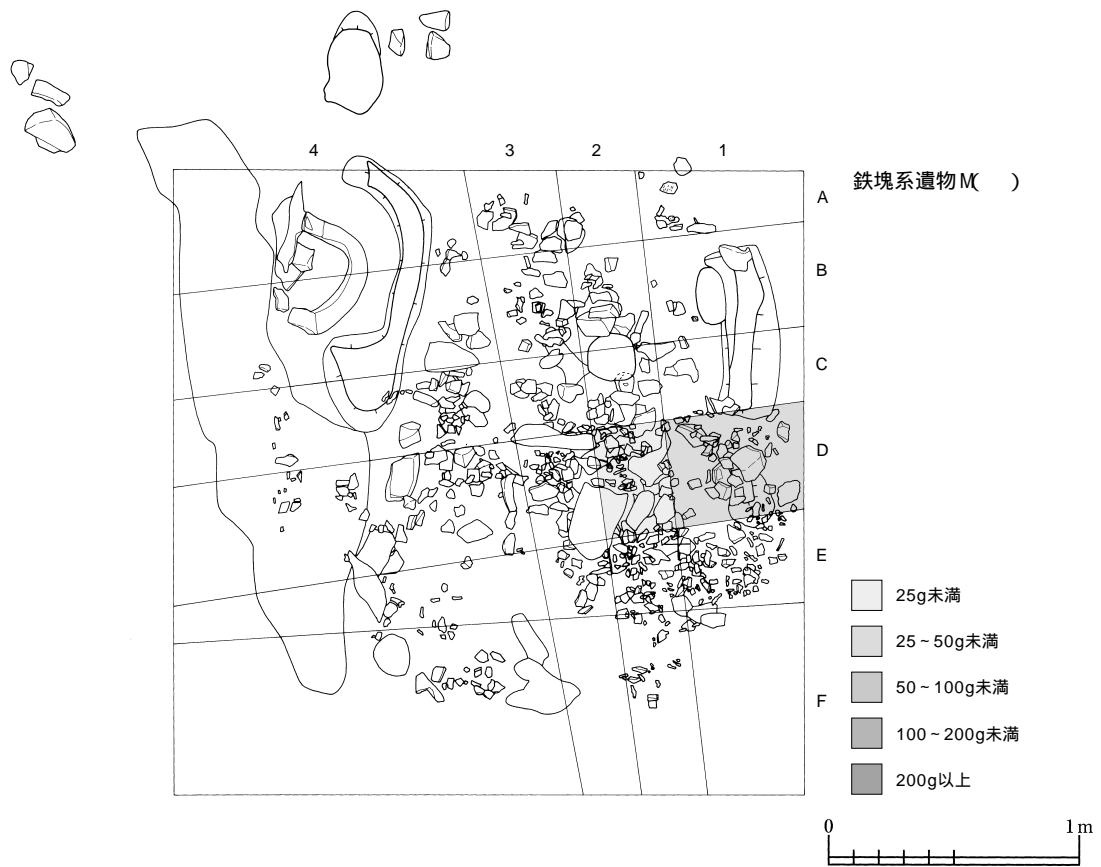
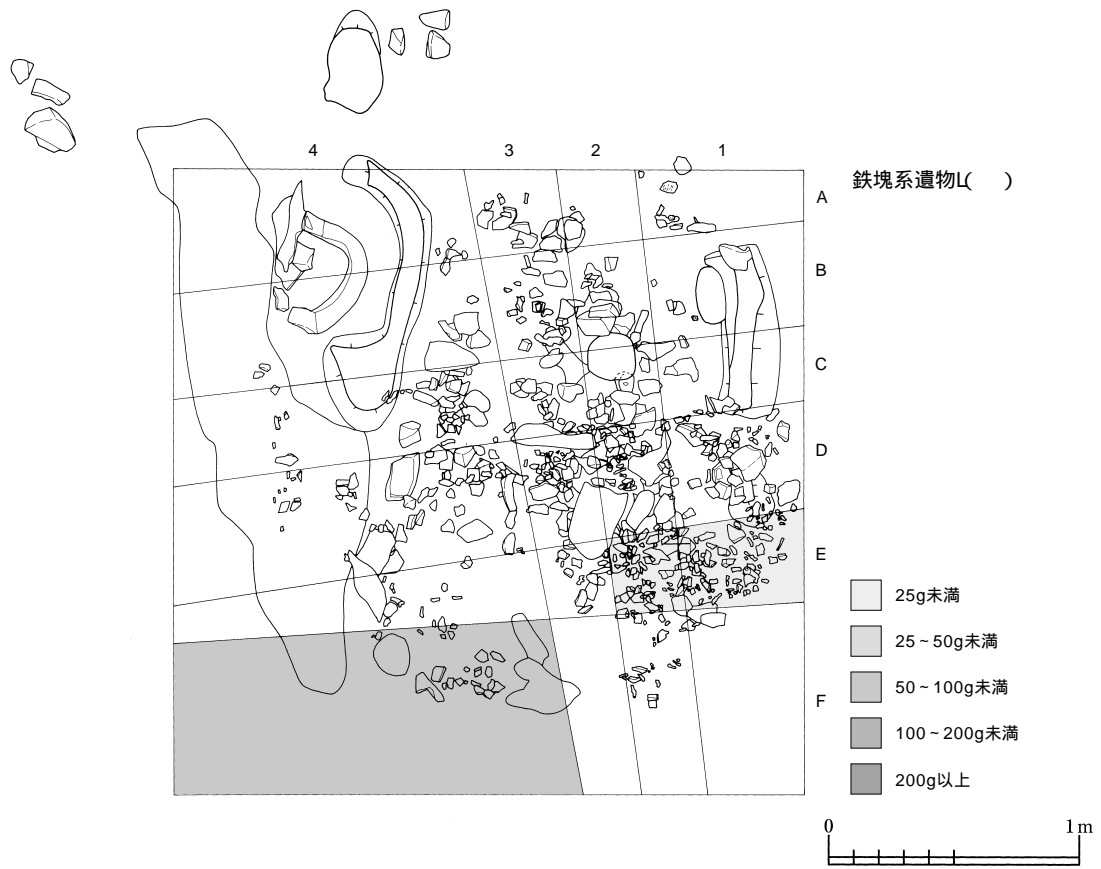
第561図 SN - 03 重量分布図



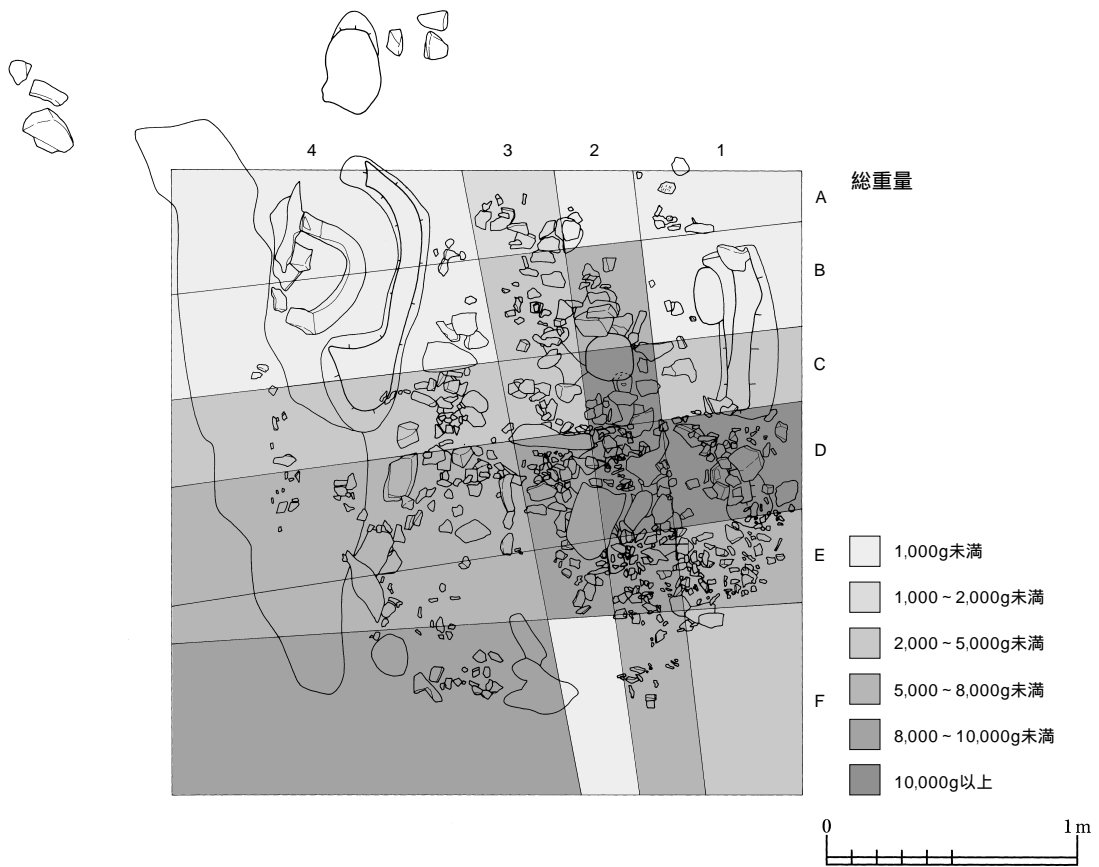
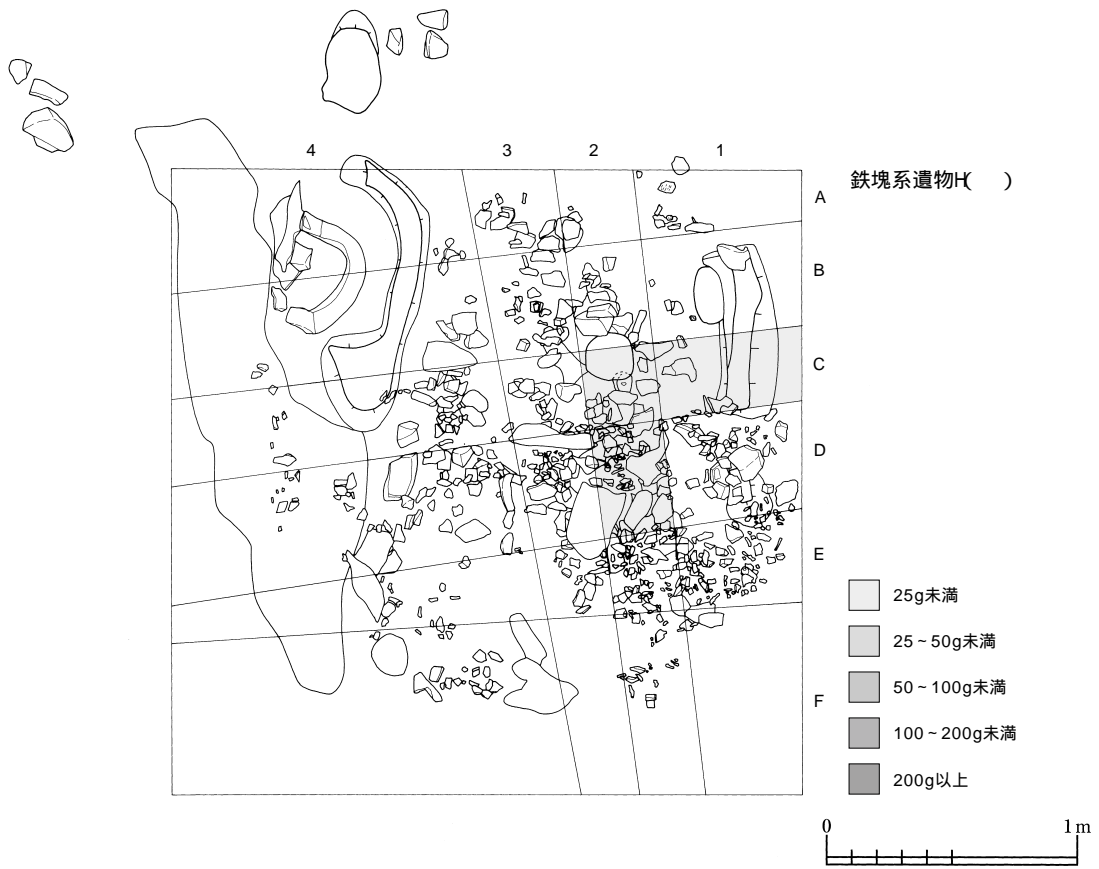
第562図 SN - 03 重量分布図



第563図 SN - 03 重量分布図



第564図 SN - 03 重量分布図



第565図 SN - 03 重量分布図

## S N - 05 ( 第566 ~ 570図 )

本遺構は、調査区東側のL Z - 329から検出した。北東方向に緩やかに下る斜面上に位置しており、これは本遺跡が立地している舌状丘陵の東向き斜面の端部にあたる。標高は、53.5mを測る。S I - 120と重複しており、本遺構がS I - 120のカマド煙出部の粘土を切って構築されていることから、本遺構の方が新しい。なお、このS I - 120には、製鉄炉の操業に伴って排出された鉄滓を主体とする遺物が多量に廃棄されている。また、本遺構の東側に近接して、S N - 06が存在し、さらに本遺構の約10m南西には、S N - 03が構築されている。

本遺構の確認段階では、B - T m火山灰が面的に広がり、その下部に炉壁や流出滓を主体とする遺物がおよそ100×120cmの範囲で散在し、削平により上部構造が破壊されていることが推定できた。これらの遺物が散在する範囲の斜面上位側に相当する南東側には、その範囲から突出するように暗オリーブ灰色、赤褐色を呈する、炉背部側の炉床部と考えられる半円状のプランが確認できた。

散在する遺物を除去したところ、その下部には炭化物や微細な炉壁片、土砂が再結合化した滓が50×40cmほどの範囲で面的に広がっており、更にその下部には、主として暗オリーブ灰色を呈する炉床部が検出された。炉床部は、南東～北西軸方向に長軸をもち、42×33cmの馬蹄形の平面を呈する。確認面からの深さは8～10cmで、主軸はN - 53° - Wを測る。検出された炉床部は、南東から北西方向にごく緩やかに下っていた。炉床部の斜面下位側には、流出滓が比較的多量に出土する部分がみられ、前庭部に相当する施設と考えられた。ただし、この前庭部に相当すると考えられる部分は、単位流動滓、流出溝滓、流出孔滓が比較的多量に出土する平坦な面であり、平面的な範囲、規模についてはこれらの鉄滓が出土する部分として捉えた。炉床部を長軸方向に断ち割ったところ、炉床部は流出滓の小片や炉壁片を少量混入し黒色を呈する7層に粘土を貼りつけることによって構築されており、さらにこの炉床粘土は炉背部側から前庭部側に行くにつれて、暗オリーブ灰色 赤褐色 黄褐色を呈し、熱変の度合いが異なっていた。このことから、炉背側に近い部分の還元化の度合いが強いと考えられる。炉壁粘土には、スサ、小礫が混入していた。

7層を掘り下げると、その下部から暗オリーブ灰色を呈するもう一面の炉床部が検出され、炉の作り直しが行われていたことが確認された。この炉床部は、ほぼ南から北方向に長軸をもち、46×27cmの馬蹄形の平面を呈する。主軸は、上面の炉床部より約38°東にズレており、N - 15° - Wを測る。本炉床部も、上面のそれと同様に炉背部から前庭部方向にごく緩やかな傾斜をもち、断ち割りの結果、粘土を貼り付けることによって構築されていることが確認できた。炉床粘土についても、炉背側から前庭部側に行くにつれて、暗オリーブ灰色 黄褐色と変化しており、炉背側に近い部分の還元化の度合いが強いという点が、上面のそれと共通する。炉床粘土が貼り付けられた12層は、炭化物を混入し、黒色を呈する土層で、還元を受けてやや青みがかったおり、硬化していた。炉壁粘土中の混入物は、上面のそれと同様である。

地下構造は存在せず、フイゴ座等の送風施設は確認できなかった。

炉の掘り方については、本遺構の覆土が主として黒褐色を呈し、地山も黒褐色を呈する土層であることから、判別が困難であったが、炭化物や微細な炉壁片を混入する黒褐色土を埋土、ほとんど混入物がみられない黒褐色土を地山として捉え、破線により図示した。掘り方内における空焚きの痕跡は、確認できなかった。

本遺構から出土した遺物は、炉壁（溶解物を含む）15,312 g、砂鉄焼結塊78 g、炉内滓870 g、流



動滓（単位流動滓を含む）4,402 g、流動滓（鳥足状）1,154 g、流出孔滓136 g、流出溝滓2,988 g、鉄塊系遺物M（ ）20 g、鉄塊系遺物H（ ）4 g、（ ）395 g、再結合滓670 g、その他（工具痕付滓、工具付着滓等）142 g、総重量26,171 gである。

本遺構は、削平により上部構造を確認できなかったものの、所謂半地下式豎形炉であると考えられる。炉床部が2面存在することから、炉体の作り直しが1回行われていたことが考えられる。また、出土した炉壁の中には、溶解した内面に再度粘土を塗り付けているものがあり、炉壁を補修して作業を行った痕跡がみられることから、作業回数は最低でも3回以上と考えられる。2面の炉床部は、ともに下部の土層に粘土を貼り付けることによって構築されており、壁も同様に構築されていたと考えられる。下面の炉床部が貼り付けられている12層は、掘り方掘削後の埋め土、上面の炉床部が貼り付けられている7層は、下面の炉床部による作業後、炉体を破壊して炉底塊を取り出した後の微細な炉壁片や流出滓の小片、炭化物が散らばった土層であると考えられる。したがって、2回目の炉の構築にあたってそれほど丁寧な整地が行われていなかったことが想定される。調査においては送風施設と考えられる遺構を確認できなかったため、付属施設を必要としない送風方法が想定できるが、本遺構を確認した面より当時の生活面がもう少し高かったことを考慮すれば、本来、存在していた施設が削平により消滅した可能性も否定できない。付属施設を必要としない送風方法が用いられていたとすれば、皮フイゴによる方法が考えられる。送風位置については、炉床部の炉背側が最も還元を受けていることから、これまで各地で検出されている古代・中世の半地下式豎形炉と同様に、炉背側に羽口が装着され、そこからの送風が行われていたことが考えられる。

なお、本遺構と重複しているS I - 120から出土した多量の製鉄関連遺物については、S I - 120に廃棄された製鉄関連遺物が埋まりきった後、本遺構が構築されているという土層堆積状況からみて本遺構から排出されたものではないと考えられる。本遺構から排出された製鉄関連遺物の排滓場を含めて、製鉄炉や鍛冶炉と排滓場の関係については、第 章で考察しているのでそちらを参照されたい。

（設 楽）

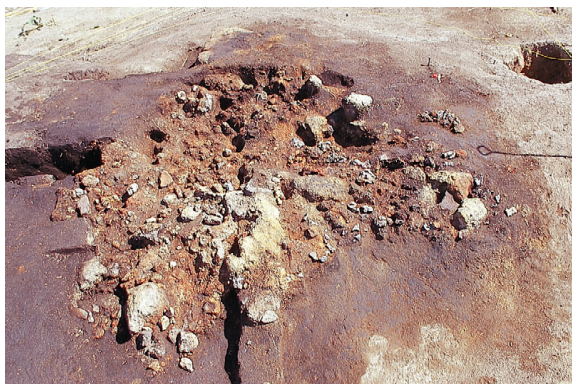
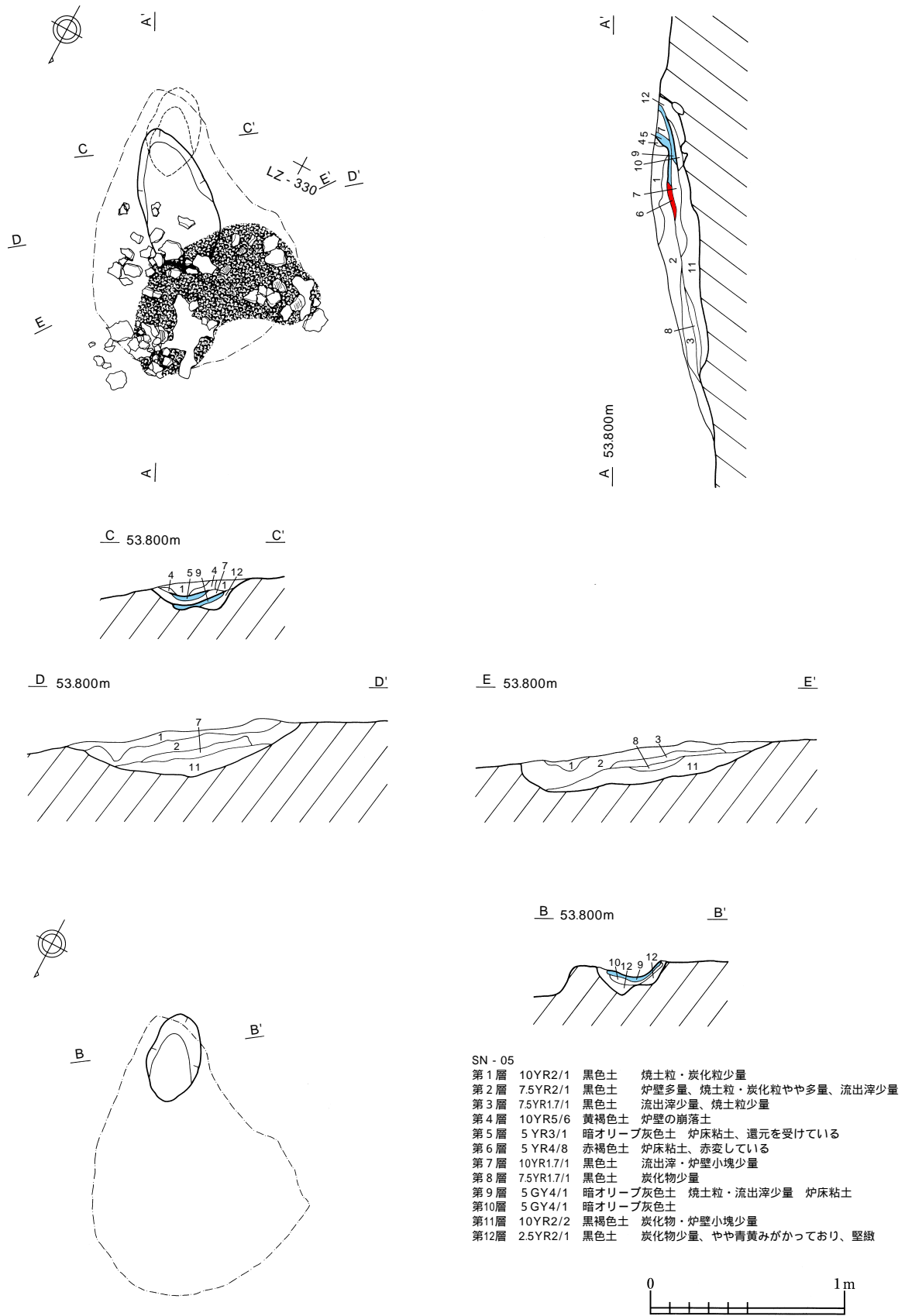


写真4 SN - 05遺物出土状況

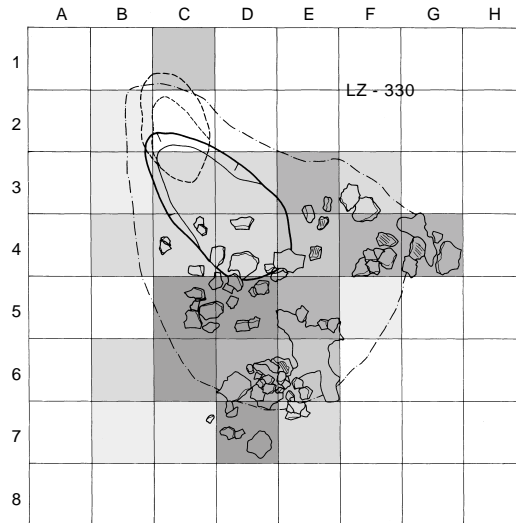


写真5 SN - 05炉床部

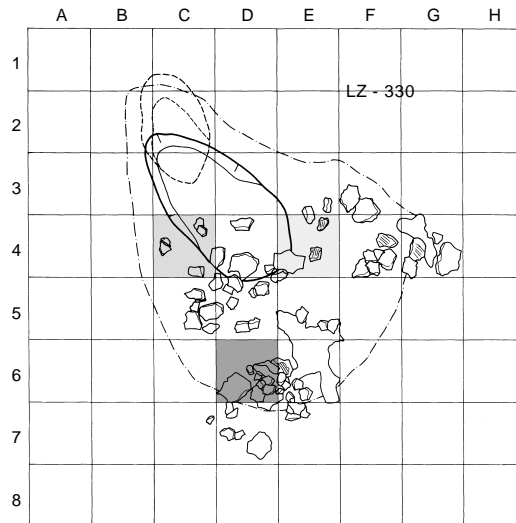
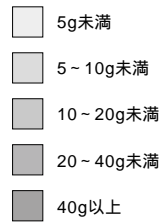


第566図 SN - 05

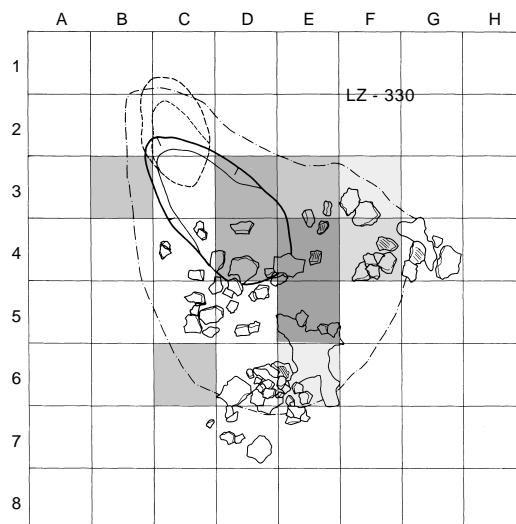
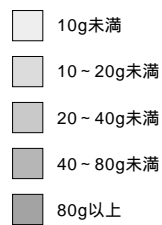
炉壁(炉壁溶解物を含む)



砂鉄焼結塊

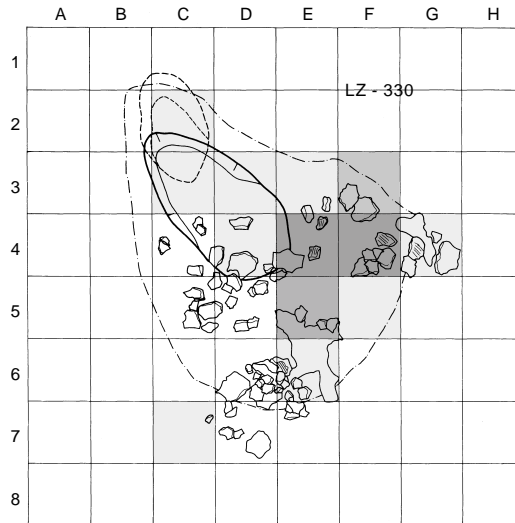


炉内滓

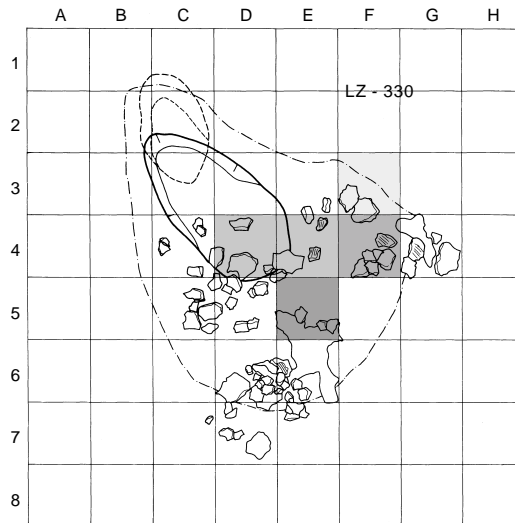


第567図 SN - 05 重量分布図

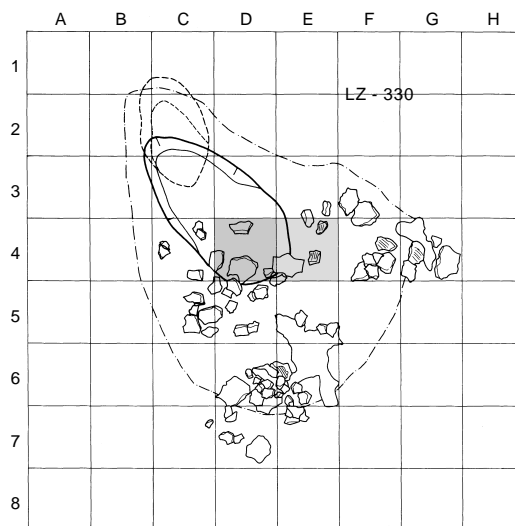
流動滓



流動滓(鳥足状)

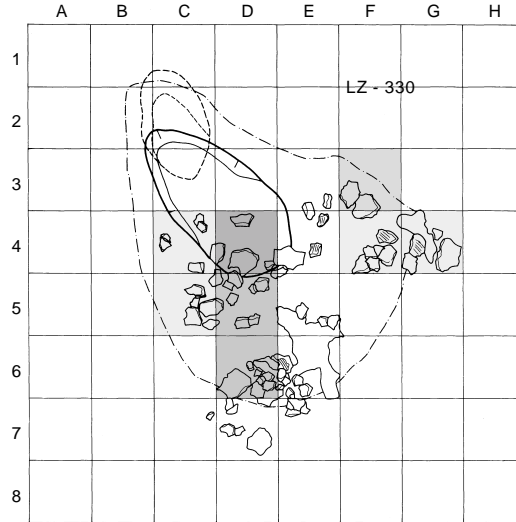


流出孔隙

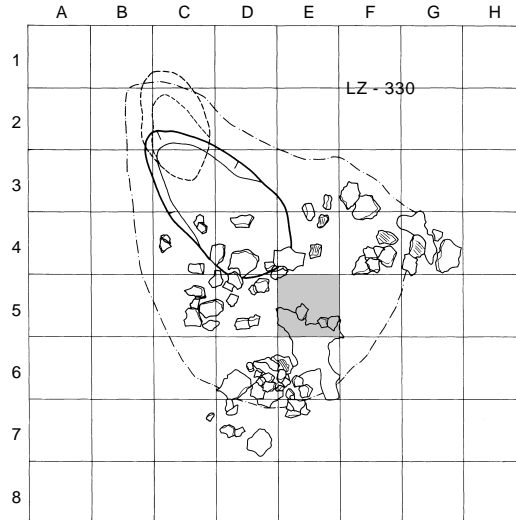


第568図 SN - 05 重量分布図

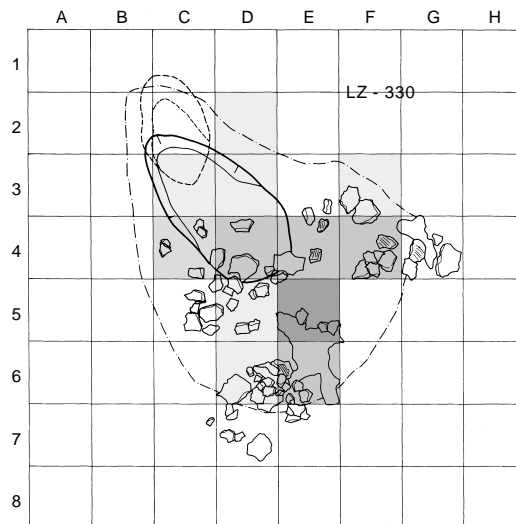
流出溝滓



鉄塊系遺物M ( )

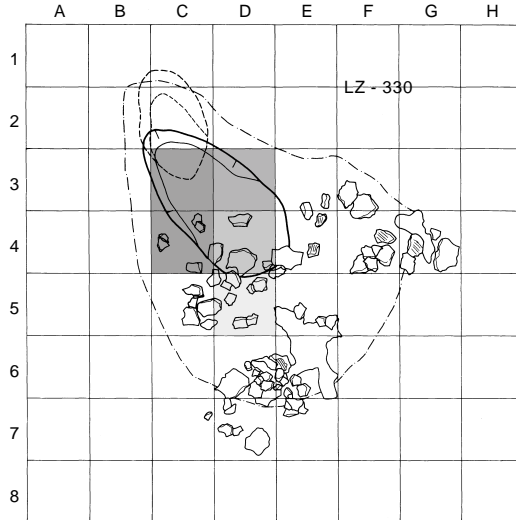
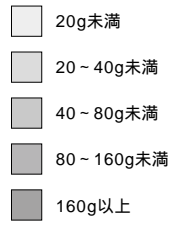


鉄塊系遺物 ( )

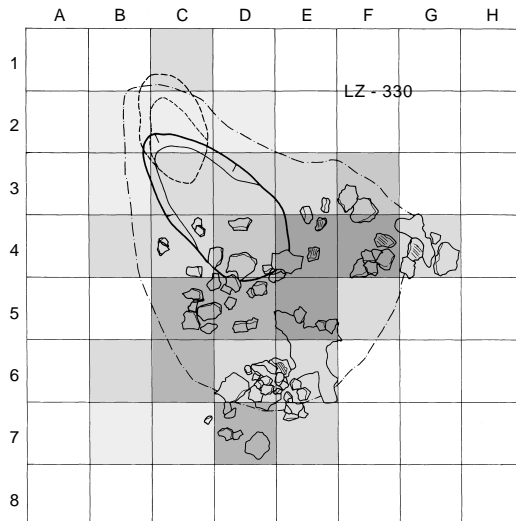
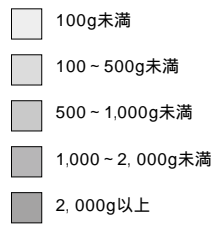


第569図 SN - 05 重量分布図

再結合滓



総重量



第570図 SN - 05 重量分布図



写真6 SN - 06遺物出土状況



写真7 SN - 05・06、SI - 120確認状況

## S N - 04 (第558・559図)

調査区の東側 L W - 331で検出した。S I - 118と重複し、S N - 03の記述でも触れたが、本遺構は S I - 118の廃絶後の堆積土上に構築されており、本遺構の方が新しい。S N - 03の構築面と同様の住居覆土第6層上に構築されており、第6層部分を50×40cmの規模で円形に掘り込み構築されている。壁面は被熱により赤化ならびに還元化しているが、坑底面は赤化ならびに還元化していない。坑内部から砂質炉壁片が出土している。明確な鉄生産関連遺構として認定できないが、S N - 03に併存した可能性が高いことから関連施設として機能した可能性についても考慮できる。

出土遺物の内訳については炉壁1,446 g、炉内滓844 g、流動滓1,204 g、流動滓(鳥足状)2,010 g、流出孔滓4 g、流出溝滓590 g、鉄塊系遺物76 gであるが、S N - 03と隣接した部分からの出土状況で一部 S N - 03に帰属した遺物が存在する可能性がある。

(木 村)

## S N - 06 (第571図)

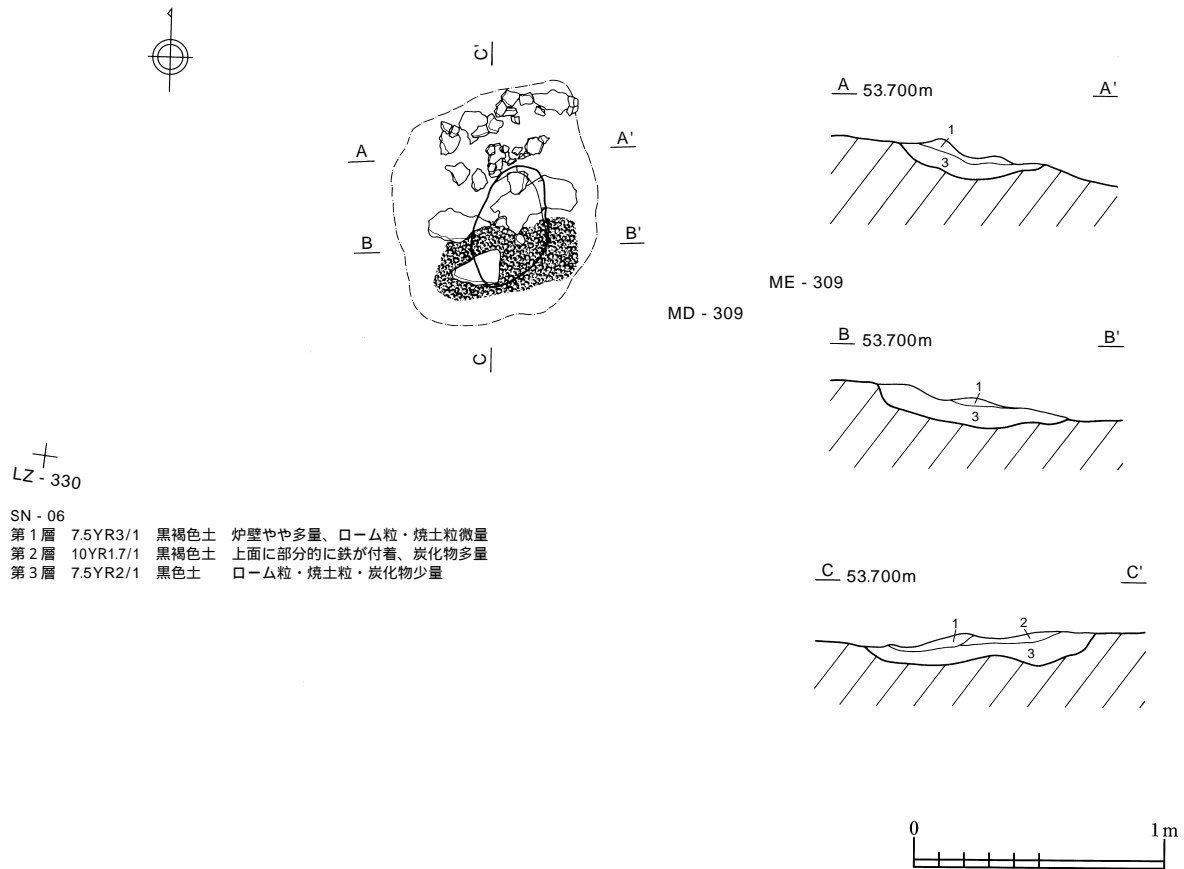
本遺構は、調査区東側の L Z - 329から検出した。S N - 05の東側に隣接して位置する。

確認段階では、炉壁や流出滓を主体とする遺物がおよそ80×50cmの範囲で散在し、特にこの範囲の南側においては、流出滓を主体とする鉄滓が広がっていた。散在する遺物の下部には、炭化物や微細な炉壁片、土砂が再結合化した部分が50×40cmほどの範囲で確認できたが、炉床部と考えられる痕跡は確認できなかった。最下層には、微細な炉壁片やローム粒、炭化物を混入し、黒色を呈する土層が堆積していた。

本遺構から出土した遺物は、炉壁3,738 g、砂鉄焼結塊58 g、炉内滓628 g、流動滓790 g、流動滓(鳥足状)36 g、流出孔滓52 g、流出溝滓286 g、鉄塊系遺物( )184 g、その他(工具痕付滓、工具付着滓等)36 g、総重量5,808 gである。

本遺構においては、確認段階で炉壁等の遺物が散在し、流出滓を主体とする鉄滓が範囲をなしているという点から、隣接する S N - 05と同様に製鉄炉という前提のもとに精査を行ったが、炉床部は存在していなかった。本来、存在していた炉床部が炉底塊の取り出しの際に除去されたとしても、下部の土層にある程度還元を受けた痕跡が残っているはずであるが、本遺構の土層においては S N - 05の7・12層のように還元を受けた痕跡が全くみられなかった。したがって、本遺構は製鉄炉である可能性は低いと考えられる。本遺構の形成要因として隣接する S N - 05の製鉄関連遺物が流れ込んだものである可能性も否定できない。

(設 楽)



第571図 SN - 06

8. 焼土状遺構

本報告における焼土状遺構とは、掘り込み等による下部構造の有無にかかわらず、堆積層上面において焼成の痕跡が残存する遺構について適用した。遺構番号は鉄生産関連遺構と同様にSNを付与している。

SN - 01 (第572図)

[位置] グリッドME - 303で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 焼土は65×64cmの範囲で検出した。不整形を呈している。

[下部構造] 不整形のピット状を呈し、80×70×20cmを測る。堆積土中に炭化物、焼土粒が含まれる。

[堆積土] 下部構造も含め3層に分層した。焼土層である第1層中から炭化物を少量検出している。

SN - 02 (第572図)

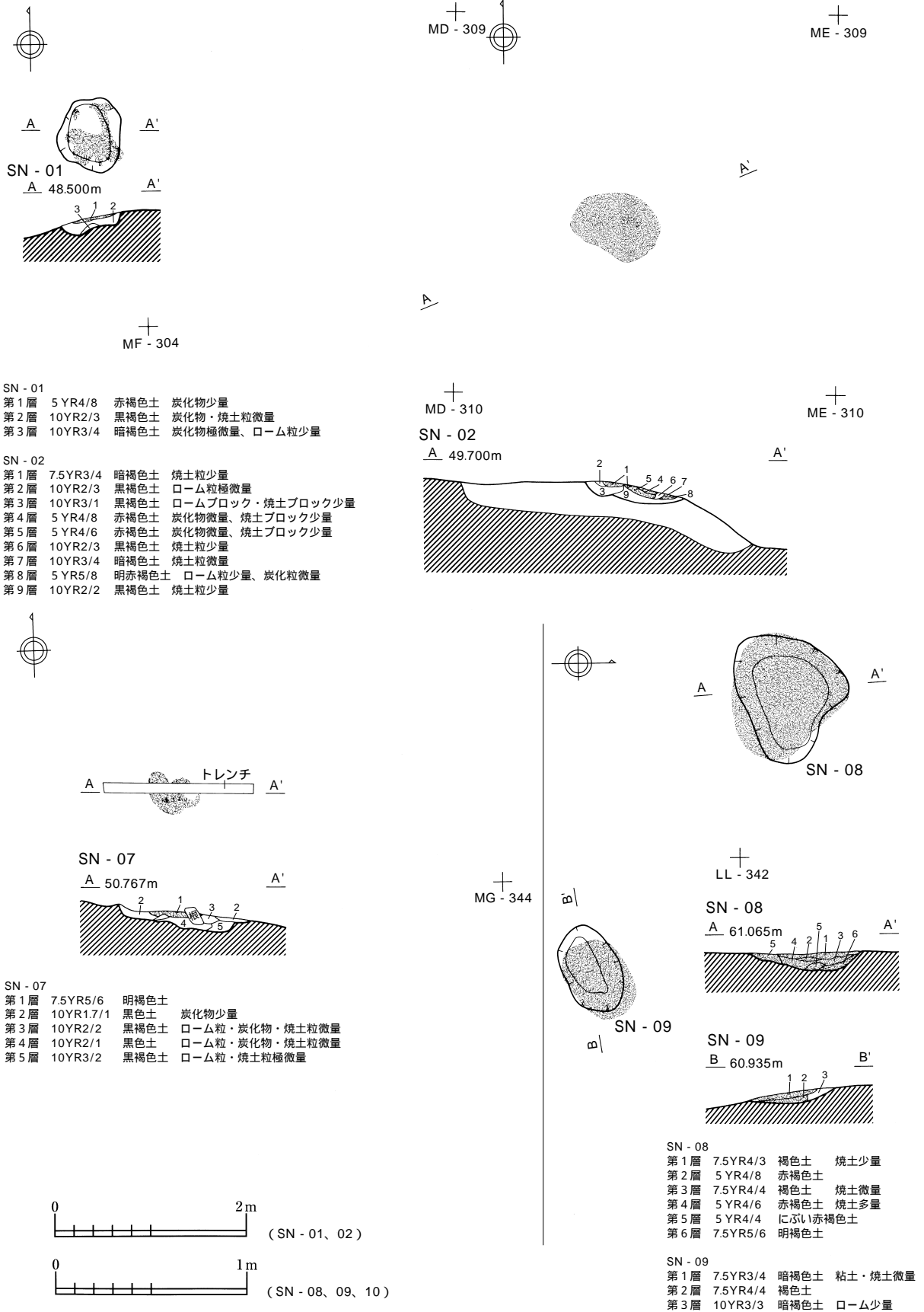
[位置] グリッドMD - 309で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 焼土は95×73cmの範囲で検出した。不整楕円形状を呈している。

[下部構造] 黒褐色土層中に焼土粒が検出する部分を分層できた。形状は不整形で明確な掘り込みとし





第572図 SN - 01・02・07・08・09

て認定できない。

[堆積土] 下部構造も含め9層に分層した。本遺構は黒褐色土層上から検出しており、赤化部分以外については黒褐色土主体の堆積層である。全般的に焼土ブロック、焼土粒、炭化物が混入する。

S N - 07 (第572図)

[位置] グリッドMF - 343で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 焼土は29×21cmの範囲で検出した。不整形を呈している。

[下部構造] 不整形の掘り込みを検出した。

[堆積土] 下部構造も含め5層に分層した。焼土層以下の土層は黒色土ならびに黒褐色土主体の堆積土で焼土粒、ローム粒、炭化物が含まれる。

S N - 08 (第572図)

[位置] グリッドLK - 341で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 焼土は68×40cmの範囲で検出した。不整形を呈している。

[下部構造] 大谷火山灰層の地山面に不整形の浅い掘り込みを検出した。また、掘り込みの下部は被熱により赤化している。

[堆積土] 下部構造ならびに赤化部分を含め6層に分層した。第5、6層は赤化した部分である。第1、3、4層から焼土を検出している。

S N - 09 (第572図)

[位置] グリッドLL - 342で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 焼土は42×30cmの範囲で検出した。楕円形を呈している。

[下部構造] 浅い楕円形の掘り込みを検出した。

[堆積土] 下部構造を含め3層に分層した。第1層は粘土ならびに焼土が微量含まれる。

S N - 10 (第573図)

[位置] グリッドLL - 343で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 焼土は30×24cmの範囲で検出した。不整形を呈している。

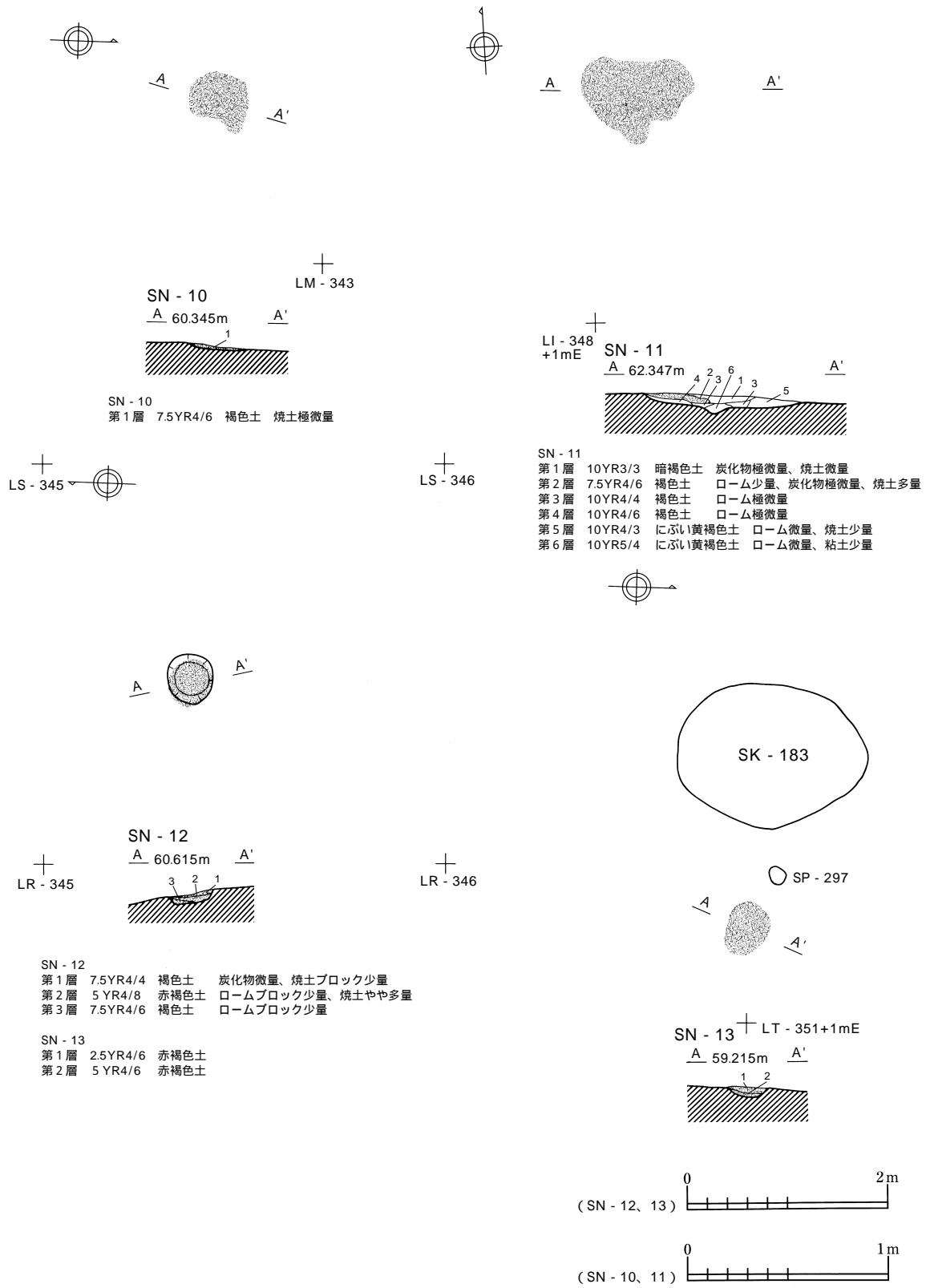
[下部構造] なし。

[堆積土] 1層に分層した。焼土粒が微量含まれる。

S N - 11 (第572図)

[位置] グリッドLI - 347で検出した。

[重複] なし。



第573図 SN - 10 ~ 13

[平面形・規模] 焼土は56×42cmの範囲で検出した。不整形を呈している。

[下部構造] 明確な掘り込みとして認定できないが浅い落ち込みに褐色土ならびににぶい黄褐色土が堆積しており、ローム粒ならびに焼土が混入する。

[堆積土] 下部構造を含め6層に分層した。焼土層は第2、3層で、ローム粒ならびに炭化物、焼土が含まれる。

S N - 12 (第573図)

[位置] グリッドLR - 345で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 焼土は47×44cmの範囲で検出した。ほぼ円形を呈している。

[下部構造] 明確な下部構造は認められなかったが、焼土層下部にロームブロックが混入する土層が確認できた。

[堆積土] 3層に分層した。焼土層は第2層で、第1層中に炭化物、焼土ブロックが含まれる。

S N - 13 (第573図)

[位置] グリッドLS・LT - 350・351で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 焼土は54×42cmの範囲で検出した。楕円形を呈している。

[下部構造] なし。

[堆積土] 2層に分層した。大谷火山灰層の地山が赤化しており、被熱の度合の差である。

S N - 14 (第574図)

[位置] グリッドME - 353で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 焼土は38×32cmの範囲で検出した。円形を呈している。

[下部構造] 不整形の浅い落ち込みがあり、炭化物ならびに火山灰が形状に沿って堆積している。

[堆積土] 下部構造を含め2層に分層した。第2層は黒色土ならびに黒褐色土が混入するにぶい黄褐色土が堆積しており、炭化物、焼土粒ならびに火山灰が含まれる。

S N - 15 (第574図)

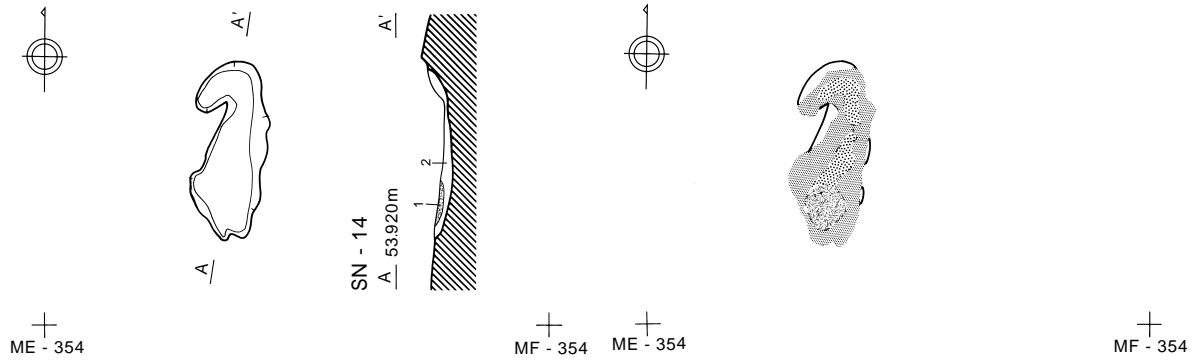
[位置] グリッドLY - 367で検出した。

[重複] なし。

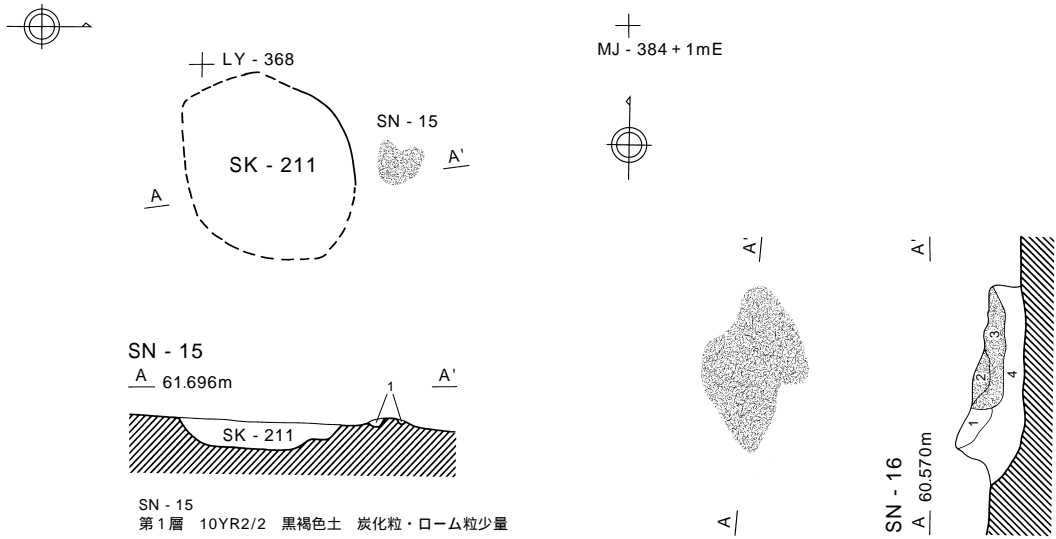
[平面形・規模] 焼土は36×28cmの範囲で検出した。不整形を呈している。

[下部構造] なし。

[堆積土] 1層に分層した。炭化粒、ローム粒が含まれ、隣接するSK - 211が焼成坑であることから関連性が考慮される。



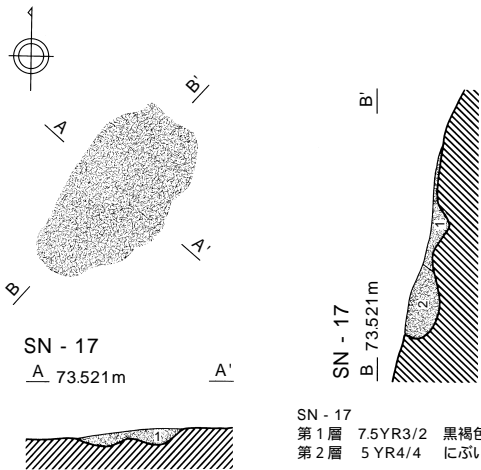
SN - 14  
 第1層 2.5YR4/8 赤褐色土 炭化物多量、黒褐色土・焼土粒・焼土ブロック混入  
 第2層 10YR7/3 にぶい黄橙色土 黒色土・黒褐色土混入、炭化物・焼土粒少量



SN - 15  
 A 61.696m  
 SK - 211  
 SN - 15  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化粒・ローム粒少量

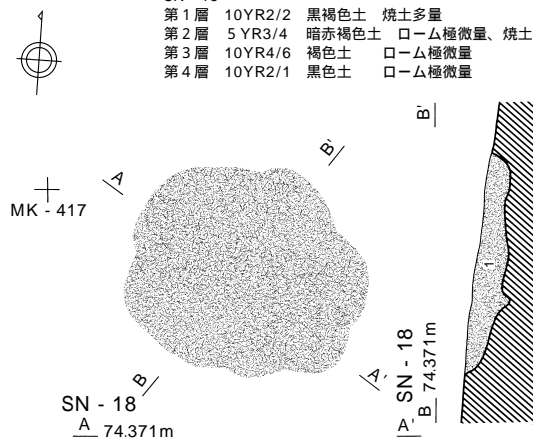
SN - 16  
 A 60.570m

SN - 16  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 焼土多量  
 第2層 5YR3/4 暗赤褐色土 □-△極微量、焼土少量  
 第3層 10YR4/6 褐色土 □-△極微量  
 第4層 10YR2/1 黒色土 □-△極微量



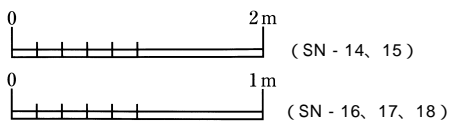
SN - 17  
 A 73.521m

SN - 17  
 B 73.521m  
 第1層 7.5YR3/2 黒褐色土 焼土粒微量  
 第2層 5YR4/4 にぶい赤褐色土



SN - 18  
 A 74.371m

SN - 18  
 第1層 7.5YR6/8 橙色土



MN - 416

第574図 SN - 14 ~ 18

S N - 16 (第574図)

[位置] グリッドM J - 384で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 焼土は67×41cmの範囲で検出した。不整形を呈している。

[下部構造] 黒色土上に堆積しており、明確な下部構造は認定できない。

[堆積土] 4層に分層した。第4層については基本土層に対応している。

S N - 17 (第574図)

[位置] グリッドMM - 415で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 焼土は78×42cmの範囲で検出した。不整楕円形を呈している。

[下部構造] なし。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は黒褐色土主体の土層で焼土粒が混入する。

S N - 18 (第574図)

[位置] グリッドMK - 417で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 焼土は100×88cmの範囲で検出した。不整円形を呈している。

[下部構造] なし。

[堆積土] 1層に分層した。

## 9. 畝状遺構

畝間と考えられる溝が縞状に並列している遺構である。一カ所のみ検出した。近年、畝跡と考えられる遺構の呼称について、問題提起がなされており(木村 1998) 本遺構における呼称の妥当性については、論が分かれるところであると思われるが、畝に相当する可能性も否定できない部分も存在することから「畝状遺構」という呼称を使用している。本遺構には、遺構略号としてS Xを付与している。

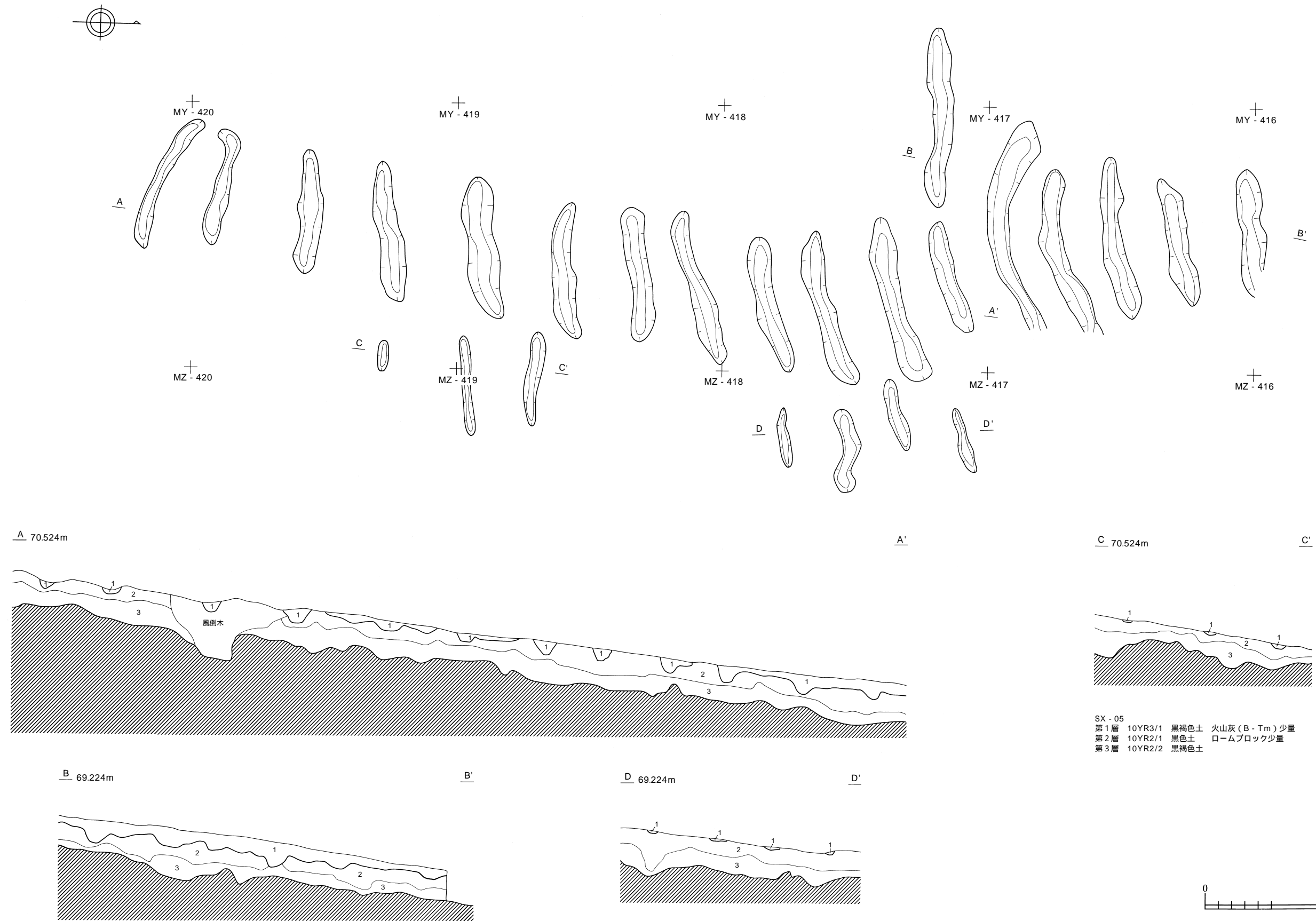
S X - 05 (第575図)

[位置] グリッドMY・MZ - 416~420で検出した。ほぼ南から北方向へ緩やかに下る斜面上に位置しており、標高は約60~70mを測る。

[重複] なし。

[平面形・規模] 128㎡の範囲で確認できた。個々の溝は直線状を主体とし、一部、弧状に蛇行してもみられる。溝の主軸は、N 70° E前後を基調としている。長さ2.5m×幅30cm程度の溝が並列する部分と、長さ1.3m×幅20cm程度の溝が並列する部分というように、並列する溝の規模によって大きく2単位に分けることができる。

[堆積土] 溝の落ち込み内には黒褐色を呈する1層が堆積し、その下層には黒色を呈する2層、さらにその下層には黒褐色を呈する3層が堆積している。1層が畝間に堆積した土層で、2層が当時の耕作面であると考えられる。

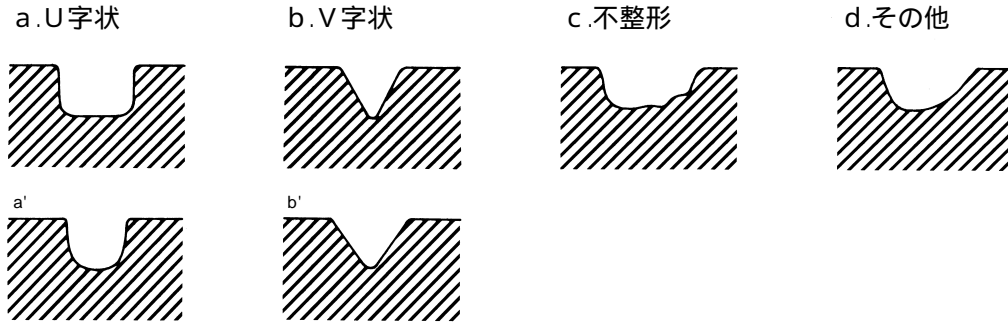


第575図 SX - 05

## 10. 溝跡

本調査で31条の溝跡を検出した。遺構略号としてSDを付している。主に排水機能、区画機能などと共に竪穴式住居の外周溝として機能したと考えられる溝跡も含まれる。

## 断面形



第576図 溝跡の断面図

## SD - 01 (第577図)

[位置] グリッドLT・LU - 300 ~ LT - 304で検出した。

[重複] SP - 11・14と重複している。SP - 11との関係は本遺構がSP - 11を切っており、本遺構の方が新しい。またSP - 14との関係は本遺構がSP - 14に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 南北軸で直線状を呈し、1812×35×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、上面が削平を受けているが底面からU字状の立ち上がりを有する。壁面は黒褐色土層を壁面としており、脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、堅緻である。底面の傾斜は、南側から北側に向かって傾斜する。

[堆積土] 1層に分層した。黒褐色土主体の堆積土でTo - a火山灰が粒状に混入する形で検出した。炭化物少量ならびに焼土粒が極微量混入する。

## SD - 02 (第577図)

[位置] グリッドLO - 302・303で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 南北軸で直線状を呈し、744×28×9cmを測る。本遺構から南側の延長線上にSD - 03が位置し、軸線等も同軸であることから本遺構と関連した可能性が考えられる。

[断面形・壁] 断面形はaで、U字状の立ち上がりを有する。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜は、南側から北側に向かって傾斜する。



S D - 03 (第577図)

[位置] グリッド L O - 305・306で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 南北軸で直線状を呈し、600×36×8cmを測る。本遺構から北側の延長線上に S D - 02が位置し、軸線等も同軸であることから本遺構と関連した可能性が考えられる。

[断面形・壁] 断面形は a で、U字状の立ち上がりを有する。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜は、南側から北側に向かって傾斜する。

[堆積土] 2層に分層した。第1層に暗褐色土、第2層に褐色土が堆積しており自然堆積状況を呈する。

S D - 04 (第577図)

[位置] グリッド L X・L Y - 307、L Y・L Z - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 東西軸で直線状を呈し、678×14×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は a で、U字状の立ち上がりを有する。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、堅緻である。底面の傾斜は、西側から東側に向かって傾斜する。

S D - 05 (第151図)

[位置] グリッド M E - 300、M E・M F - 301・302で検出した。

[重複] S I - 43・44、S K - 59・60と重複している。S I - 43との関係については本遺構が切られており、本遺構の方が古い。S I - 44との関係は掘立柱建物跡とのセット関係で外周溝として機能した可能性が考えられるが、溝の検出状況が住居の壁際途中で合流しているため、土留め等の掘り返し痕の要素についても考えられる。S K - 59・60との関係についてはいずれの遺構にも本遺構が切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] L字状を呈し、1356×75×50cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は c で、断面の形状が不均一である。斜面上に立地するため壁上部が削平を受けており、残存部分の壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、堅緻である。底面の傾斜は、南側から北側に向かって傾斜する。

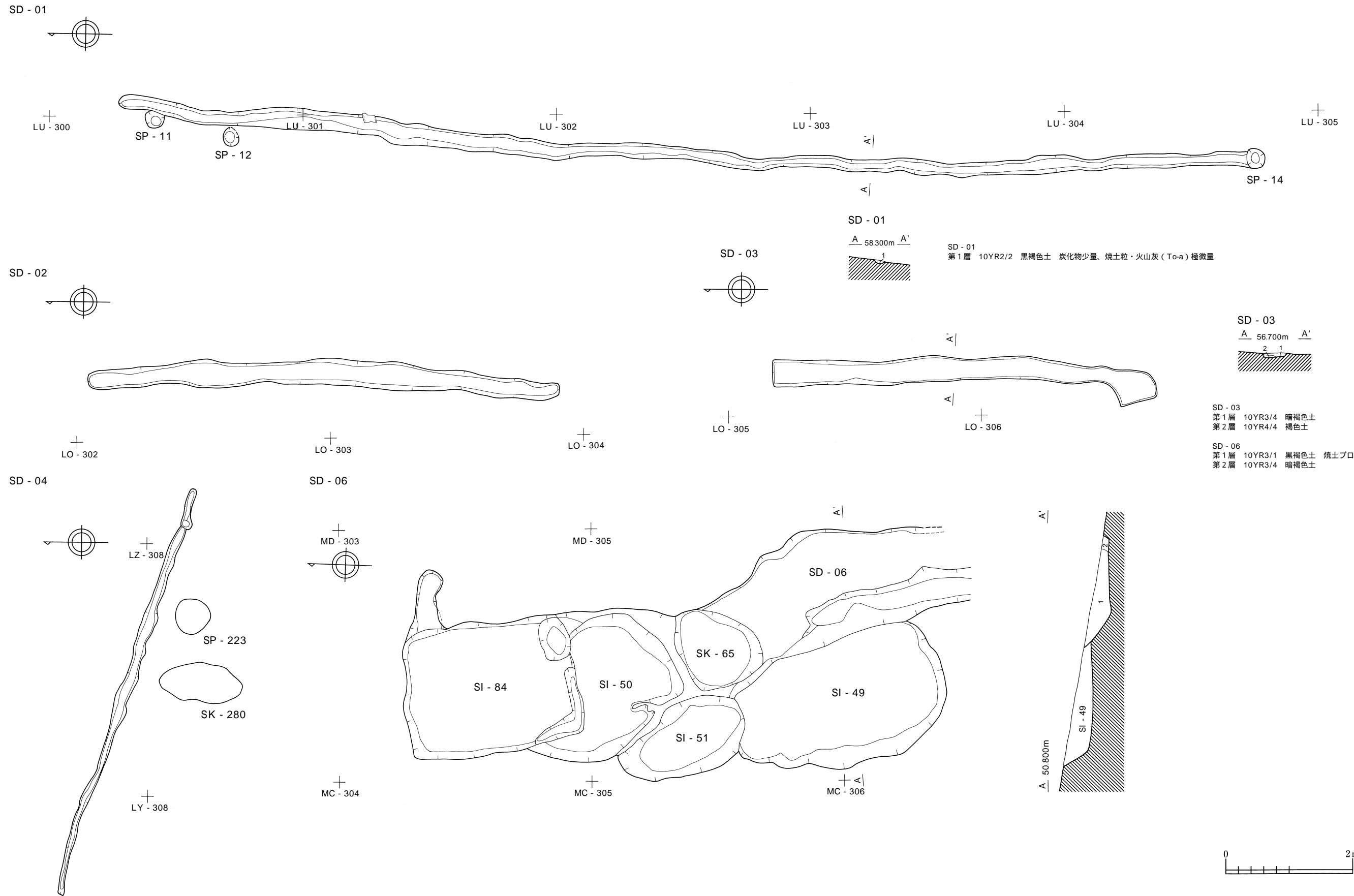
S D - 06 (第577・578図)

[位置] グリッド M C - 305・306で検出した。

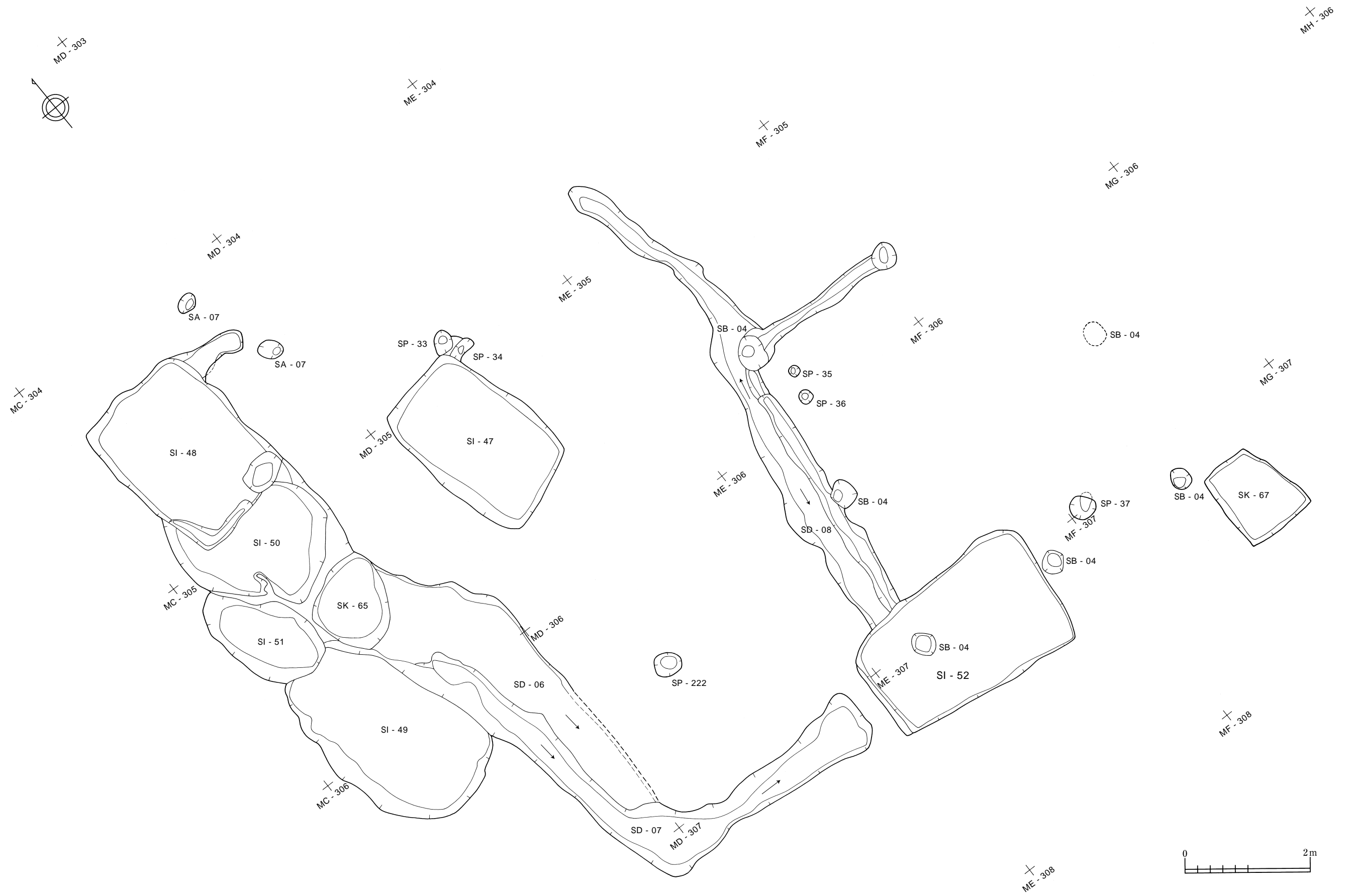
[重複] S I - 49、S K - 65、S D - 07と重複している。新旧関係についてはいずれの遺構も本遺構が切っており本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 南北軸で直線状を呈し、530×134×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は a で、やや幅広の形状を呈する。斜面上に立地するため壁上部が削平を受けており、残存部分の壁面は堅緻である。



第577図 SD - 01 ~ 04 ・ 06



第578図 SD - 06 ~ 08

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、堅緻である。底面の傾斜は、北側から南側に向かって傾斜する。

[堆積土] 2層に分層した。東壁側に暗褐色土を主体とする土層が堆積しているが、主体は焼土ブロックを混入する黒褐色土を呈する土層が堆積している。自然堆積状況を呈する。

#### SD - 07 (第578図)

[位置] グリッドMC - 305 ~ 307、MD - 307で検出した。

[重複] SI - 49ならびにSD - 06と重複している。新旧関係についてはSD - 06により重複部分の堆積土が切られておりSD - 06よりは古いがSI - 49との関係の詳細については不明である。

[平面形・規模] L字状を呈し、880×50×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はcで、壁の立ち上がりが不整形である。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、堅緻である。底面の傾斜は、北側部分は北側から南側に向かって傾斜し、クランクの部分からは西側から東側に向かって傾斜する。

#### SD - 08 (第578図)

[位置] グリッドME - 304 ~ 306で検出した。

[重複] SI - 52、SB - 04と重複している。新旧関係はSI - 52 > SB - 04 > SD - 08の関係で本遺構が最も古い。

[平面形・規模] 一部蛇行しているが、ほぼ南北軸で直線状を呈し、(860)×60×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、一部重複により削平を受けているが垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、堅緻である。底面の傾斜は、中央部から北側ならびに南側に向かって傾斜する。

#### SD - 09 (第579図)

[位置] グリッドMC - 307 ~ MB - 309で検出した。

[重複] SA - 08、SP - 40・41と重複している。いずれの遺構にも切られており本遺構の方が古い。また、断絶した延長部分についてはSK - 67と重複しており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 一部断絶しているが、L字状を呈し、975×30×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、一部開口部が広がる部分が見られるが、大部分は垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

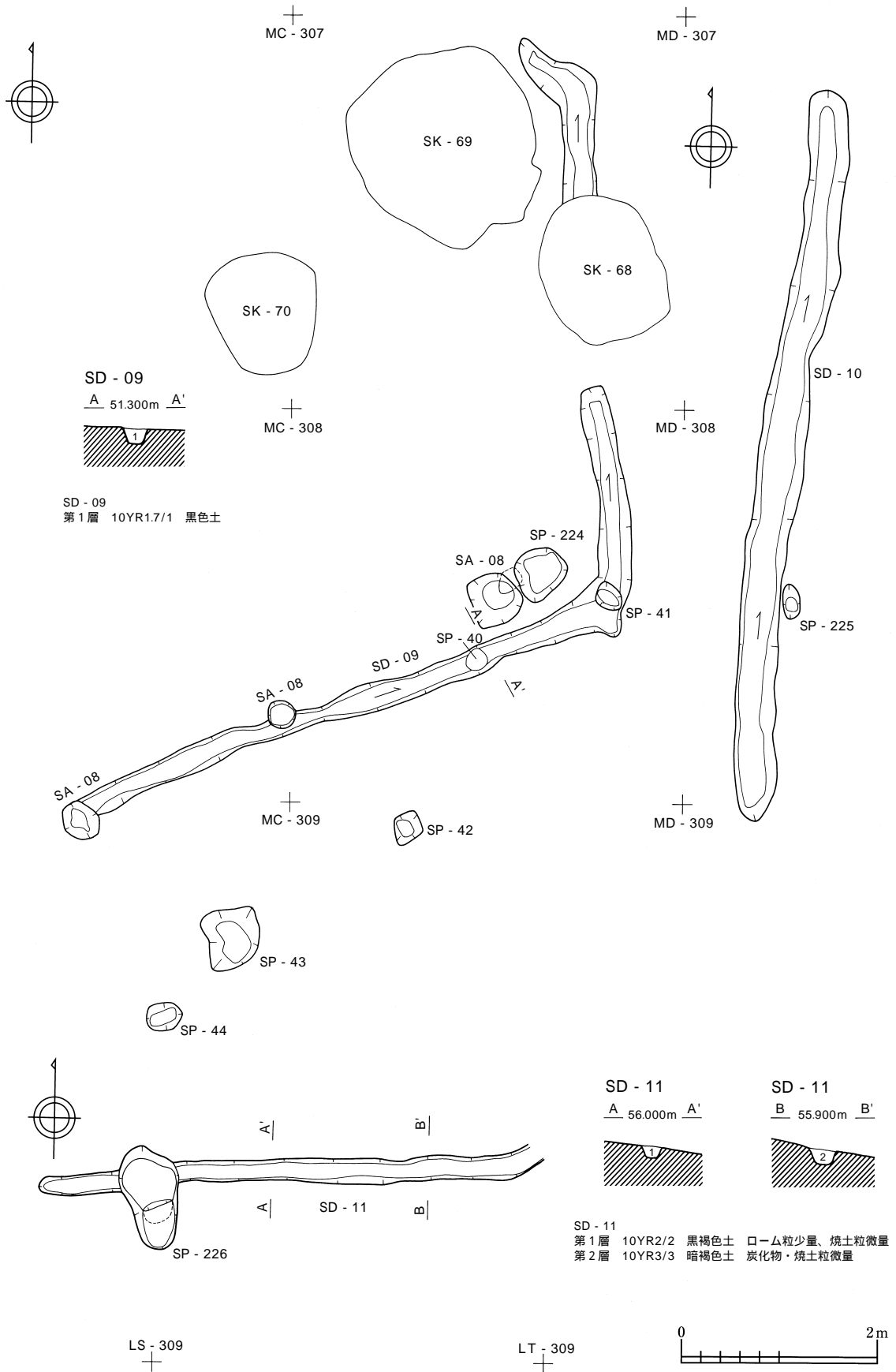
[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、堅緻である。底面の傾斜は、東西軸側は西側から東側に向かって傾斜し、南北軸は南側から北側にかけて傾斜する。

[堆積土] 黒色土のみの堆積で、混入物等は検出しなかった。

#### SD - 10 (第579図)

[位置] グリッドMD - 307 ~ 309で検出した。

[重複] なし。



第579図 SD - 09 ~ 11

[平面形・規模] 直線状を呈し、748×46×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜は、南側から西側に向かって傾斜する。

#### SD - 11 (第579図)

[位置] グリッドLR・LS - 308で検出した。

[重複] SP - 226と重複している。本遺構がSP - 226に切られており、本遺構の方が古い。また、東側の先端がSI - 69と接している。

[平面形・規模] 直線状を呈し、510×27×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜は、西側から東側に向かって傾斜する。

[堆積土] 2層に分層した。地点毎に堆積状況が異なり、斜面上方の西側の部分では黒褐色土主体の堆積土で、ローム粒、焼土粒が混入する。東側の部分では暗褐色土主体の堆積土で、炭化物、焼土粒が混入する。

#### SD - 12 (第580図)

[位置] グリッドLO - 308～LN - 309で検出した。

[重複] SI - 62・63、SP - 55と重複している。本遺構がいずれの遺構も切っており、本遺構の方が新しい。また、本遺構の南西側の延長線上にSD - 13が位置し、関連した可能性が考えられる。

[平面形・規模] 直線状を呈し、499×28×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、底面からV字状に立ち上がり、途中で角度を変え、垂直に近い形で外傾しながら立ち上がる。壁面は、重複部分は堆積土を壁面としており脆弱で、それ以外の部分についてはやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山ならびに重複した遺構の堆積土を底面としており、硬度が不均一である。底面の傾斜は、北側から南側に向かって傾斜する。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色土ならびににぶい黄褐色土の堆積土で、炭化粒ならびにローム粒が混入する。

#### SD - 13 (第580図)

[位置] グリッドLJ - 313～LG - 316で検出した。

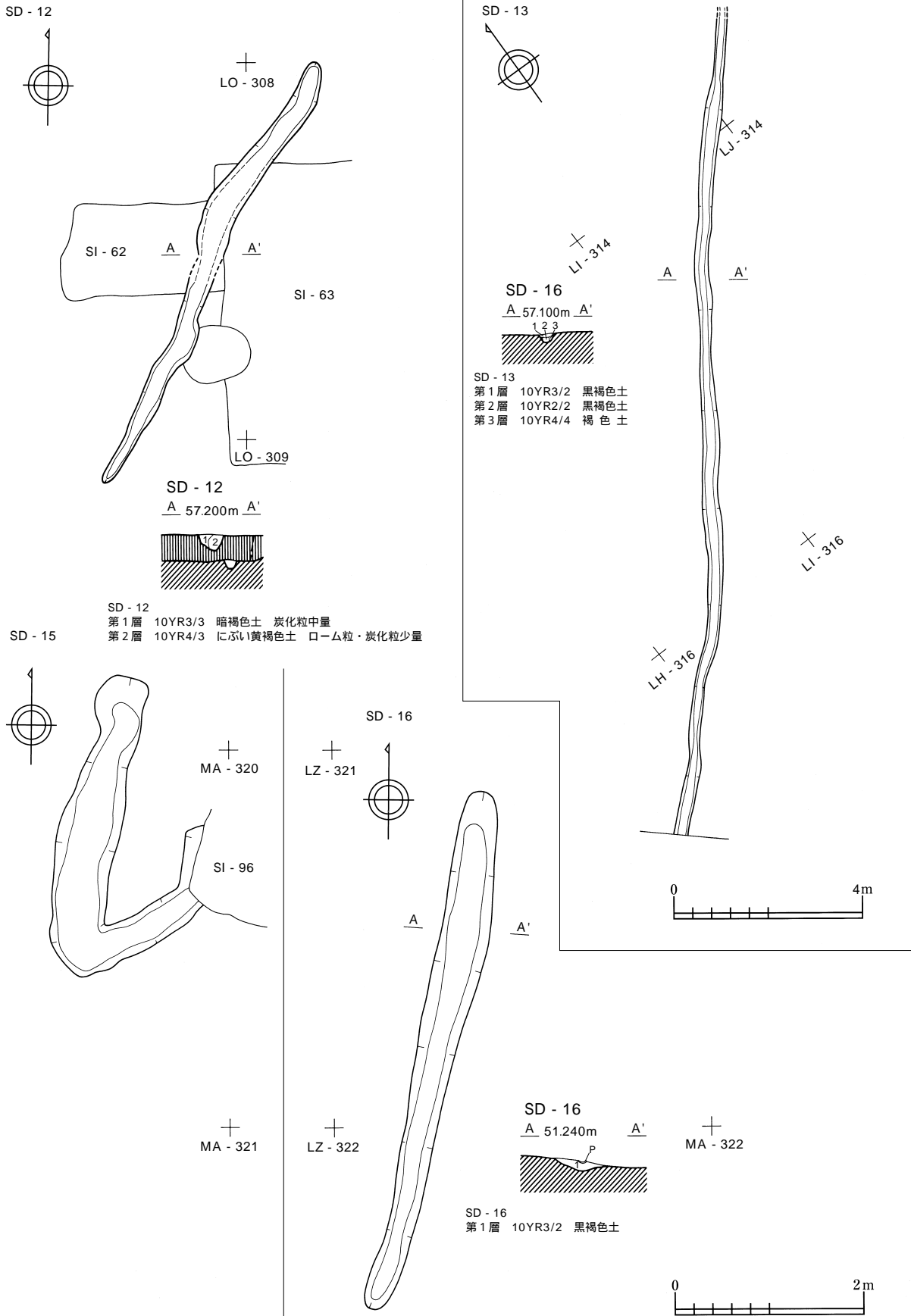
[重複] なし。

[平面形・規模] 一部調査区外へ延びるものと考えられ、直線状を呈し、1764×30×20cmを測る。本遺構の北東側に位置するSD - 12と軸線が類似し、本遺構と関連した可能性が考えられる。

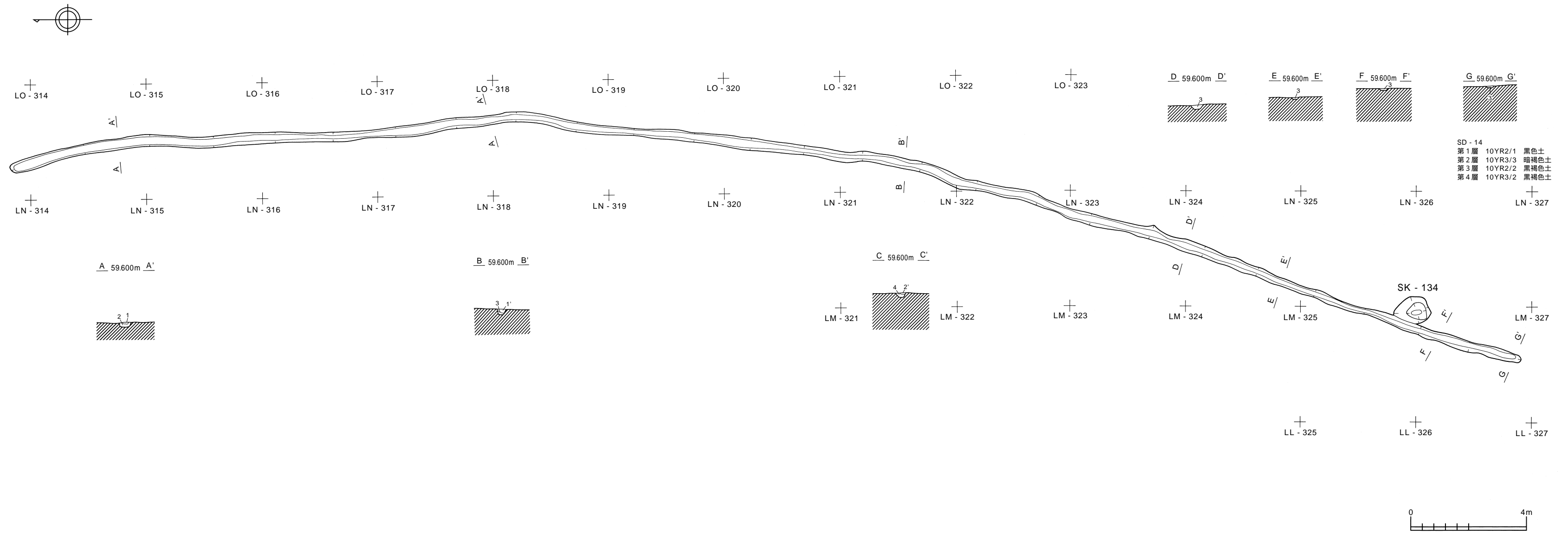
[断面形・壁] 断面形はaで、外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜は、北側から南側に向かって傾斜する。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色土ならびに褐色土主体の堆積土で、混入物等は検出しなかった。



第580図 SD - 12・13・15・16



第581圖 SD - 14



## S D - 14 (第581図)

- [位置] グリッドL O - 313～L L - 326で検出した。
- [重複] S K - 120、134と重複している。本遺構がいずれの遺構も切っており本遺構の方が新しい。
- [平面形・規模] 南北軸で直線状を呈し、5360×36×20cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。
- [底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜は、南側から北側に向かって傾斜する。
- [堆積土] 地点毎に堆積状況が異なり黒色土主体の土層、暗褐色土主体の土層が見られ、黒褐色土が堆積している部分も観察された。混入物等は検出しなかった。

## S D - 15 (第580図)

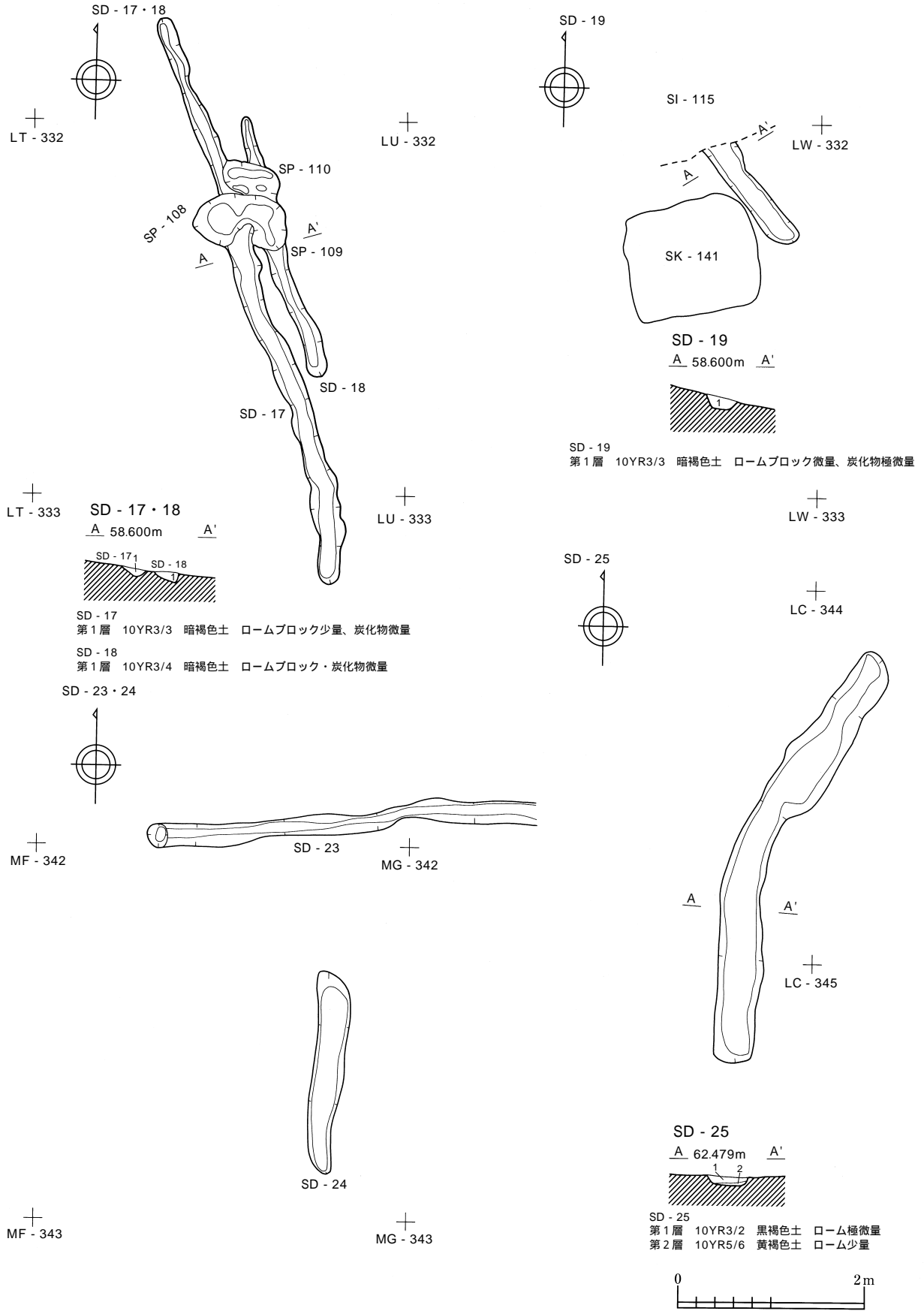
- [位置] グリッドL Z - 319・320で検出した。
- [重複] S I - 96と重複している。新旧関係の詳細については不明である。
- [平面形・規模] 鍵状に湾曲し、330×64×14cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はcで、形状が不均一である。壁面は堅緻である。
- [底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜は、北側から南側に向かって傾斜し、クランクの部分でS I - 96側に流れ込むように東側に傾斜している。

## S D - 16 (第580図)

- [位置] グリッドL Z - 321・322で検出した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 南北軸で直線状を呈し、560×52×14cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はbで、鈍角のV字形を呈する。壁面はやや脆弱である。
- [底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜は、北側から南側に向かって傾斜する。
- [堆積土] 1層に分層した。黒褐色土主体の堆積土で、混入物は検出していない。

## S D - 17 (第582図)

- [位置] グリッドL T - 331～333で検出した。
- [重複] S P - 108、110と重複している。本遺構がいずれの遺構にも切られており、本遺構の方が古い。
- [平面形・規模] 南北軸で直線状を呈し、630×30×11cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はbで、緩やかなV字状の立ち上がりを有する。壁面はやや脆弱である。
- [底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜は、北側から南側に向かって傾斜する。
- [堆積土] 1層に分層した。暗褐色土が堆積の主体を成し、ロームブロック、炭化物が混入する。



第582図 SD - 17 ~ 19・23 ~ 25

## S D - 18 (第582図)

[位置] グリッドL T - 332で検出した。

[重複] S P - 108、109、110と重複している。本遺構がいずれの遺構にも切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 南北軸で直線状を呈し、S D - 17と平行する形で検出した。規模は、288×20×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、東壁側は垂直に近い形で立ち上がり、西壁側は、鈍角に立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜は、北側から南側に向かって傾斜する。

[堆積土] 1層に分層した。暗褐色土が堆積の主体を成し、ロームブロック、炭化物が混入する。

## S D - 19 (第582図)

[位置] グリッドL V - 332で検出した。

[重複] S I - 115と重複している。本遺構がS I - 115に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切り合いのため断絶しているが、残存部分の規模については130×26×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、脆弱である。底面の傾斜方向は、北側から南側に向かって傾斜する。

[堆積土] 1層に分層した。暗褐色土主体の堆積土でロームブロック、炭化物が混入する。

## S D - 20 (第512図)

[位置] グリッドM E - 341～M F - 341で検出した。

[重複] S K - 171、172、176と重複している。本遺構がいずれの遺構も切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 切り合いのため詳細については不明であるが、東西軸で直線状を呈し、残存部分の規模は、(560)×84×41cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、鍋底状の立ち上がりを呈する。壁面は、重複部分ならびにそれ以外の部分についても脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや脆弱である。底面の傾斜方向は、東側から西側に向かって傾斜する。

[堆積土] 5層に分層した。黒褐色土ならびに黒色土主体の堆積土で、底面の一部に暗褐色土が堆積している。全般的にロームブロック、ローム粒が混入する。

## S D - 21 (第276図)

[位置] グリッドM C - 341～344、M D - 341で検出した。

[重複] S K - 179、S D - 22と重複している。新旧関係については、本遺構がS K - 179に切られており、またS D - 22を切っており、S D - 22<S D - 21<S K - 179の関係である。

[平面形・規模] 馬蹄形を呈し、2003×34×59cmを測る。南端部分は土坑状の掘り込みを検出した。規模は265×85×70cmを測る。溝の内側にはS I - 138ならびにS B - 15、16が位置し、本遺構は竪穴式住居跡+外周溝+掘立柱建物跡の外周溝として機能したと考えられる。

[断面形・壁] 断面形はa+dで、U字状に立ち上がる部分と鍋底状に立ち上がる部分が見られる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、堅緻である。底面の傾斜方向は、南側から北側に向かって傾斜する。

[堆積土] 7層に分層した。黒色土ならびに黒褐色土主体の堆積土でロームブロック、ローム粒、焼土粒が混入する。

#### S D - 22 (第276図)

[位 置] グリッドMC・MD・ME - 341、MC - 342で検出した。

[重 複] S D - 21と重複している。本遺構がS D - 21に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 弓状を呈し、1148×35×34cmを測る。S D - 21に切られているため、詳細については不明であるが、外周溝としての可能性が考えられる。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で外傾する。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや脆弱である。底面の傾斜方向は西側から東側に向かって傾斜する。

[堆積土] 3層に分層した。黒色土主体の堆積土で、S D - 21と同様ロームブロック、ローム粒が混入する。

#### S D - 23 (第582図)

[位 置] グリッドMF・MG - 341で検出した。

[重 複] 溝の西端部分にピット状の落ち込みを検出した。規模は418×22×20cmを測る。

[平面形・規模] 東西軸で直線状を呈し、東端は調査区外へ延びる。調査区内での規模は、418×24×29cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、一部緩やかに外傾する部分も見られたが、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底 面] 黒褐色土層を底面としており、脆弱である。底面の傾斜方向は西側から東側に向かって傾斜する。

#### S D - 24 (第582図)

[位 置] グリッドMF - 342で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 南北軸で直線状を呈し、218×32×9cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底 面] 黒褐色土層を底面としており、脆弱である。底面の傾斜方向は南側から北側に向かって傾斜する。

## S D - 25 (第582図)

[位置] グリッドL B - 344・345、L C - 344で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] やや緩やかな弓状を呈し、476×44×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、鍋底状の形状を呈する。壁面は垂直に近い形で外傾しながら立ち上がり、やや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜方向は南側から北側に向かって傾斜する。

[堆積土] 2層に分層した。下層に明褐色土、上層に黒褐色土が堆積しており、ローム粒が混入する。

## S D - 26 (第583図)

[位置] グリッドL D - 344・345、L E - 345・346で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 北西～南東軸で直線状を呈し、772×33×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、鍋底状の形状を呈する。壁面は外傾しながら立ち上がり、やや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜方向は南東側から北西側に向かって傾斜する。

[堆積土] 2層に分層した。地点毎に堆積状況が異なり、黒色土ならびに黒褐色土がそれぞれの地点で堆積している。ローム粒が混入する。

## S D - 27 (第583図)

[位置] グリッドM C - 353・354で検出した。

[重複] S K - 200と重複している。新旧関係の詳細については不明である。

[平面形・規模] 弧状を呈し、490×49×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜方向は南側から北側に向かって傾斜する。

[堆積土] 上層が攪乱を受けており、残存部分について2層に分層した。第1層は褐色土、第2層は黄褐色土が堆積し、ローム粒、炭化粒が混入する。

## S D - 28 (第583図)

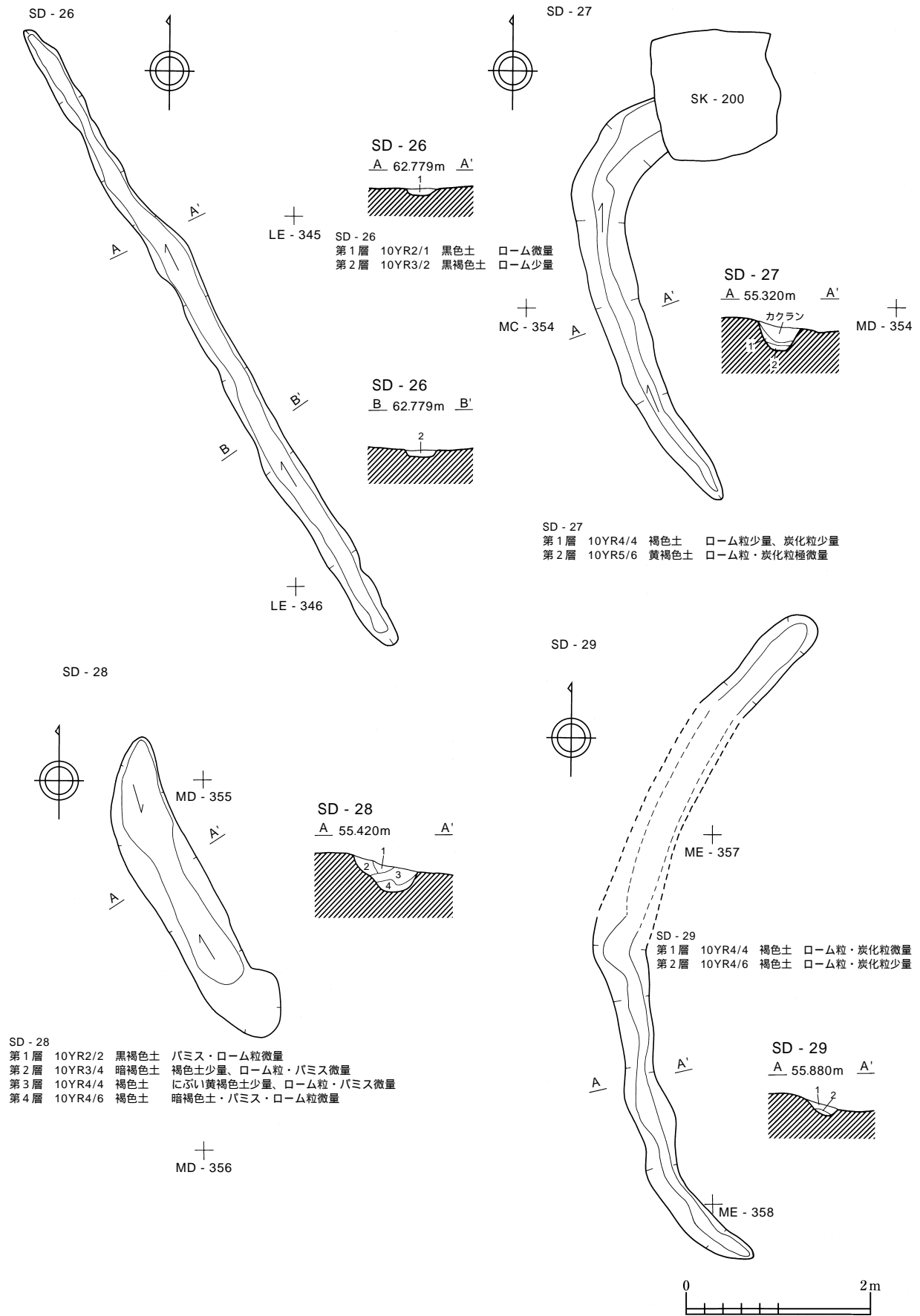
[位置] グリッドM C - 354・355、M D - 355で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 直線状を呈し、350×72×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はcで、不整形を呈する。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜方向は中央部分が最も深い。



第583図 SD - 26 ~ 29

[堆積土] 4層に分層した。第1層で黒褐色土が堆積している以外は暗褐色土ならびに褐色土と明色系の土が堆積している。パミス、ローム粒が混入する。

SD - 29 (第583図)

[位置] グリッドMD - 356 ~ 358、ME - 356・358で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 弧状を呈し、802×36×19cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜方向は、南側から北側に向かって傾斜する。

[堆積土] 2層に分層した。褐色土主体の堆積土でローム粒、炭化粒が混入する。

SD - 30 (第584図)

[位置] グリッドME - 357・358、MF - 358で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形ではあるが直線状を呈し、406×54×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、緩やかなV字状を呈する。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜方向は、北西側から南東側にかけて傾斜する。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は黒褐色土、第2層は暗褐色土が堆積し、ローム粒、炭化粒が混入する。

SD - 31 (第584図)

[位置] グリッドLK - 379・380、LL - 380 ~ 383、LM - 383・384で検出した。

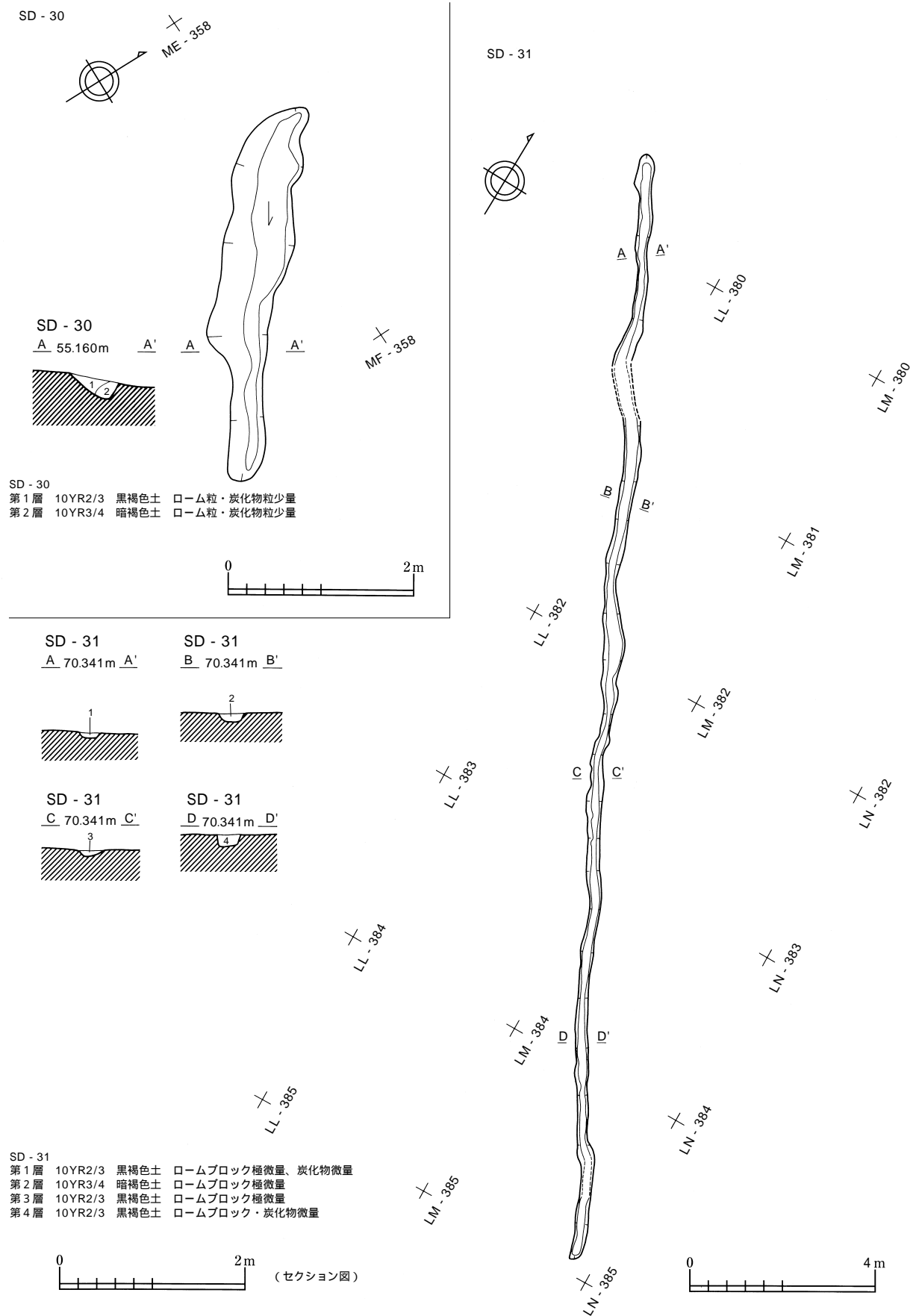
[重複] なし。

[平面形・規模] 直線状を呈し、2390×24×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや堅緻である。底面の傾斜方向は北側から南側にかけて傾斜する。

[堆積土] 4層に分層した。地点毎に堆積状況が異なるが、黒褐色土ならびに暗褐色土がそれぞれの地点で堆積している。ロームブロックならびに炭化物が混入している。



第584図 SD - 30・31



## 11. その他

本報告におけるその他の遺構とは、性格不明あるいは前項までの分類外の資料について適用した。遺構略号はS Xを付与している。

## S X - 01 (第585図)

[位置] グリッドMD - 316で検出した。

[重複] 検出時点で風倒木が隣接しており、風倒木により破壊された住居跡のカマドとして認定して精査したが、風倒木堆積層除去時点で住居跡の構造物が検出できなかった。カマドとして精査した本遺構についても鉄滓が堆積土中から出土し、住居内カマドとして認定できなかったことから本項で取り扱った。

[平面形・規模] 半地下式カマドと同様の構造で、規模は長軸（南北軸）291×短軸（東西軸）91cmを測る。主軸はN - 170° - Wである。

[堆積土] 32層に分層した。第15層直上に堆積する粘土層が青灰色を呈している。第11層ならびに第13～15層中から鉄滓が出土している。また、前庭部と考えられる部分から土坑状の掘り込みを検出し、坑上部から鉄滓が出土している。出土した鉄滓については鍛冶滓が中心で出土量がわずかであり、堆積層の状況とあわせとして鉄生産関連炉として認定できない。

## S X - 02 (第586図)

[位置] グリッドMF - 329・330で検出した。

[重複] 層序から確認できなかったが、溝状の掘り込みとピット状の掘り込み2基が本遺構と重複した位置から検出した。本遺構との帰属関係あるいは新旧関係の詳細については不明である。

[平面形・規模] 一部調査区外へ延びるため詳細については不明であるが、(294)×238×116cmを測る。

[断面形・壁] 東傾する斜面上に構築されているため、東西軸については西側の部分から緩やかに傾斜する形状を呈する。南北軸についてはほぼ垂直に近い形で立ち上がる。月見野火山灰層の地山を壁面としており、やや脆弱である。

[底面] 西側は月見野火山灰層の地山を一部底面としており、東側は大谷火山灰層の地山を底面としている。底面は西側から東側に傾斜を持ち、硬度については不均一である。

[堆積土] 1層に分層した。明黄褐色土ブロック（月見野火山灰層起源）ならびにB - T m火山灰ブロックを含み、多量の土器の碎片や鉄滓等が出土した。廃棄場所としての機能が考えられる。

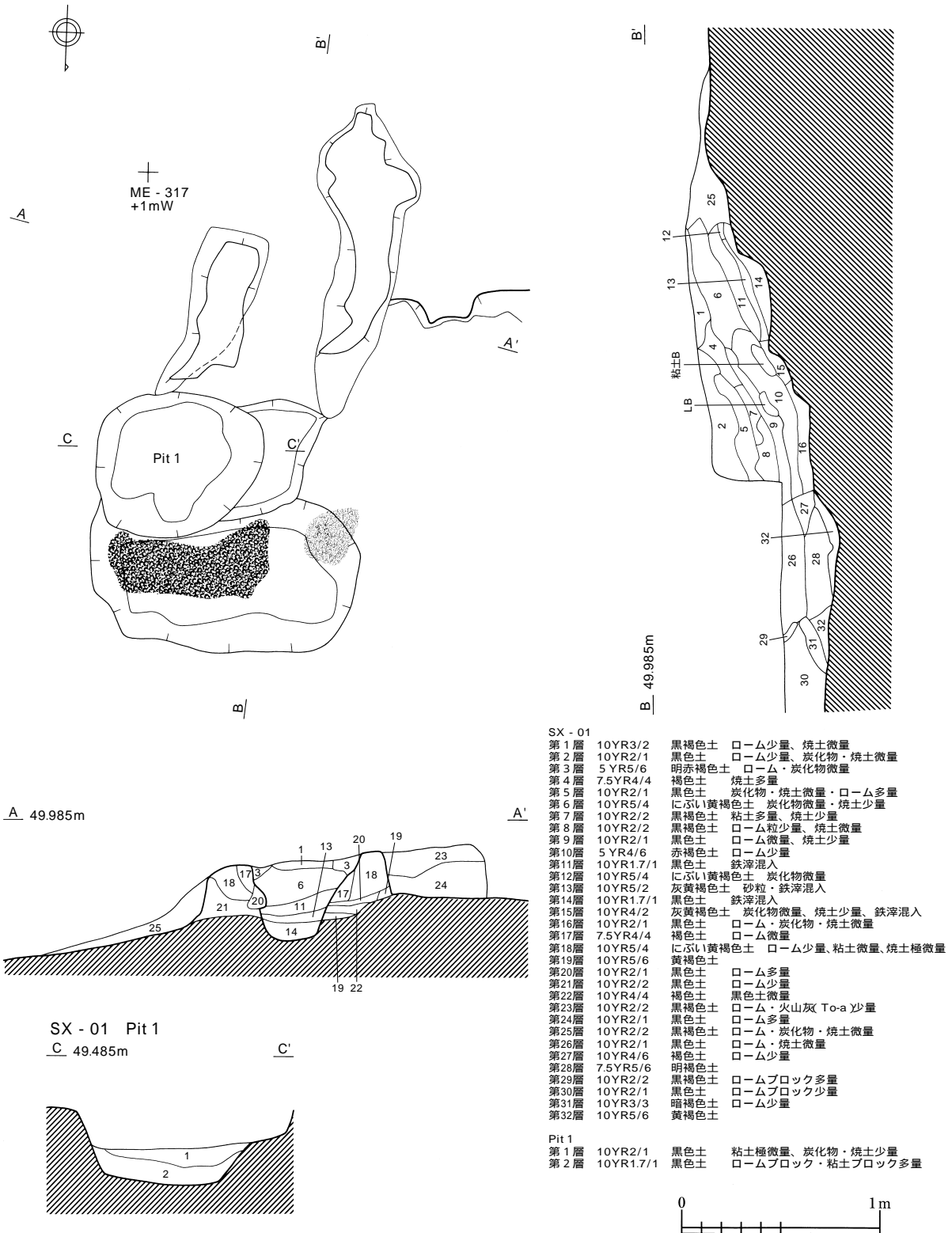
## S X - 03 (第586図)

[位置] グリッドLT - 358で検出した。

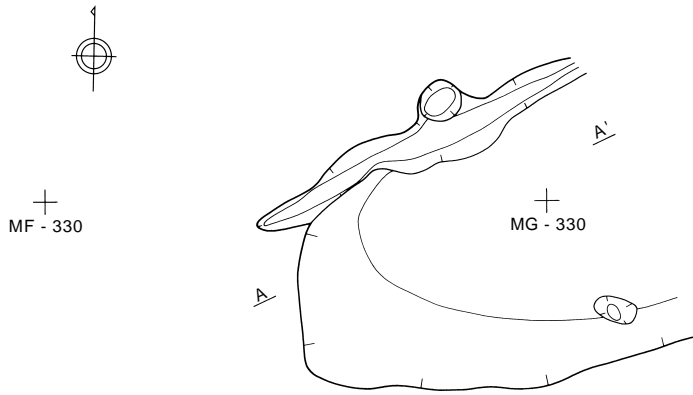
[重複] SP - 155・156と重複している。本遺構がSP - 155・156に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 北側が溝状、南側が不整形のピット状の掘り込みが繋がった不整形を呈し、100×28×12cmを測る。

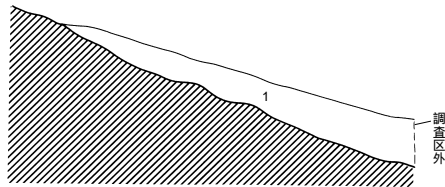
[断面形・壁] 北側の溝状の部分は緩やかに立ち上がり、南側のピット状の部分は垂直に近い形で立ち



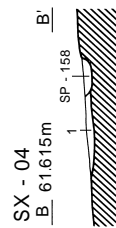
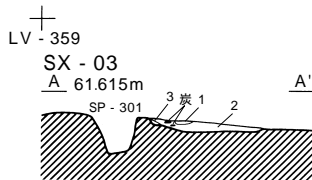
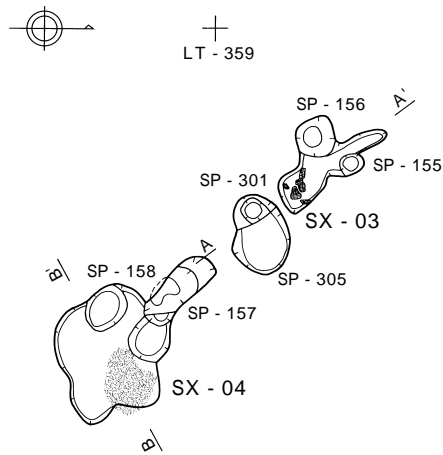
第585図 SX - 01



SX - 02  
A. 47.690m

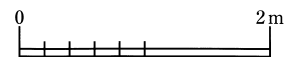


SX - 02  
第1層 10YR1.7/1 黒色土 明黄褐色土ブロック・火山灰 (B-Tm) ブロック少量



SX - 03  
第1層 10YR4/6 褐色土 パミス少量  
第2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・炭化粒少量  
第3層 10YR4/6 褐色土 ローム粒中量

SX - 04  
第1層 5 YR5/6 明赤褐色土 パミス・炭化粒少量



第586図 SX - 02 ~ 04

上がる。壁面はやや堅緻である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや傾斜を持つ。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。第1、3層は大谷火山灰層主体のローム土で、それぞれローム粒、パミス粒が含まれる。第2層は暗褐色土が堆積し、炭化物が含まれる。隣接するSX - 03と同様焼成施設としての可能性が考えられる。

SX - 04 (第586図)

[位 置] グリッドLT - 359で検出した。

[重 複] SP - 157・158と重複している。本遺構がSP - 157・158に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 不整形の浅いピット状を呈し、116×80×10cmを測る。

[断面形・壁] 西側の部分は垂直に近い形で立ち上がり、東側の焼土層が広がる部分は緩やかな立ち上がりを呈する。壁面はやや堅緻である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としておりやや傾斜がある。底面はやや堅緻である。またSP - 157に切られているが北側部分にピット状の落ち込みを検出した。規模は40×32×5cmを測る。

[堆積土] 1層に分層した。明赤褐色土主体の堆積土でパミス、炭化粒が少量含まれる。

### 第3節 時期不明の遺構

本節で取り扱った遺構については発掘調査時点で遺構の残存状況が良好でないなどの事由により明確な帰属時期の判別がつかなかったものについて取り上げた。要素の抽出において平安時代に帰属したと考えられる遺構についても一部含まれている。

#### 1. 竪穴遺構

SI - 248 (第587図)

[位置] グリッドLZ・MA - 308で検出した。

[重複] なし。

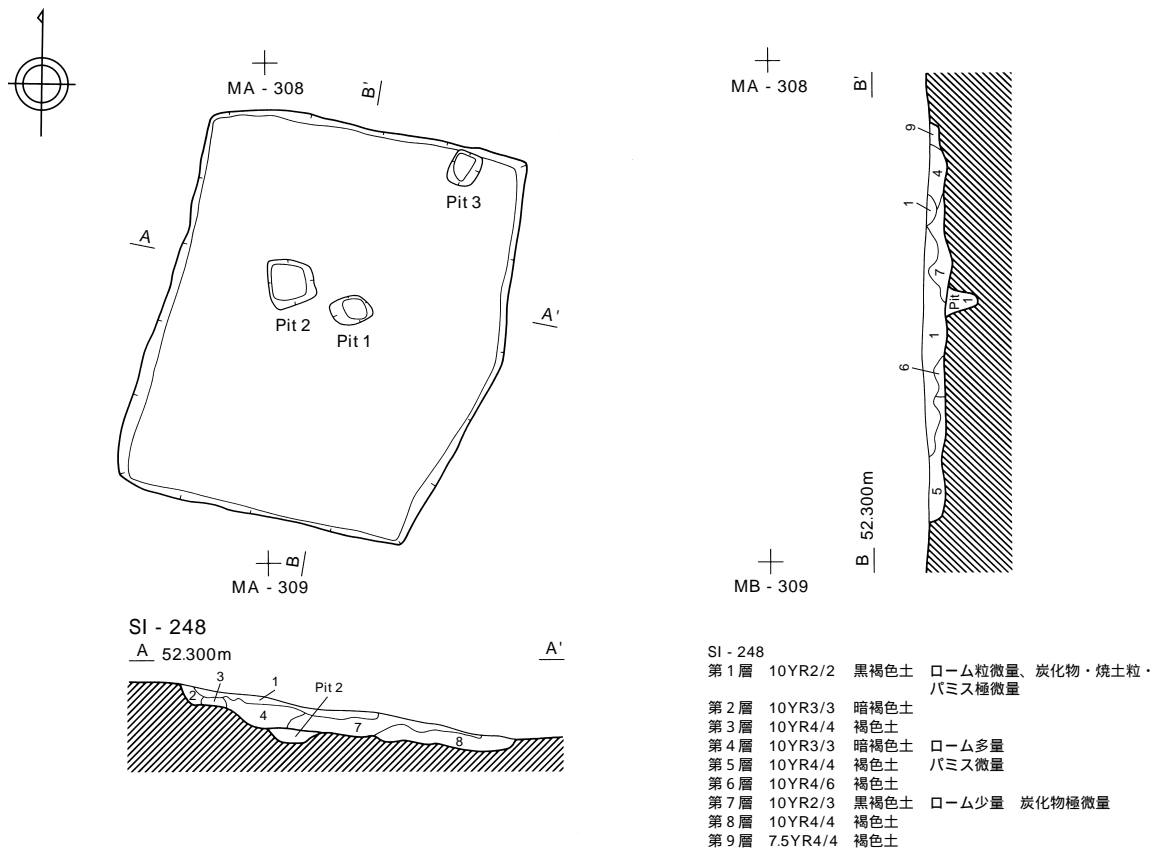
[平面形・規模] 長方形を呈し320×272×54cmを測る。床面積は8.312m<sup>2</sup>を測る。

[壁] 東壁側は削平を受けており残存部分での壁高は、北壁7cm、南壁12cm、西壁18cmを測る。断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[床] 月見野火山灰層の地山を床面としており、起伏があり、東傾している。床面はやや脆弱である。

[壁溝] なし。

[ピット] 竪穴内から3基検出した。各ピットの規模は、Pit 1 = 35×25×24cm、Pit 2 = 47×41×11cm、Pit 3 = 28×23×8cmを測る。Pit 1については、1本柱の主柱穴として機能した可能性が考



第587図 SI - 248

えられる。

[その他の付属施設] なし。

[堆積土] 9層に分層した。褐色土ならびに暗褐色土の明色系の土が主に堆積しており、床直に堆積している第7、8層は大谷火山灰層の地山土主体の堆積土で埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

SI - 250 (第588図)

[位置] グリッドLQ - 318・319で検出した。

[重複] SK - 290と重複している。本遺構がSK - 290の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 長方形を呈し、326×172×58cmを測る。床面積は5.132㎡を測る。

[壁] 壁高は、北壁47cm、東壁45cm、南壁55cm、西壁50cmを測る。断面形はaで、ほぼ垂直に近い形で立ち上がる。SK - 290との重複部分はやや脆弱で、他の部分は堅緻である。

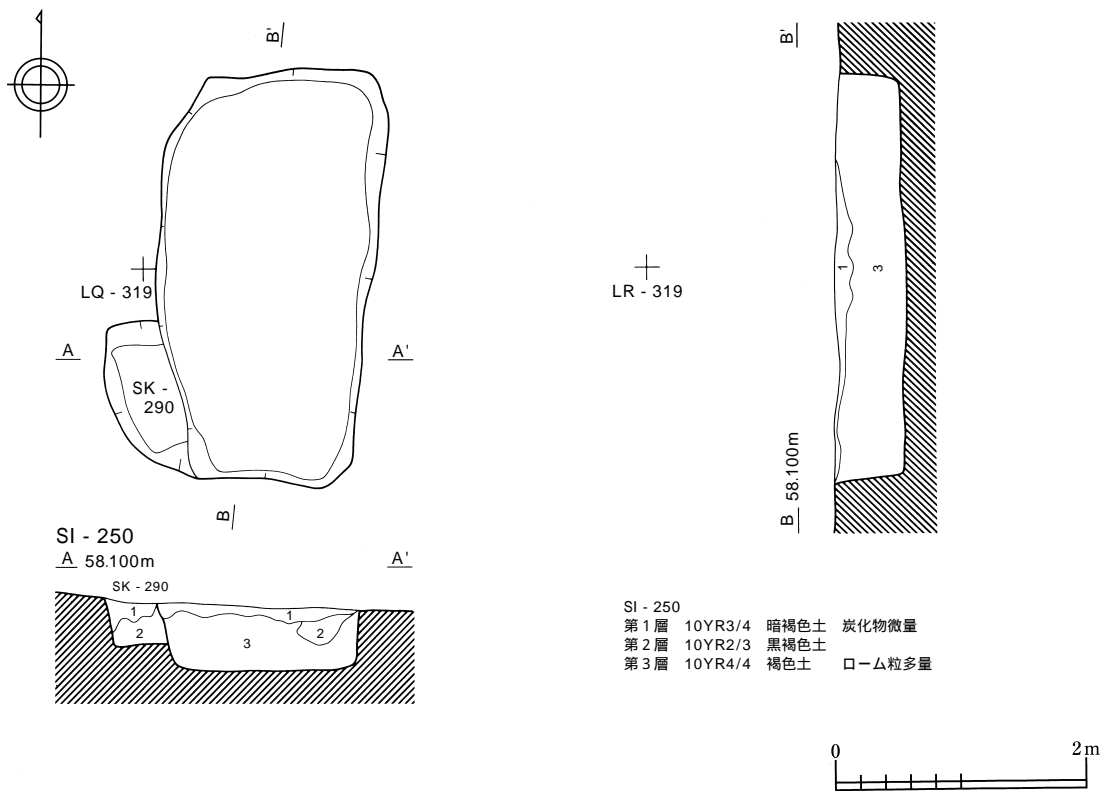
[床] 大谷火山灰層の地山を床面としており、ほぼ平坦である。床面は堅緻である。

[壁溝] なし。

[ピット] なし。

[その他の付属施設] なし。

[堆積土] 3層に分層した。竪穴を埋め尽くしている第3層はローム粒を多量に含む褐色土が堆積しており、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。また、覆土出土の破片が隣接するSI - 90Pit 2出土の資料と接合関係にあり、平安時代に帰属した可能性が高い。



第485図 SI - 247(上段)、SI - 249(下段)

## S I - 252 (第589図)

[位置] グリッドL J - 328・329で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 攪乱により西壁側の情報が欠落しているが、残存部分から長方形を呈したものと考えられ、(192) × 143 × 38cmを測る。床面積は2.018㎡を測る。

[壁] 攪乱により西壁側の情報が欠落しているが、残存部分の壁高は、北壁30cm、東壁27cm、南壁31cmを測る。断面形はcで、壁上部の一部で緩やかな立ち上がりが見られる。壁面はやや脆弱である。

[床] 大谷火山灰層の地山を床面としており、やや起伏がある。床面は堅緻である。

[壁溝] なし。

[ピット] なし。

[その他の付属施設] なし。

[堆積土] 2層に分層した。第2層は、ロームブロックと黒褐色土の混合層で、住居の掘り方に充填される土とほぼ同質のものである。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

## S I - 253 (第589図)

[位置] グリッドL M・L N - 330・331で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 一部攪乱に切られているが、長方形を呈し、214 × 162 × 38cmを測る。床面積は3.415㎡を測る。

[壁] 壁高は、北壁22cm、東壁14cm、南壁31cm、西壁24cmを測る。断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。

[床] 大谷火山灰層の地山を床面としており、ほぼ平坦である。床面は堅緻である。

[壁溝] なし。

[ピット] なし。

[その他の付属施設] なし。

[堆積土] 2層に分層した。床面に堆積する第2層は月見野火山灰層の地山土主体の堆積土で、また第1層中に多量のロームブロックが混入しており、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

## S I - 254 (第589図)

[位置] グリッドL Z・M A - 341で検出した。

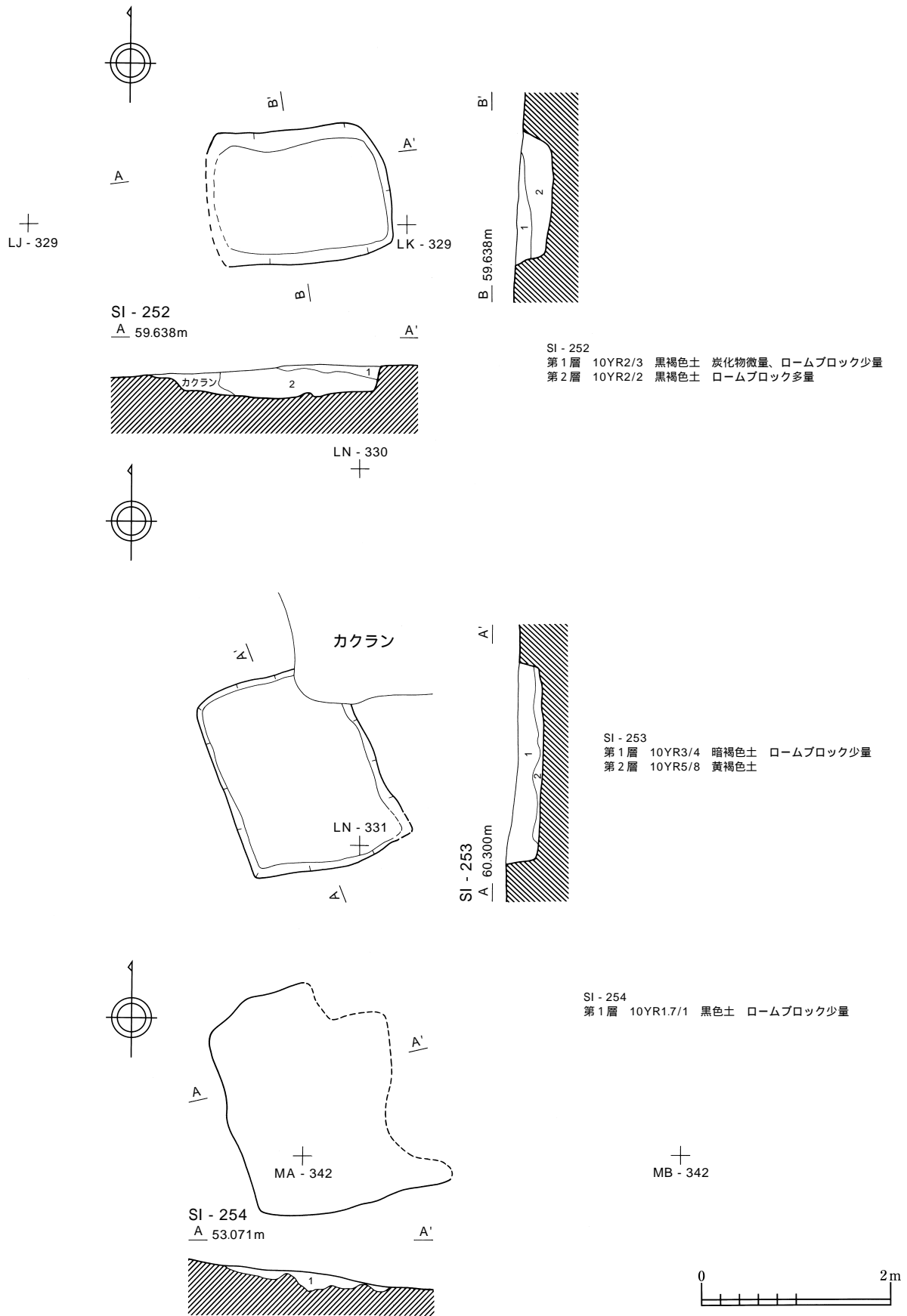
[重複] なし。

[平面形・規模] 本遺構は掘り方のみの検出であり、床面から上部が削平により情報が欠落している。そのため、平面形・規模等についての詳細は不明である。掘り方の残存部分での規模は、(244) × (176) cmを測る。

[壁] 削平のため情報はなし。

[床] 削平のため床面についての情報は不明であるが、月見野火山灰層の地山を掘りこみ、掘り方を構築しており、黒色土とロームブロックの混合層を充填している。

[壁溝] なし。



第589図 SI - 252(上段) SI - 253(中段) SI - 254(下段)



[ピット] なし。

[その他の付属施設] なし。

[堆積土] 掘り方部分について1層に分層した。[床]で記述したが、掘り方部分の充填土は他の掘り方を持つ住居に充填される土とほぼ同質であり、本遺構が住居もしくは竪穴遺構として機能した可能性が考えられる根拠と成り得ている。

S I - 255 (第590図)

[位置] グリッドMD - 340で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、210×192×45cmを測る。床面積は3.931m<sup>2</sup>を測る。

[壁] 壁高は、北壁32cm、東壁20cm、南壁41cm、西壁38cmを測る。断面形はaで、ほぼ垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[床] 大谷火山灰層の地山を床面としており、やや起伏がある。床面は堅緻である。

[壁溝] なし。

[ピット] なし。

[その他の付属施設] なし。

[堆積土] 1層に分層した。堆積土中に多量のロームブロック、ローム粒等が含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。また、白色の粘土が混入している。

S I - 256 (第590図)

[位置] グリッドLW・LX - 340、LW - 341で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 本遺構は、削平面に残存していたプランのみの確認であったため、深さ等の情報の詳細は不明である。台形を呈し、長軸360×短軸326cmを測る。

[壁] 情報なし。

[床] 情報なし。(大谷火山灰層の地山で確認)

[壁溝] なし。

[ピット] なし。

[その他の付属施設] なし。

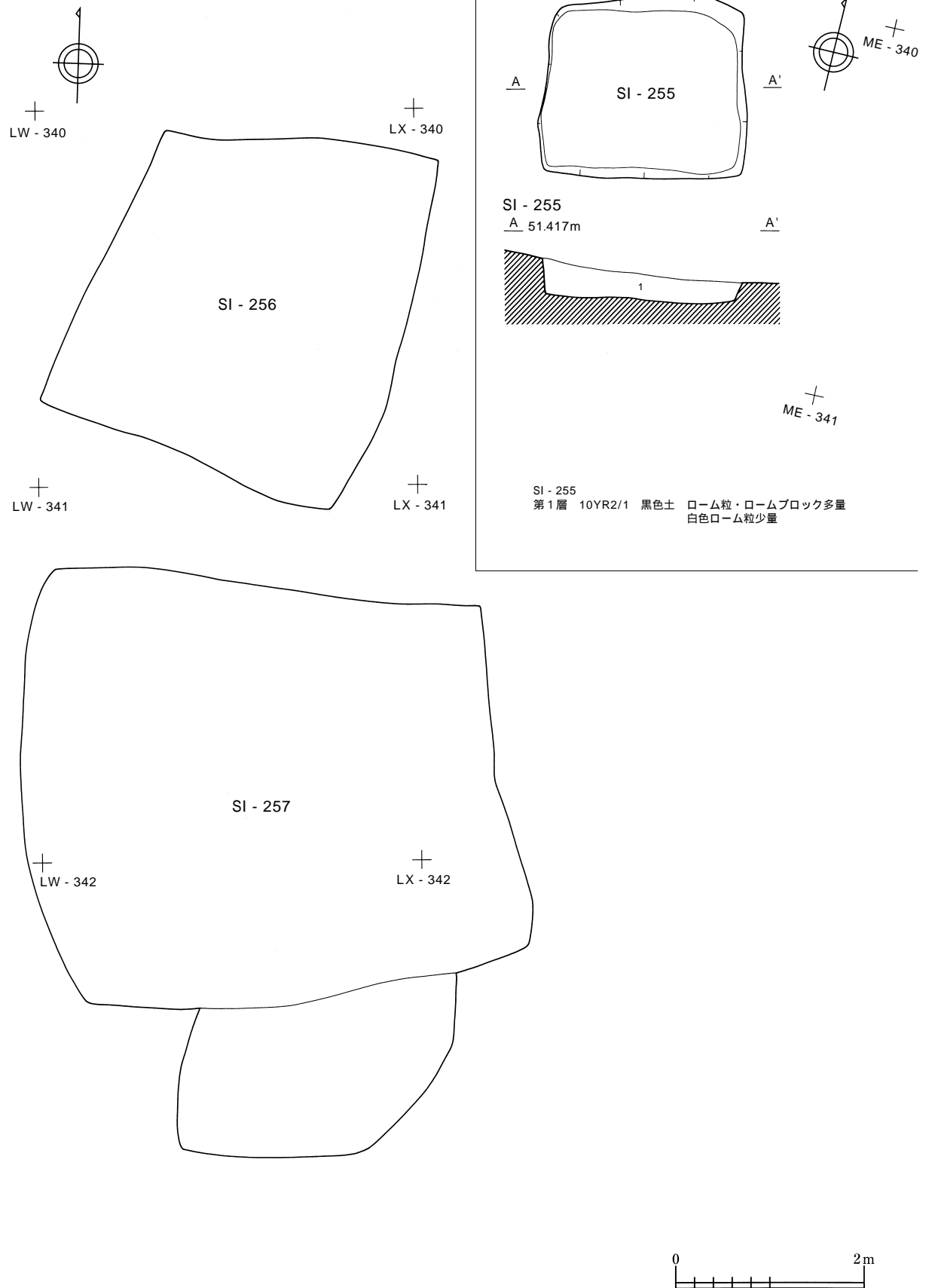
[堆積土] 削平のため情報なし。

S I - 257 (第590図)

[位置] グリッドLW・LX - 341・342で検出した。

[重複] 本遺構は、削平面に残存していたプランのみの確認であったため、詳細は不明であるが、台形状のプランに不整形のプランがつながった形で確認されており、重複があった可能性について考えられる。

[平面形・規模] 削平面に残存していたプランのみの確認であったため、深さ等の情報の詳細は不明である。台形状のプランと不整形のプランがつながった形で長軸(605)×短軸(498)cmを測る。



第590図 SI - 255( 右上 )、SI - 255( 上段 )、SI - 257( 下段 )

- [ 壁] 情報なし。
- [ 床] 情報なし。(大谷火山灰層の地山面で確認)
- [ 壁 溝] なし。
- [ピット] なし。
- [その他の付属施設] なし。
- [堆積土] 削平のため情報なし。

## S I - 258 (第591図)

- [位 置] グリッドLV - 344で検出した。
- [重 複] 重複関係はないが、西側にS I - 146、147が位置し、関連するピットが本遺構周辺に位置する。本遺構についても関連した可能性が考えられる。
- [平面形・規模] 土坑が2つ重なったような形状を呈し、315×201×(30)cmを測る。
- [壁] 削平のため、残存部分については掘り方に相当するものと考えられ、壁高についての情報は掘り方の掘り込み部分の情報である可能性が高い。壁高は、北壁8cm、東壁4cm、南壁7cm、西壁18cmを測る。断面形はfで、凹凸が激しく、壁面と床面の境界が不明瞭な部分が多い。壁面はやや脆弱である。
- [床] 削平のため、残存部分については掘り方に相当するものと考えられ、月見野火山灰層の地山を底面としており、起伏が激しい。
- [壁 溝] なし。
- [ピット] 南西隅からピット1基を検出した。規模は80×54×8cmを測る。
- [その他の付属施設] [重 複]の項目で記述したが、本遺構に隣接するS I - 146、147は、住居外に関連施設を伴っており、本遺構についても帰属した可能性をもちえているが、上部の情報が削平により欠落しているため詳細は不明である。
- [堆積土] 1層に分層した。ロームブロックと黒色土の混合層で、しまりがあり、掘り方部分の充填土と同様の土である。

## S I - 259 (第591図)

- [位 置] グリッドLG・LH - 356、LG - 357で検出した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 方形を呈し、220×216×18cmを測る。床面積は4.788m<sup>2</sup>を測る。
- [壁] 壁高は、北東壁9cm、南東壁10cm、南西壁16cm、北西壁16cmを測る。断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。
- [床] 住居中央部に浅い掘り方を持ち、ロームブロックと暗褐色土の混合層が充填され床面としている。床面は、やや起伏があり、やや堅緻である。
- [壁 溝] なし。
- [ピット] なし。
- [その他の付属施設] なし。
- [堆積土] 掘り方部分を含めて2層に分層した。廃絶後の堆積土は第1層のみで、焼土粒等が含まれる。



概ね自然堆積状況を呈する。

S I - 260 (第591図)

[位置] グリッドL J - 361で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、 $222 \times 220 \times 30$ cmを測る。床面積は $4.685\text{m}^2$ を測る。

[壁] 壁高は、北壁14cm、東壁14cm、南壁29cm、西壁30cmを測る。断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[床] ほぼ全面に掘り方を持ち、ロームブロックを含む黒褐色土が充填され床面としている。床面はやや起伏があり、やや脆弱である。

[壁溝] なし。

[ピット] 竪穴内から2基検出した。各ピットの規模は、Pit 1 =  $73 \times 70 \times 8$  cm、Pit 2 =  $42 \times 35 \times 9$  cmを測る。いずれのピットも柱穴としての機能は充足し得なかったものと考えられる。

[その他の付属施設] なし。

[堆積土] 掘り方部分を含めて7層に分層した。廃絶後の堆積土は第1～5層で、上層に堆積する第1、2層中にはロームブロックが多量に含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

S I - 261 (第591図)

[位置] グリッドM I・M J - 369・370で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、 $346 \times 309 \times 74$ cmを測る。床面積は $10.487\text{m}^2$ を測る。

[壁] 壁高は、北壁4cm、東壁6cm、南壁7cm、西壁21cmを測る。断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

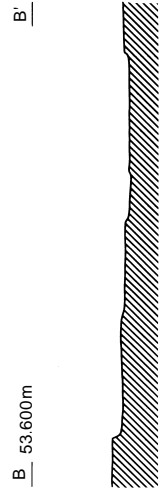
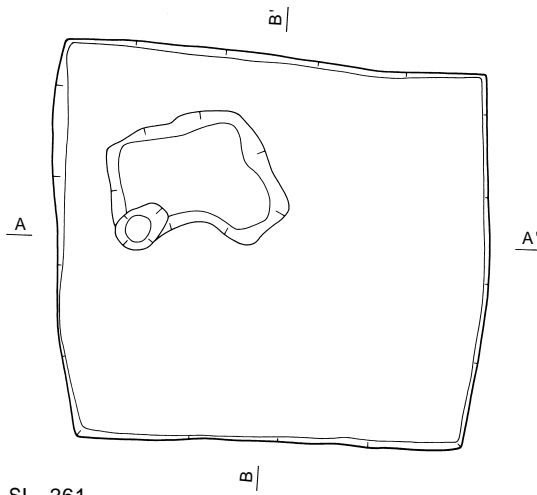
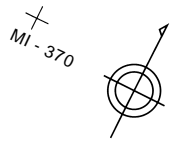
[床] 月見野火山灰層の地山を床面としており、起伏がややあり、西側から東側へ傾斜している。床面は脆弱である。

[壁溝] なし。

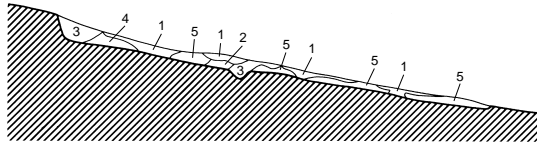
[ピット] 住居内から1基検出した。規模は $43 \times 32 \times 18$ cmを測る。柱穴として機能した可能性が考えられる。

[その他の付属施設] 土坑1基を検出した。規模は $144 \times 105 \times 3$ cmを測る。

[堆積土] 5層に分層した。入り組んだ堆積状況であり、ロームブロックが全般的に混入しており、人為的堆積状況を呈する。

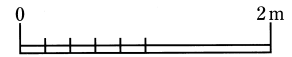


SI - 261  
A 53.600m



SI - 261

第1層	10YR1.7/1	黒色土	バミス微量
第2層	10YR3/3	暗褐色土	バミス微量
第3層	10YR3/3	暗褐色土	ロームブロック少量
第4層	10YR3/4	暗褐色土	バミス微量
第5層	10YR4/4	褐色土	バミス微量



第592図 SI - 261

## 2. 土坑

S K - 258 (第593図)

[位置] グリッドL V - 244で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、162×90×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや堅緻である。また、壁面の一部から赤化面を検出した。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。底面の一部から赤化面を検出し、底面直上から炭化物を検出した。堆積土の状況と併せて本遺構は焼成坑であると考えられる。

[堆積土] 5層に分層した。全般的に炭化物、焼土粒が混入する。自然堆積状況を呈する。

S K - 259 (第593図)

[位置] グリッドL X - 257で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、184×96×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。また、S K - 258と同様壁面の一部から赤化面を検出した。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。S K - 258と同様底面の一部から赤化面を検出し、底面直上から炭化物を検出した。本遺構についても焼成坑であると考えられる。

[堆積土] 4層に分層した。攪乱により土層が一部乱されている。全般的に炭化物、ローム粒が混入する。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

S K - 260 (第593図)

[位置] グリッドL R・L S - 288で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、151×100×11cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。炭化物、炭化粒、焼土粒、ローム粒が混入する。自然堆積状況を呈する。

S K - 261 (第593図)

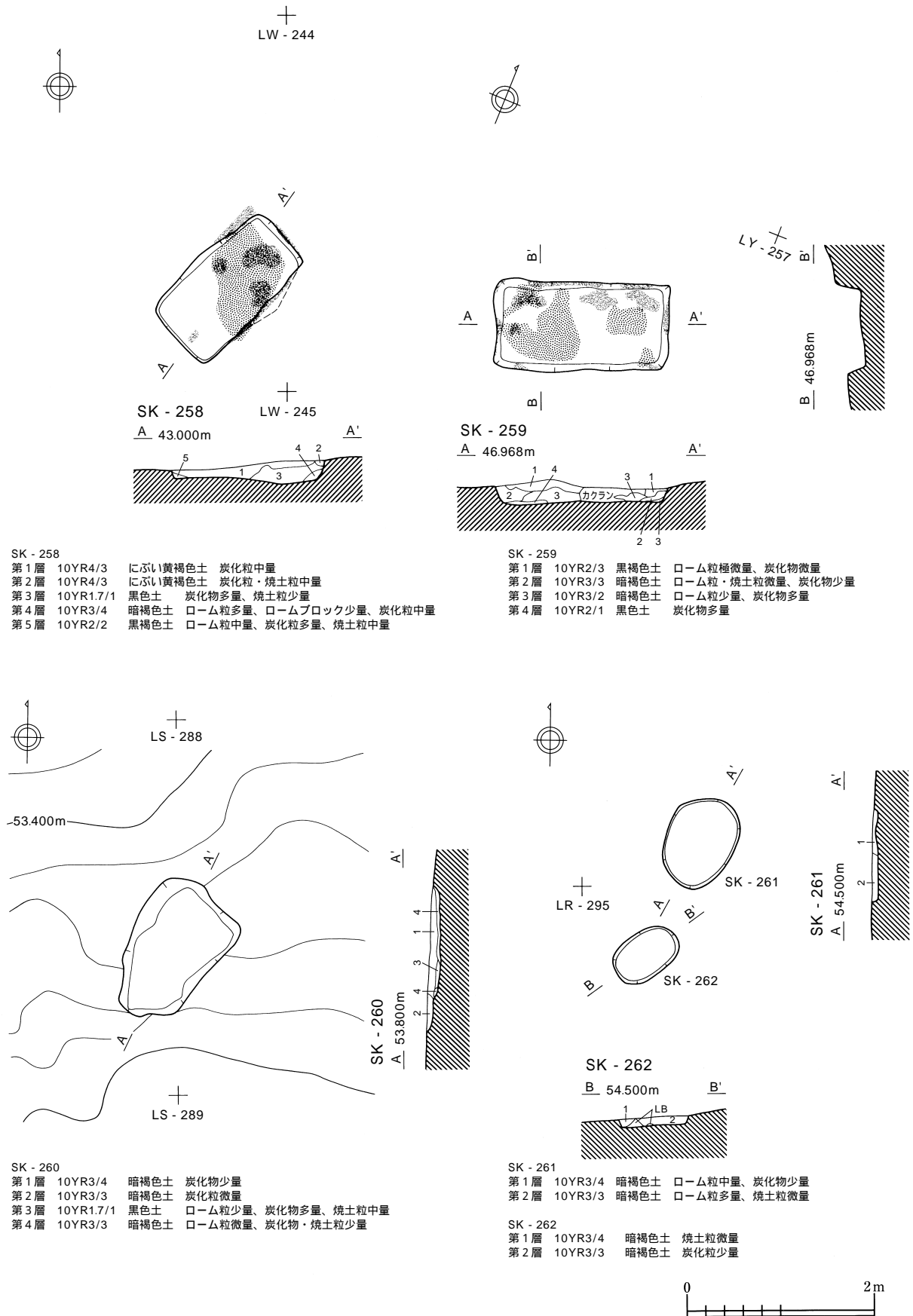
[位置] グリッドL R - 294で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、100×74×9cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。



SK - 258  
 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 炭化粒中量  
 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 炭化粒・焼土粒中量  
 第3層 10YR1.7/1 黒色土 炭化物多量、焼土粒少量  
 第4層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、炭化粒中量  
 第5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒中量、炭化粒多量、焼土粒中量

SK - 259  
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒極微量、炭化物微量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・焼土粒微量、炭化物少量  
 第3層 10YR3/2 暗褐色土 ローム粒少量、炭化物多量  
 第4層 10YR2/1 黒色土 炭化物多量

SK - 260  
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物少量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 炭化粒微量  
 第3層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒少量、炭化物多量、焼土粒中量  
 第4層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒微量、炭化物・焼土粒少量

SK - 261  
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒中量、炭化物少量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多量、焼土粒微量

SK - 262  
 第1層 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒微量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 炭化粒少量

第593図 SK - 258 ~ 262



[堆積土] 2層に分層した。全般的にローム粒が含まれ、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

S K - 262 (第593図)

[位置] グリッドLR - 295で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 小判形を呈し、74×48×9cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。ロームブロックが底面直上に堆積しており、その上に暗褐色系の土層が堆積している。自然堆積状況を呈する。

S K - 263 (第594図)

[位置] グリッドLQ - 296で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、86×65×11cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。混入物は検出しなかった。自然堆積状況を呈する。

S K - 264 (第594図)

[位置] グリッドLQ・LR - 296・297で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 小判形を呈し、140×85×21cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや緩やかな傾斜が見られる。底面はやや脆弱である。また、東壁側からピット状の落ち込みを検出した。規模は61×60×8cmを測る。

[堆積土] 2層に分層した。下層にローム粒を少量含む暗褐色土、上層に黒色土が堆積する。自然堆積状況を呈する。

S K - 265 (第594図)

[位置] グリッドLU - 298で検出した。

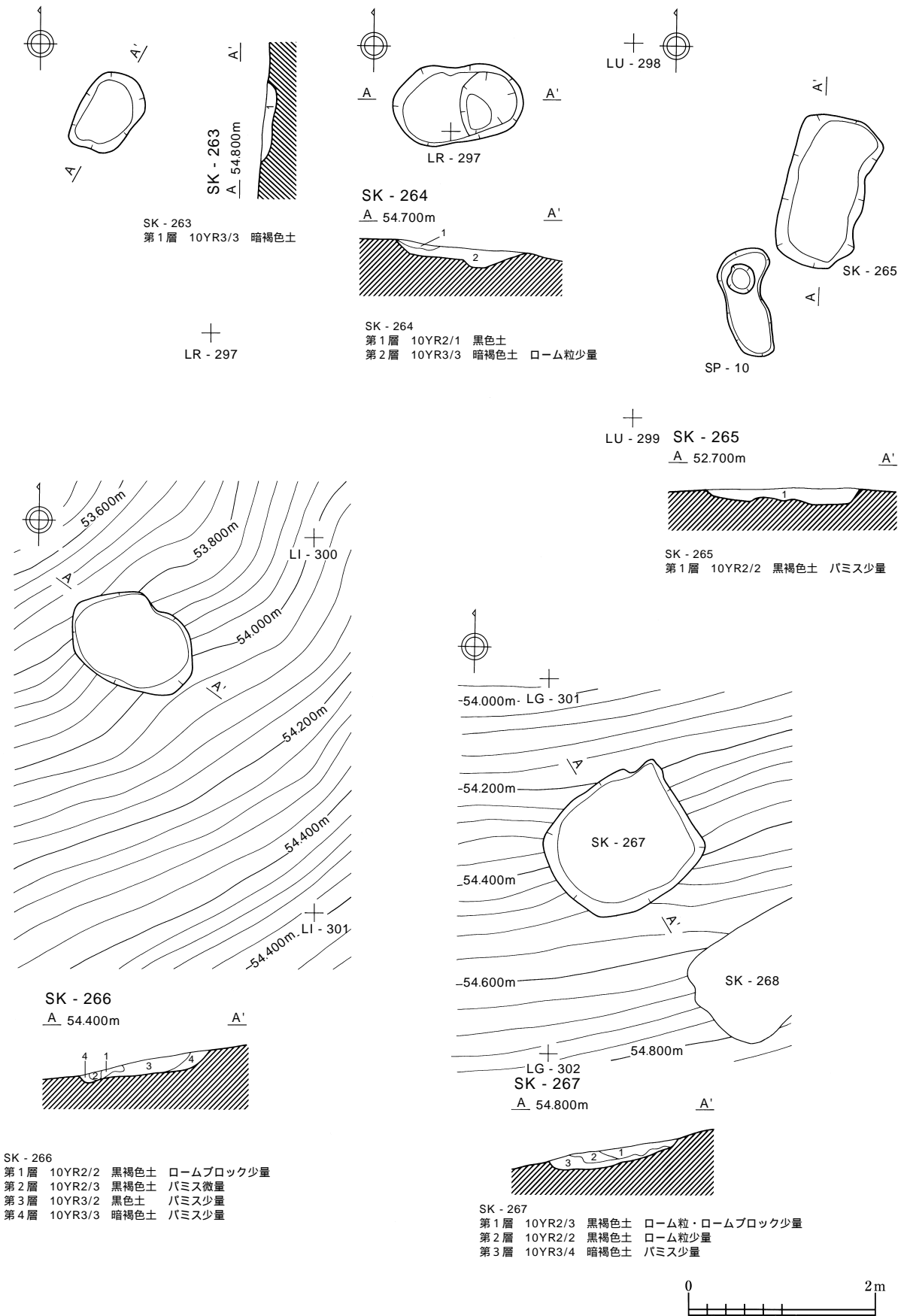
[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、163×91×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。パミスが少量検出した。自然堆積状況を呈する。



第594図 SK - 263 ~ 267

S K - 266 (第594図)

[位置] グリッドL H - 300で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、143×99×21cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや傾斜がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。全般的にパミスが混入する。自然堆積状況を呈する。

S K - 267 (第594図)

[位置] グリッドL G - 301で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、155×136×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに外傾しながら立ち上がる部分が見られる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、傾斜がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。底面直上に堆積する第3層中にはパミスが多量に混入し、上層の黒褐色土中からロームブロック、ローム粒を検出した。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

S K - 268 (第595図)

[位置] グリッドL G - 301で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 北東壁側が舌状に張り出しているが、長方形を呈したものと考えられ、194×115×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに外傾しながら立ち上がる部分が見られる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。ロームブロックを含む土層堆積で、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

S K - 269 (第595図)

[位置] グリッドL F・L G - 302で検出した。

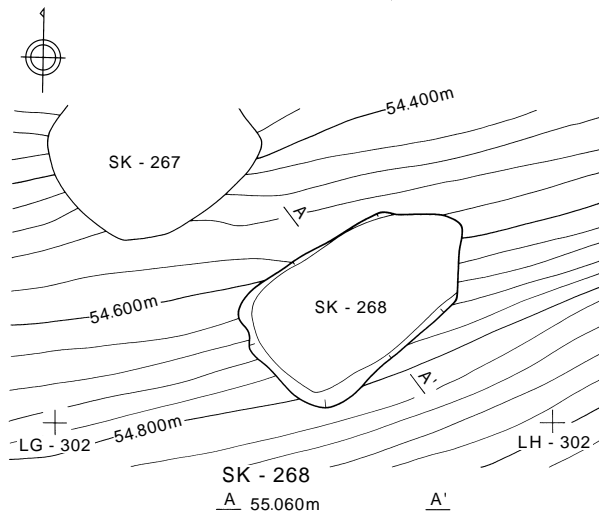
[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、171×170×21cmを測る。

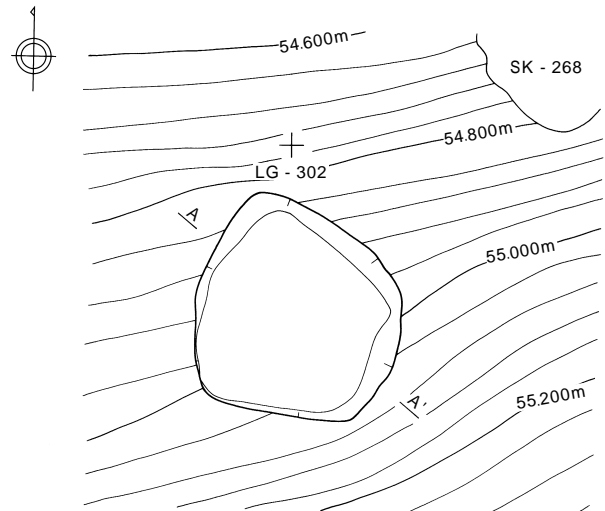
[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに外傾しながら立ち上がる部分が見られる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。

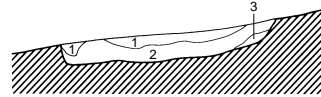
[堆積土] 3層に分層した。壁際には崩落土が堆積しており、底面直上に堆積する第2層はパミスが多量に混入する。自然堆積状況を呈する。



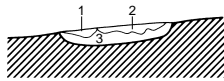
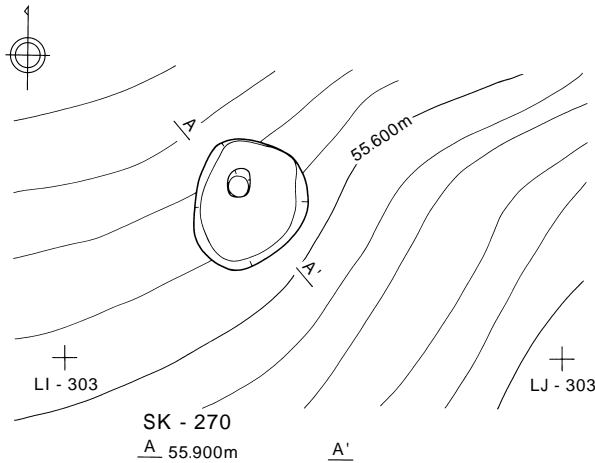
SK - 268  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック全体に混入



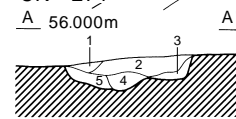
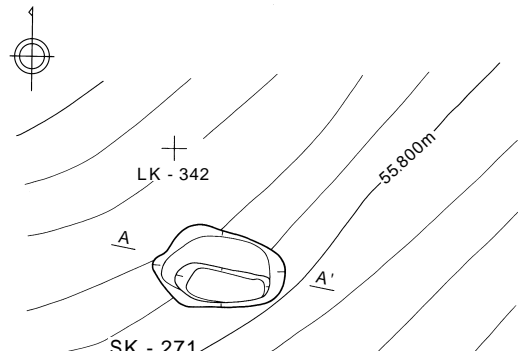
SK - 269  
A 55.400m A'



SK - 269  
第1層 10YR2/3 黒褐色土 パミス少量、炭化粒微量  
第2層 10YR3/4 暗褐色土 パミス多量  
第3層 10YR4/6 褐色土 パミス少量

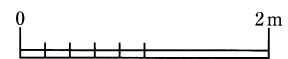
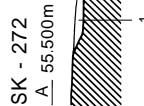
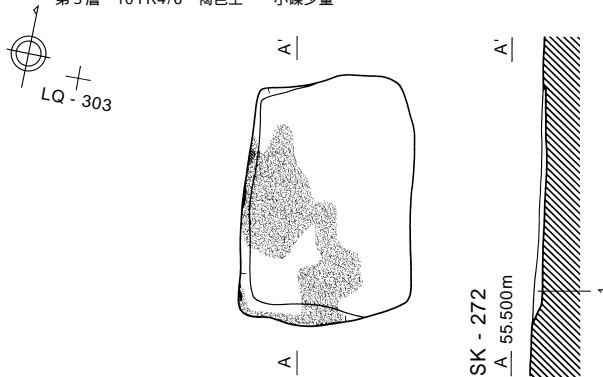


SK - 270  
第1層 10YR3/4 暗褐色土  
第2層 10YR4/4 褐色土 ローム粒少量  
第3層 10YR4/6 褐色土 小礫少量



SK - 271  
第1層 10YR2/2 黒褐色土  
第2層 10YR2/3 黒褐色土 全体にパミス混入  
第3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多量  
第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒少量  
第5層 10YR3/4 黒褐色土 ローム粒・パミス多量

SK - 272  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物やや多量



第595図 SK - 268 ~ 272

## S K - 270 (第595図)

[位置] グリッドL I - 302で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、105×90×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。また、底面北西側の部分からピット状の落ち込みを検出した。規模は23×18×6cmを測る。

[堆積土] 3層に分層した。大谷火山灰層の地山土主体の堆積で、小礫、ローム粒が混入する。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

## S K - 271 (第595図)

[位置] グリッドL K - 302で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 小判形を呈し、107×68×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや脆弱である。また、底面南壁側の部分からピット状の落ち込みを検出した。規模は75×30×10cmを測る。

[堆積土] 5層に分層した。全般的にローム粒、パミスを含む堆積土、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

## S K - 272 (第595図)

[位置] グリッドL Q - 302・303で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長方形を呈し、196×136×6cmを測る。

[断面形・壁] 削平のため残存状況が悪いが、残存部分の断面形は(d)で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。また、南・西壁の壁から赤化面を検出した。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや堅緻である。また、底面から赤化面を検出しており、堆積土中から炭化物を検出したことから本遺構は焼成坑であると考えられる。

[堆積土] 1層に分層した。炭化物を多量に含み、本遺構での焼成時の残滓が堆積している。

## S K - 273 (第596図)

[位置] グリッドL X - 306で検出した。

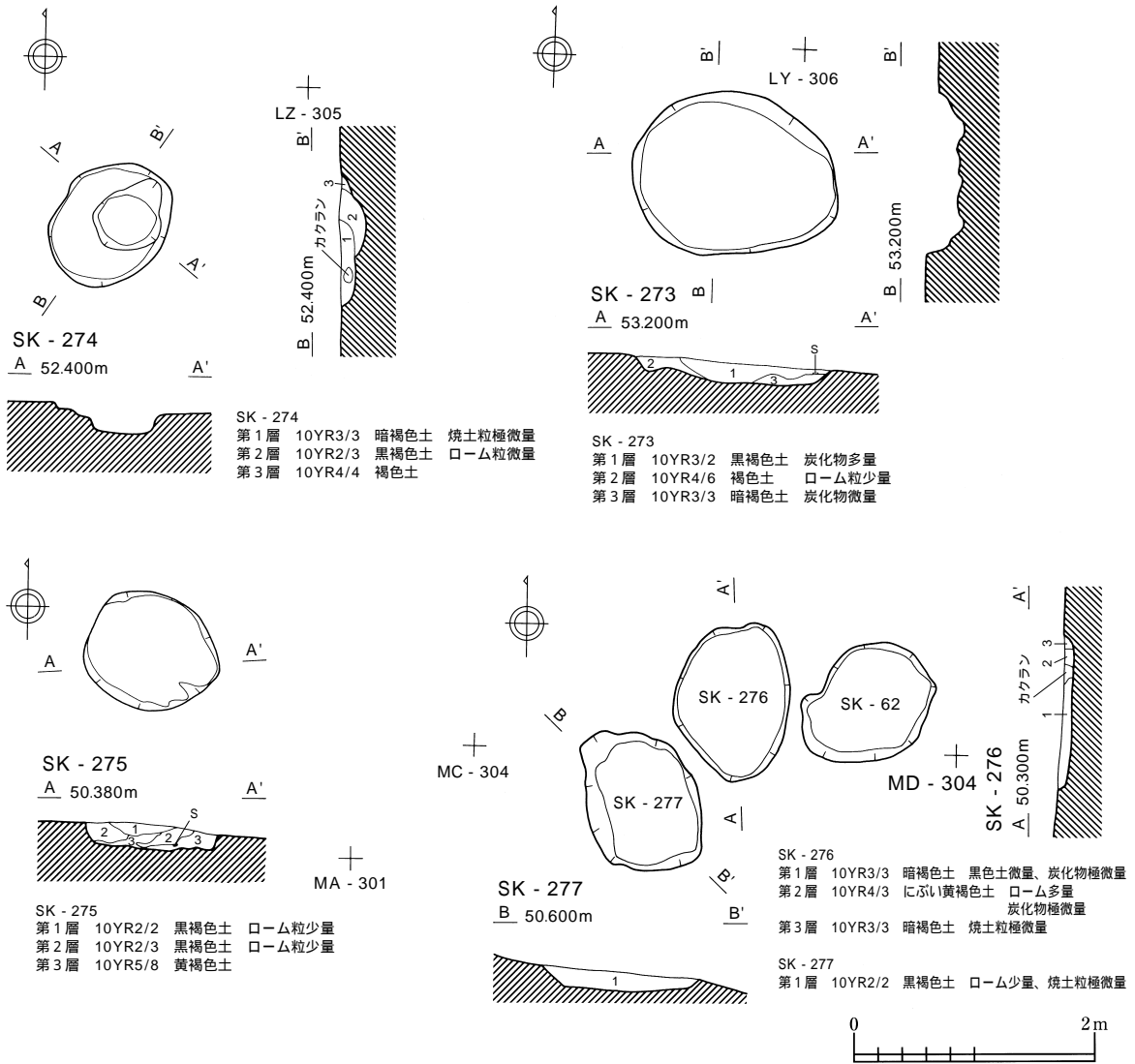
[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、174×140×29cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、起伏が激しい。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 3層に分層した。全般的に炭化物が混入する。自然堆積状況を呈する。



第596図 SK - 273 ~ 277

SK - 274 (第596図)

[位置] グリッドLY - 305で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、111×90×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。また、底面中央部からピット状の落ち込みを検出した。規模は68×55×11cmを測る。

[堆積土] 3層に分層した。壁際に堆積する第3層は大谷火山灰層主体の地山土で、脆弱な底面に貼り付けられた状況を呈している。一部攪乱により堆積が乱されているが、概ね自然堆積状況を呈する。

SK - 275 (第596図)

[位置] グリッドLZ - 300で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、110×95×21cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 3層に分層した。第3層は月見野火山灰層の地山土主体の堆積土である。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

S K - 276 (第596図)

[位置] グリッドMC - 303・304で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、127×98×8cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、やや丸みを帯び垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。一部攪乱により土層が乱されているが、暗褐色土を主体とする堆積で、焼土粒、炭化物、ローム粒が混入する。自然堆積状況を呈する。

S K - 277 (第596図)

[位置] グリッドMC - 303・304で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、132×96×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。ローム粒、焼土粒が混入する。自然堆積状況を呈する。

S K - 278 (第597図)

[位置] グリッドMG - 307・308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 小判形を呈し、100×40×8cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、底面中央部分がやや隆起した形状を呈する。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。パミスが少量混入する。自然堆積状況を呈する。

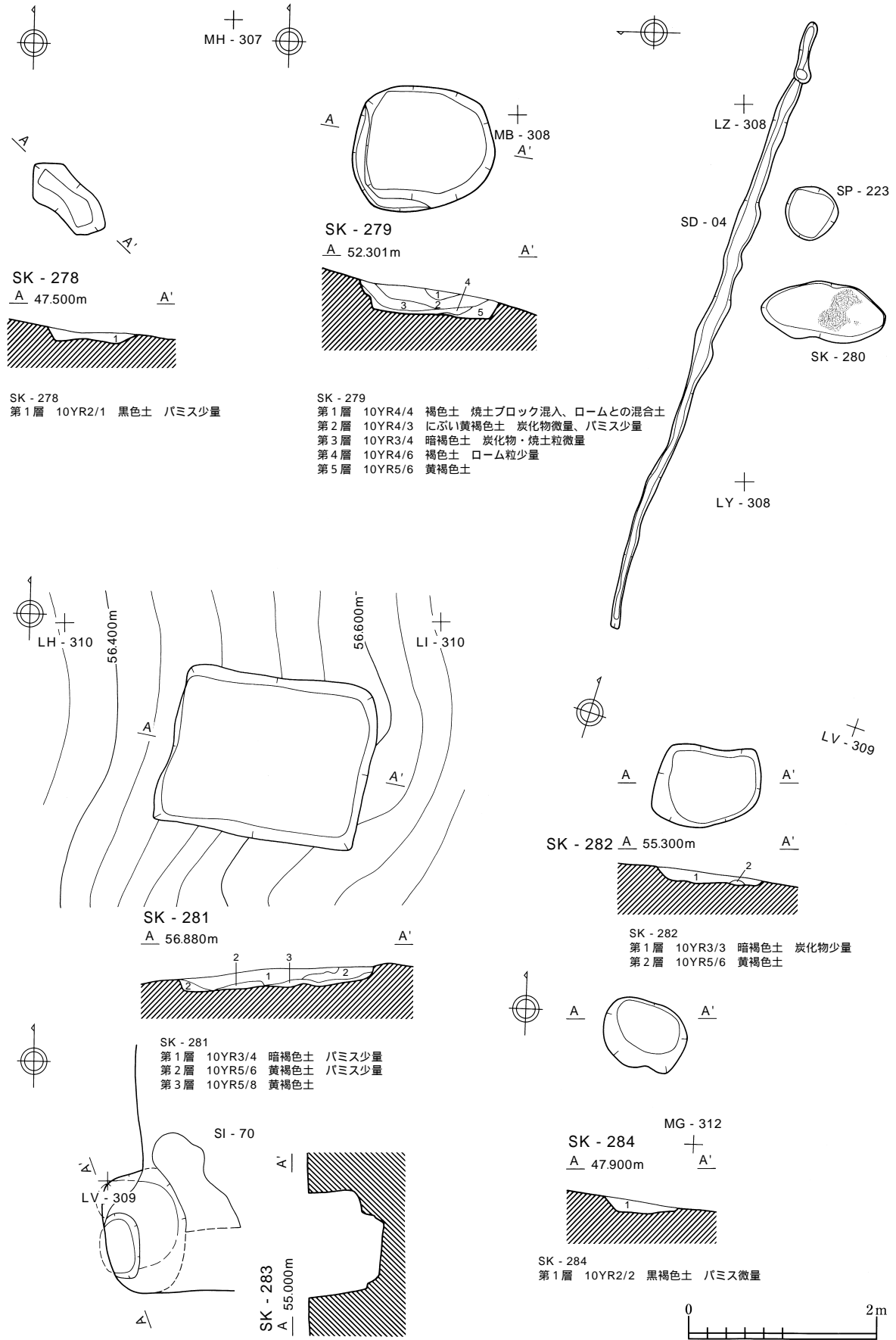
S K - 279 (第597図)

[位置] グリッドMA - 307・308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、152×133×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、南壁から西壁にかけてテラス状の段がある。壁面はやや堅緻である。



第597図 SK - 278 ~ 284



[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 5層に分層した。全般的に大谷火山灰層ならびに月見野火山灰層の地山土を混入した堆積土で、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

S K - 280 (第597図)

[位置] グリッドL Z - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 小判形を呈し、133×62×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。また、底面から赤化面を検出しており、堆積土中から炭化物を検出したことから本遺構は焼成坑の可能性はある。

[堆積土] 黒色土主体の堆積で、炭化物が含まれる。

S K - 281 (第597図)

[位置] グリッドL H - 310で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、210×175×21cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。底面直上に月見野火山灰層主体の地山土が堆積している。自然堆積状況を呈する。

S K - 282 (第597図)

[位置] グリッドL U - 309で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、119×88×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積の主体を占める。自然堆積状況を呈する。

S K - 283 (第597図)

[位置] グリッドL V - 309で検出した。

[重複] S I - 70と重複している。本遺構がS I - 70を切って構築されており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、127×87×78cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、一部内側に入り込む部分が見られたが、段状に立ち上がる。壁面はS I - 70との重複部分についてはS I - 70の堆積土を壁面としており、やや脆弱である。他の壁面については堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 黒褐色土主体の堆積土で、自然堆積状況を呈する。

S K - 284 (第597図)

[位 置] グリッド M F - 311で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、92×72×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。パミスが混入する。自然堆積状況を呈する。

S K - 285 (第598図)

[位 置] グリッド L N - 312で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、102×72×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。第2層から混入物の検出はなかったが、それ以外の堆積土からローム粒が多量に検出した。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

S K - 286 (第598図)

[位 置] グリッド L M・L N - 314で検出した。

[重 複] S I - 249と重複している。本遺構の堆積土がS I - 249に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 残存部分の形状は長方形を呈し、136×85×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 2層に分層した。底面直上に堆積する第2層は、月見野火山灰層主体の堆積土で、概ね自然堆積状況を呈する。

S K - 287 (第598図)

[位 置] グリッド L P - 314で検出した。

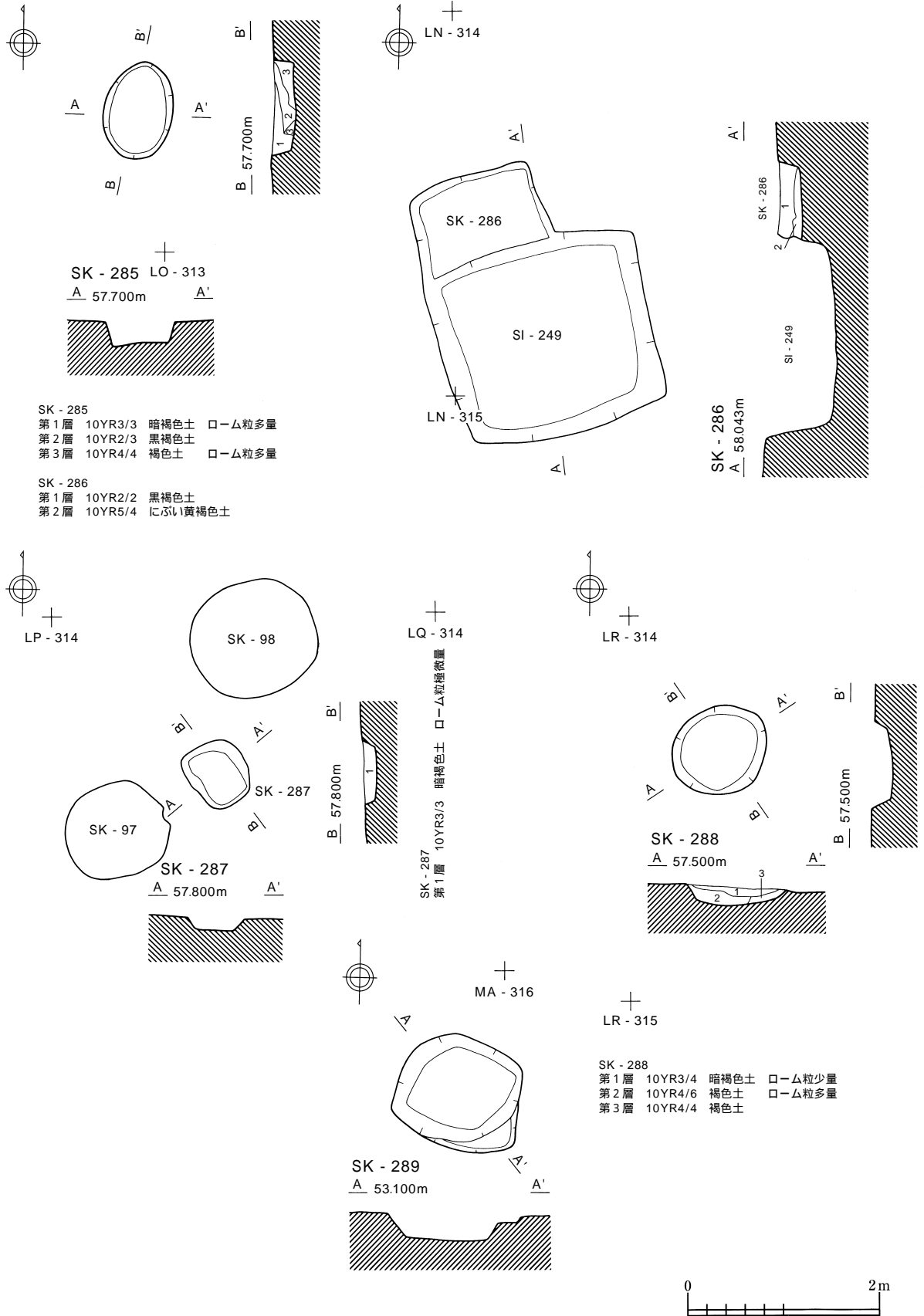
[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、70×61×9cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。ローム粒が混入する。自然堆積状況を呈する。



第598図 SK - 285 ~ 289

S K - 288 (第598図)

[位置] グリッドLR - 314で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、105×90×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや窪んだ形状を呈する。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。暗褐色土、褐色土系の土層堆積で、一般的にローム粒が混入する。自然堆積状況を呈する。

S K - 289 (第598図)

[位置] グリッドLZ - 316で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、143×118×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、南東側にテラス状の段を有する。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや堅緻である。

S K - 290 (第599図)

[位置] グリッドLP・LQ - 319で検出した。

[重複] SI - 250と重複している。本遺構の堆積土がSI - 250に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 切りあいのため、残存部分の形状は不整形を呈し、(125)×(55)×40cmを測る。

[断面形・壁] 残存部分の断面形は(a)で、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 残存部分について2層に分層した。第2層中から多量のロームブロックを検出しており、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

S K - 291 (第599図)

[位置] グリッドLW - 317で検出した。

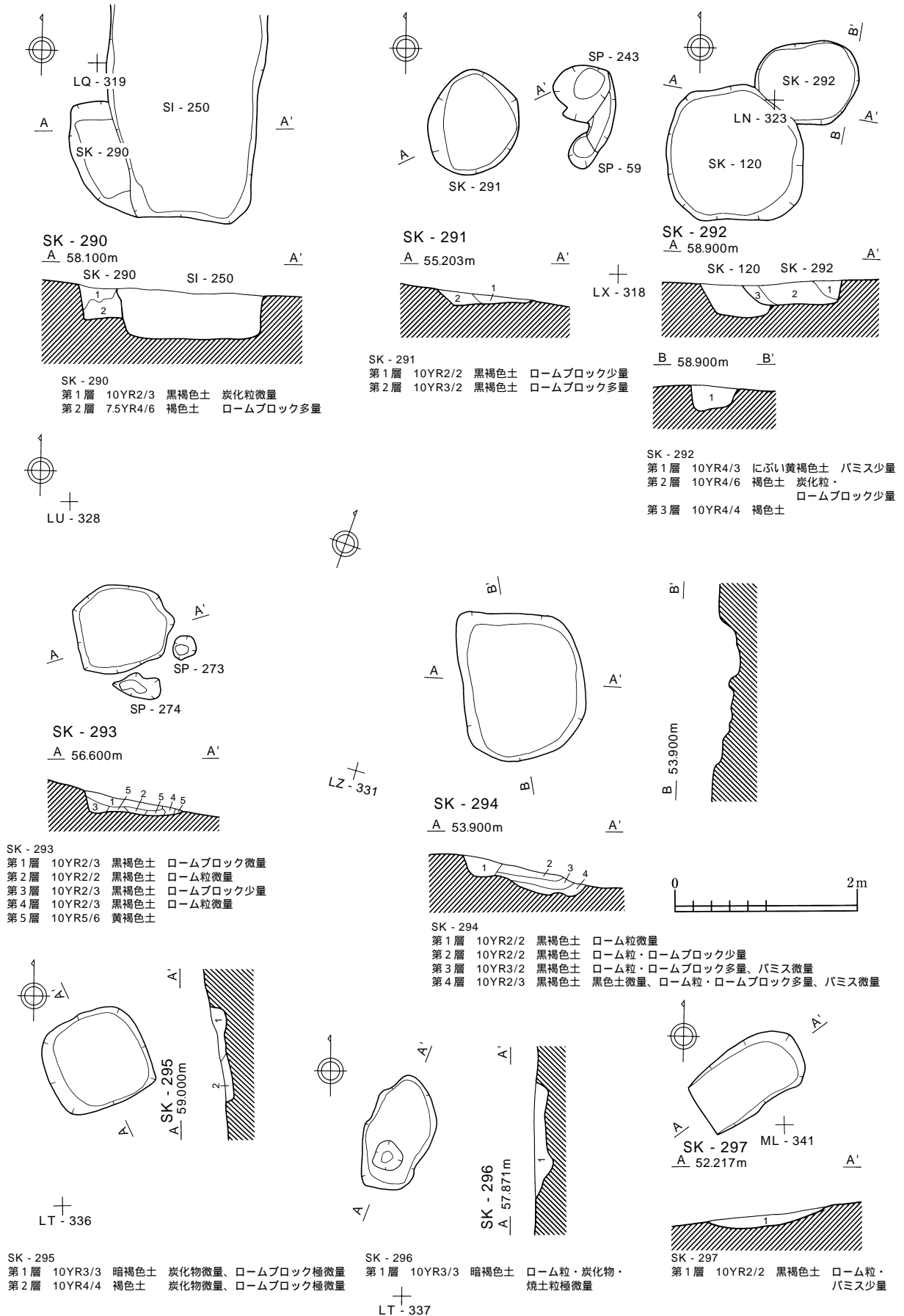
[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、115×100×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 2層に分層した。一般的にロームブロックが混入する。埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。



第599図 SK - 290 ~ 297

S K - 292 (第599図)

[位置] グリッド L M - 322、L N - 322・323で検出した。

[重複] S K - 120と重複している。本遺構が S K - 120の堆積土を切って構築されており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、115×90×25cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は a で、垂直に近い形で立ち上がる。S K - 120との重複部分の壁面については S K - 120の堆積土を壁面としており、脆弱で、それ以外の部分についてはやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 3層に分層した。S K - 120との重複部分に堆積する第3層は大谷火山灰層の地山土主体の堆積土で、壁際の崩落の堆積状況を呈する。第1、2層についても斜面上から流れ込んだ自然堆積状況を呈する。

S K - 293 (第599図)

[位置] グリッド L U - 328で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、109×98×25cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は a で、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 5層に分層した。ロームブロックと黒褐色土の混合層の堆積土で、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

S K - 294 (第599図)

[位置] グリッド L Z - 330で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、160×135×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は d で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、起伏が激しい。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 4層に分層した。一部ピット状に掘り返されている土層堆積状況であるが、ロームブロック等を多量に含み、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

S K - 295 (第599図)

[位置] グリッド L S ・ L T - 335で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、107×105×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は a で、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 2層に分層した。全般的にロームブロック、炭化物が混入する。自然堆積状況を呈する。

S K - 296 (第599図)

[位置] グリッドL S・L T - 336で検出した。

[重複] S I - 129と重複している。本遺構がS I - 129を切った形で構築されており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、130×70×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに外傾しながら立ち上がる部分が見られる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面はやや脆弱である。また、底面南寄りの部分からピット状の落ち込みを検出した。規模は32×31×9cmを測る。

[堆積土] 1層に分層した。ローム粒、炭化物、焼土粒が混入する。自然堆積状況を呈する。

S K - 297 (第599図)

[位置] グリッドM B・M C - 340で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 一部削平を受けているが、残存部分の形状から小判形を呈したものと考えられ、(128)×70×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや窪んだ形状を呈する。底面はやや脆弱である。

[堆積土] 1層に分層した。ローム粒、パミスが混入する。自然堆積状況を呈する。

S K - 298 (第600図)

[位置] グリッドM D - 340で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、112×70×4cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや脆弱である。東西各壁際の部分からピット状の落ち込みを検出した。規模は東：65×34×17cm、西：71×44×16cmを測る。土層堆積状況から本遺構に帰属したものと考えられる。

[堆積土] 2層に分層した。ピット状の落ち込みはロームブロックを多量に含む第2層により埋め戻されている。第1層は砂粒、ローム粒が混入し、自然堆積状況を呈する。

S K - 299 (第600図)

[位置] グリッドM A - 345で検出した。

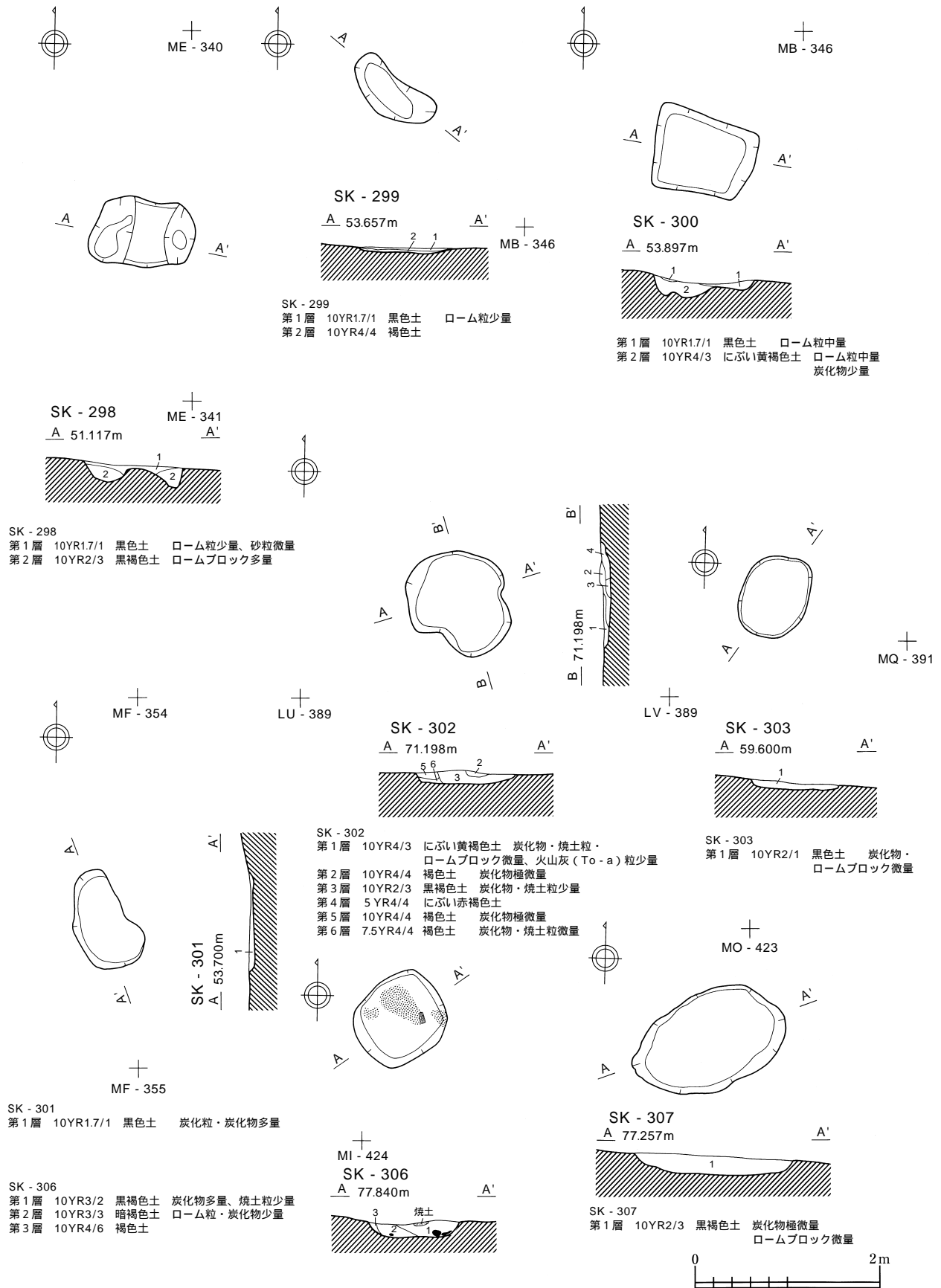
[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、103×42×6cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は脆弱である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層中にローム粒が混入する。自然堆積状況を呈する。



第600図 SK - 298 ~ 303・306・307



## S K - 300 (第600図)

[位置] グリッドMA - 346で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 台形を呈し、110×84×27cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、起伏が激しい。底面は脆弱である。

[堆積土] 2層に分層した。第2層中にローム粒、炭化物が混入する。自然堆積状況を呈する。

## S K - 301 (第600図)

[位置] グリッドME・MF - 354で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、110×66×5cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。炭化物、炭化粒を多量に含み、製炭土坑の可能性が考えられる。

## S K - 302 (第600図)

[位置] グリッドLU - 388で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、116×110×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや脆弱である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面とし、ほぼ平坦である。底面はやや堅緻である。

[堆積土] 6層に分層した。壁際の底面直上から焼土層を検出した。全般的に炭化物、炭化粒が混入する。一部埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。第1層中からTo - a火山灰を粒状に検出した。

## S K - 303 (第600図)

[位置] グリッドMP - 390で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、96×74×8cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、垂直に近い形で立ち上がる。壁面は脆弱である。

[底面] 月見野火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は脆弱である。

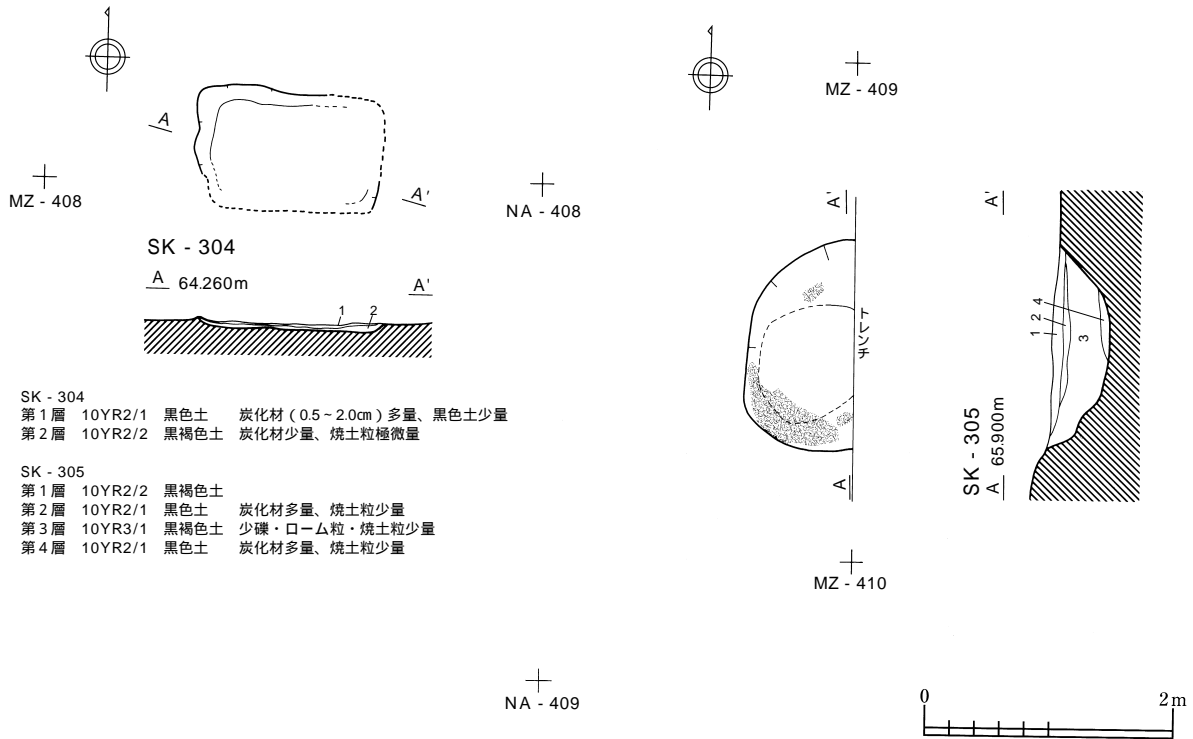
[堆積土] 1層に分層した。炭化物、ロームブロックが混入する。自然堆積状況を呈する。

## S K - 304 (第601図)

[位置] グリッドMZ - 407・408で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 削平が著しく残存状況が悪いが、長方形を呈したものと推定され、(143) × 100 × 7cmを測る。



第601図 SK - 304・305

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面はやや堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面はやや堅緻である。底面直上から炭化材、焼土粒を検出しており、堆積土から炭化材、炭化物等を検出したことから本遺構は製炭土坑であると考えられる。

[堆積土] 2層に分層した。[底 面]での記述のとおり、焼成段階で生じた炭化材、炭化物、焼土粒が堆積の主体をなしている。

S K - 305 (第601図)

[位 置] グリッドM Y - 409で検出した。

[平面形・規模] トレンチにより破壊したため全体形の詳細は不明であるが、楕円形を呈したものと考えられ、168×(88)×45cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、ほぼ平坦である。底面は堅緻である。

[堆積土] 4層に分層した。底面直上ならびに壁際に炭化物、焼土粒が堆積し、本遺構で焼成が行われた可能性が考えられる。自然堆積状況を呈する。

S K - 306 (第600図)

[位 置] グリッドM I - 423で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 隅丸方形を呈し、100×90×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ちあがる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。また、底面直上から炭化物を検出したことから製炭土坑の可能性が考えられる。

[堆積土] 3層に分層した。壁の崩落が生じており、堆積土中から炭化物、ローム粒を検出した。第1層上面に焼土粒が層状に堆積していた。自然堆積状況を呈する。

S K - 307 (第600図)

[位置] グリッドMN・MO - 423で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 小判形を呈し、172×104×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。壁面は堅緻である。

[底面] 大谷火山灰層の地山を底面としており、やや起伏がある。底面は堅緻である。

[堆積土] 1層に分層した。炭化物、ロームブロックが混入する。自然堆積状況を呈する。

### 3. ピット

S P - 219 (第602図)

[位置] グリッドL X - 270で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は76×42×48cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、壁上部で緩やかな立ち上がりがみられる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は平坦である。

[堆積土] 5層に分層した。黒褐色、褐色を主体とする土層が混在している。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

S P - 220 (第602図)

[位置] グリッドL S - 297で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は48×48×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は平坦である。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は、人為的要因が強いと考えられる。

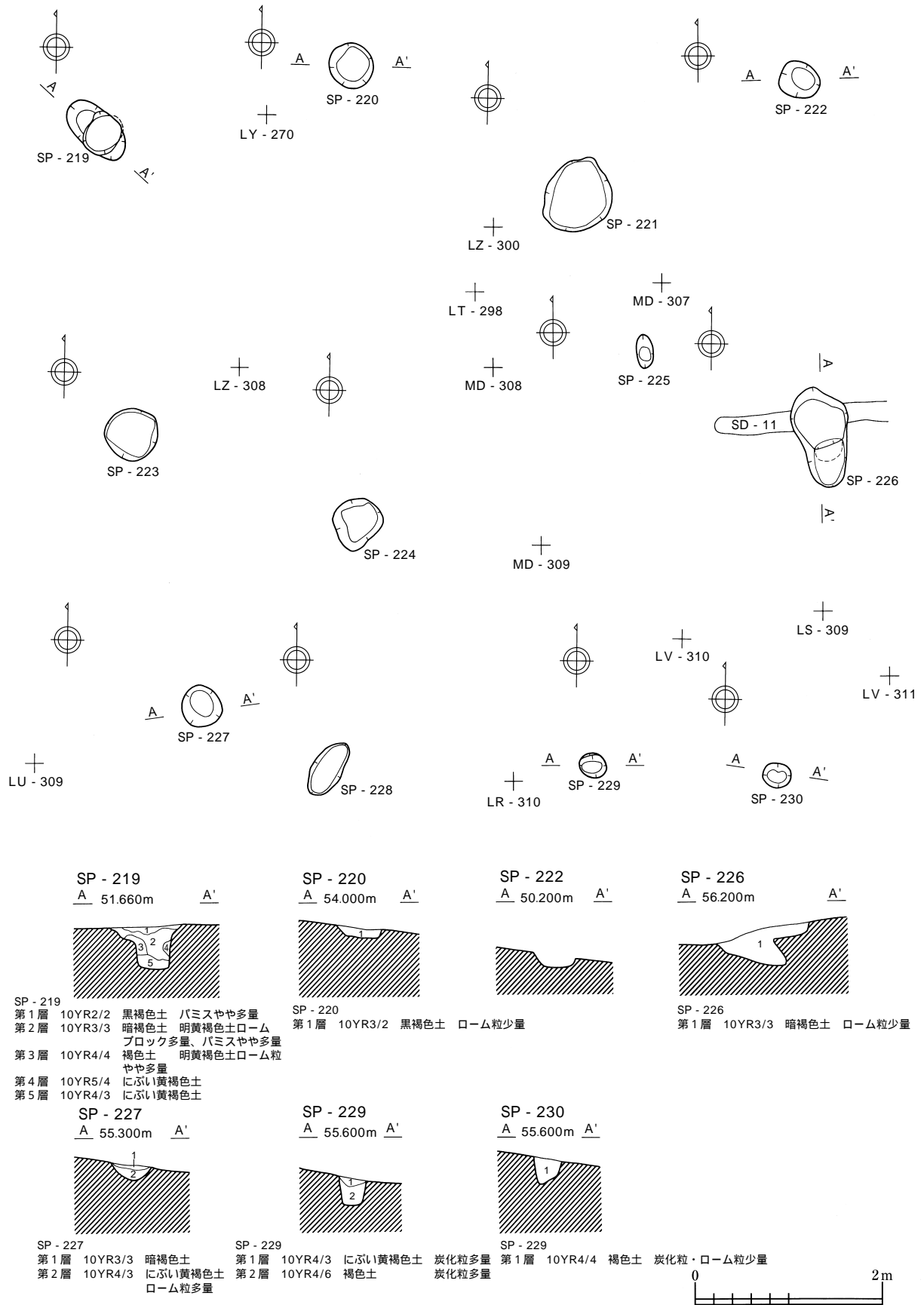
S P - 221 (第602図)

[位置] グリッドL Z - 299・300で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は84×70×11cmを測る。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。



第602図 SP - 219 ~ 230

## S P - 222 (第602図)

[位置] グリッドMD - 306で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は44×38×15cmを測る。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は平坦である。

## S P - 223 (第602図)

[位置] グリッドLY - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は56×56×32cmを測る。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

## S P - 224 (第602図)

[位置] グリッドMC - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は50×50×18cmを測る。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

## S P - 225 (第602図)

[位置] グリッドMD - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は36×17×23cmを測る。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

## S P - 226 (第602図)

[位置] グリッドLR・LS - 308で検出した。

[重複] SD - 11と重複している。本遺構がSD - 11を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は106×60×44cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はxで、底面が南壁側に入り込むような状況を呈する。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 227 (第602図)

[位置] グリッドLU - 308で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は44×44×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、挿鉢状の立ち上がりを呈する。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒を混入し、にぶい黄褐色を呈する土層、上層は暗褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 228 (第602図)

[位 置] グリッドL Q - 309・310で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は64×33×15cmを測る。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

S P - 229 (第602図)

[位 置] グリッドL U - 310で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は28×26×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化粒を混入し、褐色を呈する土層、上層は炭化粒を混入し、にぶい黄褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 230 (第602図)

[位 置] グリッドL U - 311で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は30×26×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化粒、ローム粒を混入し、褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 231 (第603図)

[位 置] グリッドL V・L W - 312で検出した。

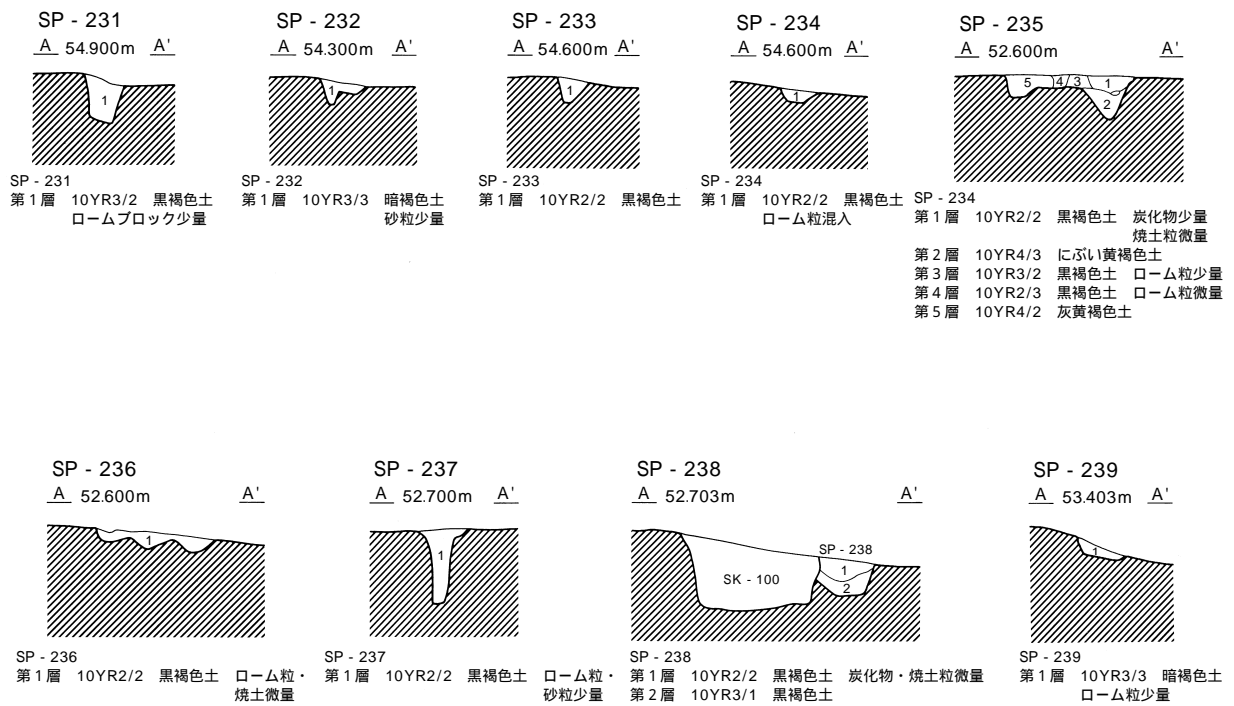
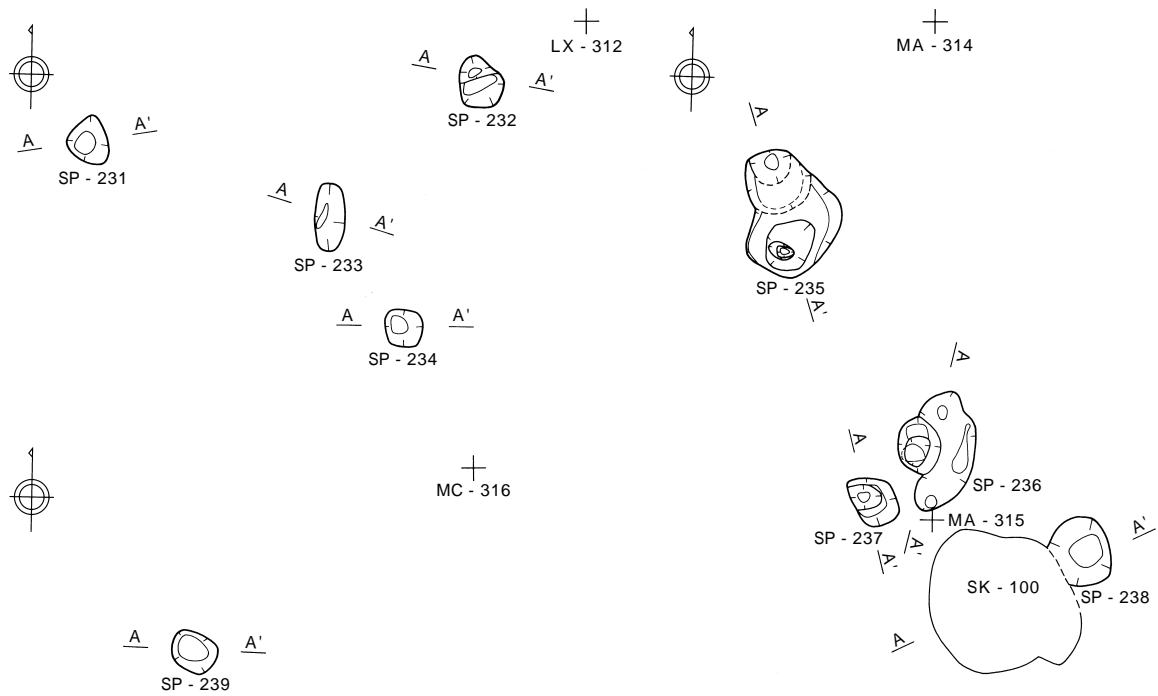
[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は36×32×40cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。



第603図 SP - 231 ~ 239

S P - 232 (第603図)

[位置] グリッドL W - 312で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は44×38×21cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、段状に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 砂粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 233 (第603図)

[位置] グリッドL W - 312で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は54×24×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はgで、V字状に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 234 (第603図)

[位置] グリッドL W - 312で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整方形を呈し、規模は30×30×11cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はeで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面は起伏をもっている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 235 (第603図)

[位置] グリッドL Z - 314で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は104×60×36cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 5層に分層した。黒褐色、にぶい黄褐色、灰黄褐色を呈する土層が混在したような状況を呈する。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 236 (第603図)

[位置] グリッドL Z・MA - 314で検出した。

[重複] なし。



[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は98×62×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、焼土粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 237 (第603図)

[位置] グリッドL Z - 314・315で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は40×34×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はbで、壁上部で緩やかな立ち上がりが見られる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、砂粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 238 (第603図)

[位置] グリッドM A - 315で検出した。

[重複] S K - 100と重複している。立ち上がりが不明瞭であるが、本遺構がS K - 100を切って構築されている。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は58×44×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 239 (第603図)

[位置] グリッドM B - 316で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は56×48×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

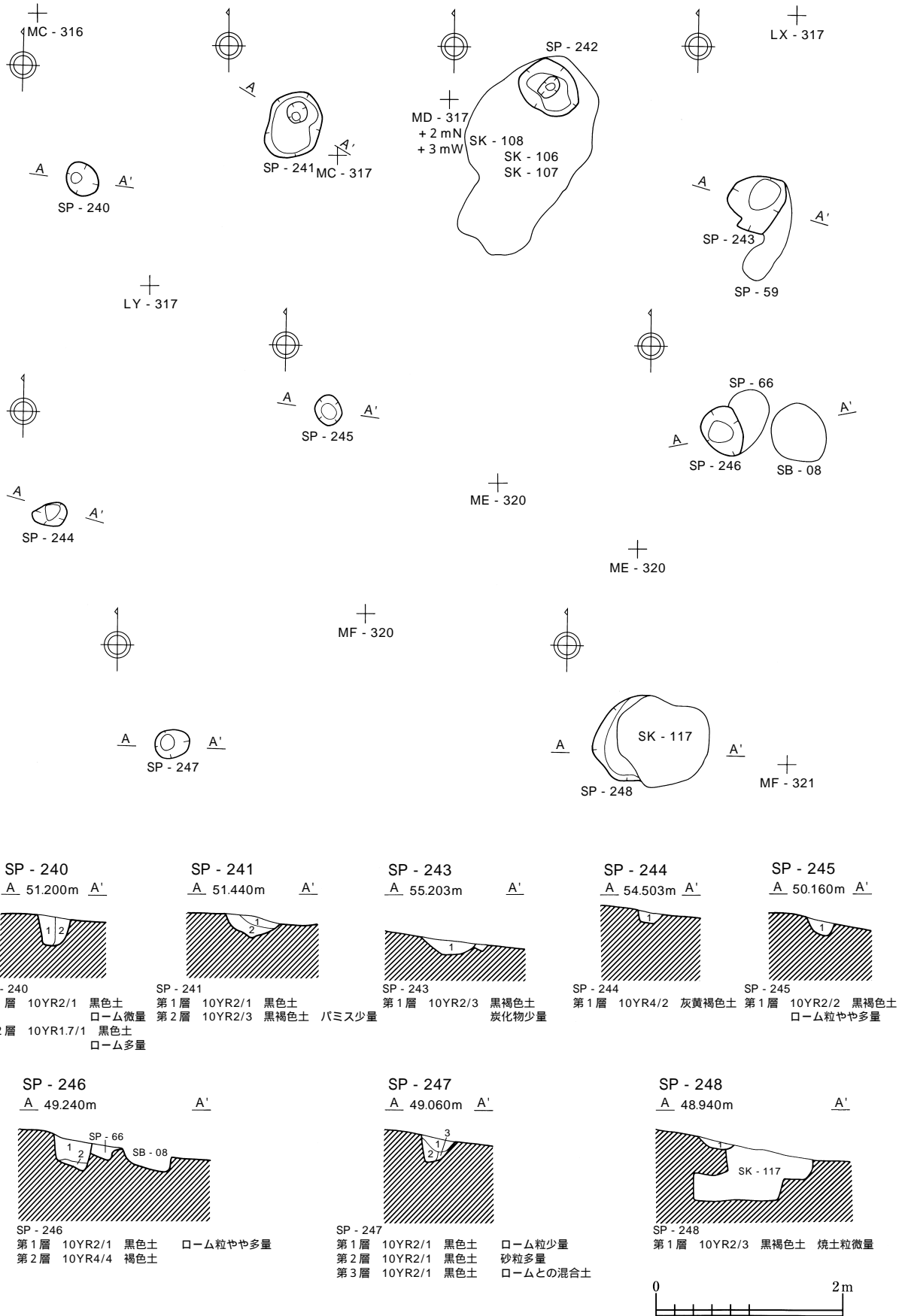
[堆積土] ローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 240 (第604図)

[位置] グリッドM C - 316で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は38×32×32cmを測る。



第604図 SP - 240 ~ 248

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。ローム粒を混入し、黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 241 (第604図)

[位置] グリッドMB - 316で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は76×56×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、播鉢状の立ち上がりが見られる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は黒褐色を呈する土層、上層は黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 242 (第604図)

[位置] グリッドMC - 316で検出した。

[重複] SK - 106、107、108と重複している。本遺構が、SK - 106、107、108の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は66×54×22cmを測る。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

S P - 243 (第604図)

[位置] グリッドLW - 317で検出した。

[重複] SP - 59と重複している。本遺構が、SP - 59の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は70×66×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 244 (第604図)

[位置] グリッドLX - 317で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は38×24×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 灰黄褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 245 (第604図)

[位置] グリッドMD - 319で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は34×28×21cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 246 (第604図)

[位置] グリッドME - 319で検出した。

[重複] S P - 66と重複している。本遺構が、S P - 66の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は54×40×39cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は褐色を呈する土層、上層はローム粒を混入し、黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 247 (第604図)

[位置] グリッドME - 320で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は38×30×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。下層は褐色を呈する土層、上層はローム粒を混入し、黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 248 (第604図)

[位置] グリッドME - 320で検出した。

[重複] S K - 117と重複している。本遺構がS K - 117の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は96×94×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 焼土粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 249 (第605図)

[位置] グリッドL Y - 321で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は60×48×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 250 (第605図)

[位置] グリッドL Y - 321で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は68×41×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は、黒色を呈する土層、上層は小礫を混入し、黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 251 (第605図)

[位置] グリッドL Y - 321で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は64×40×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 252 (第605図)

[位置] グリッドL Y - 321で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は50×30×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

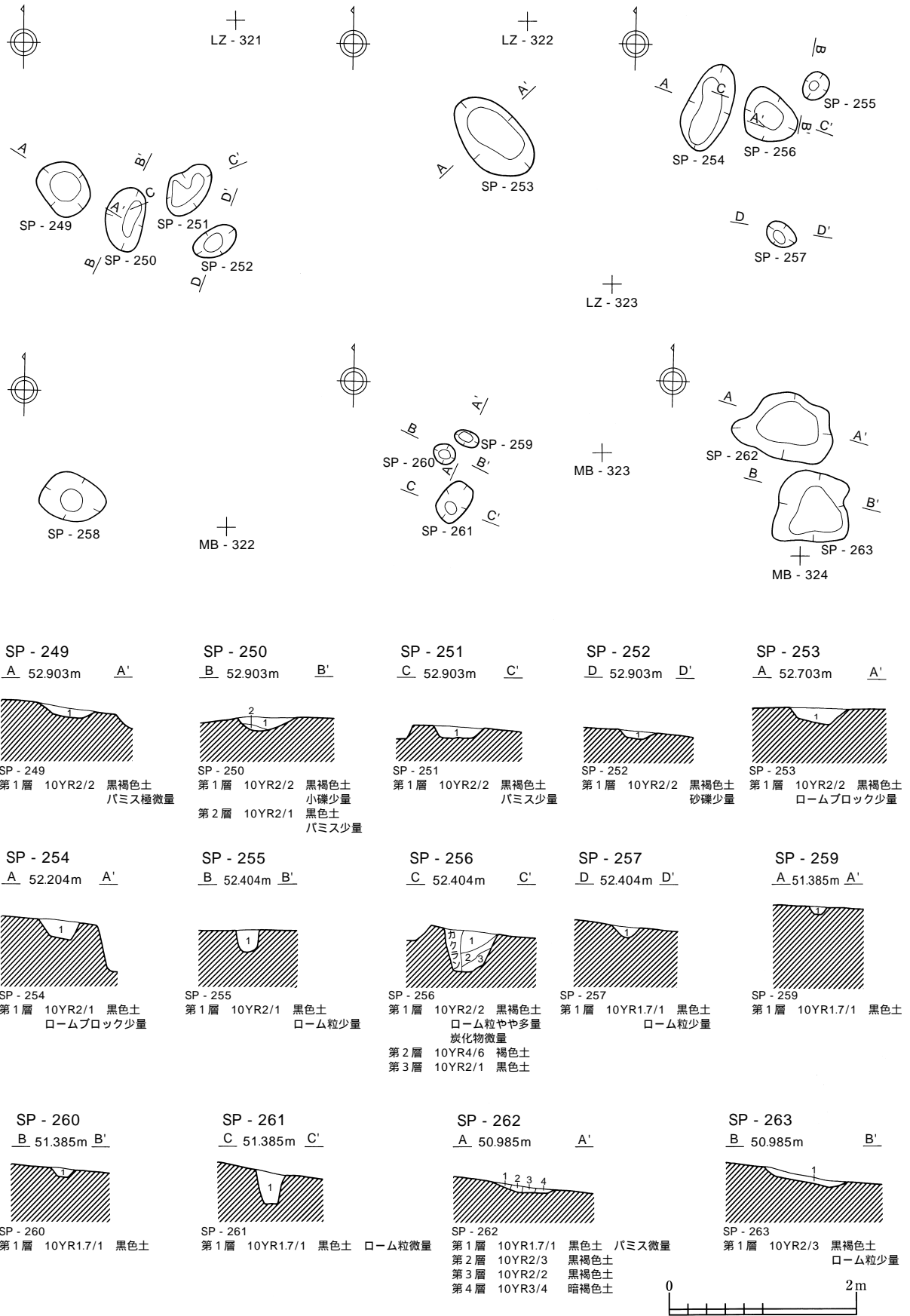
[堆積土] 砂礫を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 253 (第605図)

[位置] グリッドL Y - 322で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は102×62×18cmを測る。



第605図 SP - 249 ~ 263

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 254 (第605図)

[位置] グリッドL Z - 322で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は94×46×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 255 (第605図)

[位置] グリッドL Z - 322で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は32×26×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 256 (第605図)

[位置] グリッドL Z - 322で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は60×50×48cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色、黒色、褐色を呈する土層が混在したような状況を呈する。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 257 (第605図)

[位置] グリッドL Z - 322で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は34×24×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 258 (第605図)

[位置] グリッドMA - 321で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は72×52×34cmを測る。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

S P - 259 (第605図)

[位置] グリッドMA - 322で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は26×16×9cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 260 (第605図)

[位置] グリッドMA - 322・323で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は24×22×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 261 (第605図)

[位置] グリッドMA - 323で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、規模は46×31×36cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 262 (第605図)

[位置] グリッドMA・MB - 323で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は104×72×23cmを測る。



[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 4層に分層した。黒色、黒褐色、暗褐色を呈する土層が混在したような状況を呈する。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 263 (第605図)

[位 置] グリッドMA・MB - 323で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は96×80×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 264 (第606図)

[位 置] グリッドLK - 324で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は66×50×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はd + eで、緩やかに立ち上がる部分と段状に立ち上がる部分がみられる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色、黒褐色を呈する土層が混在したような状況を呈する。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 265 (第606図)

[位 置] グリッドLK - 325で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は52×50×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物、焼土粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

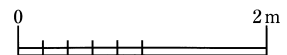
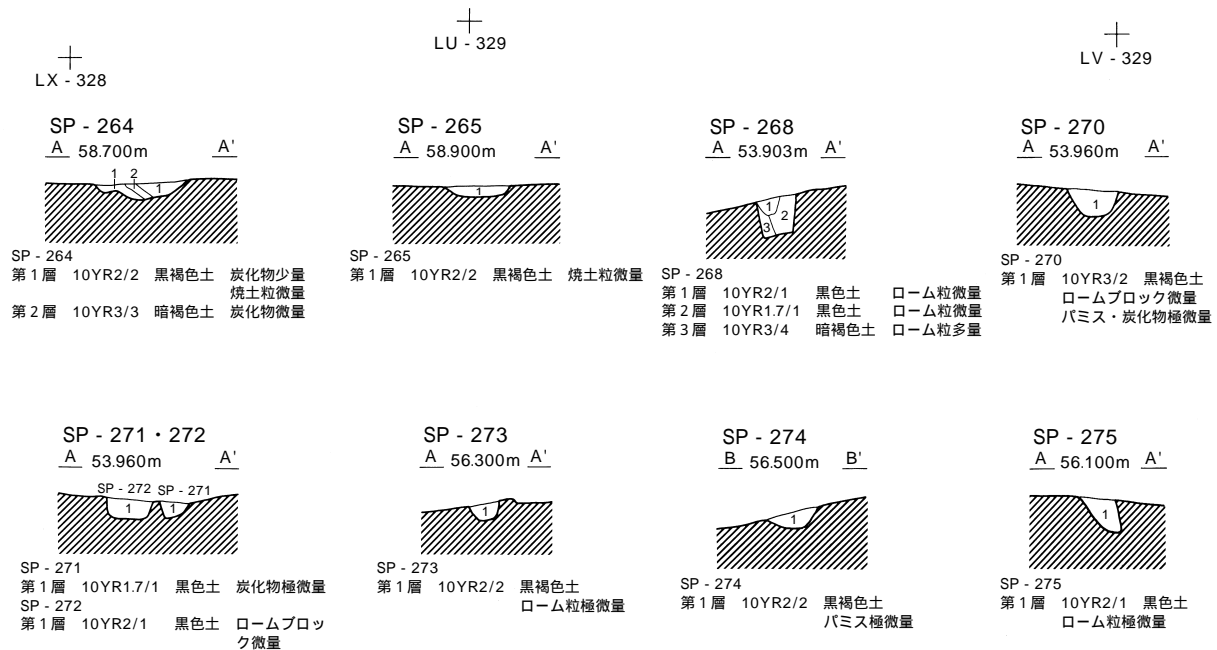
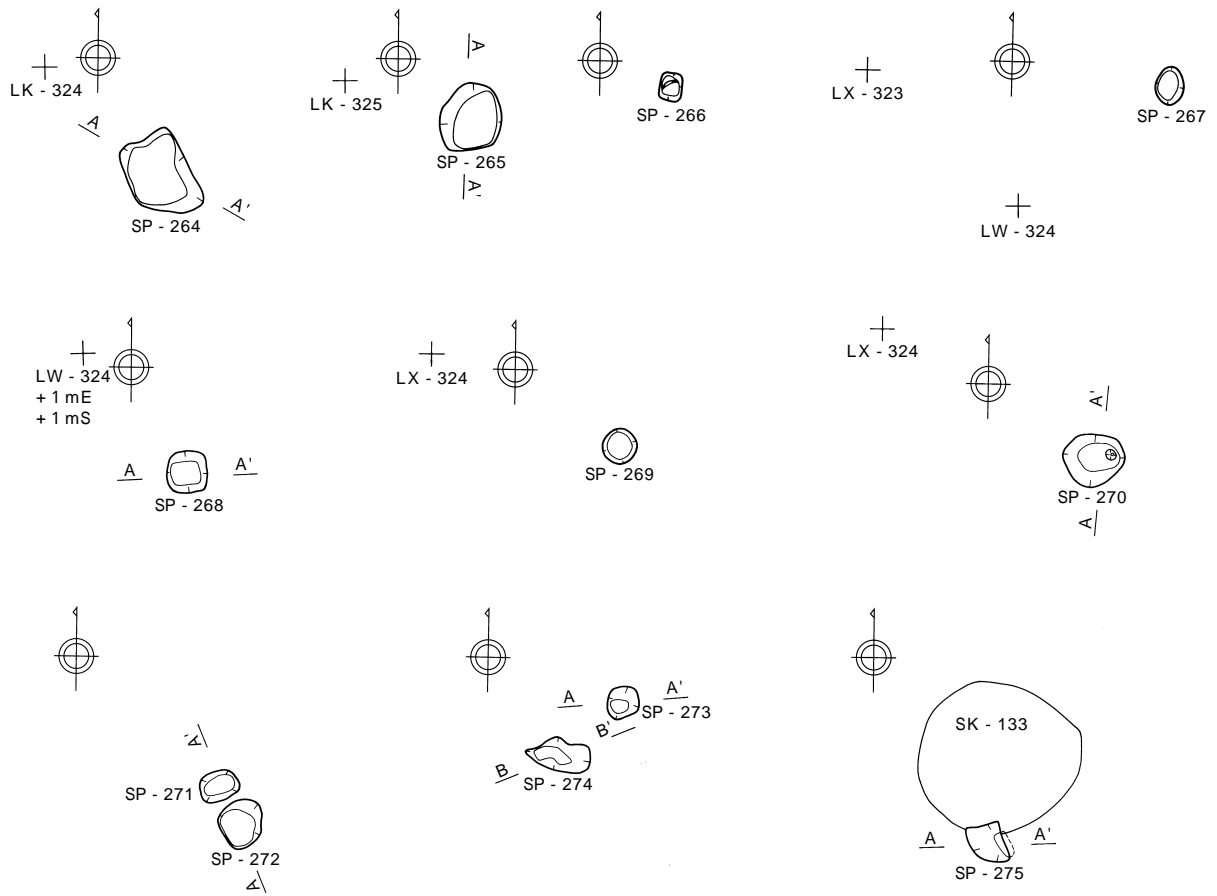
S P - 266 (第606図)

[位 置] グリッドLW - 323で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 方形を呈し、規模は22×18×10cmを測る。

[底 面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。



第606図 SP - 264 ~ 275

## S P - 267 (第606図)

- [位置] グリッドL W - 323で検出した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 不整形円形を呈し、規模は30×23×14cmを測る。
- [底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

## S P - 268 (第606図)

- [位置] グリッドL W - 324で検出した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 隅丸方形を呈し、規模は42×36×24cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。
- [底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。
- [堆積土] 3層に分層した。ローム粒を混入し、黒色、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 269 (第606図)

- [位置] グリッドL X - 324で検出した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 円形を呈し、規模は28×28×15cmを測る。
- [底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

## S P - 270 (第606図)

- [位置] グリッドL X - 324で検出した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 不整形円形を呈し、規模は50×42×22cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。
- [底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。
- [堆積土] ロームブロック、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 271 (第606図)

- [位置] グリッドL X - 327で検出した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 不整形円形を呈し、規模は31×24×14cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。
- [底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。
- [堆積土] ロームブロック、炭化物を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 272 (第606図)

[位置] グリッド L X - 327 で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は  $36 \times 36 \times 18$  cm を測る。

[断面形・壁] 断面形は a で、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 273 (第606図)

[位置] グリッド L U - 328 で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は  $24 \times 24 \times 16$  cm を測る。

[断面形・壁] 断面形は d で、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 274 (第606図)

[位置] グリッド L U - 328 で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は  $56 \times 26 \times 20$  cm を測る。

[断面形・壁] 断面形は d で、緩やかに立ち上がる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 275 (第606図)

[位置] グリッド L U - 328 で検出した。

[重複] S K - 133 と重複している。本遺構が S K - 133 の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は  $32 \times 30 \times 24$  cm を測る。

[断面形・壁] 断面形は g で、V 字状に近い立ち上がりが見られる。

[底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底面が東壁側に入り込むような状況を呈する。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 276 (第607図)

- [位置] グリッドL W - 329で検出した。
- [重複] S I - 119と重複している。本遺構がS I - 119の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。
- [平面形・規模] 円形を呈し、規模は30×26×26cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。
- [底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

## S P - 277 (第607図)

- [位置] グリッドL O - 328で検出した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は32×26×8cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はhで、挿鉢状の立ち上がりが見られる。
- [底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。
- [堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 278 (第607図)

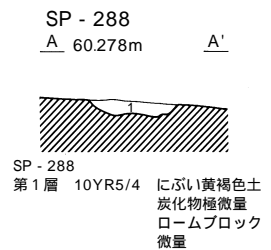
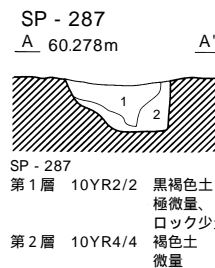
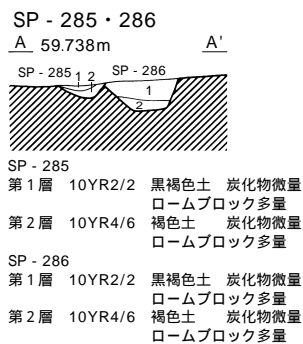
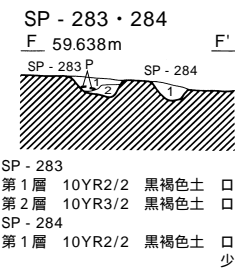
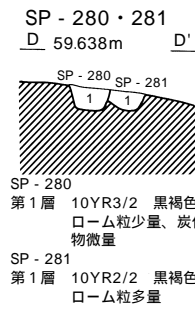
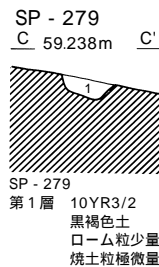
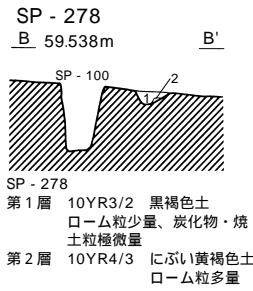
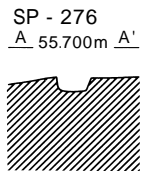
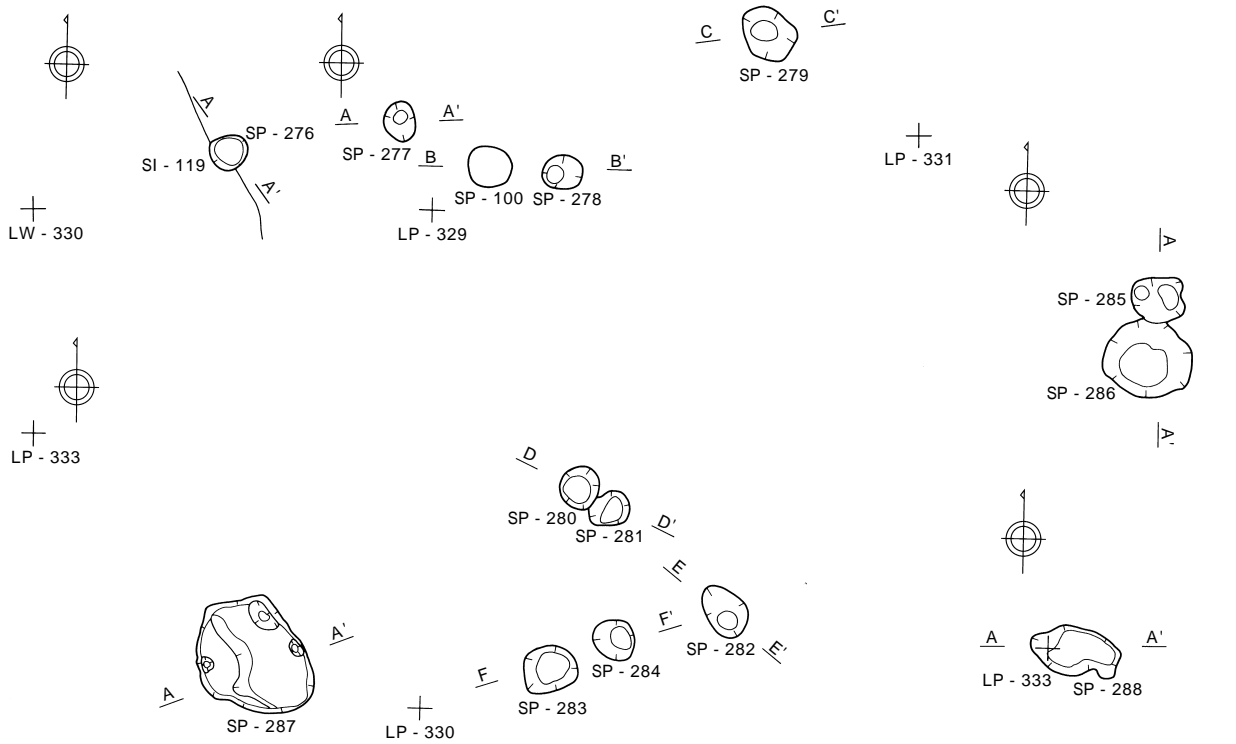
- [位置] グリッドL P - 328で検出した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は32×26×12cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はhで、挿鉢状の立ち上がりが見られる。
- [底面] 月見野火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。
- [堆積土] 2層に分層した。ローム粒、炭化物、焼土粒を混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 279 (第607図)

- [位置] グリッドL P - 328で検出した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は44×44×22cmを測る。
- [断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。
- [底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。
- [堆積土] ローム粒、焼土粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 280 (第607図)

- [位置] グリッドL P - 329で検出した。
- [重複] S P - 281と重複している。本遺構がS P - 281の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。



第607図 SP - 276 ~ 288

い。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は34×32×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 281 (第607図)

[位置] グリッドLP - 329で検出した。

[重複] S P - 280と重複している。本遺構の堆積土がS P - 280に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は30×30×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 282 (第607図)

[位置] グリッドLP - 329で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は44×32×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 283 (第607図)

[位置] グリッドLP - 329で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は42×38×22cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。ローム粒を混入し、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 284 (第607図)

[位置] グリッドLP - 329で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は36×30×16cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 285 (第607図)

[位 置] グリッドLP - 331で検出した。

[重 複] S P - 286と重複している。本遺構がS P - 286の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は42×37×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、播鉢状の立ち上がりを呈する。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化物、ロームブロックを混入し褐色を呈する土層、上層は炭化物、ロームブロックを混入し黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 286 (第607図)

[位 置] グリッドLP - 331で検出した。

[重 複] S P - 285と重複している。本遺構の堆積土がS P - 285に切られており、本遺構の方が古い。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は73×63×27cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化物、ロームブロックを混入し褐色を呈する土層、上層は炭化物、ロームブロックを混入し黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 287 (第607図)

[位 置] グリッドLP - 333で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は103×82×43cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + eで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と段状に立ち上がる部分がみられる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化物、ロームブロックを混入し褐色を呈する土層、上層は炭化物、ロームブロックを混入し黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。



## S P - 288 (第607図)

[位置] グリッドLP・LQ - 332・333で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は73×38×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物、ロームブロックを混入し、にぶい黄褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 289 (第608図)

[位置] グリッドLP - 335で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は48×34×8cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物、ロームブロックを混入しにぶい黄褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 290 (第608図)

[位置] グリッドLP - 335で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は52×52×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、挿鉢状の立ち上がりを呈する。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化物、ロームブロックを混入しにぶい黄褐色を呈する土層、上層は炭化物、ロームブロックを混入し褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 291 (第608図)

[位置] グリッドLP・LQ - 335で検出した。

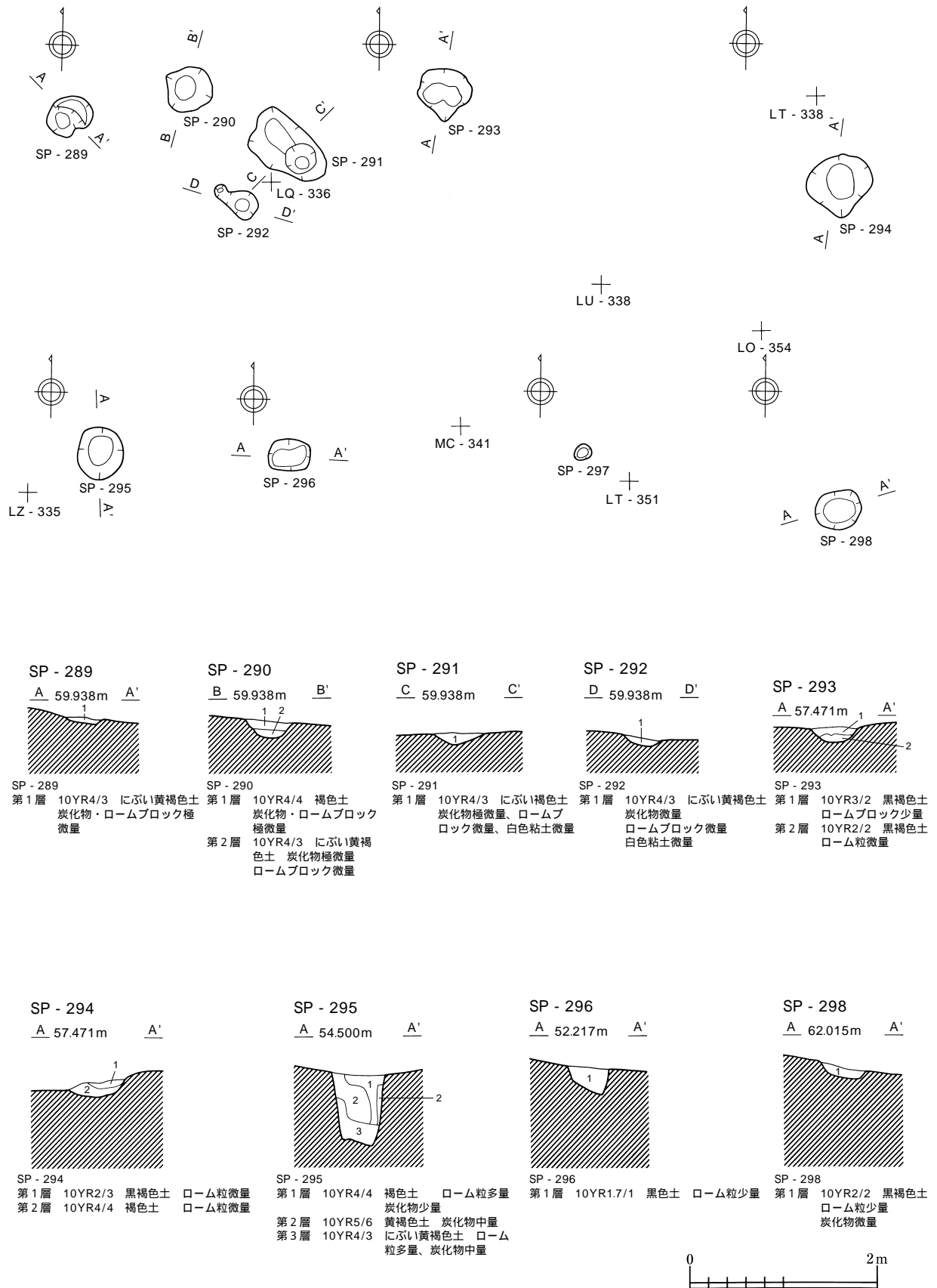
[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は92×44×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、挿鉢状の立ち上がりを呈する。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物、ロームブロック、白色粘土を混入しにぶい黄褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。



第608図 SP - 289 ~ 298

## S P - 292 (第608図)

[位置] グリッドLP - 336で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は50×28×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物、ロームブロック、白色粘土を混入しにぶい黄褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 293 (第608図)

[位置] グリッドLS - 331で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は58×52×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、挿鉢状の立ち上がりを呈する。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒を混入し黒褐色を呈する土層、上層はロームブロックを混入し黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 294 (第608図)

[位置] グリッドLS・LT - 338で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は72×68×19cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、挿鉢状の立ち上がりを呈する。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒を混入し褐色を呈する土層、上層はローム粒を混入し黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 295 (第608図)

[位置] グリッドLZ - 334で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は56×49×78cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。褐色、黄褐色、にぶい黄褐色を呈する土層が混在したような状況を呈する。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 296 (第608図)

[位置] グリッドMB - 341で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は46×34×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 297 (第608図)

[位置] グリッドLS - 350で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は19×16×6cmを測る。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

S P - 298 (第608図)

[位置] グリッドLO - 354で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は50×42×19cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物、ローム粒を混入し黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 299 (第609図)

[位置] グリッドLT - 358で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は78×56×7cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物、ロームブロック、焼土粒を混入し黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

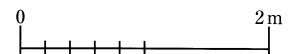
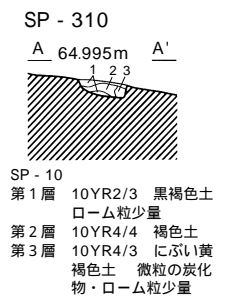
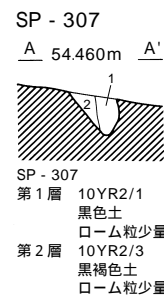
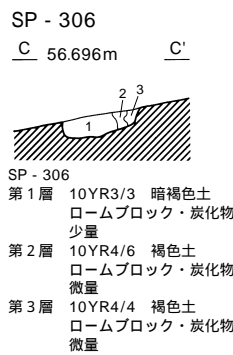
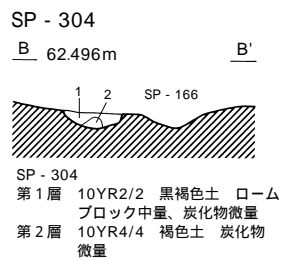
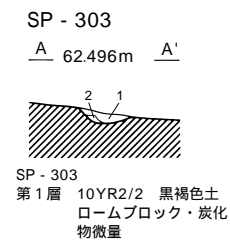
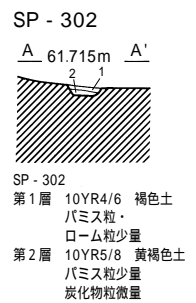
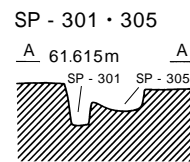
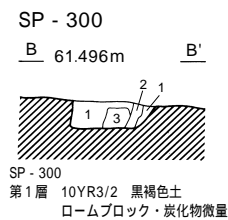
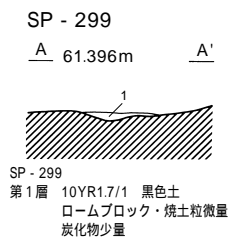
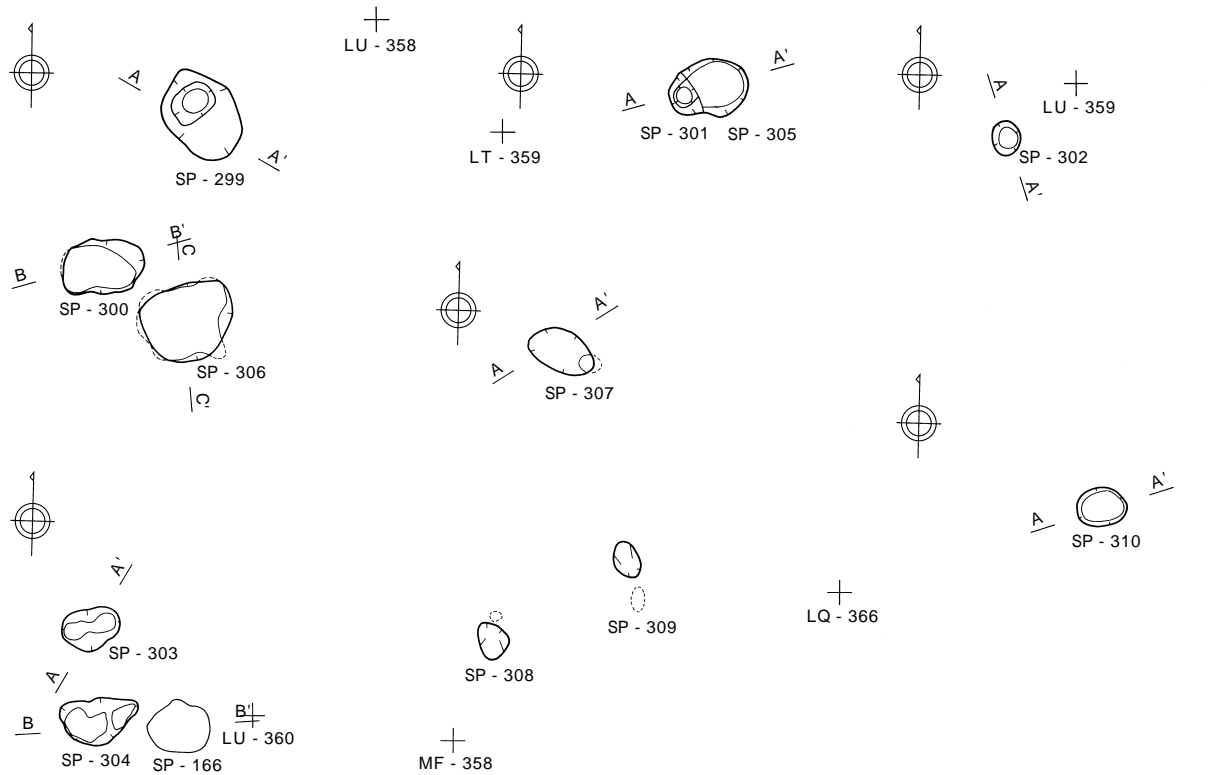
S P - 300 (第609図)

[位置] グリッドLT - 358で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は66×44×23cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa + dで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。



第609図 SP - 299 ~ 310

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。黒色、黒褐色、褐色を呈する土層が混在したような状況を呈する。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 301 (第609図)

[位 置] グリッドL T - 358で検出した。

[重 複] S P - 305と重複している。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は31×22×34cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

S P - 302 (第609図)

[位 置] グリッドL T - 359で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は26×24×10cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化物を混入し、黄褐色を呈する土層、上層は炭化粒、ローム粒を混入し、褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 303 (第609図)

[位 置] グリッドL T - 359で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は48×35×12cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化物、ロームブロックを混入し、褐色を呈する土層、上層は炭化粒、ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 304 (第609図)

[位 置] グリッドL T - 359・360で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 不整形を呈し、規模は64×36×15cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、挿鉢状の立ち上がりが見られる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層は炭化物を混入し、褐色を呈する土層、上層は炭化粒、ロームブロックを混入し、黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 305 (第609図)

[位置] グリッドL T - 358で検出した。

[重複] S P - 301と重複している。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は64×48×18cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はa+dで、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

## S P - 306 (第609図)

[位置] グリッドL T - 358で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は74×60×27cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。暗褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 307 (第609図)

[位置] グリッドM F - 357で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は56×33×35cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はgで、V字状の立ち上がりがみられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底部が南東側に入り込むような状況を呈する。

[堆積土] 2層に分層した。黒色、黒褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 308 (第609図)

[位置] グリッドM F - 357で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整円形を呈し、規模は32×21×63cmを測る。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

## S P - 309 (第609図)

[位置] グリッドM F - 357で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は29×25×91cmを測る。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

S P - 310 (第609図)

[位置] グリッド L Q - 365で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は40×32×14cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は a + d で、ほぼ垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がみられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。底部が南東側に入り込むような状況を呈する。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色、褐色、にぶい黄褐色を呈する土層が混在したような状況を呈する。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 311 (第610図)

[位置] グリッド L V - 365で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は53×36×17cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は h で、擂鉢状の立ち上がりを呈する。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物、ロームブロック、焼土粒を混入し黒褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 312 (第610図)

[位置] グリッド L W - 365で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不整楕円形を呈し、規模は86×60×19cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は d で、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 炭化物、ロームブロック、焼土粒を混入し黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 313 (第610図)

[位置] グリッド L Z - 371・372で検出した。

[重複] なし。

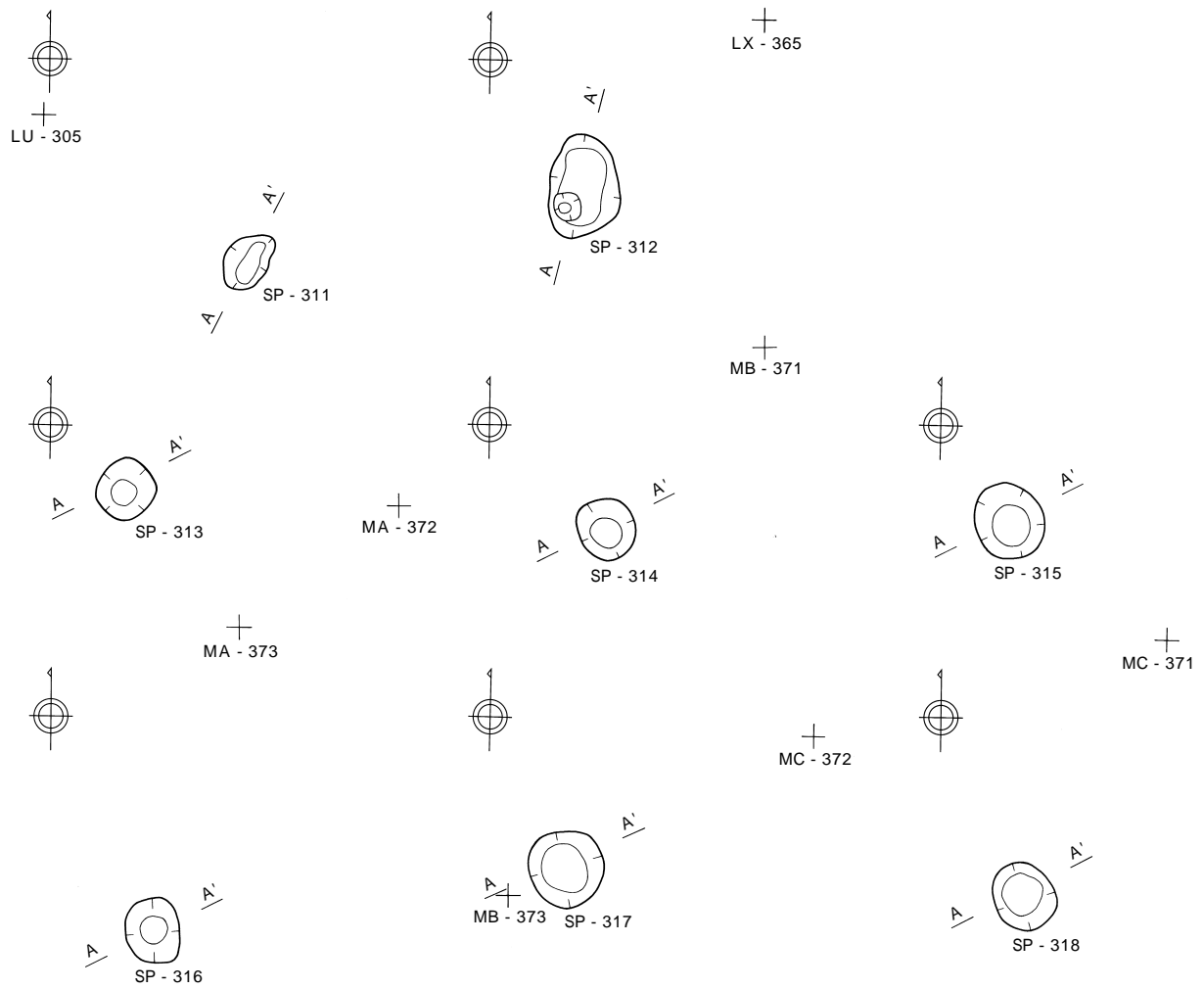
[平面形・規模] 円形を呈し、規模は62×62×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形は d で、緩やかに立ち上がる。

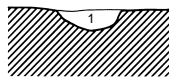
[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロック、ローム粒を混入し暗褐色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。



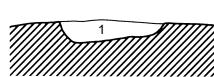


SP - 311  
A 62.696m A'



SP - 311  
第1層 10YR3/2 黒褐色土  
炭化物・ロームブロック・  
焼土粒微量

SP - 312  
A 61.996m A'



SP - 312  
第1層 10YR2/1 黒色土 炭化物  
少量、ロームブ  
ロック中量  
焼土粒微量

SP - 313  
A 63.916m A'



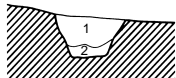
SP - 313  
第1層 10YR3/3 暗褐色土  
ロームブロック微量  
ローム粒少量

SP - 314  
A 63.476m A'



SP - 314  
第1層 10YR2/1 黒色土  
ロームブロック少量  
ローム粒多量

SP - 315  
A 62.936m A'



SP - 315  
第1層 10YR2/2 黒褐色土  
ロームブロック  
少量  
第2層 10YR4/4 褐色土  
ロームブロック  
少量

SP - 316  
A 64.716m A'



SP - 316  
第1層 10YR2/1 黒色土  
ローム粒  
多量  
第2層 10YR3/3 暗褐色土  
ロームブ  
ロック多量

SP - 317  
A 64.146m A'



SP - 317  
第1層 10YR2/1 黒色土  
ローム粒少量  
第2層 10YR3/3 暗褐色土  
ローム粒微量  
第3層 7.5YR4/6 褐色土

SP - 318  
A 63.556m A'



SP - 318  
第1層 10YR2/1 黒色土  
ロームブロック多量  
第2層 10YR3/4 暗褐色土  
ローム粒多量



第610図 SP - 311 ~ 318

S P - 314 (第610図)

[位置] グリッドMA - 371で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は52×46×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロック、ローム粒を混入し黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 315 (第610図)

[位置] グリッドMB - 370で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は64×56×34cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はロームブロックを混入し、褐色を呈する土層、上層はロームブロックを混入し黒褐色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 316 (第610図)

[位置] グリッドLZ - 373で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は58×44×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はhで、挿鉢状の立ち上がりを呈する。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はロームブロックを混入し、暗褐色を呈する土層、上層はロームブロック、ローム粒を混入し黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 317 (第610図)

[位置] グリッドMA - 371で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は52×46×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 3層に分層した。黒色、暗褐色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 318 (第610図)

[位置] グリッドMC - 372で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は58×50×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒を混入し、暗褐色を呈する土層、上層はローム粒を混入し黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 319 (第611図)

[位置] グリッドMF - 372・373で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は58×50×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ローム粒を混入し黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 320 (第611図)

[位置] グリッドLU - 376で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は32×26×38cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はgで、V字状の立ち上がりがみられる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

## S P - 321 (第611図)

[位置] グリッドLO - 381で検出した。

[重複] SI - 216と重複している。本遺構が、SI - 216の堆積土を切っており、本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は58×50×24cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

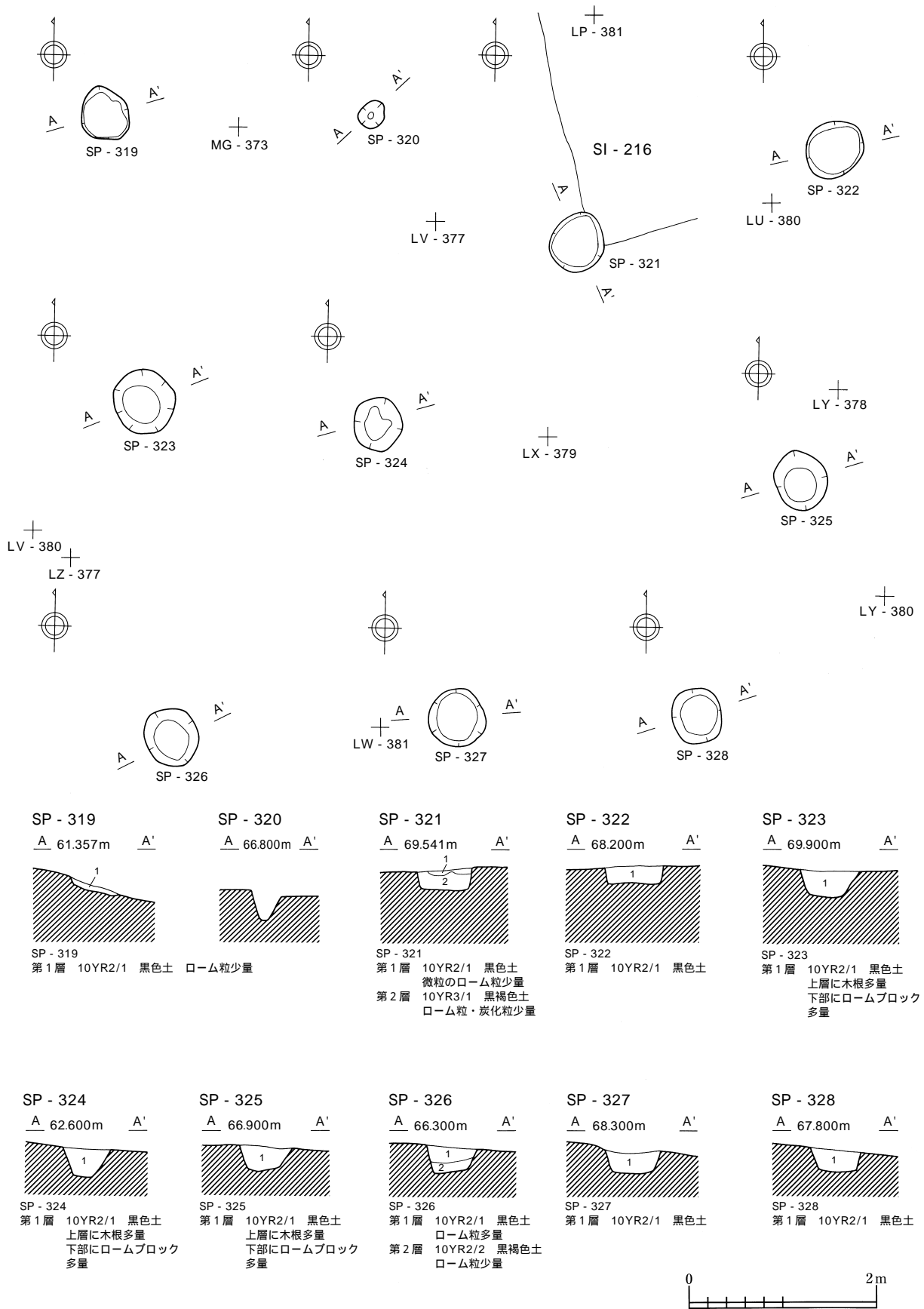
[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒、炭化物を混入し、黒褐色を呈する土層、上層はローム粒を混入し黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## S P - 322 (第611図)

[位置] グリッドLU - 379で検出した。

[重複] なし。



第611図 SP - 319 ~ 328

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は62×59×20cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 323 (第611図)

[位置] グリッドL V - 379で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は68×64×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 324 (第611図)

[位置] グリッドL W - 378・379で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は57×52×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 325 (第611図)

[位置] グリッドL X - 378で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は66×56×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] ロームブロックを混入し、黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 326 (第611図)

[位置] グリッドL Z - 377で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は62×56×32cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。下層はローム粒を混入し黒褐色を呈する土層、上層はローム粒を混入し、黒色を呈する土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 327 (第611図)

[位置] グリッドL W - 380・381で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は61×60×26cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 328 (第611図)

[位置] グリッドL X - 380で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は58×52×46cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 329 (第612図)

[位置] グリッドL Y - 379で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は64×61×28cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 330 (第612図)

[位置] グリッドL Z・M A - 378で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は66×60×30cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

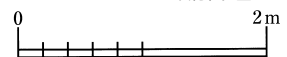
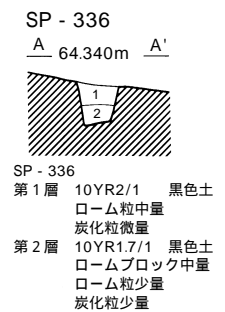
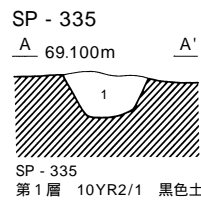
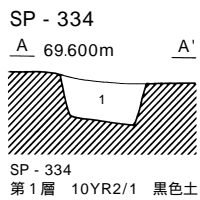
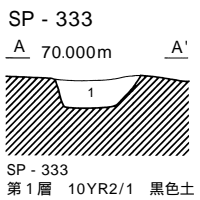
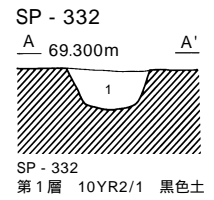
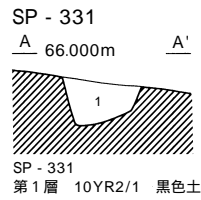
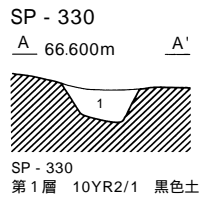
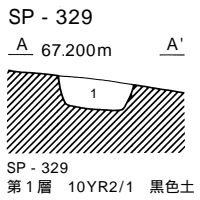
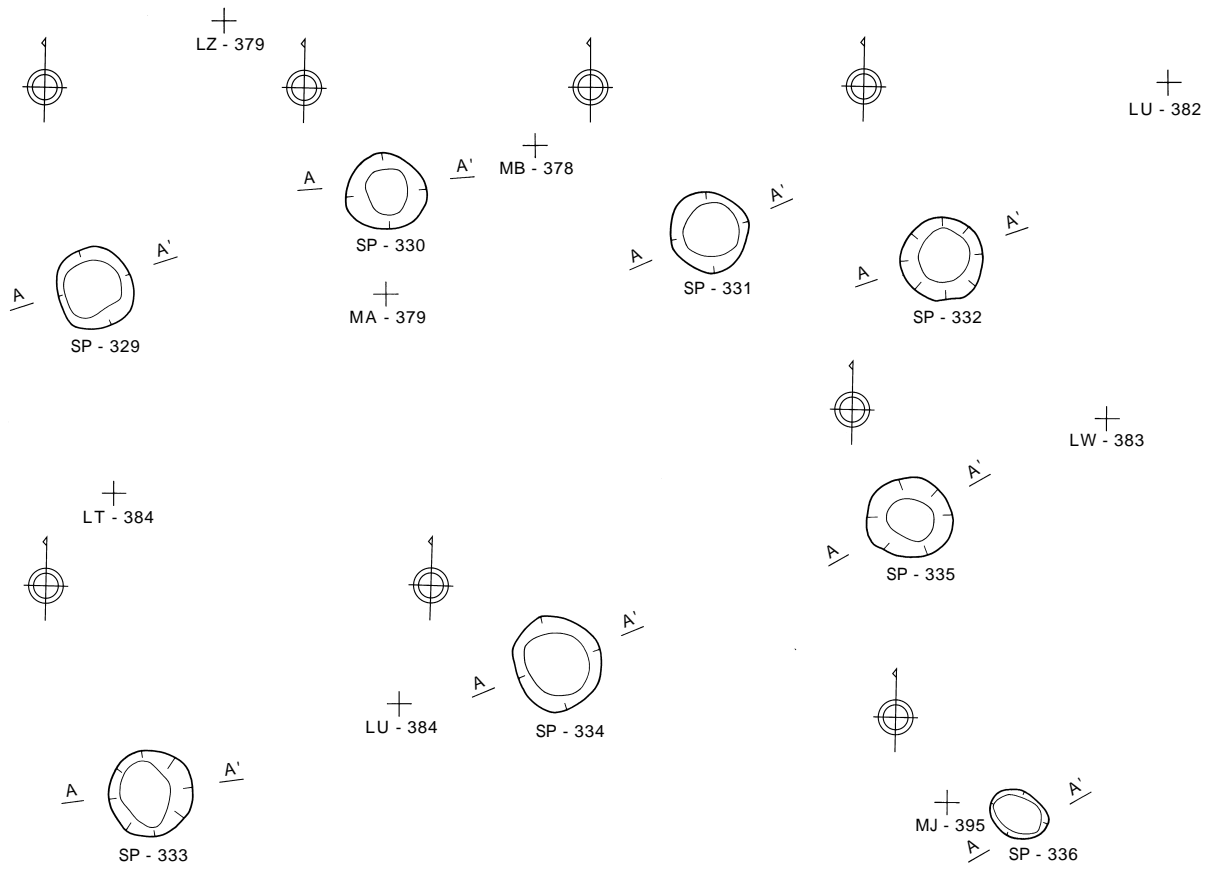
[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 331 (第612図)

[位置] グリッドM B - 378で検出した。

[重複] なし。



第612図 SP - 329 ~ 336

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は62×61×38cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 332 (第612図)

[位 置] グリッドL T - 382で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は68×66×35cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 333 (第612図)

[位 置] グリッドL T - 384で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は69×68×27cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 334 (第612図)

[位 置] グリッドL U - 383・384で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は77×71×45cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

S P - 335 (第612図)

[位 置] グリッドL V - 383で検出した。

[重 複] なし。

[平面形・規模] 円形を呈し、規模は68×62×38cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はdで、緩やかに立ち上がる。

[底 面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 黒色を呈する土層による単一層である。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。



S P - 336 (第612図)

[位置] グリッドMJ - 394・395で検出した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈し、規模は48×38×35cmを測る。

[断面形・壁] 断面形はaで、ほぼ垂直に立ち上がる。

[底面] 大谷火山灰層の地山を掘り込んで底面としている。

[堆積土] 2層に分層した。黒色を主体とする土層が堆積している。本遺構の堆積は人為的要因が強いと考えられる。

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	のぎいせきはくつちょうさほうこくしょにへいあんじだいいこうへんに							
書名	野木遺跡発掘調査報告書 平安時代遺構編2							
副書名								
巻次								
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第54集 - 4							
編著者名	木村 淳一、設楽 政健							
編集機関	青森市教育委員会							
所在地	〒030-8555 青森県青森市中央一丁目22-5 TEL017-734-1111							
発行年月日	西暦2001年3月21日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
のぎ木	あおもりしおおあぎ 青森市大字 のぎあぎやまくち 野木字山口	02201	210	40° 50 38	140° 45 15	19970512~ 19971121 19980420~ 19981106	69,900	工業団地造成 (青森中核工 業団地造成工 事)に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
野木	集落跡	平安	竪穴式住居跡 196軒 竪穴遺構 52基 土坑 221基 ピット 221基 柵 12列 掘立柱建物跡 19棟 鉄生産関連遺構 4基 畝状遺構 1ヶ所	土師器 須恵器 羽口 鉄製品				

## 既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962 『三内霊園遺跡調査概報』	”	第38集	1998 『野木遺跡発掘調査報告書』
”	2	1965 『四ツ石遺跡調査概報』	”	第39集	1998 『市内遺跡詳細分布調査報告書』
”	3	1967 『玉清水遺跡調査概報』	”	第40集	1998 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
”	4	1970 『三内丸山遺跡調査概報』	”	第41集	1998 『野木遺跡発掘調査概報』
”	5	1971 『野木和遺跡調査報告書』	”	第42集	1998 『熊沢遺跡発掘調査概報』
”	6	1971 『玉清水 遺跡発掘調査報告書』	”	第43集	1999 『市内遺跡詳細分布調査報告書』
”	7	1971 『大浦遺跡調査報告書』	”	第44集	1999 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
”	8	1973 『孫内遺跡発掘調査報告書』	”	第45集	1999 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
		1979 『蛭沢遺跡』	”	第46集	1999 『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
		1983 『四戸橋遺跡調査報告書』	”	第47集	1999 『稲山遺跡発掘調査概報』
青森市の埋蔵文化財	1983	『山野峠遺跡』	”	第48集	2000 『熊沢遺跡発掘調査報告書』
”	1985	『長森遺跡発掘調査報告書』	”	第49集	2000 『稲山遺跡発掘調査概報』
”	1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』	”	第50集	2000 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
”	1987	『横内城跡発掘調査報告書』	”	第51集	2000 『桜峯(1)雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
”	1988	『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』	”	第52集	2000 『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			”	第53集	2000 『市内遺跡発掘調査報告書』
”	第16集	1991 『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』	”	第54集-1-6	
”	第17集	1992 『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』		2001	『新町野遺跡発掘調査報告書』
”	第18集	1993 『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』			野木遺跡発掘調査報告書』
”	第19集	1993 『市内遺跡発掘調査報告書』			
”	第20集	1993 『小牧野遺跡発掘調査概報』			
”	第21集	1994 『市内遺跡詳細分布調査報告書』			
”	第22集	1994 『小三内遺跡発掘調査報告書』			
”	第23集	1994 『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』			
”	第24集	1995 『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』			
”	第25集	1995 『市内遺跡詳細分布調査報告書』			
”	第26集	1995 『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』			
”	第27集	1996 『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』			
”	第28集	1996 『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』			
”	第29集	1996 『市内遺跡詳細分布調査報告書』			
”	第30集	1996 『小牧野遺跡発掘調査報告書』			
”	第31集	1997 『市内遺跡詳細分布調査報告書』			
”	第32集	1997 『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』			
”	第33集	1997 『新町野遺跡試掘調査報告書』			
”	第34集	1997 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』			
”	第35集	1997 『小牧野遺跡発掘調査報告書』			
”	第36集	1998 『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』			
”	第37集	1998 『新町野遺跡発掘調査報告書』			

青森市埋蔵文化財調査報告書第54集 - 4

# 野木遺跡発掘調査報告書

## (平安時代遺構編2)

発行年月日 平成13年3月21日

発行 青森市教育委員会  
〒030-8555 青森市中央一丁目22-5  
TEL 017-734-1111

印刷 第一印刷株式会社  
〒038-0003 青森市石江字江渡3-1  
TEL 017-782-2333

